五所川原農林高等学校実習棟
（リンゴ冷蔵庫）改築工事

設計図書

TE-RU 創・夢・空間
TE-RU ARCHITECTS LTD 一級建築士事務所
株式会社 てる設計

図面番号
A-00

図　面　リ　ス　ト

図面番号	図面名称	縮尺
A-00	表紙	N/S
A-01	図面リスト	N/S
A-02	建築工事特記仕様書（その1）	N/S
A-03	建築工事特記仕様書（その2）	N/S
A-04	建築工事特記仕様書（その3）	N/S
A-05	建築工事特記仕様書（その4）	N/S
A-06	建築工事特記仕様書（その5）	N/S
A-07	建築工事特記仕様書（その6）	N/S
A-08	建築工事特記仕様書（その7）	N/S
A-09	建築工事特記仕様書（その8）	N/S
A-10	建築工事特記仕様書（その9）	N/S
A-11	建築工事特記仕様書（その10）	N/S
A-12	建築工事特記仕様書（その11）	N/S
A-13	建築工事特記仕様書（その12）	N/S
A-14	建築工事特記仕様書（その13）	N/S
A-15	建築工事特記仕様書（その14）	N/S
A-16	配置図、付近見取り図	A1：1/2000 A3：1/4000
A-17	建物面積算定図、配置詳細図	A1：1/100　1/200 A3：1/200　1/400 A1：1/4000 A3：1/8000
A-18	仕上げ表	N/S
A-19	平面図、屋根伏せ図	A1：1/100 A3：1/200
A-20	断面図	A1：1/100 A3：1/200
A-21	立面図	A1：1/100 A3：1/200
A-22	断面詳細図1	A1：1/30 A3：1/60
A-23	断面詳細図2	A1：1/30 A3：1/60
A-24	断面詳細図3	A1：1/30 A3：1/60
A-25	平面詳細図1	A1：1/30 A3：1/60
A-26	平面詳細図2	A1：1/30 A3：1/60
A-27	建具表	A1：1/50 A3：1/100
A-28	展開図1	A1：1/50 A3：1/100
A-29	展開図2	A1：1/50 A3：1/100
A-30	展開図3	A1：1/50 A3：1/100
A-31	天井伏図	A1：1/100 A3：1/200
A-32	部分詳細図1	A1：1/5、1/10 A3：1/10、1/20

図面番号	図面名称	縮尺
A-33	部分詳細図2	A1：1/20 A3：1/40
A-34	冷蔵庫関係詳細図1	A1：1/10、1/30 A3：1/20、1/60
A-35	冷蔵庫関係詳細図2	A1：1/100 A3：1/200
A-36	冷蔵庫関係詳細図3	A1：1/100 A3：1/200
A-37	省エネ法関連検討図	A1：1/100 A3：1/200

図面番号	図面名称	縮尺
特記-01	特記仕様書構造関係（その1）	N/S
特記-02	特記仕様書構造関係（その2）	N/S
特記-03	特記仕様書構造関係（その3）	N/S
特記-04	特記仕様書構造関係（その4）	N/S
特記-05	特記仕様書構造関係（共通事項）	N/S
標準図-01	新構造特記仕様書その1	N/S
標準図-02	新構造特記仕様書その2	N/S
標準図-03	新鉄筋コンクリート構造配筋標準図（1）	N/S
標準図-04	新鉄筋コンクリート構造配筋標準図（2）	N/S
標準図-05	新鉄筋コンクリート構造配筋標準図（3）	N/S
標準図-06	鉄骨構造標準図（1）	N/S
標準図-07	鉄骨構造標準図（2）	N/S
標準図-08	ISベース柱脚工法設計・施工標準図（1）	N/S
標準図-09	ISベース柱脚工法設計・施工標準図（2）	N/S
標準図-10	ISベース柱脚工法設計・施工標準図（3）	N/S
標準図-11	Gコラム-S工法　特記仕様書	N/S
S-01	柱状改良伏図、基礎伏図	A1：1/100 A3：1/200
S-02	フーチング詳細図、基礎詳細図、柱脚リスト	A1：1/30 A3：1/60
S-03	小屋伏図、庇部伏図、鉄骨部材リスト	A1：1/100 A3：1/200
S-04	軸組図	A1：1/100 A3：1/200
S-05	鉄骨詳細図、鉄骨部分詳細図	A1：1/10　1/15　1/50 A3：1/20　1/30　1/100

図面番号	図面名称	縮尺
E-01	電気設備工事特記仕様書（その1）	N/S
E-02	電気設備工事特記仕様書（その2）	N/S
E-03	配置図、付近見取り図	A1：1/2000 A3：1/4000
E-04	幹線・動力設備平面図	A1：1/100 A3：1/200
E-05	電灯設備平面図	A1：1/100 A3：1/200
E-06	コンセント設備平面図	A1：1/100 A3：1/200

図面番号	図面名称	縮尺
M-01	機械設備工事特記仕様書（その1）	N/S
M-02	機械設備工事特記仕様書（その2）	N/S
M-03	機械設備工事特記仕様書（その3）	N/S
M-04	配置図、付近見取り図	A1：1/2000 A3：1/4000
M-05	衛生・換気設備平面図	A1：1/100 A3：1/200
M-06	衛生設備詳細図、空調機器表 衛生器具表	A1：1/50 A3：1/100
M-07	合併式浄化槽設備図	A1：1/40 A3：1/80

図面番号	図面名称	縮尺

特記事項

承　認	検　図	担　当	製　図

MEMO

TE-RU
TE-RU ARCHITECTS LTD
〒036-8085
青森県弘前市大字末広4-3-1
TEL0172-27-8647 FAX0172-27-8648
株式会社 てる設計
一級建築士事務所 青森県知事 第716号
一級建築士 建設大臣 第213205号
福士 晃昭

工事名称	五所川原農林高等学校実習棟（リンゴ冷蔵庫）改築工事		図面番号
図面名称	図面リスト1		A-01
縮　尺	NS	年 月 日　2026.2	

五所川原農林高等学校実習棟（リンゴ冷蔵庫）改築工事　特記仕様書

Ⅰ.工事概要

1．工事場所　青森県五所川原市大字一野坪字朝日田地内

2．敷地面積　516,645㎡

3．工事種目

1）学校　鉄骨造平屋建て　新築１棟

建築面積　373.89㎡
延べ面積　379.05㎡

１階　379.05㎡

2）自動車車庫　木造　平屋建　新築１棟

建築面積　000.00㎡
延べ面積　000.00㎡

3）自転車置場　鉄筋コンクリート造一部木造　平屋建　新築１棟

建築面積　000.00㎡
延べ面積　000.00㎡

4）外構

①門	鉄筋コンクリート造（扉付き）	新設１箇所
②囲障	イ）鉄筋コンクリート造	新設一式
	ロ）ネットフェンス	新設一式
③屋外排水設備	イ）屋外排水設備	新設一式
	ロ）開きょ（U形側溝）	新設一式
④舗装	イ）アスファルト舗装（路面表示含む）	新設一式
	ロ）インターロッキングブロック舗装	新設一式
⑤諸標	イ）庁名板	新設１箇所
⑥雑工作物	イ）屋外掲示板	新設１箇所
	ロ）郵便受け箱	新設１箇所
	ハ）縁石	新設一式
	ニ）車いす使用者優先表示板	新設１箇所
	ホ）駐車場入口表示板	新設１箇所
⑦樹木		新植一式
⑧芝張り		一式
⑨砂利敷き		一式
⑩整地（植込内）		一式

5）その他　イ）歩道切開　一式

6）電気設備（別図仕様書による）　一式

7）機械設備（別図仕様書による）　一式

8）エレベーター設備（別図仕様書による）　一式

4.指定部分　・有　対象部分（　　）
指定部分工期　　年　　月　　日
・無

5.工事範囲　※「3.工事種目」すべてを工事範囲とする。
・「3.工事種目」のうち＿＿＿＿＿＿の工事範囲は下記のとおりとする。

Ⅱ.建築工事仕様

(1) 図面及び本特記仕様に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部制定の「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）令和７年版」（以下「標準仕様書」という。）によるほか、下記仕様書のうち、○を付けたものを適用する。
⊙建築工事標準詳細図（令和４年版）（以下「標準詳細図」という。）
・公共木造建築工事標準仕様書（令和７年版）
・建築物解体工事共通仕様書（令和４年版）

(2) 電気設備工事及び機械設備工事を本工事に含む場合は、電気設備工事及び機械設備工事はそれぞれの特記仕様書を適用する。
なお、電気設備工事の特記仕様書は（　／　）図、機械設備工事の特記仕様書は（　／　）図による。

(3) 本特記仕様書の表記
1)項目は、⊙印の付いたものを適用する。
2)特記事項は、⊙印の付いたものを適用する。
⊙印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
⊙印と ※ 印の付いた場合は、共に適用する。
3)特記事項に記載の(　.　.　)内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。
4) G 印は、「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（平成12年法律第100号）」に基づく「環境物品等の調達の推進に関する基本方針（令和8年2月3日変更閣議決定）」に定める特定調達物品における判断の基準（特定調達品目「公共工事」においては表１中の品目ごとの判断の基準）を満たすものを示す。

章	項　目	特　記　事　項
① 各章共通事項	⊙適用区分	建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の算定には次の条件を用いる。 ⊙風圧力 風速（Vo= 34 m/s） 地表面粗度区分　（・Ⅰ　・Ⅱ　⊙Ⅲ　・Ⅳ） ・積雪荷重 平成12年5月31日建設省告示第1455号における区域別表（　十二　）
	⊙環境への配慮	(1.4.1) 1)建築物内部に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に次の①から④を満たすものとする。 ① 合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗料、仕上塗材は、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しない又は発散が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する。 ② 接着剤及び塗料は、トルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。 ③ 接着剤は、可塑性（フタル酸ジプチル及びフタル酸ジエチルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑剤を除く）が添加されていない材料を使用する。 ④ ①の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器類は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。
	⊙材料の品質等	(1.4.2) 1)本工事に使用する材料は、設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。 2)備考欄に商品名が記載された材料は、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は監督職員の承諾を受ける。 3)標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする。 4)本工事に使用する材料のうち、5)に指定する材料の製造業者等は、次の①から⑥の事項を満たすものとし、その証明となる資料（外部機関が発行する証明書の写し等）を監督職員に提出して承諾を受ける。ただし、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合はこの限りでない。 ①品質及び性能に関する試験データを整備していること。 ②生産施設及び品質の管理を適切に行っていること。 ③安定的な供給が可能であること。 ④法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得していること。 ⑤製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。 ⑥販売、保守等の営業体制を整えていること。 5)製造業者等に関する資料の提出を求める材料 床型枠用鋼製デッキプレート、鉄骨柱下無収縮モルタル、無収縮グラウト材、乾式保護材、既調合モルタル（タイル工事用）、既調合目地材、ルーフドレン、吸水調整材、錠前類、クローザ類、自動ドア機構、自閉式上吊り引戸（手動開き式）、重量シャッター、軽量シャッター、オーバーヘッドドア、防水剤、現場発泡断熱材、フリーアクセスフロア、可動間仕切、移動間仕切、トイレブース、天井点検口、床点検口、グレーチング、屋上緑化システム、トップライト、ポリマーセメントモルタル、鋳鉄製ふた
② 仮設工事	⊙足場等	(2.2.4) 「「手すり先行工法等に関するガイドライン」について」（厚生労働省　令和5年12月26日）の「（別紙）手すり先行工法等に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙１「手すり先行工法による足場の組立て等の作業に関する基準」における２の（１）手すり据置き方式又は（２）手すり先行専用足場方式により行う。
③ 土工事	⊙埋戻し及び盛土	材料及び工法　(3.2.3) ※標準仕様書　表3.2.1による 種別 ・A種　適用場所（　　） ・B種　適用場所（　　） ・C種　適用場所（　　） 土　質（　　） 受渡場所（　　） ・D種　適用場所（　　） （品質　細粒分（75μm以下）の含有率 （重量百分率）の上限を50%未満とする） ・材料（　　）　工法（　　）
4～7		特記仕様書（構造関係）による 4章　地業工事 5章　鉄筋工事 6章　コンクリート工事 7章　鉄骨工事
8 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事	・補強コンクリートブロック造	ブロックの種類等　(8.2.2、3、5、7、8) 断面形状及び圧縮強さによる区分 ／ 正味厚さ(mm) ／ モデュール呼び寸法(mm) 長さ 高さ ／ 化粧の有無 ／ 適用箇所 ／ 備考 ・　　・無・有 ・ モルタルの調合（容積比） ※標準仕様書　表8.2.1による ・セメント（　　）：砂（　　） 各部の配筋 ※図示による　・ 目地仕上げ ・押し目地仕上げ　・化粧目地仕上げ まぐさを受ける開口部両側のブロックのモルタル又はコンクリートで充填する範囲 ※図示による　・
	・コンクリートブロック帳壁及び塀	ブロックの種類等　(8.3.2～4) 断面形状及び圧縮強さによる区分 ／ 正味厚さ(mm) ／ モデュール呼び寸法(mm) 長さ 高さ ／ 化粧の有無 ／ (表8.3.1)以外の適用箇所 ／ 備考 ・　　・無・有 ・空洞ブロックC(16)　　・無・有 ・型枠状ブロック 20　　・無・有 モルタルの調合（容積比） ※標準仕様書　表8.2.1による ・セメント（　　）：砂（　　） 塀に用いるブロックの正味厚さ(mm) 塀の高さが2m以下　※120 2m超え　※150 壁鉄筋の継手、定着及び末端部の折り曲げ形状 ※図示による　・ 各部の配筋 ※図示による　・
	・ALCパネル	ALCパネルの区分等　(8.4.2～5) 区分 ／ 単位荷重(N/㎡) 正荷重 負荷重 ／ 厚さ(mm) ／ 幅及び長さ ／ 耐火性能(時間) ／ 構法の種別 ・外壁用　・一般・コーナー　・平・意匠　・　・　・　図示　・なし・1　・A種・B種 ・間仕切壁用　・一般・コーナー　・平・意匠　　・　図示　・なし・1　・C種・D種 ・屋根用　・　・　・　図示　・0.5 ・床用　・　図示　・1・2　※F種 パネルの相互の接合部に挿入する耐火目地材 外壁、屋根パネルの構法 1章 適用区分による風圧力の （・1　・1.15　・1.3）倍の耐風圧性能 外壁パネル構法及び間仕切壁パネル構法における耐震性能 建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による パネル幅の最小限度を300㎜未満とする場合 ・図示による　・ 目地幅(㎜) （パネル短辺小口相互の接合部、外壁、間仕切壁パネルの出隅及び入隅のパネル接合部並びにパネルと他部材との取り合い部） ※10～20　・ 外壁、間仕切壁パネルの伸縮目地への耐火目地材の充填 ・適用する　・適用しない
	・押出成形セメント板（ECP）	ECPの種類等　(8.5.2～5) パネルの種類 ／ 形状 ／ 厚さ(mm) ／ 幅(mm) ／ 工法の種別 ／ 備考 ・外壁パネル　・F　・50　・60　※600・　・A種　・B種 ・D　・50　・60 ・T　60 ・間仕切壁パネル　・F　・50　・60　※600・　・B種　・C種 ・D　・50　・60 ・T　60 注）F：フラットパネル D：デザインパネル T：タイルベースパネル 外壁パネルの工法における耐風圧性能 1章 適用区分による風圧力の （・1　・1.15　・1.3）倍の耐風圧性能 外壁パネル工法及び間仕切りパネル工法における耐震性能 建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による パネル幅の最小限度を300㎜未満とする場合 ・図示による　・ パネル相互の目地幅(㎜) ・パネル幅900㎜以下 長辺（　　）　短辺（　　） ・パネル幅900㎜超える 長辺（　　）　短辺（　　） 出隅及び入隅のパネル接合目地の目地幅(㎜) ※15程度　・ 耐火構造以外の目地及び隙間の処理 ※パネルの製造所の仕様　・

TE-RU
TE-RU ARCHITECTS LTD
株式会社 てる設計
〒036-8085
青森県弘前市大字末広4-3-1
TEL0172-27-8647 FAX0172-27-8648
一級建築士事務所 青森県知事 第716号
一級建築士 建設大臣 第213208号
福士 晃昭

やむを得ず欠き込み等を行う場合は、下表の寸法を限度とし、欠損部分を考慮した強度を確認した資料を提出する。

	孔あけ及び欠き込みの大きさ		切断後のパネルの残り部分の幅
パネルに孔あけを設ける場合	短辺	パネル幅の1/2以下、かつ、300mm以下	150mm以下
	長辺	500mm以下	300mm以下
パネルに欠き込みを設ける場合	短辺	パネル幅の1/2以下、かつ、300mm以下	300mm以下
	長辺	500mm以下	300mm以下

⑨ 防水工事

・アスファルト防水

屋根保護防水 (9.2.2～5)(表9.2.3～9)

防水層の種別

種別	施工箇所	断熱材G	絶縁用シート
・A-1			※ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝﾌｨﾙﾑ 厚さ0.15mm以上 又はﾌﾗｯﾄﾔｰﾝｸﾛｽ 70g/㎡程度 ・
・A-2			
・A-3			
・B-1			
・B-2			
・AⅠ-1		(種類) ※JIS A 9521に基づく押出法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ断熱材3種bA (ｽｷﾝ層付き) (厚さ)(mm)	※ﾌﾗｯﾄﾔｰﾝｸﾛｽ 70g/㎡程度 ・
・AⅠ-2			
・AⅠ-3			
・BⅠ-1			
・BⅠ-2			

改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※標準仕様書 表9.2.3及び表9.2.6による
・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分 ・
材料による区分 ※R種
厚さ（ ）mm以上

部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※標準仕様書 表9.2.5及び表9.2.6による
・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分 ・
材料による区分 ※R種
厚さ（ ）mm以上

立上り部への断熱材及び絶縁用シート
※設置しない ・設置する

平場の保護コンクリートの厚さ
こて仕上げ ※水下 80mm以上
床タイル張り ※水下 60mm以上

立上り部の保護方法
・乾式保護材（品質・性能、試験方法は別表による）
窯業系パネルⅠ類 厚さ（ ）mm 幅（ ）mm
・れんが押え（※JIS R 1250 ・ ）
・コンクリート押え
・モルタル押え（屋内）

屋根露出防水

防水層の種別

種別	施工箇所	断熱材G	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	高日射反射率防水G
・D-1			・ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ類の製造所の仕様 ・	※ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ類の製造所の仕様 ・	・適用する
・D-2					・適用する
・DⅠ-1		標準仕様書9.2.2(9)(種類) (厚さ)(mm)			・適用する
・DⅠ-2					・適用する

改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※標準仕様書 表9.2.8による
・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分 ・
材料による区分 ※R種
厚さ（ ）mm以上

部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※標準仕様書 表9.2.7及び表9.2.8による
・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分 ・
材料による区分 ※R種
厚さ（ ）mm以上

絶縁断熱工法のルーフドレン回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置
※図示による ・

絶縁工法及び絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量
種類
※アスファルトルーフィング類の製造所の指定

設置数量
※アスファルトルーフィング類の製造所の指定
・（ ）個

屋内防水
防水層の種別

種別	施工箇所
・E-1	
・E-2	

保護層
・設ける（※図示による ・ ）
・設けない

E-1の工程3を行う部位
※貯水槽、浴槽等常時水に接する部位

防水層の下地の立上り
※コンクリート打放し仕上げ
標準仕様書 表6.2.4［打放し仕上げ種別］のB種

立上り部の押え金物の材質、形状及び寸法
※アルミニウム製 L-30×15×2.0mm程度

防水層の下地のモルタル塗り
・適用する（施工範囲 ※図示による ・ ）
・適用しない

・屋上排水溝
※図示による ・

・改質アスファルトシート防水

屋根露出防水 (9.3.2、3)(表9.3.1～3)

防水層の種別

種別	施工箇所	断熱材G	防湿用シート	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	高日射反射率防水G
・AS-T1				・改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄの製造所の仕様 ・	※改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄの製造所の仕様 ・	・適用する
・AS-T2						・適用する
・AS-T3						・適用する
・AS-T4						・適用する
・AS-J1						・適用する
・ASI-T1		標準仕様書9.3.2(3)(ｳ)(種類) ・ (厚さ)(mm) ・	・設ける(改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄの製造所の仕様) ・設けない			・適用する
・ASI-J1						・適用する

改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※標準仕様書 表9.3.1から表9.3.3による
・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分 ・
材料による区分 ※R種
厚さ（ ）mm以上

粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※標準仕様書 表9.3.2及び表9.3.3による
・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分 ・
材料による区分 ※R種
厚さ（ ）mm以上

部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※標準仕様書 表9.3.2及び表9.3.3による
・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分 ・
材料による区分 ※R種
厚さ（ ）mm以上

・合成高分子系ルーフィングシート防水

立上り部の押え金物の材質、形状及び寸法
※アルミニウム製 L-30×15×2.0mm程度

絶縁工法及び絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量
種類
※アスファルトルーフィング類の製造所の指定

設置数量
※アスファルトルーフィング類の製造所の指定
・（ ）個

防水層の種別 (9.4.2～4)（表9.4.1～3)

種別	施工箇所	可塑剤移行防止ｼｰﾄの材質	断熱材G	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	高日射反射率防水G
・S-F1				・ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの製造所の仕様 ・	※ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの製造所の仕様 ・	・適用する
・S-F2						・適用する
・S-M1				・ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの製造所の仕様 ・	※ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの製造所の仕様 ・	・適用する
・S-M2						・適用する
・SⅠ-F1			標準仕様書9.4.2(3)(ｴ)(b)(種類) ・ (厚さ)(mm) ・	・ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの製造所の仕様 ・	※ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの製造所の仕様 ・	・適用する
・SⅠ-F2						・適用する
・SⅠ-M1			標準仕様書9.4.2(3)(ｴ)(a)(種類) ・	・ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの製造所の仕様 ・	※ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの製造所の仕様 ・	・適用する
・SⅠ-M2		※発泡ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝｼｰﾄ ・	(厚さ)(mm) ・			・適用する

S-F1、S-M1、S-F2、S-M2の仕様
※非歩行仕様
・軽歩行仕様

SI-M1及びSI-M2における防湿用フィルム
・設置する ・設置しない

屋内防水
防水層の種別

種別	施工箇所	保護層 平場の保護モルタル塗厚	保護層 立上り部の保護モルタル塗厚
・S-C1		・	※7mm以下 ・

平場の保護モルタル床塗りにおける目地の目地割及び種類
目地割
※目地割2㎡程度、最大目地間隔3m程度

目地の種類
※押し目地 ・

合成高分子系ルーフィングシートの種類及び厚さ
※標準仕様書 表9.4.1から表9.4.3による
・JIS A 6008に基づく種類及び厚さ
種類 ・
厚さ ・（ ）mm以上

・塗膜防水

固定金具の材質、形状及び寸法
※厚さ0.4mm以上の防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板又はそれらの鋼板の片面若しくは両面に樹脂を積層加工したもの

接着工法の場合の脱気装置の種類及び設置数量
種類
※ルーフィングシートの製造所の仕様

設置数量
※ルーフィングシートの製造所の仕様
・（ ）個

接着工法の場合のプレキャストコンクリート部材下地の目地処理
・行う（・図示による ・ ）

プレキャストコンクリート部材の入隅部の増張り
（種別S-F1、SI-F1の場合）
・行う（・図示による ・ ）
・行わない

機械的固定工法の場合の一般部のルーフィングシートの張付け
1章 適用区分による風圧力の（・1 ・ ）倍の風圧力に対応した工法

防水層の種別 (9.5.3)(表 9.5.1、2)

種別	施工箇所	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	保護層	高日射反射率防水G
・X-1		・主材料の製造所の仕様 ・	※主材料の製造所の仕様 ・		・適用する
・X-2		・主材料の製造所の仕様 ・	※主材料の製造所の仕様 ・		・適用する
・Y-1	※地下外壁防水 ・				
・Y-2	※屋内防水 ・			・設ける ・保護モルタル ・保護ｺﾝｸﾘｰﾄ ・設けない	

ウレタンゴム系塗膜防水X-1の脱気装置の種類及び設置数量
種類
※主材料の製造所の仕様

設置数量
※主材料の製造所の仕様
・（ ）個

防水層の種別 (9.6.4)(表9.6.1)

種別	施工箇所
・C-SUI	
・C-SUP	

防水層の下地
壁
※コンクリート打放し仕上げ（表6.2.4 B種）

天井部
※コンクリート打放し仕上げ（表6.2.4 B種）

下地処理
コンクリートの打継ぎ箇所の処理
※打継ぎ部分に対し、幅30mm程度の目地棒を用いる。目地棒の除去後、水洗い清掃し、ケイ酸質系塗布防水材の製造所の仕様により、ポリマーセメントモルタルを充填する。
・図示による
・

標準仕様書9.6.4(2)の(ｲ)、(ｳ) 以外の下地処理
・図示による ・

・ケイ酸質系塗布防水

TE-RU
TE-RU ARCHITECTS LTD
株式会社 てる設計
〒036-8085
青森県弘前市大字末広4-3-1
TEL0172-27-8647 FAX0172-27-8648
一級建築士事務所 青森県知事 第716号
一級建築士 建設大臣 第213208号
福士 晃昭

⑨ 防水工事

・シーリング

(9.7.2、3、5)(表 9.7.1)
下表以外は、標準仕様書 表9.7.1による。
ただし、外壁タイル接着剤張り目地の場合のシーリングは11章に、カーテンウォール目地の場合のシーリングは17章による。

施工箇所	シーリング材の種類（記号）
外部開口部廻り	変成シリコン（MS-2）

仕上げを行わない施工箇所(・図示による　・　)
シーリング材の目地寸法
※標準仕様書9.7.3(1)(ｱ)～(ｳ)による
・図示による
・
接着性試験
※簡易接着性試験　・引張接着性試験

10 石工事

・施工

石材の割付け　(10.1.3)
※図示による　・

・石材等

天然石　(10.2.1、3)(表 10.2.1、2)

施工箇所	岩石の種類	寸法(㎜)	厚さ(㎜)	表面仕上げの種類	備考
・床石		・図示による			

ジェットバーナー仕上げのバフ仕上げの有無
・あり　・なし

テラゾブロック

施工箇所	種石の種類	種石の大きさ(㎜)	形状による区分	仕上げ面による区分	寸法(㎜)	表面仕上げの種類	備考
	※大理石 ・花こう岩	※1.5 ～12 ・	・平もの ・役もの	・片面 ・両面			

テラゾタイル

施工箇所	種石の種類	種石の大きさ(㎜)	寸法による区分	表面仕上げの種類	備考
	※大理石 ・花こう岩	※1.5 ～12 ・	・300型 ・400型		

その他の材料
取付け用モルタル
※専門工事業者の指定する製品
・
既調合の目地モルタル
※専門工事業者の指定する製品
・
浸透性吸水防水剤
※専門工事業者の指定する製品
・
石裏面処理材
※専門工事業者の指定する製品
・
裏打ち処理材
※専門工事業者の指定する製品
・
ドレンパイプの材質
・樹脂ネット製パイプ　クロスメッシュ巻き　25～35φ
・
金物の固定に使用する充填材料等
※専門工事業者の指定する製品
・

・外壁湿式工法

受金物　(10.2.2、3)(10.3.2、3)
材質　・SUS304　・
形状及び寸法　・図示による　・
アンカーの材質及び寸法
材質　※SS400　・
寸法　・
あと施工アンカーの材質、寸法等
種類　・
材質　・
寸法　・
ドレンパイプ
・設ける（設置位置：図示による）
・設けない
石裏面処理
・適用する　・適用しない
裏打ち処理
・適用する　・適用しない
下地ごしらえ
※あと施工アンカー・横筋流し工法
・あと施工アンカー工法
・流し筋工法

目地
・目地モルタル　（目地幅　・　）
・既調合の目地モルタル（目地幅　・　）
※シーリング材
（種類　※標準仕様書 表9.7.1による　・　）
（目地幅及び深さ　・　）
伸縮調整目地
位置
・図示による
シーリング材の種類
※標準仕様書 表9.7.1による

目地寸法
※幅・深さとも10㎜以上　・図示による

・内壁空積工法

受金物　(10.2.2)(10.4.2、3)
材質　・SUS304　・
形状及び寸法　・図示による　・
あと施工アンカーの材質、寸法等
種類　・
材質　・
寸法　・
石裏面処理
・適用する　・適用しない
裏打ち処理
・適用する　・適用しない
下地ごしらえ
※あと施工アンカー・横筋流し工法
・あと施工アンカー工法
一般目地
・目地モルタル　（目地幅　・　）
・既調合の目地モルタル（目地幅　・　）
・シーリング材
(種類　※標準仕様書 表9.7.1による　・　)
(目地幅及び深さ　・　)
伸縮調整目地
位置
・6m程度　・
シーリング材の種類
※標準仕様書 表9.7.1による

目地寸法

・外壁乾式工法

(10.2.2)(10.5.2、3)(表10.2.4)
乾式工法の方式による金物の種類、形状、寸法等
※標準仕様書 表10.2.4による
（方式：・スライド方式　・ロッキング方式）
・図示による
あと施工アンカーの材質、寸法等
種類　・
材質　・
寸法　・
だぼ用の穴の位置
※標準仕様書10.5.2(2)(7)による
・図示による
裏打ち処理
・適用する　・適用しない
建築基準法に基づく風圧力に対応した工法
１章 適用区分による風圧力の
（・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力に対応した工法
シーリング材
種類
※標準仕様書 9章 7節による
・
目地幅及び深さ
・

・床及び階段の石張り

浸透性吸収防水材　(10.6.2、3)
（床石張り）　・適用する　・適用しない
石裏面処理
（床石張り）　・適用する　・適用しない
（階段張り）　・適用する　・適用しない
裏打ち処理
（床石張り）　・適用する　・適用しない
一般目地
・目地モルタル　（目地幅　・　）
・既調合の目地モルタル（目地幅　・　）
・シーリング材
（種類　※標準仕様書 表9.7.1による　・　）
（目地幅及び深さ　・　）
伸縮調整目地
位置
※標準仕様書10.6.2(5)(ｲ)による
・図示による
シーリング材の種類
※標準仕様書 表9.7.1による

目地寸法
※幅・深さとも10㎜以上　・図示による

・笠木、甲板等の石張り

取付け工法　(10.2.2)（10.7.2）
・湿式工法
・乾式工法
特殊部位用金物
材質
※SUS304　・
寸法等
引金物
※標準仕様書 表10.2.3による
・
だぼ
※標準仕様書 表10.2.3による
・
かすがい
※標準仕様書 表10.2.3による
・
受金物
・図示による　・
乾式工法の方式による金物の種類、形状、寸法等
ファスナー
※標準仕様書 表10.2.4に準ずる
（方式：・スライド方式　・ロッキング方式）
・図示による
あと施工アンカーの材質、寸法
種類　・
材質　・
寸法　・
石裏面処理
・適用する　・適用しない
乾式工法の場合の取付け代
※70㎜程度　・

石材の裏面の補強用モルタル
・適用する　・適用しない
一般目地
・目地モルタル　（目地幅　・　）
・既調合の目地モルタル(目地幅　・　)
・シーリング材
(種類　※標準仕様書 表9.7.1による　・　)
(目地幅及び深さ　・　)
伸縮調整目地
位置
※標準仕様書10.6.2(5)(ｲ)による
・図示による
シーリング材の種類
※標準仕様書 表9.7.1による
・
目地寸法
・図示による　・

11 タイル工事

・伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地

位置　(11.1.3)(表11.1.1)
※標準仕様書 表11.1.1による
・図示による　・
目地寸法
・図示による　・

・見本焼き試験施工

見本焼き　(11.1.4)
・行う（施工箇所：　）　・行わない
試験張り
・行う（範囲、仕様等は図示による）　・行わない

・セメントモルタルによるタイル張り

タイルの形状、寸法等　(11.2.2、6)

施工箇所	種類	形状/形状(㎜)	再生材料の適用 G	吸水率による区分 Ⅰ類	吸水率による区分 Ⅱ類	吸水率による区分 Ⅲ類	うわぐすり 施ゆう	うわぐすり 無ゆう	役物 有	役物 無	色 標準	色 特注	耐凍害性 有	耐凍害性 無	耐滑り性
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・

種類の略称
内外：内外装タイル
ユ　：ユニットタイル（内装タイル以外）

備考欄：参照タイルシリーズ

標準的な曲がりの役物は一体成形とする。

既調合モルタル（品質・性能、試験方法は別表による）
モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。

既調合目地材（品質・性能、試験方法は別表による）

下地モルタル塗りを行うコンクリート素地面の下地処理
※目荒し工法（高圧水洗処理）
・MCR工法

壁タイル張りの工法
内外装タイル
・密着張り
・改良圧着張り

内装タイル以外のユニットタイル
・マスク張り
・モザイクタイル張り

TE-RU
TE-RU ARCHITECTS LTD
株式会社 てる設計
〒036-8085
青森県弘前市大字末広4-3-1
TEL0172-27-8647 FAX0172-27-8648
一級建築士事務所 青森県知事 第716号
一級建築士 建設大臣 第213208号
福士 晃昭

（工事名）　五所川原農林高等学校実習棟（リンゴ冷蔵庫）改築工事
建築工事特記仕様書（その３）
青森県
（日付）　2026.3
A-04

11 タイル工事

・有機系接着剤による
タイル張り

タイルの形状、寸法等 (11.3.2～5)

施工箇所	種類	形状/形状(mm)	再生材料の適用 G	吸水率による区分 I類	吸水率による区分 II類	吸水率による区分 III類	うわぐすり 施ゆう	うわぐすり 無ゆう	役物 有	役物 無	色 標準	色 特注	耐害性 有	凍害性 無	耐滑り性
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・

種類の略称
外：外装タイル
内：内装タイル
ユ：ユニットタイル（内装タイル以外）

備考欄：参照タイルシリーズ

標準的な曲がりの役物は一体成形とする

内装タイル接着剤張りの接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆　・

下地調整塗材塗りを行うコンクリート素地面の処理
※目荒し工法（高圧水洗処理）
・MCR工法

目地のシーリング材
打継ぎ目地
※ポリウレタン系シーリング材

ひび割れ誘発目地
※ポリウレタン系シーリング材
・

伸縮調整目地及びその他の目地
※変成シリコーン系シーリング材
・

外装タイルの目地詰め
・行う　・行わない

⑫ 木工事

・表面仕上げ

見え掛り面の表面仕上げの程度 (12.1.4)
※プレーナー加工仕上げ
適用部位（部位）（　　）
・超自動機械かんな
適用部位（部位）（　　）
・サンダー
適用部位（部位）（　　）

・施工一般

材料のホルムアルデヒド放散量 (12.2.1)
※標準仕様書12.2.1(1)(ｳ)による

・製材

(12.2.1)(12.4.1)(12.5.1)(12.6.1)(12.7.1)

・JAS 1083-5 に基づく下地用製材 G

施工箇所	樹種名	等級(材面の品質)	寸法(mm)	含水率	保存処理
		・ ※2級		※A種　・B種	・
		・ ※2級		※A種　・B種	・

・JAS 1083-2 に基づく造作用製材 G

施工箇所	樹種名	等級(材面の品質)	寸法(mm)	含水率	保存処理
見え掛り面	スプルス	※上小節 ・	90X90	※A種　・B種	・
見え掛り面以外	マツ	※小節以上 ・		※A種　・B種	・

・造作用集成材

・JAS 1083-6 に基づく広葉樹製材 G

施工箇所	樹種名	等級(材面の品質)	寸法(mm)	含水率	保存処理
		※1等 ・		※10%以下 ・A種　・B種	・
		※1等 ・		※10%以下 ・A種　・B種	・

・JAS 1083（製材）以外の製材 G

施工箇所	寸法(mm)	材面の品質	防虫処理の適用	含水率
		(　　) 造作材の場合 (※A種　・B種)	・適用する ・適用しない	※A種 ・B種
		(　　) 造作材の場合 (※A種　・B種)	・適用する ・適用しない	※A種 ・B種

・JAS 1152 に基づく造作用集成材 G (12.2.1)

施工箇所	品名	樹種名	見付け材面(面数)	寸法(mm)	見付け材面の品質
腰見切り		パイン		図示	※1等 ・2等
					※1等 ・2等

・JAS 1152 に基づく化粧ばり造作用集成材 G

施工箇所	品名	材種名	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面(面数)	寸法(mm)	見付け材面の品質
		化粧薄板 ： 芯材 ：				※1等 ・2等
		化粧薄板 ： 芯材 ：				※1等 ・2等

・JAS 1152 以外の造作用集成材 G

施工箇所	材種名	寸法(mm)	見付け材面の品質	含水率
				※15%以下 ・
				※15%以下 ・

・JAS 1152 以外の化粧ばり造作用集成材 G

施工箇所	材種名	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面の品質	含水率
	化粧薄板 ： 芯材 ：				※15%以下 ・
	化粧薄板 ： 芯材 ：				※15%以下 ・

・造作用単板積層材 G

・JAS 0701 に基づく造作用単板積層材 G (12.2.1)

施工箇所	品名	寸法(mm)	表面の品質	防虫処理の適用
			・無 （・1等　・2等　・3等） ・有 （・天然木化粧加工 ・塗装加工　　）	・適用する （　　） ・適用しない
			・無 （・1等　・2等　・3等） ・有 （・天然木化粧加工 ・塗装加工　　）	・適用する （　　） ・適用しない

・JAS 0701 以外の造作用単板積層材 G

施工箇所	寸法(mm)	表面の品質	含水率	防虫処理の適用
		・無 （　　） ・有 （・天然木化粧加工 ・塗装加工　）	※14%以下 ・	・適用する （　　） ・適用しない
		・無 （　　） ・有 （・天然木化粧加工 ・塗装加工　）	※14%以下 ・	・適用する （　　） ・適用しない

・JAS 3079 に基づく直交集成板 G

施工箇所	品名	樹種名	強度等級(曲げ性能)	種別	接着性能(使用環境)	寸法(mm)
	・異等級構成直交集成板 ・同一等級構成直交集成板			・A種構成 ・B種構成	・A ・B ・C	

・JAS 0233 に基づく普通合板 G (12.2.1)

施工箇所	厚さ(mm)	接着の程度	板面の品質	単板の樹種名	防虫処理の適用
	※5.5 ・	※1類 ・2類	広葉樹 ※2等以上 針葉樹 ※C-D以上		・適用する （　　） ・適用しない
	※5.5 ・	※1類 ・2類	広葉樹 ※2等以上 針葉樹 ※C-D以上		・適用する （　　） ・適用しない

・合板等

・JAS 0233 に基づく構造用合板 G

施工箇所	厚さ(mm)	接着の程度	等級	板面の品質	曲げ強度(強度等級)	防虫処理の適用	単板の樹種名
棚	※12 ・	・特類 ・1類	・1級 ※2級以上	※C-D以上 ・		・適用する ・適用しない	
	※12 ・	・特類 ・1類	・1級 ※2級以上	※C-D以上 ・		・適用する ・適用しない	

屋外又は常時湿潤状態となる場所に使用する場合は、接着の程度を特類とする。

・JAS 0233 に基づく化粧ばり構造用合板 G

施工箇所	厚さ(mm)	単板の樹種名	接着の程度	防虫処理の適用
			・特類 ・1類	・適用する （　　） ・適用しない
			・特類 ・1類	・適用する （　　） ・適用しない

屋外又は常時湿潤状態となる場所に使用する場合は、接着の程度を特類とする。

・接合具等

・JAS 0233 に基づく天然木化粧合板 G

施工箇所	厚さ(mm)	接着の程度	化粧板に使用する単板の樹種名	防虫処理の適用
		・1類 ・2類		・適用する （　　） ・適用しない
		・1類 ・2類		・適用する （　　） ・適用しない

・JAS 0233 に基づく特殊加工化粧合板 G

施工箇所	厚さ(mm)	接着の程度	表面性能	単板の樹種名	化粧加工の方法	防虫処理の適用
		・1類 ・2類	・F ・FW ・W ・SW		・ｵｰﾊﾞｰﾚｲ ・ﾌﾟﾘﾝﾄ ・塗装 ・	・適用する （　　） ・適用しない
		・1類 ・2類	・F ・FW ・W ・SW		・ｵｰﾊﾞｰﾚｲ ・ﾌﾟﾘﾝﾄ ・塗装 ・	・適用する （　　） ・適用しない

・JIS A 5908 に基づくパーティクルボード G

施工箇所	種類	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	耐水性による区分	厚さ(mm)
			※13タイプ ・	※Pﾀｲﾌﾟ 又は Mﾀｲﾌﾟ ・	※15 ・
			※13タイプ ・	※Pﾀｲﾌﾟ 又は Mﾀｲﾌﾟ ・	※15 ・

・JAS 0360 に基づく構造用パネル G

施工箇所	寸法(mm)	曲げ性能（等級）（・常態曲げ試験　・湿潤曲げ試験）
		・1級　・2級　・3級　・4級
		・1級　・2級　・3級　・4級

・JIS A 5905 に基づくMDF G

施工箇所	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	耐水性による区分	難燃性による区分	厚さ(mm)

造作材の化粧面の釘打ち (12.2.2、3)
※隠し釘打ち
・釘頭埋め木
・つぶし頭釘打ち
・釘頭現し
諸金物の形状、寸法及び材質
かすがい
※標準仕様書 表12.2.3に示す程度の市販品
・
座金
※標準仕様書 表12.2.4に示す程度の市販品
・
箱金物及び短冊金物
※標準仕様書 表12.2.5に示す程度の市販品
・
接着剤
接着剤のホルムアルデヒドの放散量
※F☆☆☆☆　・

TE-RU
TE-RU ARCHITECTS LTD
株式会社 てる設計
〒036-8085
青森県弘前市大字末広4-3-1
TEL0172-27-8647 FAX0172-27-8648
一級建築士事務所 青森県知事 第716号
一級建築士 建設大臣 第213208号
福士 晃昭

⑫ 木工事

・防腐・防蟻処理

・工場における薬剤の加圧注入等 (12.3.1、2)
・標準仕様書 12.3.1(ｱ)(a)による加圧注入

適用部材	保存処理性能区分
	・K2 ・K3 ・K4
	・K2 ・K3 ・K4

・標準仕様書 12.3.1(ｱ)(b)による加圧式保存処理
保存処理の性能 ( )
インサイジング ・適用する ・適用しない
・薬剤の塗布等による防腐・防蟻処理
薬剤の種類
※標準仕様書12.3.1(ｲ)(a)による
・附属書A(規定)に基づく表面処理用木材保存剤による
・
適用部材（部位） ・図示による
処理方法 ※標準仕様書 12.3.1(ｲ)(b)による
・薬剤の接着材への混入による防腐、防蟻処理
適用部材（部位） ・図示による
・合板、集成材、単板積層材の薬剤の加圧注入等による
K3防腐・防蟻処理
適用部材（部位） ・図示による

・不燃処理木材等

不燃材料 (12.3.3)
適用部材（部位） ・図示による
準不燃材料
適用部材（部位） ・図示による
難燃材料
適用部材（部位） ・図示による

・内部間仕切軸組及び床組み

・間仕切軸組に用いる木材の樹種名 (12.4.1)
（製材を用いる場合）
※杉又は松 ・
・床組みに用いる木材の樹種名（製材を用いる場合）
※杉又は松 ・
・土間スラブの類の場合の土台、転ばし大引き及び転ばし根太
※ひのき又は保存処理木材 ・

・窓、出入口その他

・窓、出入口その他に用いる木材の樹種名 (12.5.1)
（製材を用いる場合）
※吊元枠、水掛りの下枠及び敷居はひのき、
その他は松又は杉

・床板張り

・縁甲板及び上がりかまちに用いる木材の樹種名 (12.6.1)
（製材を用いる場合）
※ひのき ・

・壁及び天井下地

・壁胴縁、野縁受桟、野縁及び吊木に用いる木材の樹種名（製材を用いる場合） (12.7.1)
※杉又は松 ・

⑬ 屋根及びとい工事

・長尺金属板葺

(13.2.2、3)

施工箇所	板及びコイルの種類	塗膜の耐久性の種類、めっき付着量	厚さ(mm)	屋根葺形式	備考
	※JIS G 3322の屋根用（着色・有）	・5類(AZ150) ・	・0.4 ・0.5 ・	・心木なし瓦棒葺 ・立平葺 ・鎧掛葺 ・横葺	

下葺材料
・アスファルトルーフィング 940
・改質アスファルトルーフィング下葺材
（・一般タイプ ・複層基材タイプ ・粘着層付タイプ）
横葺きの場合のけらば納め
・つかみ込み納め ・けらば包み納め
工法
1章 適用区分による風圧力の
（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法
雪止め
・設置する（形状及び施工箇所 ・図示による ・ ）
・設置しない

・折板葺

(13.2.2)(13.3.2,)(表13.2.1)

施工箇所	形式	山高、山ピッチによる区分 山高	山ピッチ	耐力による区分	材料による区分	厚さ(mm)	軒先面戸板	耐火性能
屋根庇	・重ね形 ・はぜ締め形 ・かな合形 ・	162	500	( )種 ・4	※鋼板製 ・ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金板製 ・	0.8	・あり ・なし	・30分 ・なし
	・			・				

材料
折板の材質の種類
（※JIS G 3302の屋根用（着色 ・有） ・ ）
塗膜の耐久性の種類、めっき付着量
（・5類（AZ150） ・ ）
断熱材張り
・行う
（断熱材の種別： 厚さ(mm)： 防火性能： ）
・行わない
工法
1章 適用区分による風圧力の
（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法
耐雪性能に対応した工法の適用
・適用する ・適用しない
折板のけらば納め
※けらば包みによる方法 ・
雪止め
・設置する（形状及び施工箇所 ・図示による ・ ）
・設置しない

・粘土瓦葺

(13.4.2、3)

施工箇所	種類 製法による区分	形状による区分	寸法による区分	産地	役物瓦の種類	雪止め瓦
						・適用する ・適用しない

桟瓦の防災瓦の使用 ・適用する ・適用しない
JIS A 5208に基づく凍害試験等
・行う ・行わない
瓦桟木
材質
※杉 ・
寸法
※幅21×高さ15(mm)以上 ・
棟補強用心材
材質
※杉 ・
寸法
※幅40×高さ30(mm)
・
瓦緊結用釘及びねじ
種類（ ） 径（ ） 長さ（ ）
棟補強等に使用する金物等
材質
・ステンレス製
・溶融亜鉛めっき処理を行った鋼製
形状、寸法及び留付け方法
※図示による ・
工法
1章 適用区分による風圧力の
（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法
風圧力又は地震力に対応した瓦の緊結方法等
※図示による ・
瓦桟木の留付け工法
※図示による ・
棟の工法
・７寸丸伏せ棟又はF形用冠瓦伏せ棟
・のし積み棟
・
面戸、雀口、葺土の露出する瓦接合部に仕上げを施す場合
・モルタル ・瓦葺き用しっくい

・とい

といその他の材種 (13.5.2、3)(表 13.5.4)
・配管用鋼管 材種（ ）
・硬質ポリ塩化ビニル管 材種（ ）
・ルーフドレン
・表面処理鋼板

とい受金物
材種
※標準仕様書 表13.5.2による
（溶融亜鉛めっきを行ったもの）
・
形状
※市販品（とい径 100 以下）
・25×4.5(mm)以上（とい径 100 を超えるもの）
・
取付け間隔
※標準仕様書 表13.5.2による
・
足金物
材種
※標準仕様書 表13.5.2による
（溶融亜鉛めっきを行ったもの）
・
形状
※市販品 ・
取付け間隔
※標準仕様書 表13.5.2による
・
多雪地域
・適用する ・適用しない
防露材のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆ ・
鋼管製といの防露巻き
※標準仕様書 表13.5.4による ・

ルーフドレンの種類及び呼び

種別		呼び	施工箇所
・ろく屋根用たて形Ⅰ型	※ねじ込み式	・80 ・100 ・125 ・150	
・ろく屋根用横形Ⅰ型	※ねじ込み式	・80 ・100 ・125 ・150	
・バルコニー中継用	・ねじ込み式	・50 ・80 ・100	
	・差し込み式	・50 ・75 ・100	
・バルコニー用	・ねじ込み式	・50 ・80 ・100	
	・差し込み式	・50 ・75 ・100	

⑭ 金属工事

・アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理

(14.2.1)(表14.2.1)

種類	色合い等	施工箇所（成形板、笠木、建具以外）
・AB-1種		
・AB-2種	・標準色 ・特注色	
・AC-1種		
・AC-2種	・標準色 ・特注色	
・BA-1種		
・BA-2種	・標準色 ・特注色	
・BB-1種		
・BB-2種	・標準色 ・特注色	
・BC-1種		
・BC-2種	・標準色 ・特注色	
・C種	・標準色 ・特注色	

陽極酸化皮膜の着色方法
※二次電解着色 ・三次電解着色

・鉄鋼の亜鉛めっき

(14.2.2)(表14.2.2)

表面処理方法	種別	施工箇所（手すり、タラップ以外）
	・A種	
・溶融亜鉛めっき	・B種	SS床見切り
	・C種	
	・D種	
・電気亜鉛めっき	・E種	
	・F種	

・軽量鉄骨天井下地

野縁等の種類 (14.4.2～4)(表14.4.1)
屋外
※25形 ・19形
屋内
※19形 ・25形
屋外の形式及び寸法
野縁受、つりボルト及びインサートの間隔
・図示による ・
周辺部の端からの間隔
・図示による ・
野縁の間隔
・図示による ・
・つりボルトの間隔が900mmを超える場合
（補強方法 ※図示による ・ ）
・天井のふところが3.0mを超える場合
（補強方法 ※図示による ・ ）
・天井下地材における耐震性を考慮した補強
（補強箇所 ・図示による ・ ）
（補強方法 ※図示による ・ ）
耐震性能
建築非構造部材の耐震性に係る特記事項による。
屋外の軒天井、ピロティ天井の工法
1章 適用区分による風圧力の
（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法

・軽量鉄骨壁下地

スタッド、ランナの種類 (14.5.3、4)(表14.5.1)
※標準仕様書 表14.5.1によるスタッドの高さによる区分に応じた種類
・図示による
・
スタッドの高さが5.0mを超える場合
※図示による ・
出入口及びこれに準ずる開口部の補強
※標準仕様書14.5.4.(5)による
・

・金属成形板張り

(14.6.2、3)(表14.2.1)

種別	製法	形状	板幅(mm)	板厚(mm)	表面処理 種別	色合い等
・ｱﾙﾐﾆｳﾑ ・	・押出し ・ﾛｰﾙ	ｽﾊﾟﾝﾄﾞﾚﾙ形				
	・ﾌﾟﾚｽ ・	ﾊﾟﾈﾙ形				

取付け用下地
※標準仕様書14.4による
・図示による
伸縮調整継手
・設ける
（施工箇所 ・図示による ・ ）
・設けない
屋外の軒天井、ピロティ天井の工法
1章 適用区分による風圧力の
（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法

TE-RU
TE-RU ARCHITECTS LTD
株式会社 てる設計
〒036-8085
青森県弘前市大字末広4-3-1
TEL0172-27-8647 FAX0172-27-8648
一級建築士事務所 青森県知事 第716号
一級建築士 建設大臣 第213208号
福士 晃昭

（工事名） 五所川原農林高等学校実習棟（リンゴ冷蔵庫）改築工事
建築工事特記仕様書（その５）
青森県 （日付） 2026.3
A-06

14 金属工事

・アルミニウム製笠木

種類 (14.7.2、3)(表14.2.1)(表14.7.1)
・250形 ・300形 ・350形
笠木本体
※押出形材 ・
表面処理
種別（ ）種
色合等 ・標準色（ ）
・特注色（ ）
笠木の固定金具の工法等
1章 適用区分による風圧力の
（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法

⑮ 左官工事

・モルタル塗り

モルタル (15.3.2、5)
・現場調合材料 ・既調合材料

既製目地材
・設ける
施工箇所（ ）
形状（※図示による ・ ）
・設けない

床の目地
・設ける
目地割り
※2㎡程度（最大目地間隔3m程度） ・
目地の種類
※押し目地 ・
・設けない

屋外のタイル張り下地及び屋内の吹抜け部分等のタイル張りの下地モルタル塗り及び下地調整塗材塗りの接着力試験
・適用する ・適用しない

防水剤（品質・性能、試験方法は別表による）

・ラス系下地

ラス系下地 (15.2.4)
・二層下地通気構法
・単層下地通気構法
換気口部の措置
（※公共木造建築工事標準仕様書11.4.3.(2)(ｸ)
・ ）
・直張りラスモルタル下地
・直張りラスシートモルタル下地

ラスの材料
記号 （ ）、種類 （ ）
単位面積当たりの質量（ ）

ラスシートの材料
ラス目による区分（※M ・ ）
山高、山ピッチ、質量及び溶接区分による区分
（・LS4(建築基準法に基づく耐力壁) ・ ）
ステープルの形状及び寸法（ ）
直張りラスシートモルタル下地で建築基準法に基づく耐力壁のラスシートの施工

・せっこうボード その他のボード下地

(15.2.5)
せっこうボード（GB-R）及びせっこうラスボード（GB-L）の種類及び厚さ
種類（・GB-R ・GB-L ・ ）
厚さ（ ㎜）

木質系セメント板の種類及び厚さ
種類（・ ） 厚さ（ ㎜）

・こまい下地

建築基準法に基づく耐力壁の指定 (15.2.6)
（・あり ・なし）

・木ずり下地

木ずり用小幅板の種類 (15.2.7)
（※杉(心去り材) ・ ）

・仕上塗材仕上げ

内装仕上げに用いる塗材のホルムアルデヒド放散量 (15.6.2)
※F☆☆☆☆
・

仕上塗材の種類

・薄付け仕上塗材

種類（呼び名）	仕上げの形状	工法	吸放湿性	防火材料
・外装薄塗材Si	・砂壁状 ・ゆず肌状	・吹付け		・
	・ゆず肌状 ・さざ波状	・ﾛｰﾗｰ塗り		
・可とう形外装塗材Si	・砂壁状 ・ゆず肌状	・吹付け		・
	・ゆず肌状 ・さざ波状	・ﾛｰﾗｰ塗り		
・外装薄塗材E	・砂壁状 ・ゆず肌状	・吹付け		・
	・平たん状 ・凹凸状	・こて塗り		
	・ゆず肌状 ・さざ波状	・ﾛｰﾗｰ塗り		
	・着色骨材砂壁状	・吹付け ・こて塗り		
・可とう形外装塗材E	・砂壁状 ・ゆず肌状	・吹付け		・
	・平たん状 ・凹凸状	・こて塗り		
	・ゆず肌状 ・さざ波状	・ﾛｰﾗｰ塗り		
・防水形外装薄塗材E	・ゆず肌状 ・さざ波状	・ﾛｰﾗｰ塗り		・
	・凹凸状	・吹付け		
・外装薄塗材S	・砂壁状	・吹付け		・
・内装薄塗材C ・内装薄塗材L	・凹凸状	・吹付け	・適用する	・
	・平たん状 ・凹凸状	・こて塗り		
	・ゆず肌状 ・さざ波状	・ﾛｰﾗｰ塗り		
・内装薄塗材Si ・内装薄塗材E	・砂壁状 じゅらく ・ゆず肌状	・吹付け	・適用する	・
	・平たん状 ・凹凸状	・こて塗り		
	・ゆず肌状 ・さざ波状	・ﾛｰﾗｰ塗り		
・内装薄塗材W	・京壁状 じゅらく ・ゆず肌状	・吹付け	・適用する	・
	・平たん状 ・凹凸状	・こて塗り		

・厚付け仕上塗材

種類（呼び名）	仕上げの形状	工法	吸放湿性	上塗り	防火材料
・外装厚塗材C	・吹放し ・凸部処理	・吹付け		・適用する	・
	・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし ・かき落とし	・こて塗り			
・外装厚塗材Si	・吹放し ・凸部処理	・吹付け		・適用する	・
・外装厚塗材E	・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし	・こて塗り ・ﾛｰﾗｰ塗り			
・内装厚塗材C	・吹放し ・凸部処理	・吹付け	・適用する	・適用する	・
	・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし ・かき落とし	・こて塗り			
・内装厚塗材L	・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし ・かき落とし	・こて塗り	・適用する	・適用する	・
・内装厚塗材G	・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし ・かき落とし	・こて塗り	・適用する	・適用する	・
・内装厚塗材Si	・吹放し ・凸部処理	・吹付け	・適用する	・適用する	・
・内装厚塗材E	・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし	・こて塗り ・ﾛｰﾗｰ塗り			

・複層仕上塗材

種類（呼び名）	仕上げの形状	工法	上塗材の種類	耐候性	防火材料
・複層塗材CE ・複層塗材RE ・複層塗材Si ・複層塗材E	・凸部処理 ・凹凸状	・吹付け	樹脂 ・ 外観 ・ 溶媒 ・	・耐候形1種 ・耐候形2種 ・耐候形3種	・
	・ゆず肌状	・ﾛｰﾗｰ塗り			
・可とう形複層塗材CE	・凸部処理 ・凹凸状	・吹付け	樹脂 ・ 外観 ・ 溶媒 ・	・耐候形1種 ・耐候形2種 ・耐候形3種	・
	・ゆず肌状	・ﾛｰﾗｰ塗り			
・防水形複層塗材CE ・防水形複層塗材RE ・防水形複層塗材E	・凸部処理 ・凹凸状	・吹付け	樹脂 ・ 外観 ・ 溶媒 ・	・耐候形1種 ・耐候形2種 ・耐候形3種	・
	・ゆず肌状	・ﾛｰﾗｰ塗り			

・軽量骨材仕上塗材

種類（呼び名）	防火材料
・吹付用軽量塗材	・
・こて塗用軽量塗材	・

・マスチック塗材塗り

標準仕様書15.7.2による (15.7.2)

・しっくい塗り

しっくい (15.10.2～4)
・既調合材料
色しっくい ・適用する ・適用しない
・現場調合材料

・こまい壁塗り

下地
・せっこうボード
・せっこうラスボード
・モルタル塗り
・木ずり
・こまい
・下塗りをせっこうプラスターとし上塗りに使用する場合
・
既調合しっくいの調合
・せっこうボード下地
※標準仕様書 表15.10.1 ・
・モルタル塗り下地
※標準仕様書 表15.10.2 ・
・せっこうラスボード下地
※製造所の仕様による ・
現場調合しっくいの調合及び各層の塗厚
・木ずり下地
※標準仕様書 表15.10.3 ・
・せっこうプラスター下地、こまい下地
※標準仕様書 表15.10.4 ・
既調合しっくいの上塗り仕上げ工法
・押え仕上げ ・なで切り仕上 ・パターン仕上げ

のり (15.11.2～5、7、8)
・土壁用ののり
※つのまた ・ふのり ・ぎんなんそう
・粉末海藻 ・
・砂壁用ののり
※ふのり ・つのまた ・こんにゃくのり
・にかわ ・合成高分子系混和剤 ・
色土
・土物仕上げに用いる色土の種類（ ）
・大津仕上げに用いる色土の種類（ ）
色砂の種類
・天然砂と岩石の砕砂
・人工的に着色・製造したもの
下塗りの調合
※標準仕様書 表15.11.2

塗厚
※標準仕様書 表15.11.8による
・建築基準法に基づく耐力壁の指定がある場合（ ）

こまい壁の工程
※A種 ・B種
こまい壁塗りの上塗りとする土物仕上げの工法の種類
・土物仕上げ工法
・水ごね土物1工法
・水ごね土物2工法
・のりさし土物工法
・のりごね土物工法
・砂壁仕上げ工法
・切返し仕上げ工法
こまい壁塗りの上塗りとする大津仕上げの工法の種類
・普通大津仕上げ工法
・大津みがき仕上げ工法
ちりじゃくり
・図示による ・

・ロックウール吹付け

ロックウールのホルムアルデヒド放散量 (15.12.2、3)
※F☆☆☆☆ ・
接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆ ・
仕上げ吹付け厚さ
・図示による ・25㎜ ・

TE-RU
TE-RU ARCHITECTS LTD
株式会社 てる設計
〒036-8085
青森県弘前市大字末広4-3-1
TEL0172-27-8647 FAX0172-27-8648
一級建築士事務所 青森県知事 第716号
一級建築士 建設大臣 第213208号
福士 晃昭

（工事名） 五所川原農林高等学校実習棟（リンゴ冷蔵庫）改築工事
建築工事特記仕様書（その６）
青森県 （日付） 2026.3
A-07

16 建具工事

・防火戸

・建具表による (16.1.3)
・

・見本の製作等

建具見本の製作 (16.1.4)
・行う（建具符号：　　）　・行わない
建具見本製作の目的等
・
特殊な建具の仮
・行う（建具符号：　　）　・行わない

・防犯建物部品

・適用する（・建具表による　・　　）(16.1.6)
・適用しない

⊙アルミニウム製建具

性能値等 (16.2.2、4、5)(表14.2.1)(表16.2.1、2)
耐風圧性の等級（・　　）
（建具符号　・建具表による　・　　）
気密性の等級（・　　）
（建具符号　・建具表による　・　　）
水密性の等級（・　　）
（建具符号　・建具表による　・　　）
外部に面する建具の種別
⊙A種（建具符号　・建具表による　・　　）
・B種（建具符号　・建具表による　・　　）
・C種（建具符号　・建具表による　・　　）
・D種（建具符号　・建具表による　・　　）
・E種（建具符号　・建具表による　・　　）
枠の見込み寸法（⊙建具表による　・　　）
防音ドア・防音サッシ
遮音性の等級（　　）
（建具符号：・建具表による　・　　）
断熱ドア・断熱サッシG
断熱性の等級（　　）
（建具符号　・建具表による　・　　）

材料
ステンレス鋼板
※SUS304、SUS430J1L、又はSUS443J1　・
ステンレス製のくつずりの仕上げ
※HL　・

形状及び仕上げ
表面処理
外部に面する建具
種別（標準仕様書 表14.2.1）
⊙BB-1種
・BB-2種（着色：・標準色　・特注色）
屋内の建具
種別（標準仕様書 表14.2.1）
⊙BC-1種
・BC-2種（着色：・標準色　・特注色）
結露水の処理方法
・水貯め式　⊙排水式
工法
水切り板、ぜん板
※図示による　・
木下地の場合の内付け建具
・適用しない　・適用する

⊙網戸等

(16.2.3)

種類	材質	線径	網目
⊙防虫網	※合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス（SUS316）製	※0.25㎜以上 ・	※16～18メッシュ ・
・防鳥網	ステンレス（SUS304）線材	1.5㎜	網目寸法15㎜

・樹脂製建具

性能値等 (16.2.5)(16.3.2～5)(表16.3.1～3)
耐風圧性の等級（　　）
気密性の等級（　　）
水密性の等級（　　）
外部に面する建具の種別
・A種（建具符号　・建具表による　・　　）
・B種（建具符号　・建具表による　・　　）
・C種（建具符号　・建具表による　・　　）
・D種（建具符号　・建具表による　・　　）
・E種（建具符号　・建具表による　・　　）
防音ドア・防音サッシ
遮音性の等級（・T-1　・T-2）
（建具符号　・建具表による　・　　）
断熱ドア・断熱サッシG
断熱性の等級（・H-4　・H-5　・H-6　・H-7　・H-8）
（建具符号　・建具表による　・　　）
外部に面する建具の日射熱取得性の等級
枠の見込み寸法　・建具表による　・

材料
ガラス
※複層ガラス（組合せは建具表による）
・
ステンレス製のくつずりの仕上げ
※HL　・
形状及び仕上げ
表面色　・標準色　・特注色

工法
水切り板、ぜん板
※図示による　・
木下地の場合の内付け建具
・適用しない　・適用する

・鋼製建具

性能値等 (16.2.2)(16.4.2～4)(16.4.6)(表16.4.2)
簡易気密型ドアセット
・適用する
（建具符号　・建具表による　・　　）
・適用しない
外部に面する建具の耐風圧性
耐風圧性の等級（・　　）
（建具符号　・建具表による　・　　）
防音ドア・防音サッシ
遮音性の等級（・　　）
（建具符号　・建具表による　・　　）
断熱ドア・断熱サッシG
断熱性の等級（　　）
（建具符号　・建具表による　・　　）
耐震性能
建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による

材料
ステンレス鋼板
※SUS304、SUS430J1L、又はSUS443J1　・
ステンレス製のくつずりの仕上げ
※HL　・

形状及び仕上げ
鋼板類の厚さ（㎜）
※標準仕様書 表16.4.2による
・　使用箇所（　　）

標準型鋼製建具の形式及び寸法
※建具表による　・

・鋼製軽量建具

性能値等 (16.2.2)(16.5.2～4)(16.5.6)(表16.5.1)
簡易気密型ドアセット
・適用する
（建具符号　・建具表による　・　　）
・適用しない
防音ドア・防音サッシ
遮音性の等級（・　　）
（建具符号　・建具表による　・　　）
防音性能を求める戸（建具表による）
防音充填材　（グラスウール又はロックウール）
断熱ドア・断熱サッシG
断熱性の等級（　　）
（建具符号　・建具表による　・　　）
耐震性能
建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による

材料
鋼板
・亜鉛めっき鋼板
・ビニル被覆鋼板
・カラー鋼板
・ステンレス鋼板
ステンレス鋼板
※SUS304、SUS430J1L、又はSUS443J1
・
召合わせ、縦小口包み板の性質
※鋼板　・
ステンレス製のくつずりの仕上げ
※HL　・

形状及び仕上げ
鋼板類の厚さ（㎜）
※標準仕様書 表16.5.1による
・　使用箇所（　　）

標準型鋼製軽量建具の形式及び寸法
※建具表による　・

・ステンレス製建具

材料 (16.2.2)(16.4.2)(16.6.2～5)
ステンレス鋼板
※SUS304、SUS430J1L、又はSUS443J1
・
ステンレス製のくつずりの仕上げ
※HL　・

形状及び仕上げ
表面仕上げ
※HL　・鏡面仕上げ　・

・木製建具

工法
ステンレス鋼板の曲げ加工
※普通曲げ
・角出し曲げ
（b角（切込み後の残り板厚0.75㎜、裏板補強有り））
・角出し曲げ
（c角（切込み後の残り板厚1.0㎜））

建具材の加工、組立時の含水率 (16.7.2～4)
※A種　・
建物内部の木製建具に使用する表面材のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆　・

・フラッシュ戸
表面材のホルムアルデヒド放散量等
※標準仕様書16.7.2(2)(イ)(a)による　・

接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆　・

表面材の合板の種類

合板の種類	規格等	備考
・普通合板G	表面の樹種 板面の品質（※広葉樹1等　・　　） 接着の程度（・1類　・2類）	
・天然木化粧合板G	樹種名（　　） 接着の程度（・1類　・2類）	
・特殊加工化粧合板G	化粧加工の方法 ※プリント ・ポリエステル化粧合板 ・メラミン化粧合板 接着の程度（・1類　・2類）	
・MDFG	・普通MDF ・素地MDF　記号（　） ・化粧MDF　記号（　） ・曲げ強さによる区分　（　　） ・耐水性による区分　（　　）	

表面板の厚さ
※標準仕様書 表16.7.6による　・
引戸の召合せかまちのいんろう付きの適用
・適用しない　・適用する

・かまち戸
かまち樹種（　　）　鏡板樹種（　　）
見込み寸法　※36㎜　・建具表による　・

・ふすま
張りの種別（・Ⅰ型　・Ⅱ型）
上張り（押入等の裏側以外）
・鳥の子
・新鳥の子又はビニル紙程度
縁仕上げ
・塗り縁
・生地縁（素地）
・生地縁（ウレタンクリヤー塗装）
見込み寸法　※19.5㎜　・建具表による　・

・戸ぶすま
表面板の仕上　・建具表による
見込み寸法　※30㎜　・建具表による　・

・紙張り障子
見込み寸法　※30㎜　・建具表による　・

枠、くつずりの材料
・建具表による　・

TE-RU
TE-RU ARCHITECTS LTD
株式会社 てる設計
〒036-8085
青森県弘前市大字末広4-3-1
TEL0172-27-8647 FAX0172-27-8648
一級建築士事務所 青森県知事 第716号
一級建築士 建設大臣 第213208号
福士 晃昭

16 建具工事

・建具用金物

(16.8.2、3)(表16.8.1～5)
金物の種類及び見え掛り部の材質等
※標準仕様書 表16.8.1により適用は建具表による

金属製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ
※標準仕様書 表16.8.2による
・建具表による

樹脂製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ
※標準仕様書 表16.8.3による
・建具表による

木製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ
※標準仕様書 表16.8.4による
・建具表による

木製建具に使用する戸車及びレール
※標準仕様書 表16.8.5による
・建具表による

握り玉及びレバーハンドル、押板類、クレセントの取付け位置
・建具表による

シリンダ箱錠及びシリンダ本締まり錠
（品質・性能、試験方法は別表による）

クローザ類（品質・性能、試験方法は別表による）

⊙鍵

マスターキー (16.8.4)
⊙製作する ・製作しない

鍵の製作本数
※各室3本1組（室名札付き） ・

鍵箱
※あり ・なし

・自動ドア開閉装置

戸の開閉方式 (16.9.2、3)
・建具表による ・

・引き戸用駆動装置
性能値
※標準仕様書 表16.9.1
（防錆 ・適用する ・適用しない）
・以下による
種類・開閉方式 ( )
耐電圧 ( )
温度上昇 ( )
耐久性（サイクル） ( )
防錆 ( )
電源 ( )

・車椅子使用者用便房出入り口引き戸用駆動装置
性能値
※標準仕様書 表16.9.2
（防錆 ・適用する ・適用しない）
・以下による
耐電圧 ( )
温度上昇 ( )
耐久性（サイクル） ( )
防錆 ( )
電源 ( )

・引き戸用検出装置
性能値
※標準仕様書 表16.9.3
（防錆 ・適用する ・適用しない）
・以下による
耐電圧 ( )
防錆 ( )
防滴 ( )
電源 ( )

引き戸用検出装置の種類（標準仕様書 表16.9.4）
・建具表による ・
タッチスイッチの種類
・無線式タッチスイッチ
・光線式タッチスイッチ
車椅子使用者用便房用操作スイッチの種類
・大形押しボタンスイッチ
・非接触スイッチ

凍結防止措置
・行う ・行わない

・自閉式上吊り引戸装置

性能値等 (16.10.3)(表16.10.1)
※標準仕様書 表16.10.1
・以下による
手動開き力 ( )
手動閉じ力 ( )
閉じ速度の調整 ( )
制動区間 ( )
開閉繰返し ( )
耐衝撃性 ( )

⊙重量シャッター

シャッターの種類 (16.11.2、3)
⊙管理用シャッター
・外壁用防火シャッター
・屋内用防火シャッター
・防煙シャッター

外壁開口部に設ける重量シャッターの耐風圧強度
( ) pa

開閉方式の種類
※電動式（手動併用） ・手動式

安全装置
電動式シャッターの急降下制動装置、急降下停止装置
（設置箇所 ⊙建具表による ・ ）
電動式シャッターの障害物感知装置
（設置箇所 ⊙建具表による ・ ）

屋内用防火シャッター若しくは防煙シャッターの
危害防止装置
（設置箇所 ・建具表による ・ ）

管理用シャッターのシャッターケース
・設ける ・設けない

スラット及びシャッターケース用鋼板
鋼板の種類
・JIS G 3302（溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）
・JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）
めっきの付着量
※Z12又はF12
・

ガイドレール、まぐさ、雨掛りに用いる座板及び座板の
カバー、雨掛りに用いるスイッチボックス類のふたの材質
ステンレス鋼板
※SUS304、SUS430J1L、又はSUS443J1
・

・軽量シャッター

開閉方式の種類 (16.12.2～4)
※手動式
・電動式（手動併用）

耐風圧強度（ ）pa

安全装置
・急降下停止装置
（設置箇所 ・建具表による ・ ）
※障害物感知装置
（設置箇所 ・建具表による ・ ）

・オーバーヘッドドア

スラットの材質の種類
・JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）
めっきの付着量（※Z06又はF06 ・ ）
・JIS G 3322（塗装溶融55%アルミニウム
－亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯）
めっきの付着量（※AZ90 ・ ）

スラットの形状
・インターロッキング形 ・オーバーラッピング形

(16.13.2、3)

ｾｸｼｮﾝ材料による区分	風圧力による強さの区分	開閉方式による区分	収納形式による区分	ｶﾞｲﾄﾞﾚｰﾙの材料
※ｽﾁｰﾙﾀｲﾌﾟ ・ｱﾙﾐﾆｳﾑﾀｲﾌﾟ ・ﾌｧｲﾊﾞｰｸﾞﾗｽﾀｲﾌﾟ	・ 50 ・ 75 ・100 ・125	※ﾊﾞﾗﾝｽ式 ・ﾁｪｰﾝ式 ・電動式	・ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ形 ・ﾛｰﾍｯﾄﾞ形 ・ﾊｲﾘﾌﾄ形 ・ﾊﾞｰﾁｶﾙ形	※溶融亜鉛めっき鋼板 ・ｽﾃﾝﾚｽ鋼板

電動式オーバーヘッドドアの障害物感知装置
（設置箇所 ・建具表による ・ ）

⊙ガラス

(9.7)(16.14.2～4)(図16.14.1)
⊙フロート板ガラスの品種及び厚さの呼びによる種類
⊙建具表による ・

⊙型板ガラスの厚さによる種類
⊙建具表による ・

・網入板ガラス及び線入板ガラスの網又は線の形状、
板の表面の状態及び厚さの呼びによる種類
・建具表による ・

・合わせガラス
材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに合わせ
ガラスの合計厚さ及び特性による種類
・建具表による ・
落球衝撃はく離特性及びショットバック衝撃特性に
よる種類
・Ⅰ類 ・Ⅱ-1類 ・Ⅱ-2類 ・Ⅲ類

・強化ガラス
形状による種類、材料板ガラスの種類、厚さの呼びに
よる種類及び特性による種類
・建具表による ・
破片の状態及びショットバック衝撃特性による種類
・Ⅰ類 ・Ⅲ類

・熱線吸収板ガラス
板ガラスによる種類、厚さによる種類
・建具表による ・
性能による種類
・1種 ・2種

⊙複層ガラス
材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに
複層ガラスの厚さ
⊙建具表による ・
断熱性による区分
・T1 ・T2 ・T3 ・T4 ・T5 ・T6
日射取得性及び日射遮蔽性による区分
・G ・S
封入気体の種類
⊙空気 ・アルゴン ・

・熱線反射ガラス
材料板ガラスの種類及び厚さによる種類
・建具表による ・
日射熱遮蔽性による区分
・1種 ・2種 ・3種
耐久性による区分(日射熱遮蔽性による区分が2種の場合)
・A類 ・B類

・ガラスブロック積み

・倍強度ガラス
材料板ガラスの種類及び厚さの呼びによる種類
・建具表による ・

ガラスの留め材及び溝の大きさ (16.14.2)(9.7)

建具の種類	ガラス留めの種類	ガラス溝の大きさ(mm)
ｱﾙﾐﾆｳﾑ製	・ｼｰﾘﾝｸﾞ材 ・ｸﾞﾚｲｼﾞﾝｸﾞｶﾞｽｹｯﾄ ・	※建具製造所の仕様による ・図示による ・
鋼製及び鋼製軽量	・ｼｰﾘﾝｸﾞ材 ・	※建具製造所の仕様による ・図示による ・
ｽﾃﾝﾚｽ製	・ｼｰﾘﾝｸﾞ材 ・	※建具製造所の仕様による ・図示による ・
樹脂製	・ｸﾞﾚｲｼﾞﾝｸﾞｶﾞｽｹｯﾄ ・	※建具製造所の仕様による ・図示による ・

耐震性能
建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による。

(16.14.5)

呼び寸法(mm)	厚さ(mm)	色調	目地幅(mm)	伸縮調整目地位置(mm)	防火性能
・160×160	・95 ・				
・200×200	・95 ・				

壁用金属枠及び補強材
※図示による ・

力骨
材質
※ステンレス鋼（SUS304） ・
寸法
※径5.5mm ・
形状
※はしご形状複筋及び単筋 ・

化粧目地モルタルの色（・白 ・グレー）

シーリングの種類 （・SR-1 ・PS-1）

金属製化粧カバー
材質
・ステンレス製 ・アルミニウム製 ・
寸法
※図示による ・
形状
※図示による ・

木下地の場合のアンカー等の取付け間隔
・図示による ・

目地部の横力骨の納まり
※ガラスブロック製造所の仕様による
・図示による

工法
1章 適用区分による風圧力の
（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法

TE-RU
TE-RU ARCHITECTS LTD
株式会社 てる設計
〒036-8085
青森県弘前市大字末広4-3-1
TEL0172-27-8647 FAX0172-27-8648
一級建築士事務所 青森県知事 第716号
一級建築士 建設大臣 第213208号
福士 晃昭

17 カーテンウォール工事

・取付け形態、性能等

取付け形態による分類　(17.1.3)
- ・層間方式
- ・柱・梁方式
- ・方立方式
- ・スパンドレル方式

性能

水密性	気密性	遮音性	断熱性	耐火性	耐温度差性(℃)
				・30分 ・1時間	・80 ・70 ・60

耐風圧性
- 1章 適用区分による風圧力
  - （・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力に対応した工法

主要部材の耐風圧性能（ガラスを除く）

支点間距離(h)	耐風圧性能
4m以下	・たわみ量が±(1/150)×h かつ 絶対量20mm以下であること ・
4mを超える	・

耐震性能
- 建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による

性能の確認方法及び判定方法
- ※性能の確認及び判定方法が確認できる資料を提出し、
  監督職員の承諾を受ける

・メタルカーテンウォール

金属系材料の種類　(17.2.2、3、5、6)
- ・アルミニウム材
- ・鋼材
- ・ステンレス鋼材

シーリング材の種類（目地等）
- 種類及び寸法等　※図示による　・

ガラスの取付け材料
- ・シーリング
  - 種類（・SR-2　・SR-1）
- ・構造ガスケット
  - 形状、寸法等　※図示による

断熱材Ⓖ
- 種類及び範囲　※図示による

形状及び仕上げ
- 製品の寸法許容差
  - ※標準仕様書 表17.2.1による
  - ・

見え掛かり部の仕上げ
- （アルミニウム材の場合）
  - 規格等　標準仕様書16.2.3による
    - 種別　・　（標準仕様書 表14.2.1）
    - 着色　・標準色　・特注色
- （鋼材及びステンレス鋼材の場合）
  - ・

ガラス溝の寸法、形状等
- ※カーテンウォールの製造所の仕様

取付け
- 躯体付け金物の取付け位置の寸法許容差
  - 鉛直方向
    - ※±10mm　・
  - 水平方向
    - ※±25mm　・
- カーテンウォール部材の取付け位置の寸法許容差
  - 目地の幅
    - ※±3mm　・
  - 目地心の通り
    - ※2mm　・
  - 目地両側の段差
    - ※2mm　・
  - 各階の基準墨から各部位までの距離
    - ※±3mm　・

耐火処理
- 適用部位、材料等　※図示による

ガラスの取付け材料
- ガラスの取付け材料がシーリングの場合のガラスの支持方法
  - ※4辺支持　・

・PCカーテンウォール

材料　(17.3.2～6)(表17.3.1、2)
- コンクリート
  - 種類（・普通コンクリート　・軽量コンクリート1種
    - ・　）
  - 品質
    - 設計基準強度(Fc)　※30N/mm²　・
    - スランプ　※12cm　・
  - 気乾単位容積質量
    - ・普通コンクリートの場合 2.1t/m³を超え2.5t/m³以下
    - ・軽量コンクリートの場合 1.8t/m³～2.1t/m³
    - ・
  - 単位水量の最大値
    - ※185kg/m³　・
- 鉄筋
  - 種類の記号　※SD295　・
- 補強鉄線
  - 径(mm)　・3.2　・4.0　・5.0　・6.0
  - 網目寸法　・
- シーリング材の種類（目地等）
  - 種類及び寸法等　※図示による　・
- ガラスの取付け材料
  - ・構造ガスケット
    - 形状、寸法等　・図示による
- 耐火処理
  - 適用部位、材料等　※図示による
- 断熱材Ⓖ　種類（　）
  - 種類及び範囲　※図示による
- 先付けの材料
  - ・表面仕上材
  - ・セラミックタイル
  - ・石材
  - ・建具枠
  - ・ゴンドラ用ガイドレール

形状及び仕上げ
- 製品の見え掛り部の寸法許容差
  - 辺長
    - ※±3mm　・
  - 対角線長の差
    - ※5mm　・
  - 版厚
    - ※±2mm　・
  - 開口部内法寸法
    - ※±2mm　・
  - ねじれ、反り
    - ※5mm　・
  - 曲がり
    - ※3mm　・
  - 面の凸凹
    - ※3mm　・
  - 先付け金物の位置
    - ※5mm　・
- PCカーテンウォールの仕上げ
  - ・
- 構造ガスケットを用いる場合のアンカー溝の寸法及び寸法許容差(mm)
  - ※図示による　・

製作
- PC版の配筋　※図示による

取付け
- 躯体付け金物の取付位置の寸法許容差
  - 鉛直方向
    - ※±10mm　・
  - 水平方向
    - ※±25mm　・
- カーテンウォール部材の取付け位置の寸法許容差
  - 目地の幅
    - ※±5mm　・
  - 目地の心の通り
    - ※3mm　・
  - 目地両側の段差
    - ※4mm　・
  - 各階の基準墨から各部位までの距離
    - ※±5mm　・
- ガラスの取付け方法
  - ・ガラスの取付け材が構造用ガスケットで複層ガラス等を使用する場合は排水機能の設置及びガラスの封着処理の強化を行う

⑱ 塗装工事

・材料

屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量　(18.1.3)
- ※F☆☆☆☆　・

防火材料
- ※屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする。
- ・以下の箇所を除き防火材料とする。
  - （箇所：　）

・素地ごしらえ

(18.2.2～7)

下地面等		種別
木部	不透明塗料塗りの場合	※A種　・B種
	透明塗料塗りの場合	※B種　・A種
鉄鋼面（DP以外 ）		※C種　・A種　・B種
鉄鋼面（DPのみ）		※B種　・A種　・C種
亜鉛めっき鋼面（鋼製建具等以外）		・A種　・B種
亜鉛めっき鋼面（鋼製建具等）		※B種
モルタル面及びせっこうプラスター面		※B種　・A種
コンクリート面（DP以外）及び ALCパネル面		※B種　・A種
押出成形セメント板面		※B種　・A種
コンクリート面（DPのみ）		※A種　・B種
せっこうボード面及びその他ボード面		※B種　・A種

・錆止め塗料塗り

(18.3.2、3)

下地面	塗料の種別	錆止め塗料の種別	錆止め塗料塗りの工程
鉄鋼面	SOP	As種	見え掛り：A種 見え隠れ：B種
	DP	Cs種及びDs種	表18.3.4
	EP-G	※Bs種 ・As種	見え掛り：A種 見え隠れ：B種
亜鉛めっき鋼面	SOP	※Az種 ・Bz種	鋼製建具等：A種 上記以外　：B種
	DP	Bz種	表18.3.6
	EP-G	Cz種	鋼製建具等：A種 上記以外　：B種

・塗装

(18.4.1～18.12.2)

塗装		種別	塗料の種類	高日射反射率塗料Ⓖ
・合成樹脂調合ペイント塗り(SOP)	木部屋外	※A種 ・B種		
	木部屋内	※B種 ・A種		
	鉄鋼面	※B種 ・A種		・適用する
	亜鉛めっき鋼面			・適用する
・クリヤラッカー塗り(CL)		※B種 ・A種		
・アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り(NAD)		※B種 ・A種		
・耐候性塗料塗り(DP)	鉄鋼面		上塗り塗料の等級(　)級	・適用する
	亜鉛めっき鋼面		上塗り塗料の等級(　)級	
	ｺﾝｸﾘｰﾄ面 押出成形ｾﾒﾝﾄ板面	・A種 ・B種 ・C種		
・つや有合成樹脂エマルションペイント塗り(EP-G)	ｺﾝｸﾘｰﾄ面 押出成形ｾﾒﾝﾄ板面 ﾓﾙﾀﾙ面 ﾌﾟﾗｽﾀｰ面 せっこうﾎﾞｰﾄﾞ面 その他ﾎﾞｰﾄﾞ面等	※B種 ・A種		
	屋内の鉄鋼面	※B種 ・A種		
・合成樹脂エマルションペイント塗り(EP)		※B種 ・A種		
・ウレタン樹脂ワニス塗り(UC)		※B種 ・A種		
・ピグメントステイン塗り				
・木材保護塗料塗り(WP)		※B種 ・A種		

高日射反射率塗装Ⓖを適用する場合の適用箇所は
屋上、屋根面の金属面とする。

クリヤラッカー塗りA種の工程2の適用
- ・適用しない
- ・適用する
  - （着色剤：・溶剤形着色剤　・油性染料着色剤）

ウレタン樹脂ワニス塗りの工程1の着色の適用
- ・適用する
- ・適用しない

TE-RU
TE-RU ARCHITECTS LTD
株式会社 てる設計
〒036-8085
青森県弘前市大字末広4-3-1
TEL0172-27-8647 FAX0172-27-8648
一級建築士事務所 青森県知事 第716号
一級建築士 建設大臣 第213208号
福士 晃昭

（工事名）	五所川原農林高等学校実習棟（リンゴ冷蔵庫）改築工事	A-10
建築工事特記仕様書（その９）		
青森県	（日付）　2026.3	

⑲ 内装工事

・接着剤 (19.2.2)

ビニル床シート、ビニル床タイル、ゴム床タイル用接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆ ・

施工箇所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合の接着剤の種別
・図示による ・

・下地の工法 標準仕様書19.2.3(1)(ｱ)～(ｳ)以外の下地の工法 (19.2.3)
・図示による ・

・ビニル床シート G (19.2.2、3)

種類の記号	色柄	厚さ(mm)	備考
※FS(複層ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ) ・	・無地 ・マーブル柄 ・柄物	※2.0	

接合部の処理
熱溶接工法 ・

・ビニル床タイル G (19.2.2)

種類の記号	色柄	寸法(mm)	厚さ(mm)	備考
※KT(ｺﾝﾎﾟｼﾞｼｮﾝﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ)	・無地 ・柄物	・300×300 ・450×450 ・	※2.0 ・2.5 ・3.0	
・TT(単層ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ)	・無地 ・柄物	・300×300 ・450×450 ・	・2.0 ・	
・FT(複層ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ)	・無地 ・柄物	・300×300 ・450×450 ・	・2.0 ・2.5 ・3.0	
・FOA(置敷きﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ)	・無地 ・柄物	・500×500	・4.0 ・	
・FOB(薄型置敷きﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ)	・無地 ・柄物	・	・	

・特殊機能床材

・帯電防止床シート (19.2.2)
種類 ( )
性能 ( )
厚さ(mm) ( )

・帯電防止床タイル
種類 ( )
性能 ( )
寸法(mm) (×)
厚さ(mm) ( )

・視覚障害者用床タイル
視覚障害者誘導用ブロック等の突起の形状・寸法及びその配列はJIS T 9251による。
種類 ( )
形状 ( )

・耐動荷重性床シート
種類 ( )
厚さ(mm) ( )

・防滑性床シート
種類 ( )
厚さ(mm) ( )

・防滑性床タイル
種類 ( )
寸法(mm) (×)
厚さ(mm) ( )

・ビニル幅木 材質の種類 (19.2.2)
・軟質 ・硬質
高さ(mm)
※60 ・75 ・100
厚さ(mm)
※1.5以上 ・

・ゴム床タイル 種類 ・単層品 ・積層品 (19.2.2)
色柄 ( )
厚さ(mm) ・
寸法(mm) (×)

・カーペット敷き

・織じゅうたん (19.3.2、3)(表19.3.1)(表19.3.2)

織り方	パイル形状	G	備考(参考価格)
・ｳｨﾙﾄﾝｶｰﾍﾟｯﾄ ・ﾌｪｲｽﾄｳﾌｪｲｽｶｰﾍﾟｯﾄ ・ｱｷｽﾐﾝｽﾀｰｶｰﾍﾟｯﾄ	・ｶｯﾄﾊﾟｲﾙ ・ﾙｰﾌﾊﾟｲﾙ ・ｶｯﾄ/ﾙｰﾌﾊﾟｲﾙ	・	

色柄
※模様のない無地 ・
パイル糸の種類等
※無地の織りじゅうたんの種別（・A種 ・B種 ・C種）

帯電性
・適用する ・適用しない
織じゅうたんの接合方法
※ヒートボンド工法 ・つづり縫い
下敷き材
※反毛フェルト(JIS L 3204)の第2種2号 呼び厚さ 8mm
・

・タフテッドカーペット

パイル形状	パイル長さ(mm)	工法	帯電性	G	備考(参考価格)
・ｶｯﾄﾊﾟｲﾙ	・5～7 ・	・全面接着工法	・適用する	・	
・ﾙｰﾌﾊﾟｲﾙ	・4～6 ・	・ｸﾞﾘｯﾊﾟｰ工法	・適用しない		
・ｶｯﾄ､ﾙｰﾌﾟ併用	・				

下敷き材(グリッパー工法の場合)
※反毛フェルト(JIS L 3204)の第2種2号 呼び厚さ 8mm
・
タフテッドカーペット用接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆ ・

・タイルカーペット

パイルの形状	種類	施工箇所	寸法(mm)	総厚さ(mm)	G	備考(参考価格)
※ﾙｰﾌﾊﾟｲﾙ	※第一種 ・第二種		※500×500 ・	※6.5 ・	・	
・ｶｯﾄﾊﾟｲﾙ	・第一種 ・第二種		※500×500 ・	※6.5 ・	・	
・ｶｯﾄ･ﾙｰﾌﾟ併用	・第一種 ・第二種		※500×500 ・	※6.5 ・	・	

タイルカーペット用接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆ ・
タイルカーペットの敷き方
平場
※市松敷き ・模様流し ・
階段部分
※模様流し ・市松敷き ・
見切り、押え金物
材質（ ）
種類（ ）
形状等 ※図示による ・

・合成樹脂塗床 (19.4.2、3)(表19.4.4、5)

種別	施工箇所	工法	仕上げの種類
・厚膜型塗床材 弾性ｳﾚﾀﾝ樹脂系塗床			※平滑仕上げ ・防滑仕上げ ・つや消し仕上げ
・厚膜型塗床材 ｴﾎﾟｷｼ樹脂系塗床		・薄膜流しのべ工法 ・厚膜流しのべ工法 ・樹脂ﾓﾙﾀﾙ工法	・平滑仕上げ ・防滑仕上げ
・薄膜型塗床材			※平滑仕上げ

塗床材のホルムルデヒド放散量
※F☆☆☆☆ ・

・フローリング張り G (19.5.2～5)(表19.5.1～6)
フローリングのホルムアルデヒド放散量等
※標準仕様書19.5.2(2)の(ｱ)～(ｵ)のいずれか

各工法に使用する接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆ ・

・単層フローリング（フローリングボード1等）
工法
・釘留め工法（・根太張り ・直張り ）
・接着工法
樹種
※なら ・
間伐材等の適用
・適用する ・適用しない

・単層フローリング（フローリングブロック1等）
樹種
・
厚さ（mm）
・
大きさ
・
間伐材等の適用
・適用する ・適用しない

・複合フローリング
工法
・釘留め工法（・根太張り ・直張り ）
・接着工法
樹種
※なら ・
種別
・A種 ・B種 ・C種
間伐材等の適用
・適用する ・適用しない

接着工法の場合の不陸緩和材
※合成樹脂発泡シート

・畳敷き 種別 (19.6.2)(表 19.6.1)
・A種（畳表：・JS ・J1）
・B種
・C種（畳床：・PS-C20 ・PS-C25 ・PS-C30）
・D種（畳床：・KT-Ⅰ ・KT-Ⅱ ・KT-Ⅲ ・KT-K ・KT-N）
下地の種類
・標準仕様書 表12.6.1による床組
・ポリスチレンフォーム床下地（ノンフロン G ）

畳表及び畳床はホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。

衝撃緩和型畳 （畳表：・C1 ・C2）

・せっこうﾎﾞｰﾄﾞ、その他のﾎﾞｰﾄﾞ及び合板張り (19.7.2、3)(表19.7.1)
MDF及びパーティクルボードのホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆ ・

合板のホルムアルデヒド放散量
※標準仕様書19.7.2(3)(ｲ)の(a)～(d)のいずれか

合板の防虫処理の適用
・行う ・行わない

接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆ ・

種類等	厚さ(mm)、規格等
木質系セメント板 G	
・木毛セメント板 ・硬質(HW) ・中質(MW) ・普通(NW)	※図示による ・15 ・20 ・25
・木片セメント板 ・硬質(HF) ・普通(NF)	※図示による ・12 ・15 ・18 ・21 ・30
繊維強化セメント板	
・けい酸カルシウム板(タイプ2) 普通ボード 0.8FK	※図示による ・6 ・8 ・12
火山性ガラス質複層板（VSボード）	
・火山性ガラス質複層板 種類 ※図示による ・	※図示による ・
繊維板 G	
・ﾐﾃﾞｨｱﾑﾃﾞﾝｼﾃｨﾌｧｲﾊﾞｰﾎﾞｰﾄﾞ(MDF)	※図示による ・3 ・7 ・9 ・12
・ﾊｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ ・ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ(無処理) ・素地ﾊｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ ・未研磨板(RN) ・研磨板(RS) ・内装用化粧ﾊｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ(DI) ・ﾃﾝﾊﾟｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ(処理) ・素地ﾊｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ ・未研磨板(RN) ・研磨板(RS) ・外装用化粧ﾊｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ(DE)	※図示による ・2.5 ・3.5 ・5 ・7 ・
・ｲﾝｼｭﾚｰｼｮﾝﾎﾞｰﾄﾞ ・A級ｲﾝｼｭﾚｰｼｮﾝﾎﾞｰﾄﾞ(A-IB) ・天井仕上げ材 ・内装仕上げ材	※図示による ・9 ・12 ・15 ・18
パーティクルボード G	
・単板張りパーティクルボード ・無研磨板(VN) ・研磨板(VS)	※図示による ・10 ・12 ・15 ・18 ・
・化粧パーティクルボード ・単板ｵｰﾊﾞｰﾚｲ(DV) ・ﾌﾟﾗｽﾃｨｯｸｵｰﾊﾞｰﾚｲ(DO) ・塗装(DC)	※図示による ・10（難燃） ・12（難燃） ・
吸音材料	
・ﾛｯｸｳｰﾙ化粧吸音板(DR) ・ﾌﾗｯﾄﾀｲﾌﾟ ・凹凸ﾀｲﾌﾟ	・9（不燃） ・12（不燃） ・12（不燃） ・15（不燃）
・ﾛｯｸｳｰﾙ吸音ﾎﾞｰﾄﾞ(1号)	※図示による ・25 ・
・ｸﾞﾗｽｳｰﾙ吸音ﾎﾞｰﾄﾞ(32K)	・25（ｶﾞﾗｽｸﾛｽ包み） ・
せっこうボード	
・せっこうﾎﾞｰﾄﾞ(GB-R)	※12.5（不燃） ・15（不燃）
・ｼｰｼﾞﾝｸﾞせっこうﾎﾞｰﾄﾞ(GB-S)	・12.5（・不燃・準不燃）
・強化せっこうﾎﾞｰﾄﾞ(GB-F)	・12.5（不燃） ・15（不燃）
・化粧せっこうﾎﾞｰﾄﾞ(GB-D)	・ﾄﾗﾊﾞｰﾁﾝ模様 9.5（準不燃）
・せっこうﾗｽﾎﾞｰﾄﾞ(GB-L)	・9.5
・不燃積層せっこうﾎﾞｰﾄﾞ(GB-NC) ・化粧なし（下地張り用） ・化粧あり（ﾄﾗﾊﾞｰﾁﾝ模様）	・9.5（不燃）

TE-RU
TE-RU ARCHITECTS LTD
株式会社 てる設計
〒036-8085
青森県弘前市大字末広4-3-1
TEL0172-27-8647 FAX0172-27-8648
一級建築士事務所 青森県知事 第716号
一級建築士 建設大臣 第213208号
福士 晃昭

⑲ 内装工事

合板類

・普通合板 G 品名： 単板の樹種名： 板面品質：	※5.5 ・図示による ・
・天然木化粧合板 G 化粧板の単板の樹種名：	※図示による ・
・不燃天然木化粧合板 G 化粧板の単板の樹種名：	※図示による ・
・特殊加工化粧合板 G 品目： 接着の程度： 単板の樹種名： 化粧加工の方法 ・ｵｰﾊﾞｰﾚｲ　・ﾌﾟﾘﾝﾄ ・塗装	※図示による ・

天井のボード類（ロックウール吸音板を除く）の重ね張りを行う場合
※図示による　・
合板類の張付け
・A種　・B種
せっこうボードの目地工法等
目地工法の種類
※仕上表による　・
突付け工法及び目透し工法のエッジの種類
※仕上表による　・

・壁紙張り

ホルムアルデヒド放散量　(19.8.2、3)(表19.8.1～3)
※F☆☆☆☆　・

施工箇所	壁紙の種類 紙	繊維	塩化ﾋﾞﾆﾙ樹脂	ｺﾟﾗｽﾁｯｸ	無機質	その他	防火性能	備考(参考価格)
	・	・	・	・	・	・	・不燃 ・準不燃	
	・	・	・	・	・	・	・不燃 ・準不燃	
	・	・	・	・	・	・	・不燃 ・準不燃	

モルタル及びせっこうプラスター面の素地ごしらえの種別
※B種　・A種
コンクリート面の素地ごしらえの種別
※B種　・A種
せっこうボード面及びけい酸カルシウム板面の素地ごしらえの種別
※B種　・A種

・断熱材 G

フェノールフォーム断熱材、保温材又は接着剤（19.9.2～4）のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆　・
開口部等補修のための張付け用の接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆　・

・断熱材打込み工法

種類	厚さ(mm)	施工箇所
・ﾋﾞｰｽﾞ法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ断熱材 (・　)	・ 50 40	冷蔵庫床 WC床
・押出法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ断熱材(ｽｷﾝ層なし) (・2種bA　・3種bA　・3種bC　・3種bD)	・	
・硬質ｳﾚﾝﾀﾝﾌｫｰﾑ断熱材（・　）	・	
・ﾌｪﾉｰﾙﾌｫｰﾑ断熱材（・　）	・	

・断熱材現場発泡工法
断熱材の種類
・A種1　・A種1H　・
吹付け厚さ（mm）50

施工箇所
・図示による　・
（品質・性能、試験方法は別表による）

20 ユニット及び その他の工事

・フリーアクセスフロア

(20.2.2)

施工箇所	構造	寸法(mm)	高さ(mm)	耐震性能	所定荷重	表面仕上材
	・置敷式 ・支柱調整式	・500×500 ・		・1.0G ・0.6G	・3,000N ・5,000N ・	・帯電防止床ﾀｲﾙ ・ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄ ・

寸法精度
※標準仕様書20.2.2(2)(ｵ)(a)～(c)による
・以下による
パネルの長さの寸法精度
（　）
パネルの平面形状（精度）の寸法精度
（　）
フリーアクセスフロアの高さの寸法精度
（　）
帯電防止性能
・評価値（U）≧0.6以上
・評価値（U）≧1.2以上
感電防止性能
漏えい抵抗（R）≧1×10?Ω
(品質・性能、試験方法は別表による)

・可動間仕切

(20.2.3)

構造形式による種類	構成基材の種類 ｽﾀｯﾄﾞ	ﾊﾟﾈﾙ	パネル 表面仕上げ	遮音性(dB/500Hz)	防火性能
・ｽﾀｯﾄﾞ式(内蔵) ・ｽﾀｯﾄﾞ式(露出) ・ｽﾀｯﾄﾞﾊﾟﾈﾙ式 ・ﾊﾟﾈﾙ式			・ﾒﾗﾐﾝ樹脂焼付又はｱｸﾘﾙ樹脂焼付 ・壁紙張り ・	・0 ・12 ・20 ・28 ・36	・不燃

パネル内に取付ける建具
・あり（※図示による　・　）
・なし
パネル内に取り付ける建具のドアクローザー、丁番、錠前、上げ落としは、標準仕様書16章8節の建具用金物に対応する材質とする。

表面仕上材を壁紙張りとする場合の品質、性能は標準仕様書19章による。

パネル材料のホルムアルデヒド放出量
※F☆☆☆☆　・

・移動間仕切

(20.2.4)

走行方向	操作方法による種類	ﾊﾟﾈﾙ圧接装置の操作方法	総厚さ(mm)	パネル表面材 材質	仕上げ	遮音性(dB/500Hz)
・平行方向移動式 ・三方向移動式	・手動式 ・電動式 ・部分電動式	・ﾌﾟｯｼｭ式 ・ﾊﾝﾄﾞﾙ式 ・		・鋼板 ・	・焼付塗装 ・壁紙張り ・	・36未満 ・36以上

パネル表面仕上げの壁紙張りの品質、性能は標準仕様書19章による。

ハンガーレールの取付け下地の補強
※取付け全重量の5倍以上の荷重に対して、使用上支障のない耐力及び変形量となるように補強する
・図示による

パネルをランナに取り付ける部品
※ランナに加わる重量の5倍以上の荷重に耐えられるもの

ハンガーレール及びランナ
※パネル重量の5倍の荷重を、パネル1枚に使用するランナ数で除した値に対して、耐力及び変形量が使用上支障のないもの

(品質・性能は別表による)

・トイレブース

(20.2.5)

表面材の材料	脚部種類	ドアエッジ材質	非常時外開き
・ﾒﾗﾐﾝ樹脂系化粧板 ・ﾎﾟﾘｴｽﾃﾙ樹脂系化粧板 ・	※幅木タイプ ・	※製造所の仕様による ・ｱﾙﾐﾆｳﾑ製 ・ｽﾃﾝﾚｽ製	※適用する ・適用しない

(品質・性能、試験方法は別表による)

・手すり

材料の種類及び仕上げ　(20.2.6)
・SUS304
表面処理
※HL程度　・
・鋼製
表面処理
溶融亜鉛めっき
（※標準仕様書 表14.2.2による種別（　）種）
・アルミニウム
表面処理
（※標準仕様書 表14.2.1による種別（　）種）
色合い　・標準色（　）　・特注色（　）

手すりの握り部分

材種	表面仕上げ	直径(mm)	取付箇所	備考
・集成材 （材種：　）	・ｸﾘｱﾗｯｶｰ ・	・35程度 ・45程度 ・		
・ビニル製		・35程度 ・45程度 ・		

便所手すり
・L型手すり（樹脂被覆タイプ　700×700×120）
・可動手すり（樹脂被覆タイプ、はね上げタイプ（ロック付き）　L=700）
・固定手すり（樹脂被覆タイプ　800×800×230）

・階段滑り止め

材種　(20.2.7)
・ステンレス製
・黄銅製押出型材
・アルミニウム製押出型材

形状
※タイヤ型（タイヤの材質：ゴム又は合成樹脂合等）
・タイヤレス型
端部の形状
・フラットエンドあり
・フラットエンドなし
寸法(幅)
・35mm程度　・40mm程度　・50mm程度
取付け工法
※接着工法
・埋込み工法

・黒板及びホワイトボード G

・黒板　(20.2.9)
区分
※焼き付け　・
種類
・鋼製黒板
・ほうろう黒板

色
※緑　・
・ホワイトボード

・鏡

取付け箇所（男女WC）　(20.2.10)
寸法（mm）
・図示による　・
厚さ（mm）
※5　・

・表示

衝突防止表示　(20.2.11)
・設置する　（設置場所：※図示による　・　）
形状・寸法（・30φ　・　）
材質　（・ステンレス製　・　）
・設置しない

誘導標識、非常用進入口等の表示
※消防法に適合する市販品

室名札、ピクトグラフ、案内板等の形状、寸法、材質、色、書体、印刷等の種別、取付け形式等
（案内用図記号はJIS Z 8210による）
※図示による　・

・タラップ

材質及び仕上げ　(20.2.12)
※SUS304（スリップ止め加工　※あり　・なし）
・鋼製　表面処理　溶融亜鉛めっき
（※標準仕様書
表14.2.2による種別　※C種　・　種））

・煙突ライニング

適用安全使用温度　(20.2.13)

工法
※鋼製ユニット煙突（煙突用成形ライニング材）

・ブラインド

(20.2.14)

形式	操作方法	操作方法の種類	ｽﾗｯﾄの種類	ｽﾗｯﾄ幅	ﾎﾞｯｸｽ・ﾚｰﾙの材種	幅・高さ・取付箇所
・横形	・手動	※ギヤ式 ・ｺｰﾄﾞ式 ・操作棒式	※ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金製 G ・	※25 ・	※鋼製 ・	・図示による ・
	・電動					
・縦形	・手動	※2本操作ｺｰﾄﾞ式 ・1本操作ｺｰﾄﾞ式	・ｱﾙﾐｽﾗｯﾄ ・ｸﾛｽｽﾗｯﾄ	・80 ・100	※ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金製 ・	・図示による ・
	・電動					

縦型ブラインドのスラットの材質
・アルミスラット　焼付け塗装仕上げ
・クロススラット　消防法で定める防炎性能の表示がある特殊樹脂加工

ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合は G とする

・ﾛｰﾙｽｸﾘｰﾝ

(20.2.15)

操作方法	スクリーンの材種	その他の材料	幅・高さ・取付箇所	品質等
・ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞ式 ・ｺｰﾄﾞ式 ・電動式	・ガラス繊維製 ・合成・天然繊維製 ・木製	※製造所の仕様 ・	・図示による ・	・

スクリーンの仕様
消防法で定める防炎性能の表示があるもの
ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合は G とする

TE-RU
TE-RU ARCHITECTS LTD
株式会社 てる設計
〒036-8085
青森県弘前市大字末広4-3-1
TEL0172-27-8647 FAX0172-27-8648
一級建築士事務所 青森県知事 第716号
一級建築士 建設大臣 第213208号
福士 晃昭

⑳ ユニット及びその他の工事

・カーテン (20.2.16)

形式		開閉操作	ひだの種類	生地の種別、品質、特殊加工等	取付け箇所	備考
・ｼﾝｸﾞﾙ ・ﾀﾞﾌﾞﾙ	・片引き ・引分け	・手引き ・ひも引き ・電動	・つまみひだ ・箱ひだ、片ひだ ・ﾌﾟﾚｰﾝひだ		・図示による ・	

生地の仕様
消防法で定める防炎性能の表示があるもの
ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合はGとする
暗幕用カーテンの両端、上部及び召合せの重なり
※300mm以上

⊙カーテンレール 材料による区分 (20.2.16)
※アルミニウム及びアルミニウム合金の押出し成型材
・ステンレス製
強さによる区分
※10-90 ・
仕上げ
※アルマイト ・
形状
※角形 ・

・ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞﾎﾞｯｸｽ及びｶｰﾃﾝﾎﾞｯｸｽ
溝幅×深さ（mm）
・90×150 ・120×80 ・120×150 ・150×80
・図示による
材種
・集成材（仕上げ： ）
・アルミニウム製 押出し型材（市販品）
標準仕様書 表14.2.1による種別
・BC-1種 ・BC-2種 ・
色合い
・標準色（ ）
・特注色（ ）
・鋼製（仕上げ： ）

⊙天井点検口

材種	寸法	形式		外枠	内枠
⊙ｱﾙﾐﾆｳﾑ製 ・	⊙450×450 ・600×600 ・	・一般形 ・気密形	・屋内外用 ⊙屋内用	⊙額縁ﾀｲﾌﾟ ・目地ﾀｲﾌﾟ	⊙額縁ﾀｲﾌﾟ ・目地ﾀｲﾌﾟ

（品質・性能、試験方法は別表による）

・床点検口

材種	寸法	形式		備考
・ｱﾙﾐﾆｳﾑ製 ・ｽﾃﾝﾚｽ製 ・鋼製	・450×450 ・600×600 ・	・一般形 ・密閉形	・屋内外用 ・屋内用	・鍵付き

密閉形とは、ボルト、ナット等メカニカル構造にパッキンを装着したものとする。
（品質・性能、試験方法は別表による）

・耐震スリット

方向	幅(mm)	タイプ	耐火性能	防水性能	備考
・垂直	・25 ・	・完全（全貫通型） ・	・耐火型 ・非耐火型	・有り ・無し	
・水平	・25 ・				

目地

目地	内壁	外壁
目地材	・ｼｰﾘﾝｸﾞ材（見え掛かり部のみ） ・	・ｼｰﾘﾝｸﾞ材（見え掛かり部のみ） ・ｼｰﾘﾝｸﾞ材（内外とも）
目地寸法（mm）	・ｽﾘｯﾄ幅×深さ10 ・	・ｽﾘｯﾄ幅×深さ10 ・

目地材の材質は標準仕様書 表9.7.1による

・止水材
形式
・据置式（水膨張製ゴム、膨張遅延型、w20×t10）
・差込式 ・壁張り式
施工箇所
・図示による ・

・ｴｷｽﾊﾟﾝｼｮﾝｼﾞｮｲﾝﾄ金物
建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による。

・くつふきマット

材種	受け枠	備考
・塩化ﾋﾞﾆﾙ又はｺﾞﾑ製 ・硬質ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金製 ・ｽﾃﾝﾚｽ鋼(SUS304)製 ・	・ｽﾃﾝﾚｽ鋼(SUS304) ・硬質ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金 ・	

・流し台ユニット

材種	寸法（mm） W	D	H	備考
・流し台	・1,200 ・1,500 ・1,800	・550 ・600 ・650	・800 ・850	市販品 トラップ付き 天板ステンレス製
・コンロ台	・600	・550 ・600 ・650	・620 ・670	市販品 バックガードあり 天板ステンレス製
・つり戸棚	・1,200 ・900	・450	・500 ・700	市販品
・水切り	・1,200 ・900 ・600			市販品 ステンレス製 ・1段式 ・

品質・観性能JIS A 4420「キッチン設備の構成材」の4.1 による。

構成材は、JIS A 4420 の8 により試験を行ったとき、表1の規定による。
形状
※図示による ・

・旗竿

材種	形式	高さ(m)	操作方法	固定方法	備考
・ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金製 ・	・ﾃｰﾊﾟｰ式 ・同一断面式		・ﾊﾝﾄﾞﾙ式 ・ﾛｰﾌﾟ式	・埋込式 ・ﾍﾞｰｽ式 ・ﾊﾞﾝﾄﾞ式	

・旗竿受金物
材種
・ステンレス製（SUS 304）

・車止めさく

形式	材種	柱径、肉厚(mm)	高さ(mm)
・上下式鎖内蔵式	・標準品 ・ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞ式 ・	・ｽﾃﾝﾚｽ製	・
・			

・フェンス
フェンスの種類
・ビニル被覆エキスパンドフェンス
・樹脂塗装メッシュフェンス
・鋼管フェンス
・アルミフェンス
高さ
・図示による ・

・プレキャストコンクリート
コンクリートの設計基準強度 (20.3.3、4)
※水セメント比 55%以下、単位セメント量の最小値300kg/m³を満足する調合強度
・図示による
配筋
※配筋を定めた計算書を監督職員に提出する
・図示による
取付け方法
※図示による ・

・間知石及びｺﾝｸﾘｰﾄ間知ﾌﾞﾛｯｸ積み (20.4.2、3)

	材種	種類	質量区分	備考
・間知石	・花こう岩 ・凝灰岩			
・ｺﾝｸﾘｰﾄ間知ﾌﾞﾛｯｸ			・A ・B	

積み方
※谷積み ・布積み
目塗り
・図示による ・
伸縮調整目地
材種
・図示による ・
厚さ
・図示による ・

⊙鋼製書架及び物品棚

種類	規格等	JISによる種類
⊙鋼製書架	JIS S 1039 の規格による	・1種 ・2種 ・3種
・鋼製物品棚		・4種 ・5種 ・6種

・屋内掲示板
枠の材質
※アルミニウム製

表面の材質
※塩ビ発泡シート張り

⊙洗面カウンター
材種
⊙メラミン樹脂化粧板張り（心材：集成材）
・人工大理石
奥行き(mm)
・約450 ⊙約600

・防煙垂れ壁
・固定式

材質	厚さ(mm)	高さ(mm)	備考
※網入り磨き板ガラス ・線入り磨き板ガラス	※6.8 ・	※500 ・	アルミ製枠付き

・可動式

種類	材質	高さ(mm)	備考
・垂直降下式（巻取り型）	※不燃布（不燃認定品）	※500 ・800 ・	ガイドレール ※固定式(壁埋込型) ・可動式(天井収納型)
・回転降下式	鋼板製又はアルミ製	※500 ・800 ・	表面仕上げ ※ 天井材張り

降下機構
煙感知器連動及び手動開放装置（埋込型）

・屋外掲示板
照明器具
※あり ・なし
施錠
※あり ・なし
製造所

⊙収納家具
合板類、MDF 及びパーティクルボードのホルムアルデヒドの放散量
※F☆☆☆☆ ・
材質、形状、寸法
※図示による ・

21 排水工事

・屋外雨水排水
材料 (21.2.1、2)(表21.2.1、2)

材種	種類・記号	形状	呼び径	備考
・遠心力鉄筋コンクリート管	外圧管(1種)	・B形管 ・	・図示による ・	
・硬質ポリ塩化ビニル管	・RF-VP G		・図示による ・	
	・RS-VU G		・図示による ・	
	・VP		・図示による ・	
	・VU		・図示による ・	

基床の厚さ及び種類
・図示による ・
硬質ポリ塩化ビニル管の継手に用いる材料
※接着剤 ・
側塊の形状及び寸法
・図示による ・
排水桝の種類
・図示による ・
砂地業に用いる材料
・シルト ・山砂 ・川砂 ・砕砂
砂利地業に用いる材料
・再生クラッシャランG
・切込砂利又は切込砕石
・現場打ちの場合のコンクリート材料
設計基準強度(N/?)
※18 ・
スランプ(cm)
※15又は18 ・
・現場打ちの場合の鉄筋
種類の記号
※SD295 ・
・排水枡が現場打ちの場合の足掛け金物
※標準仕様書21.2.2(6)(ｵ)
材質
・ステンレス製
・防錆処置を行った鋼製
・合成樹脂被覆加工されたもの
凍上抑制層に用いる材料
・
（砂を用いる場合の粒度試験）
・行う ・行わない

・鋳鉄製ふた (21.2.1)

名称	種類	適用荷重	鍵	備考
鋳鉄製ﾏﾝﾎｰﾙふた	・水封形 ・簡易密閉形(ﾊﾟｯｷﾝ式) ・密閉形(ﾃｰﾊﾟ・ﾊﾟｯｷﾝ式) ・中ふた付き密閉形（ﾃｰﾊﾟ・ﾊﾟｯｷﾝ式） ・	・T-2用 ・T-6用 ・T-20用	・あり ・なし	左記以外の品質等は、(公社)空気調和衛生工学会SHASE-S209による。

・グレーチング (21.2.1)

材質	形式	用途	適用荷重	ﾒｲﾝﾊﾞｰﾋﾟｯﾁ	亜鉛めっき(付着量)	上面形状
・鋼製	・受枠付き、ﾎﾞﾙﾄ固定 ・	・溝ふた(横断用) ・溝ふた(側溝用) ・桝ふた ・U字溝用	・歩行用	・細目 ・	・ ( )	・凹凸形 ・
			・T-2用 ・T-6用 ・T-14用 ・T-20用	・普通目 ・細目	・ ( )	・平形 ・
・ｽﾃﾝﾚｽ製	・受枠付き、ﾎﾞﾙﾄ固定 ・	・溝ふた(横断用) ・溝ふた(側溝用) ・桝ふた ・U字溝用	・歩行用	・		・凹凸形 ・
			・T-2用 ・T-6用 ・T-14用 ・T-20用	・		・平形 ・

（品質・性能、試験方法は別表による）

TE-RU
TE-RU ARCHITECTS LTD
株式会社 てる設計
〒036-8085
青森県弘前市大字末広4-3-1
TEL0172-27-8647 FAX0172-27-8648
一級建築士事務所 青森県知事 第716号
一級建築士 建設大臣 第213208号
福士 晃昭

（工事名） 五所川原農林高等学校実習棟（リンゴ冷蔵庫）改築工事
建築工事特記仕様書（その１２）
青森県 （日付） 2026.3
A-13

・街きょ、縁石及び側溝

街きょ、縁石、側溝　(21.3.1、2)(表21.3.1)

種類	形状・寸法
・縁石	・図示による　・
・L形側溝	・図示による　・
・U形側溝	・図示による　・
・U形側溝ふた	・図示による　・
・	・図示による　・

砂地業に用いる材料
　・シルト　・山砂　・川砂　・砕砂
砂利地業に用いる材料
　・再生クラッシャラン G　・切込砂利又は切込砕石
砂利地業の厚さ(mm)
　※100　・図示による
・現場打ちの場合のコンクリート材料
　設計基準強度(N/mm²)
　　※18　・
　スランプ(cm)
　　※15又は18　・
・現場打ちの場合の鉄筋
　種類の記号
　　※SD295
凍上抑制層に用いる材料
　・
　(砂を用いる場合の粒度試験)
　・行う　・行わない

・ 埋戻し土

標準仕様書 表3.2.1　(21.2.1)
※B種　・

㉒ 舗装工事

・路床

路床の材料　(22.2.2、3、5)(表22.2.1)

種別	材料	厚さ(mm)
・盛土	・A種　・B種　・C種　・D種 ・建設汚泥から再生した処理土 G	・図示による ・
・凍上抑制層	・再生クラッシャラン G ・クラッシャラン ・切込み砂利 ・砂（標準仕様書 表21.2.2による）	・図示による ・
・ﾌｨﾙﾀｰ層	標準仕様書22.2.3(3)による	・図示による ・

(凍上抑制層に用いる材料に砂を用いる場合の粒度試験)
　・行う
　・行わない
・路床安定処理
　安定処理の方法
　　・置き換え工法
　　・安定処理工法
　路床安定化処理用添加材料
　　種類
　　・普通ポルトランドセメント
　　・高炉セメントB種 G
　　・フライアッシュセメントB種
　　・生石灰（・特号　・1号）
　　・消石灰（・特号　・1号）
　　添加量
　　・　kg/m3（CBR　・3以上　・　）
・ジオテキスタイル
　単位面積質量
　　・60g/m²以上　・
　厚さ(mm)
　　・0.5～1.0　・
　引張強さ
　　・98N/5cm（10kgf/5cm）以上　・
　透水係数
　　・1.5×10^{-1}cm/sec以上　・
試験
　路床土の支持力比（CBR）試験
　　・行う　・行わない
　路床締固め度の試験
　　・行う　・行わない
　現場CBR試験
　　・行う　・行わない

・路盤

路盤の厚さ　(22.3.2、3)(表22.3.1)
　・図示による　・
路盤材料（標準仕様書 表22.3.1による種別）
　・クラッシャラン
　・粒度調整砕石
　・再生クラッシャラン G
　・再生粒度調整砕石 G
　・クラッシャラン鉄鋼スラグ G
　・粒度調整鉄鋼スラグ G
　・水硬性粒度調整鉄鋼スラグ G

・ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装

アスファルト舗装の構成及び厚さ　(22.4.2～6)(表22.4.4)
　※図示による　・
材料
　アスファルト
　　・再生アスファルト G
　　（標準仕様書 表22.4.1による種類：
　　・60～80　・80～100）
　　・ストレートアスファルト
　骨材
　　・道路用砕石
　　・アスファルトコンクリート再生骨材 G
　加熱アスファルト混合物等の種類
　　・密粒度アスファルト混合物（13）
　　・細粒度アスファルト混合物（13）
　　・密粒度アスファルト混合物（13F）
舗装の平たん性
　※通行の支障となる水たまりを生じない程度

試験
　アスファルト混合物等の抽出試験
　　・行う
　　・行わない

・ｺﾝｸﾘｰﾄ舗装

ｺﾝｸﾘｰﾄ舗装の構成及び厚さ　(22.5.2～4、6)(表22.5.1、3)

舗装の種類	部位	構成	厚さ(mm)
ｺﾝｸﾘｰﾄ舗装	車路及び駐車場	・図示による	・図示による
	歩行者用通路	・図示による	※70

材料
　コンクリート
　　※普通コンクリート、標準仕様書 表22.5.1による
　　・以下による
　　コンクリートの種類　(　普通　)
　　設計基準強度（N/mm²）　(　21N　)
　　所定のスランプ（cm）　(※8　・　)
　　粗骨材の最大寸法（mm）(　20　)
　早強ポルトランドセメント
　　・使用する　・使用しない
　注入目地材料
　　※低弾性タイプ
　　・高弾性タイプ
目地
　※標準仕様書 表22.5.3及び図22.5.1による
　・以下による
　　種 類
　　間隔　・(　　)m程度ごと
　　構造　・図示による
舗装の平たん性
　※通行の支障となる水たまりを生じない程度

・カラー舗装

・加熱系カラー舗装　(22.6.2～4)
　構成・厚さ
　　・図示による　・
　加熱系混合物の結合材
　　・アスファルト混合物
　　・石油樹脂系混合物　顔料の添加量（　%）
　添加材
　　着色骨材（　）
　　自然石　（　）
・常温系カラー舗装
　工法
　　・ニート工法（配合その他：　）
　　・塗布工法　（配合その他：　）
　着色部の下部
　　・アスファルト舗装
　　・コンクリート舗装
　　・
舗装の平たん性
　※通行の支障となる水たまりを生じない程度

・透水性ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装

舗装の構成　(22.7.2、3、6)
　・図示による　・
材料
　骨材
　　・道路用砕石
　　・アスファルトコンクリート再生骨材 G
　　（標準仕様書 表22.4.1
　　による種類：　・60～80　・80～100）
舗装の平たん性
　※著しい不陸がないもの
試験
　開粒度アスファルト混合物等の抽出試験
　　・行う
　　・行わない

・ブロック系舗装

・コンクリート平板舗装 G　(22.8.2、3)

種類	寸法(mm)	厚さ(mm)	目地材	備考
・普通平板(N) ・透水平板(P) ・保水性平板(M)	・300角 ・	※60 ・	※砂 ・ﾓﾙﾀﾙ	表面加工 ・研ぎ出し ・洗い出し ・たたき出し

クッション材
　※砂　・空練りモルタル
普通平板は G (再生材料を用いた舗装用ブロック)、
透水平板は G (透水性コンクリート）とする。
仕上り面の平たん性
　※歩行に支障となる段差がないものとし、コンクリート平板間の段差は3mm以内とする。

・インターロッキングブロック舗装 G

種類	部位	形状寸法	厚さ(mm)	曲げ強度(N/mm²)	備考
※普通ﾌﾞﾛｯｸ(N) ・透水性ﾌﾞﾛｯｸ(P) ・保水性ﾌﾞﾛｯｸ(M)	車路	・図示による ・	※80 ・	※5.0 ・	表面加工 ・
※普通ﾌﾞﾛｯｸ(N) ・透水性ﾌﾞﾛｯｸ(P) ・保水性ﾌﾞﾛｯｸ(M)	歩行者用通路	・図示による ・	※60 ・	※3.0 ・	

クッション材
　※砂　・空練りモルタル
歩行者用通路に使用する普通ブロックは G (再生材料を用いた舗装用ブロック)、透水性ブロックは G (透水性コンクリート）とする。
仕上り面の平たん性
　※歩行に支障となる段差がないものとし、インターロッキングブロック間の段差は3mm以内とする。

・舗石舗装

種類	形状寸法(mm)	厚さ(mm)	張り方	基層	基層の厚さ(mm)
・花こう岩 ・	・割石 ・図示による ・	・	・	・ｺﾝｸﾘｰﾄ版	※70 ・
				・ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物	※70 ・

クッション材
　※砂　・空練りモルタル
仕上り面の平たん性
　※歩行に支障となる段差がないものとし、舗石間の段差は3mm以内とする。

・ジオテキスタイル
　単位面積質量
　　・60g/m²以上　・
　厚さ(mm)
　　・0.5～1.0　・
　引張強さ
　　・98N/5cm(10kgf/5cm)以上　・
　透水係数
　　・1.5×10^{-1}cm/sec以上　・

・砂利敷き

種別　(22.9.2)
・A種（施工範囲：・図示による　・通路　・　）
・B種（施工範囲：・図示による　・建物周囲その他
　・ 建物周囲1500、厚さ100　）

・路面標示用塗料

路面標示用塗料はJIS K 5665による。

種類	施工	適用	色	幅(mm)	塗布厚さ(mm)
※3種1号	溶融	粉体状	・白 ・	・150 ・100	・1.0 ・
・1種 G	常温	液状			
・2種 G	加熱				

低揮発性有機溶剤型の路面標示用水性塗料 G

TE-RU
TE-RU ARCHITECTS LTD
株式会社 てる設計
〒036-8085
青森県弘前市大字末広4-3-1
TEL0172-27-8647 FAX0172-27-8648
一級建築士事務所 青森県知事 第716号
一級建築士 建設大臣 第213208号
福士 晃昭

23 植栽及び屋上緑化工事

・植栽地の確認等

土壌の水素イオン濃度指数（pH）試験 (23.1.3)
・行う　・行わない
電気伝導度（EC）の試験
・行う　・行わない

・植栽基盤の整備

樹木の植栽基盤の整備 (23.2.2、4)
・適用する　・適用しない

植栽	工法	有効土層の厚さ(mm)	整備範囲	土壌改良材
・樹木	※A種 ・B種 ・C種 ・D種	樹高12m以上 （※100　・120　・150） 樹高7m以上～12m未満 （※80　・100） 樹高3m以上～7m未満 （※60　・80） 樹高3m未満 （※50　・60）	・葉張り部分 ・植栽部分 ・図示による ・	・適用する ・適用しない
※芝、地被類	※B種 ・	※30 ・	・植栽部分 ・図示による ・	・適用する ・適用しない

植栽基盤の排水設備
・設ける（※図示による　・　）
・設けない

・植込み用土

・現場発生土の良質土 (23.2.3)
・客土

・土壌改良材

種類及び指定量等 (23.2.3)
・バーク堆肥 G
施工箇所
※植栽範囲　・図示による
使用量
植栽基盤面積1㎡あたり（・50L　・　）
・汚泥発酵肥料（下水汚泥コンポスト）G
施工箇所
※植栽範囲　・図示による
使用量
植栽基盤面積1㎡あたり（・10L　・　）
材料
「金属等を含む産業廃棄物に係る判定基準を定める省令」の別表第1の基準に適合する原料を使用したもので、植害試験の調査の結果、害が認められないものとする。

・樹木

樹種、寸法、株立数等 (23.3.2)
※図示による　・

・支柱

支柱材 (23.3.2、3)
※丸太（間伐材 G　・真竹
防腐処理方法
※加圧式防腐処理丸太材　・
形式
・図示による　・

・幹巻き用材料

材料 (23.3.2)
※幹巻き用テープ　・わら又はこも

・芝

種類 (23.4.2、3)
※コウライシバ　・ノシバ　・
芝張りの工法
平地
※目地張り　・べた張り
法面
※べた張り法面　・目地張り

・吹付けは種 (23.4.2)

種子の種類	発芽率	種子の量(g/㎡)	備考
※洋芝類（採取後2年以内）	※発芽率80%以上		
・	・		

・地被類 (23.4.2)

樹種	ｺﾝﾃﾅ径	単位面積当たりのｺﾝﾃﾅ数	芽立数
・	・	・	・

・新植、芝等の枯補償、移植樹木の枯損処置

(23.3.4、6)(23.4.7)(23.5.5)
新植樹木（芝張り、吹付けは種及び地被類を含む）の枯補償の期間
※引渡しの日から1年　・なし　・
移植樹木の枯損処置を行う期間
※引渡しの日から1年　・なし　・

・屋上緑化 G

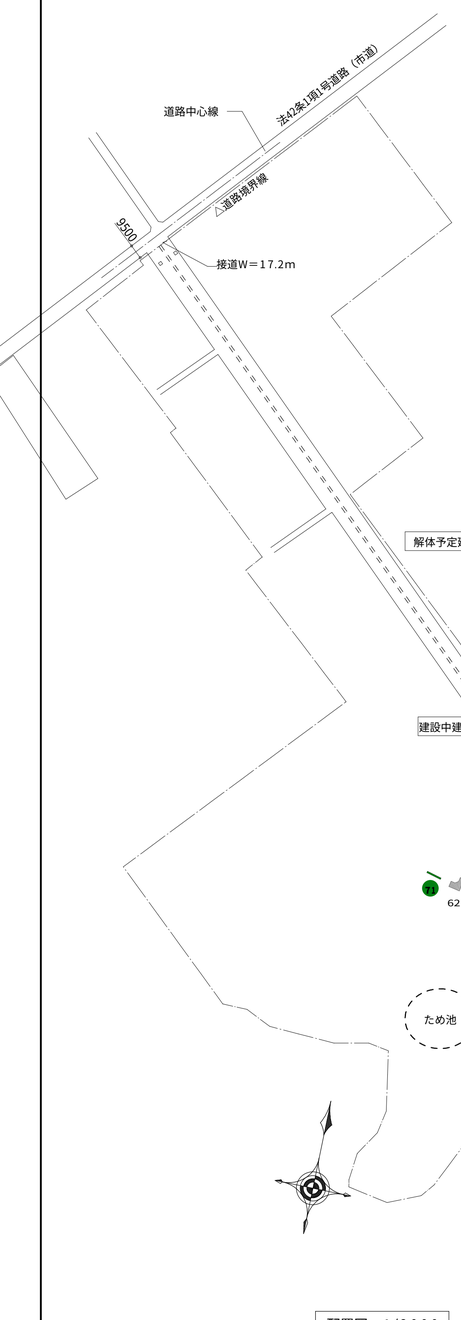
植栽基盤及び材料 (23.5.2～4)
・屋上緑化システム
土壌層の厚さ
・図示による　・
排水層
・軽量骨材（層の厚さ：　）
・板状成形品
植込み用土
※改良土
・人工軽量土
樹木、芝及び地被類の樹種又は種類、寸法、株立数等
※図示による　・
見切り材、舗装材、排水孔、マルチング材等
※図示による　・
(品質・性能、試験方法は別表による)

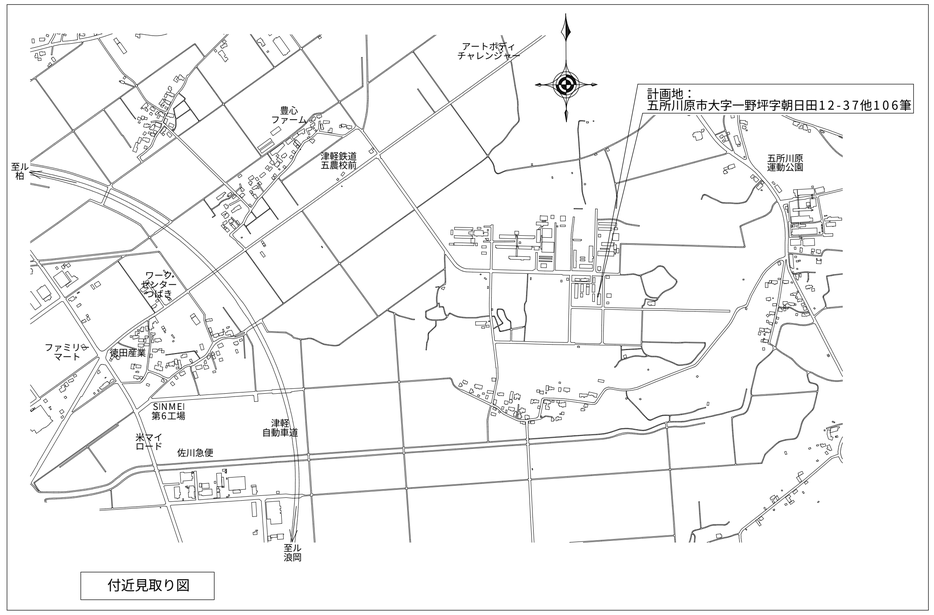
支柱
・設置する
・設置しない
形式
・図示による

かん水装置
・設置する
・設置しない
種類
・図示による

工法
「屋根ふき材及び屋外に面する帳壁の風圧に対する構造耐力上の安全性を確かめるための構造計算の基準を定める件」（平成12年5月31日 建設省告示第1458号）に基づく風圧力に対応した工法
・図示による
・

TE-RU
TE-RU ARCHITECTS LTD
株式会社 てる設計
〒036-8085
青森県弘前市大字末広4-3-1
TEL0172-27-8647 FAX0172-27-8648
一級建築士事務所 青森県知事 第716号
一級建築士 建設大臣 第213208号
福士 晃昭





付近見取り図

□10㎡以下の既存建築物

基準法棟数	No	棟名称	構造	階数	延床面積	建築面積	備考
1	40	ｻｲﾛ棟	RC	1	6.00	6.35	
2	65	ﾎﾟﾝﾌﾟ室	W	1	9.00	8.74	
3	71	物置	W	1	8.95	8.95	
4	76	機械室	W	1	9.61	9.61	
5	89	ﾎﾟﾝﾌﾟ小屋	W	1	7.56	7.56	
6	90	ﾎﾟﾝﾌﾟ小屋	S	1	3.24	3.24	
	91	ゴミ置場	CB	1	3.60	3.60	解体予定
7	100	用具庫（ｸﾞﾚﾊﾞﾌﾞ）	S	1	3.00	3.00	
8	107	用具庫（ｸﾞﾚﾊﾞﾌﾞ）	S	1	3.30	3.30	
9	67	渡り廊下	S	1	9.18	9.18	R3築
		計 9 棟			59.84	59.93	

□非建築物（ﾋﾞﾆﾙﾊｳｽ）

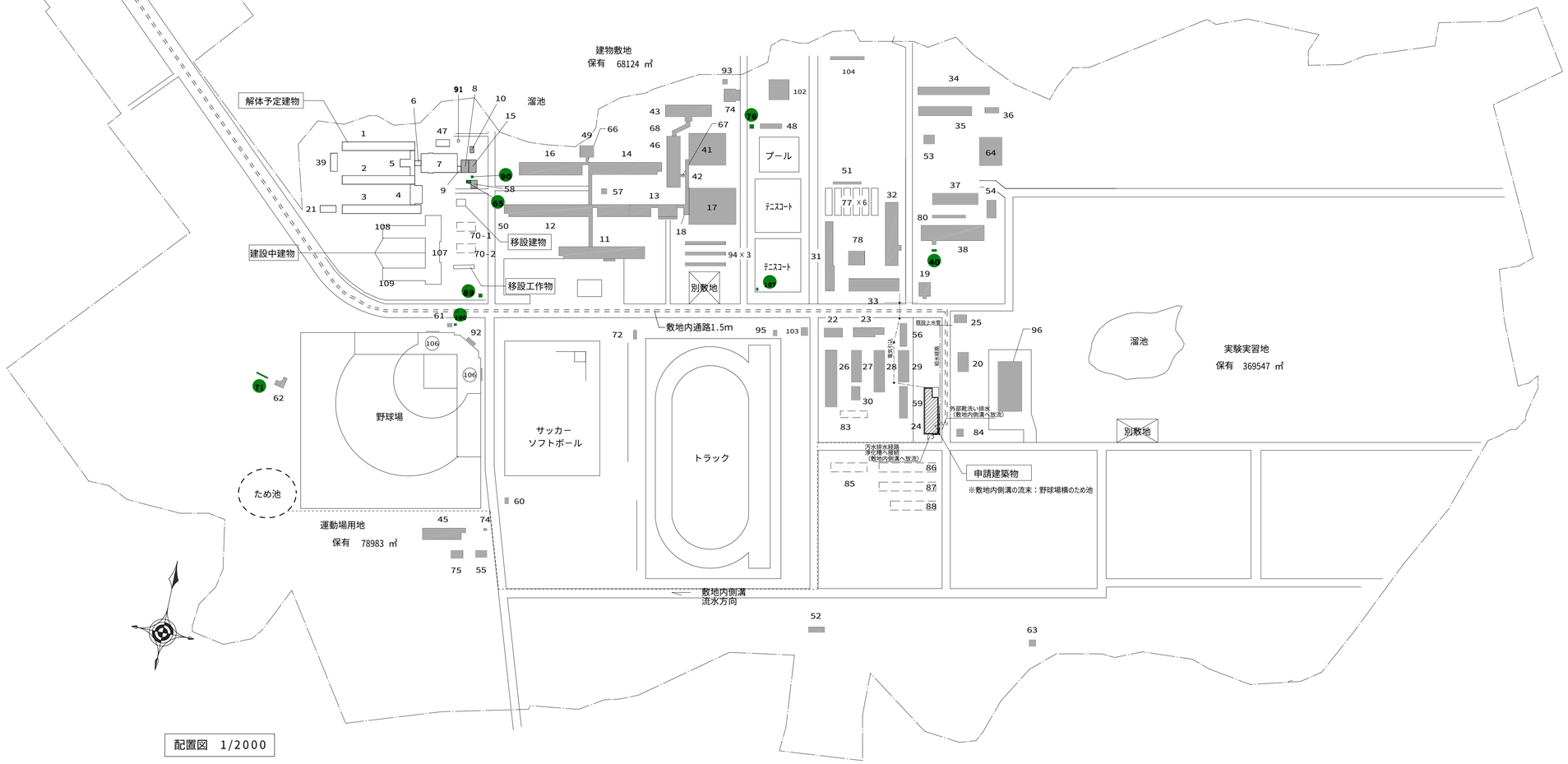
棟数	No	棟名称	構造	階数	延床面積	建築面積	備考
1	70-1	温室（農業用ﾋﾞﾆﾙﾊｳｽ）	S	1	-	-	
2	70-2	温室（農業用ﾋﾞﾆﾙﾊｳｽ）	S	1	-	-	
3	77-1	ﾋﾞﾆﾙﾊｳｽ（育苗）	S	1	-	-	
4	77-2	ﾋﾞﾆﾙﾊｳｽ（育苗）	S	1	-	-	
5	77-3	ﾋﾞﾆﾙﾊｳｽ（育苗）	S	1	-	-	
6	77-4	ﾋﾞﾆﾙﾊｳｽ（育苗）	S	1	-	-	
7	77-5	ﾋﾞﾆﾙﾊｳｽ（育苗）	S	1	-	-	
8	77-6	ﾋﾞﾆﾙﾊｳｽ（育苗）	S	1	-	-	
9	83	温室（農業用ﾋﾞﾆﾙﾊｳｽ）	S	1	-	-	
10	85	温室（農業用ﾋﾞﾆﾙﾊｳｽ）	S	1	-	-	
11	86	温室（農業用ﾋﾞﾆﾙﾊｳｽ）	S	1	-	-	
12	87	温室（農業用ﾋﾞﾆﾙﾊｳｽ）	S	1	-	-	
13	88	温室（農業用ﾋﾞﾆﾙﾊｳｽ）	S	1	-	-	
		計 13 棟					

□10㎡を超える建築物

基準法棟数	No	棟名称	構造	階数	延床面積	建築面積	備考
	1	寄宿舎	RC	3	1175.00	2005.36	解体予定建築物
	2	寄宿舎	RC	3	1175.00	1に加算	解体予定建築物
	3	寄宿舎	RC	2	851.00	1に加算	解体予定建築物
	4	寄宿舎	RC	1	146.00	1に加算	解体予定建築物
	5	寄宿舎	RC	1	120.00	1に加算	解体予定建築物
	6	渡り廊下	S	1	20.00	1に加算	解体予定建築物
	7	食堂	S	1	436.00	1に加算	解体予定建築物
1	8	機械室	RC	1	60.00	1に加算	
	9	渡り廊下	S	1	15.00	1に加算	解体予定建築物
2	10	燃料庫	S	1	15.00	15.00	
3	11	管理室棟	RC	3	2099.44	14に加算	
4	12	普通教室棟	RC	3	2707.00	14に加算	
5	13	普通教室棟	RC	3	654.77	14に加算	
6	14	特別教室棟	RC	3	1639.00	2417.01	
7	15	ｵｰﾄｲﾝ室	RC	1	60.00	60.00	
8	16	特別教室棟（実習棟）	S	1	512.00	509.00	
9	17	第一体育館	S	2	1181.00	1160.60	
10	18	渡り廊下	S	1	84.00	17に加算	
11	19	生徒集合室	W	1	104.00	104.34	
12	20	大型車車庫	S	1	117.27	117.27	R3築
	21	寄宿舎物干場	W	1	68.00	68.04	解体予定建築物
13	22	肥料庫	W	1	104.00	103.68	
14	23	畜産実習棟（管理棟）	W	2	246.00	162.00	
15	24	実習棟（リンゴ冷蔵庫）	S	1	379.05	373.89	申請建物1
16	25	給水施設	W	1	62.00	62.37	
	26	園芸科実習室	W	1	406.00	405.00	解体予定建築物
17	27	温室１号	S	1	203.00	202.50	
18	28	温室２号	S	1	279.00	278.54	
19	29	温室３号	S	1	210.00	210.00	
20	30	温室作業場	S	1	73.00	72.65	
21	31	農機具実習室	S	1	350.00	350.00	
22	32	農業実習室（ｲﾝｲｽﾍﾝｵｰﾙ）	S	1	510.00	510.00	
23	33	農機整備室（搬送車車庫）	S	1	400.00	400.00	
24	34	鶏舎	S	1	341.00	340.80	
25	35	育雛舎	W	1	305.00	304.56	
26	36	豚飼肥舎	RC	1	50.00	49.50	
27	37	豚舎	S	1	324.00	324.00	
28	38	牛舎	S	2	1209.00	608.70	
	39	寄宿舎物干場	W	1	78.00	77.76	解体予定建築物
29	41	第二体育館	S	1	740.00	798.40	
30	42	渡り廊下	S	1	58.00	41に加算	
31	43	柔剣道場	W	1	351.00	351.11	
32	44	屋内相撲場	W	1	121.00	120.90	
33	45	屋内野球場	W	1	343.00	288.36	
34	46	ｸﾗﾌﾞ部室	W	1	437.00	437.40	
	47	食品車製造実習室	W	1	58.00	58.32	解体予定建築物
35	48	ﾌﾟｰﾙ管理棟	S	2	73.00	62.94	
36	49	校舎物置	S	1	101.00	108.66	
37	50	寄宿舎物置	S	1	40.32	40.32	申請建築物3（R３築、移設）
38	51	ｱｰﾁｪﾘｰ射場	W	1	41.00	40.50	
39	52	農場便所	W	1	15.00	14.56	
40	53	鶏舎	S	1	60.00	60.48	
41	54	堆肥舎	RC	1	100.80	100.80	
42	55	運動場更衣室	W	1	50.00	49.68	
43	56	温室	S	1	98.00	98.28	
44	57	倉庫	S	1	17.00	17.22	
45	58	受水槽上屋	W	1	31.00	31.18	
46	59	温室	S	1	159.00	158.76	
47	60	ﾋｮｰﾋﾞﾀﾙ上屋	W	1	12.00	12.46	
48	61	野球部器具庫	W	1	11.00	10.50	
49	62	小規模作業施設	W	1	42.00	49.27	
50	63	簡易作業施設	W	1	27.00	52.99	
51	64	堆肥処理施設	S	1	405.00	405.00	
-	66	渡り廊下		1	庇扱い（49に加算）		
52	68	渡り廊下	S	1	39.23	39.23	R3築
53	72	部室（ｸﾞﾚﾊﾞﾌﾞ）ﾃｯｶｰ部	S	1	16.92	16.92	
54	74	屋内相撲場	W	1	121.00	121.00	
55	75	部室（ｸﾞﾚﾊﾞﾌﾞ）野球部	S	1	57.00	57.00	
56	78	除雪車車庫	S	1	143	143	R3築
57	80	浄化室	W	1	57.64	57.64	
58	84	物置	W	1	31.28	31.28	
59	92	本部席	CB	1	16.72	16.72	
60	93	小屋	W	1	14.06	14.06	
61	94-1	駐輪場	S	1	240.00	240.00	
62	94-2	駐輪場	S	1		94-1に加算	
63	94-3	駐輪場	S	1		94-1に加算	
64	95	倉庫（物置）陸上部	S	1	12.76	12.76	
65	96	食品製造実習棟	S	1	747.06	797.90	R3築
66	102	屋外相撲場	S	1	146.41	198.81	
67	103	給油所上屋	S	1	32.25	32.25	
68	104	ｱｰﾁｪﾘｰ的場	S	1	53.76	53.76	
69	106-1	ﾀﾞｸﾞｱｳﾄ	CB	1	30.42	30.42	
70	106-2	ﾀﾞｸﾞｱｳﾄ	CB	1		106-1に加算	
71	107	寄宿舎（管理室棟）	S	2	700.27	711.74	申請建築物2（建設中建物）
	108	寄宿舎（女子棟）	W	2	669.24	356.76	申請建築物2（建設中建物）
	109	寄宿舎（男子棟）	W	2	669.24	356.76	申請建築物2（建設中建物）
		計 71 棟	合計		21,409.91	15,334.19	=A+B
A		既存建築物（68棟）	合計		18,951.79	13,494.72	
B		申請建物（3棟）	合計		2,458.12	1,839.47	
C		10㎡以下の建築物(既設)（9棟）	合計		59.84	59.93	
			総合計		21,469.75	15,394.12	=A+B+C
D		申請部分			2,458.12	1,839.47	=B
E		容積率算定の床面積不算入			900.27	—	
		（20、33、78、94-1～3 6棟）					
F		申請以外の部分			19,011.63	13,554.65	=A+C

【 建築概要 】

地名地番	五所川原市大字一野坪字朝日田12-37他106筆
住居表示	五所川原市大字一野坪字朝日田12-37
都市計画区分	都市計画区域内（区域区分非設定）
用途地域	—
防火指定	—
建ぺい率	70 %
容積率	200 %
敷地面積	551,588.00
用　途	学 校
構造・階数	既骨造平屋
耐火建築物等	各棟の仕様による
建築面積計 2,458.12	15,394.12 （建ぺい率 2.79 %）
延床面積計(車庫不算入)	20,569.48 （ 容積率 3.72 %）
【うち申請部分建築面積計】	1,839.47（リンゴ冷蔵庫：373.89）
【うち申請部分延床面積計】	2,458.12（リンゴ冷蔵庫：379.05）
建築物の数	申請建築物 3 棟 （リンゴ冷蔵庫、寄宿舎、物置）
	10㎡を超える建築物 68 棟（既存建築物）
	10㎡以下の建築物 9 棟
	非建築物（ビニールハウス） 13 棟

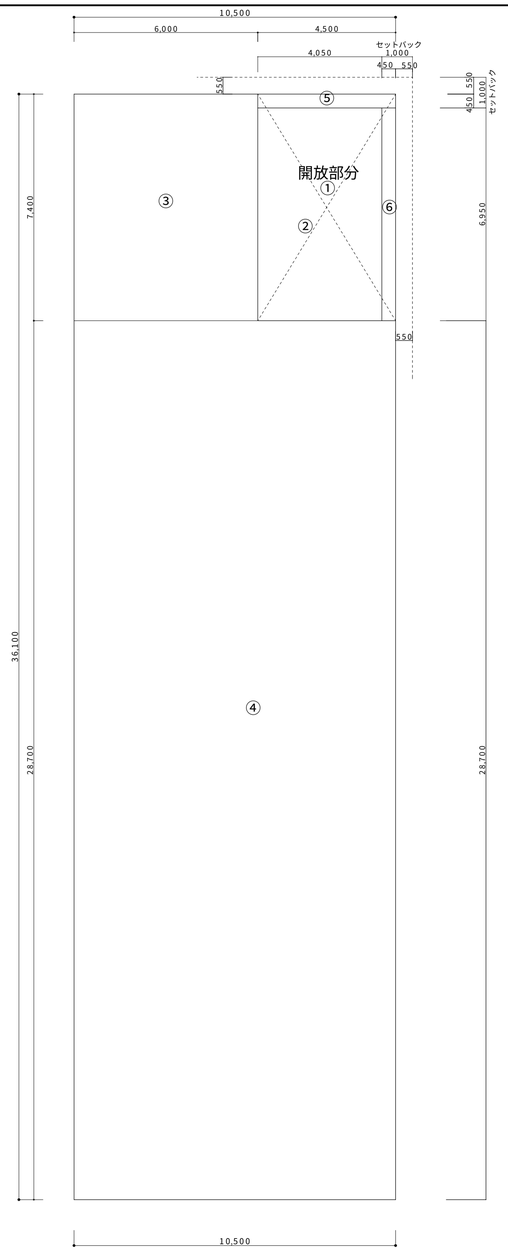


配置図 1/2000

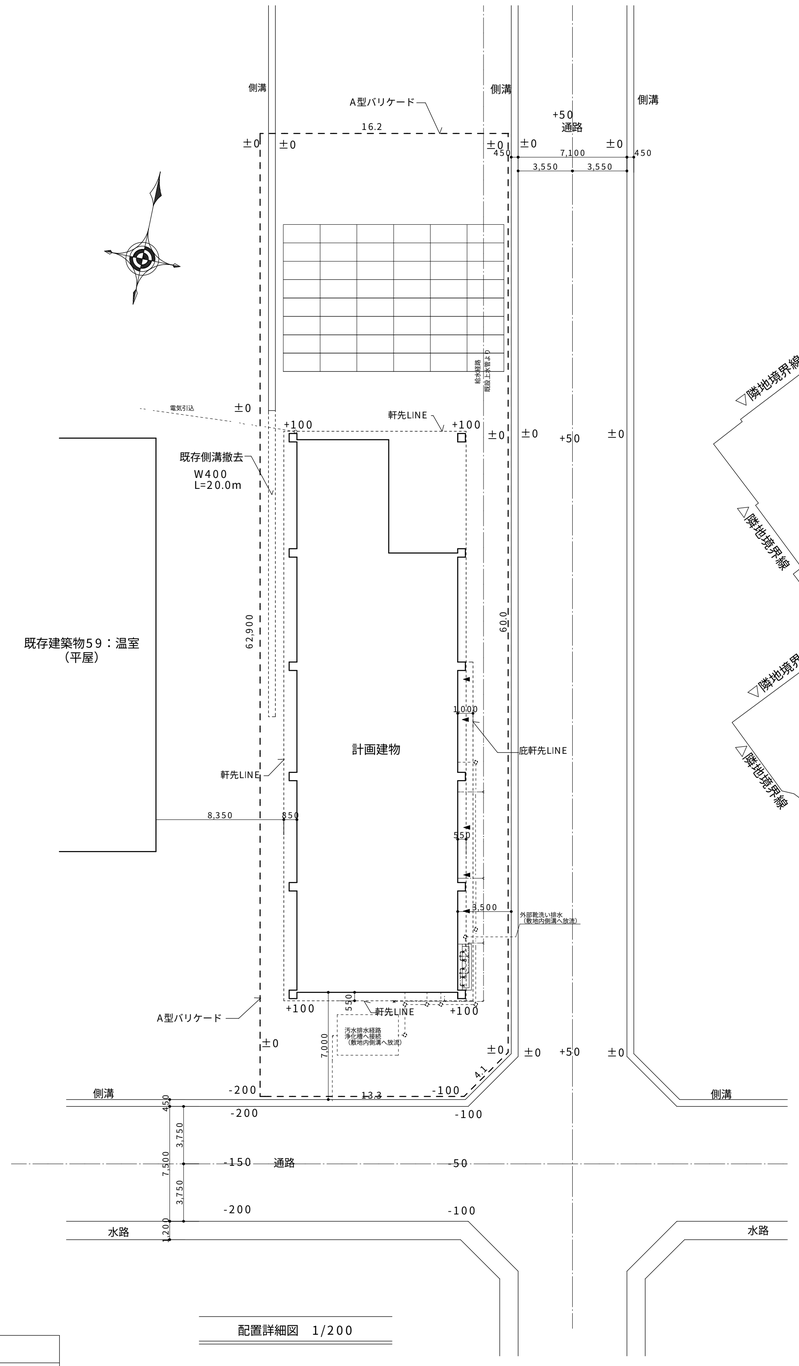
特記事項		承 認	検 図	担 当	製 図
	MEMO				

TE-RU
TE-RU ARCHITECTS LTD
〒036-8085
青森県弘前市大字末広4-3-1
TEL0172-27-8647 FAX0172-27-8648
株式会社 てる設計
一級建築士事務所 青森県知事 第716号
一級建築士 建設大臣 第213208号
福士 晃昭

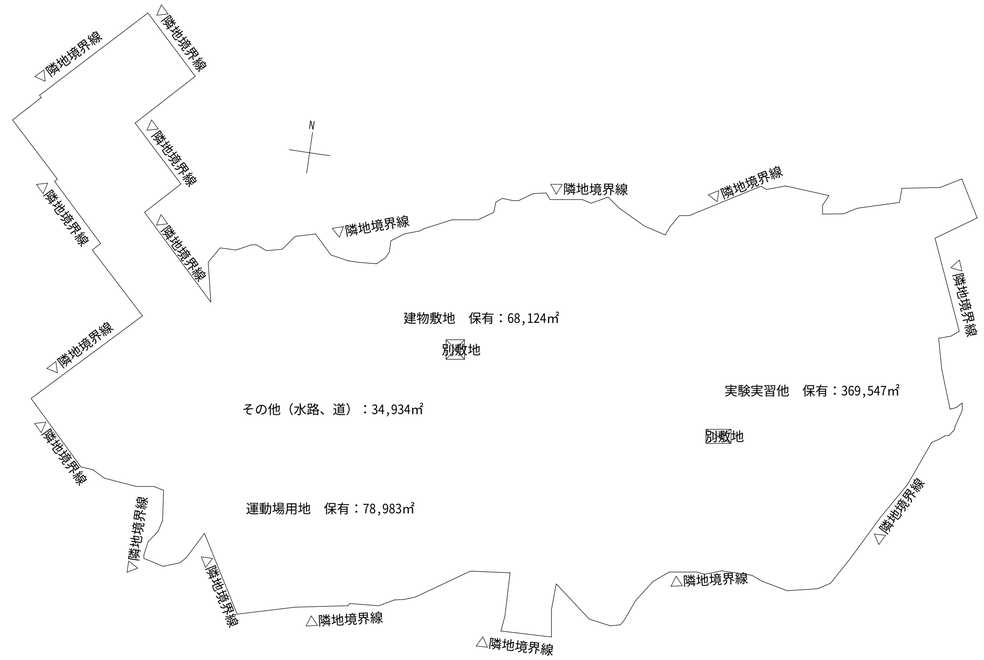
工事名称	五所川原農林高等学校実習棟（リンゴ冷蔵庫）改築工事			図面番号
図面名称	配置図、付近見取図			A-16
縮 尺	A1：1/2000 A3：1/4000	年 月 日	2026.1	



面積算定図　1/100



配置詳細図　1/200



敷地測量図　1/4000

財産台帳

建物敷地	：68,124.00㎡
実験実習他	：369,547.00㎡
運動場用地	：78,983.00㎡
合計	516,654.00㎡

＋

その他(水路,道)：	34,934.00㎡
総計	551,588.00㎡ CAD計測

面積計算表　(㎡)

符号	X		Y		計
開放部分 ①	4.5	X	7.4	=	33.30
②	4.05	X	6.95	=	28.1475
③	6.0	X	7.4	=	44.40
④	10.5	X	28.7	=	301.35
⑤	4.5	X	0.45	=	2.025
⑥	0.45	X	6.95	=	3.1275

面積表　(㎡)

建築面積	373.89	②+③+④
床面積	379.05	①+③+④
開放部分を除いた床面積	345.75	③+④

※雨水の処理方法：敷地内浸透及び宅内側溝へ放流

※道路斜線の検討
道路幅員9.500m>建物最高高さ7.350m　よって適法

※隣地斜線の検討
建物最高高さが31m以下の為、適用除外

特記事項

承認	検図	担当	製図

MEMO

TE-RU
TE-RU ARCHITECTS LTD
〒036-8085
青森県弘前市大字末広4-3-1
TEL0172-27-8647 FAX0172-27-8648
株式会社 てる設計
一級建築士事務所 青森県知事 第716号
一級建築士 建設大臣 第213208号
福士 晃昭

工事名称	五所川原農林高等学校実習棟（リンゴ冷蔵庫）改築その他工事		図面番号
図面名称	面積算定図、配置詳細図		A-17
縮　尺	A1：1/100、1/200、1/4000 A3：1/200、1/400、1/8000	年 月 日　2025.12	

工事概要

工事名称	五所川原農林高等学校実習棟（リンゴ冷蔵庫）改築工事
建設地	五所川原市大字一野坪字朝日田　地内
用途地域	都市計画区域内（区域区分非設定）
防火地域	指定なし
容積率/建蔽率	200%　/　70%
主要用途	学校
構造・階数	鉄骨造　平屋建て
面積規模	建築面積　373.89㎡　延べ床面積　379.05㎡
工事種別	新築

外部仕上表

外壁	t0.4ガルバリウム鋼板角小波スパンドレル張り t12.5ＰＢ+透湿防水紙張り下地
屋根	t0.8　折版ルーフデッキ（カラーGL鋼板）、不燃裏打ち材（グレー色）
外部天井	ルーフデッキ表し
庇	t0.8　折版ルーフデッキ（カラーGL鋼板）
庇軒天井	ルーフデッキ表し
外部巾木	モルタル補修仕上げ
リンゴ箱置き場	コンクリート刷毛引き仕上げ
靴洗い場	モルタル金ゴテ

内装制限等一覧表

化粧PB（トラバーチン柄）	t9.5　不燃品　NM-1864
PB	t12.5　不燃品　NM-8619
ケイ酸カルシウム板	t12　不燃品　NM-1217
ケイ酸カルシウム板	t6.0　不燃品　NM-1217

空気環境等

ホルムアルデヒド対策	仕上げ材	全仕上建材を規制対象外（F☆☆☆☆）とする
	下地等	全建材を規制対象外（F☆☆☆☆）とする
	小屋裏	全建材を規制対象外（F☆☆☆☆）とする
アスベスト	一切使用しない	
クロルピリホス	一切使用しない	

断熱材仕様

冷蔵庫　床	t40押出法ポリスチレンフォーム２種Ｂ　２層張り
冷蔵庫壁（外壁側）	t100断熱パネル
冷蔵庫壁（間仕切）	t100断熱パネル
冷蔵庫天井	t100断熱パネル
トイレ床	t50押出法ポリスチレンフォーム２種Ｂ
トイレ壁（外壁側）	t100グラスウール24K品、t50グラスウール24K品
トイレ壁（間仕切）	t100グラスウール24K品、t50グラスウール24K品
トイレ基礎（熱橋部）	t50現場発泡ウレタンA種1
トイレ天井	t100グラスウール24K品

内部仕上表

※特記なき材料及び家具は規制対象外・Ｆ☆☆☆☆等級とする。　※使用建材は全て法第３７条の規定による

室名	FL		床	巾木 巾木	巾木 仕上	巾木 H	腰壁	壁	天井	CH	廻縁	備考
実習室	±0	仕上 下地	コンクリート+鉱物骨材配合散布型床仕上げ材（防滑）	モルタル塗り 基礎コン立上り		800	t12ケイ酸カルシウム板張り素地仕上げ　一部断熱パネル表し	t12ケイ酸カルシウム板張り素地仕上げ　一部断熱パネル表し	屋根折版裏表し	6,325 (平均天井高)		靴洗い場、アルミ製カーテンレール
準備室・物置	±0	仕上 下地	コンクリート金ゴテ押エ	モルタル塗り 基礎コン立上り		800	t12ケイ酸カルシウム板張り　素地仕上げ	t12ケイ酸カルシウム板張り　素地仕上げ	屋根折版裏表し	6,136 (平均天井高)		刃物収納庫（鍵付）、農機具収納棚、スチール書架、ピクトサイン
廊下	±0	仕上 下地	コンクリート金ゴテ押エ	ソフト巾木		100	EP-G塗装 t12.5ＰＢ下地	EP-G塗装 t12.5ＰＢ下地	t9.5化粧PB張り（トラバーチン柄）	2,700	塩ビ製コ形	
掃除用具入れ	±0	仕上 下地	コンクリート金ゴテ押エ	ソフト巾木		100	EP-G塗装 t12.5ＰＢ下地	EP-G塗装 t12.5ＰＢ下地	t9.5化粧PB張り（トラバーチン柄）	2,700	塩ビ製コ形	ピクトサイン、棚
男子トイレ	±0	仕上 下地	コンクリート金ゴテ押エ	ソフト巾木		100	EP-G塗装、一部t6.0化粧ケイ酸カルシウム板張り t12.5ＰＢ下地	EP-G塗装、一部t6.0化粧ケイ酸カルシウム板張り t12.5ＰＢ下地	t9.5化粧PB張り（トラバーチン柄）	2,700	塩ビ製コ形	トイレブース、手洗いカウンター（ポストフォーム）、カガミ、ピクトサイン、棚
女子トイレ	±0	仕上 下地	コンクリート金ゴテ押エ	ソフト巾木		100	EP-G塗装、一部t6.0化粧ケイ酸カルシウム板張り t12.5ＰＢ下地	EP-G塗装、一部t6.0化粧ケイ酸カルシウム板張り t12.5ＰＢ下地	t9.5化粧PB張り（トラバーチン柄）	2,700	塩ビ製コ形	トイレブース、手洗いカウンター（ポストフォーム）、カガミ、ピクトサイン、棚
リンゴ冷蔵庫	±0	仕上 下地	押えコンクリート金ゴテ押エ				t100断熱パネル	t100断熱パネル	t100断熱パネル	5,000		
多目的冷蔵庫	±0	仕上 下地	押えコンクリート金ゴテ押エ				t100断熱パネル	t100断熱パネル	t100断熱パネル	5,000		

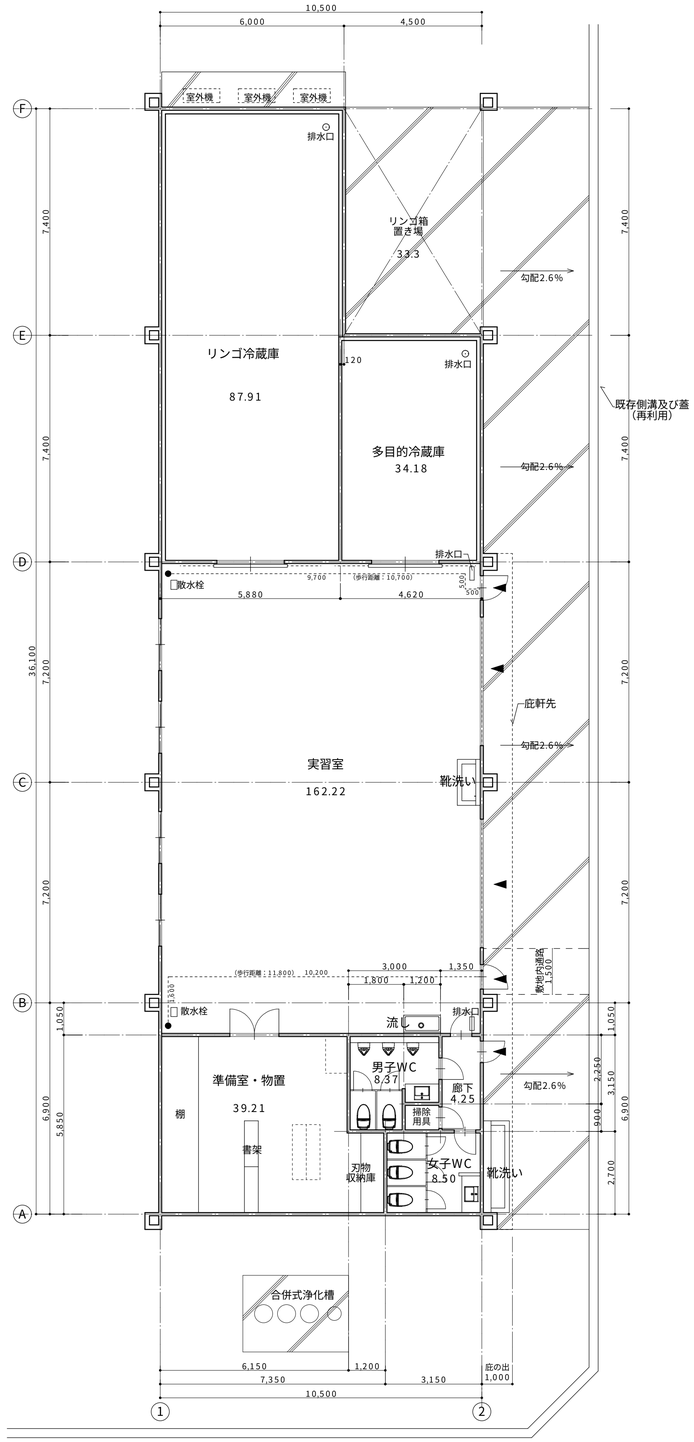
MEMO

承認	検図	担当	製図

MEMO

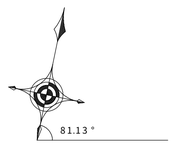
TE-RU
TE-RU ARCHITECTS LTD
〒036-8085
青森県弘前市大字末広4-3-1
TEL0172-27-8647 FAX0172-27-8648
株式会社 てる設計
一級建築士事務所　青森県知事　第716号
一級建築士　建設大臣　第213208号
福士 晃昭

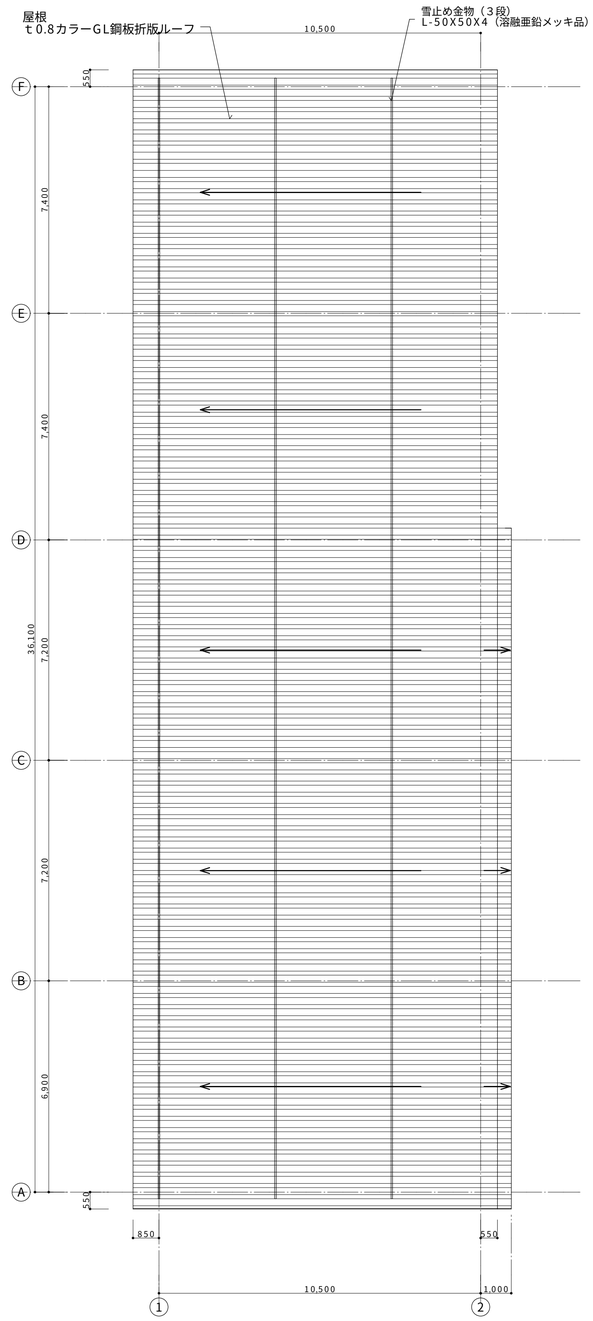
工事名称	五所川原農林高等学校実習棟（リンゴ冷蔵庫）改築工事		図面番号
図面名称	仕上げ表		A-18
縮尺	NS	年 月 日　2025.12	



平面図　1/100

※東側庇は屋内的用途に供さない。





屋根伏図　1/100

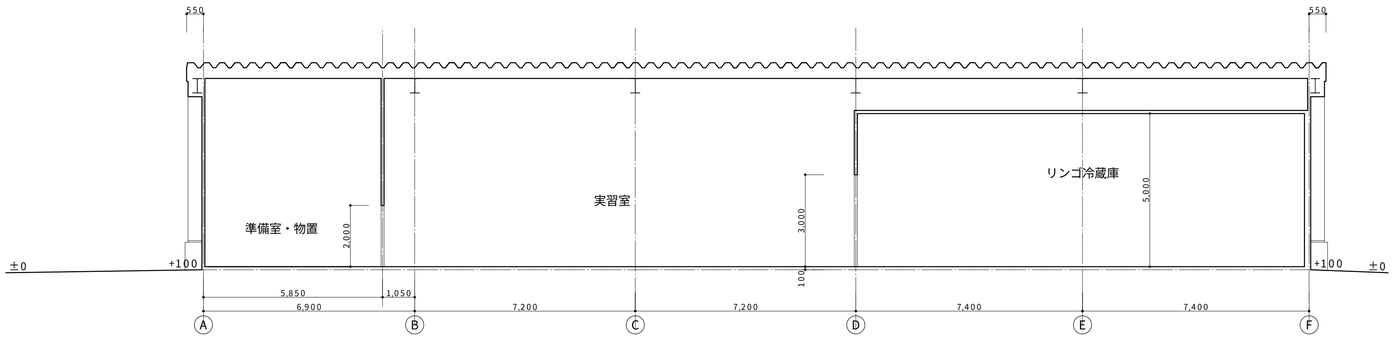
特記事項	承認	検図	担当	製図

MEMO

TE-RU
TE-RU ARCHITECTS LTD
〒036-8085
青森県弘前市大字末広4-3-1
TEL0172-27-8647 FAX0172-27-8648
株式会社 てる設計
一級建築士事務所 青森県知事 第716号
一級建築士 建設大臣 第213208号
福士 晃昭

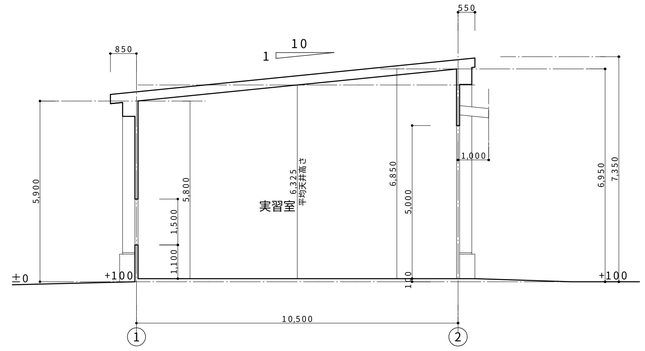
工事名称	五所川原農林高等学校実習棟（リンゴ冷蔵庫）改築工事		図面番号
図面名称	平面図、屋根伏図		A-19
縮　尺	A1：1/100 A3：1/200	年 月 日　2026.1	

平均天井高さの算定
準備室・物置床面積：39.21m2
準備室・物置容積(m3)＝（（5.80m＋6.53m）×7.35/2）×2.70＝122.34m3
（（5.80m＋6.41m）×6.15/2）×3.15＝118.26m3
計 240.60m3
平均天井高さ(m)＝240.60m3/39.21m2＝6.136m



断面図　1/100

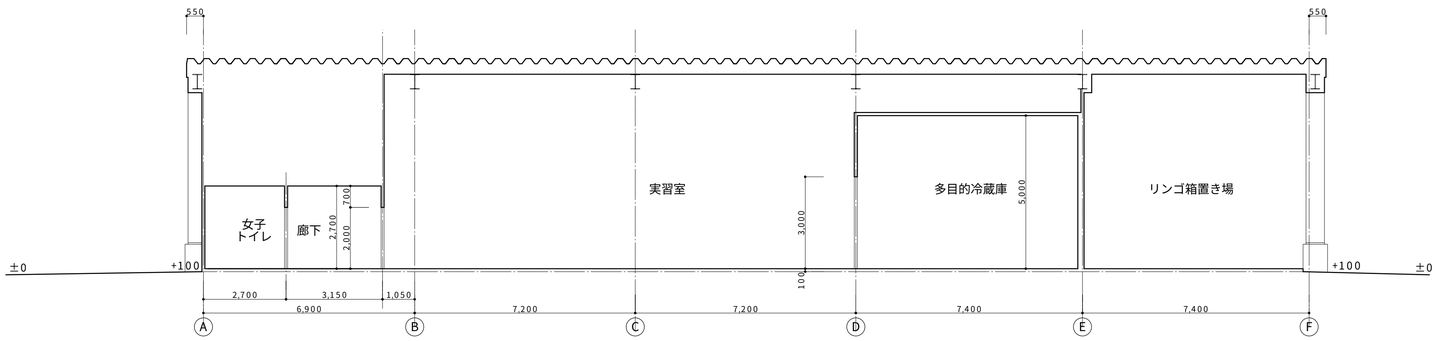
平均天井高さの算定
実習室
（5.800m＋6.850m）/2＝6.325m



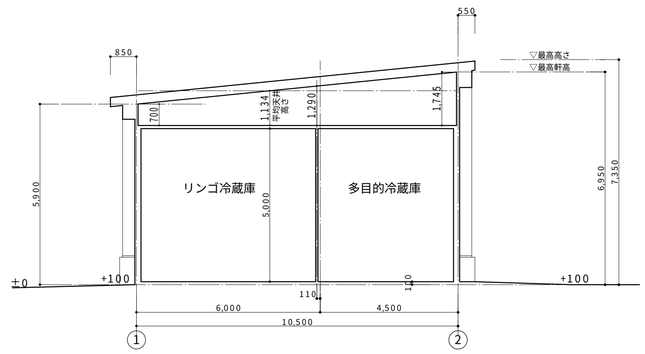
断面図　1/100

平均天井高さの算定
リンゴ冷蔵庫・多目的冷蔵庫上部
リンゴ冷蔵庫床面積：87.91m2
多目的冷蔵庫床面積：34.18m2

リンゴ冷蔵庫上部容積(m3)＝（（0.70m＋1.29m）×5.89/2）×14.80＝86.73m3
多目的冷蔵庫上部容積(m3)＝（（1.29m＋1.745m）×4.61/2）×7.40＝51.76m3
平均天井高さ(m)＝（86.73+51.76）m3/（87.91+34.18）m2＝1.134m



断面図　1/100

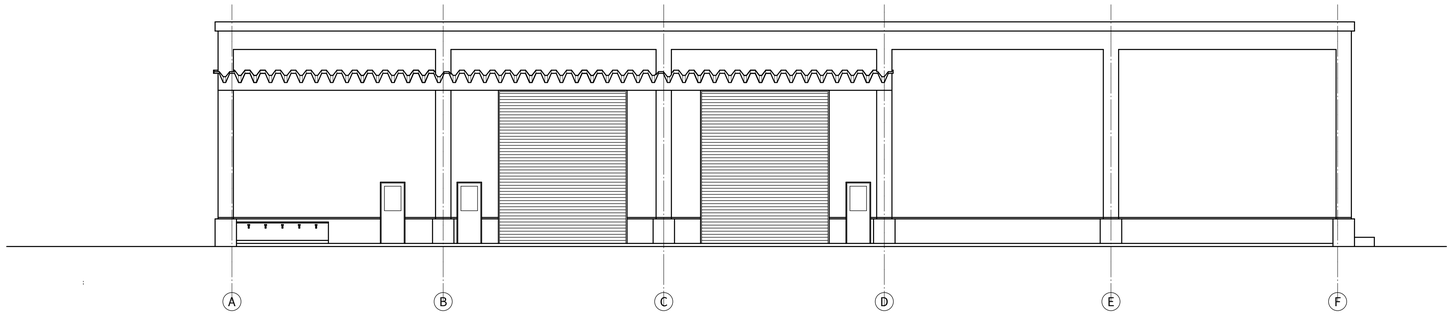


断面図　1/100

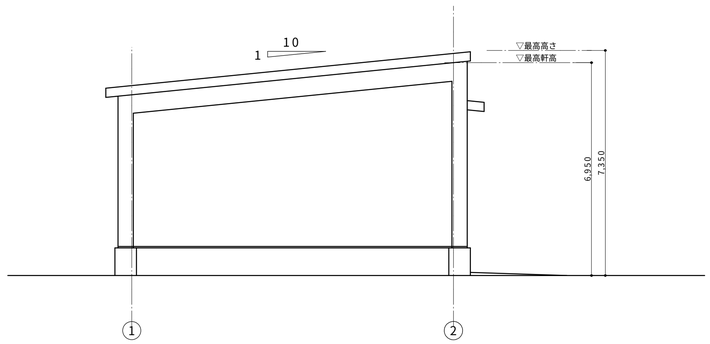
特記事項		承　認	検　図	担　当	製　図
MEMO					

TE-RU
TE-RU ARCHITECTS LTD
株式会社 てる設計
〒036-8085
青森県弘前市大字末広4-3-1
TEL0172-27-8647 FAX0172-27-8648
一級建築士事務所 青森県知事 第716号
一級建築士 建設大臣 第213208号
福士 晃昭

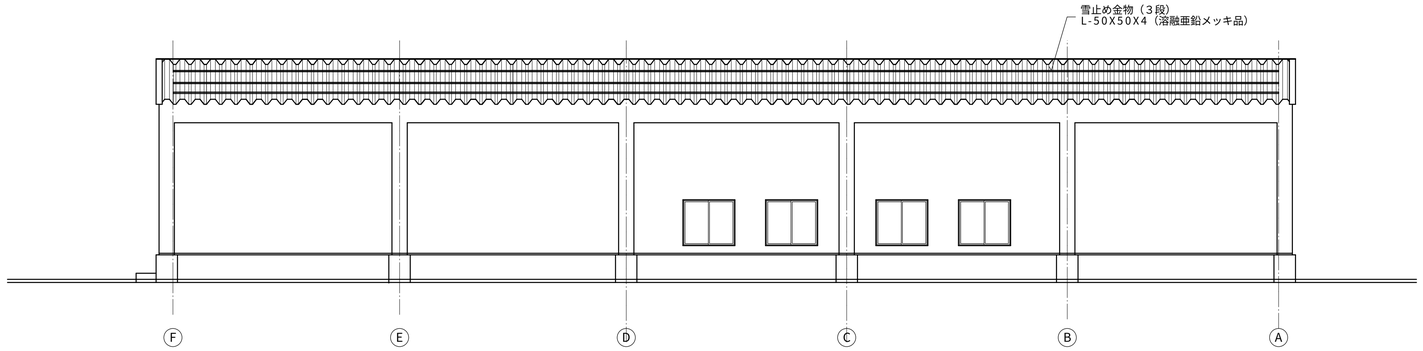
工事名称	五所川原農林高等学校実習棟（リンゴ冷蔵庫）改築工事		図面番号
図面名称	断面図		A-20
縮　尺	A1：1/100 A3：1/200	年 月 日　2025.12	



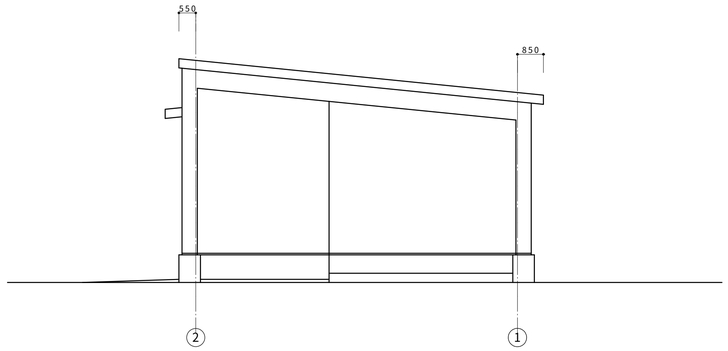
東側立面図　1/100



南側立面図　1/100



西側立面図　1/100

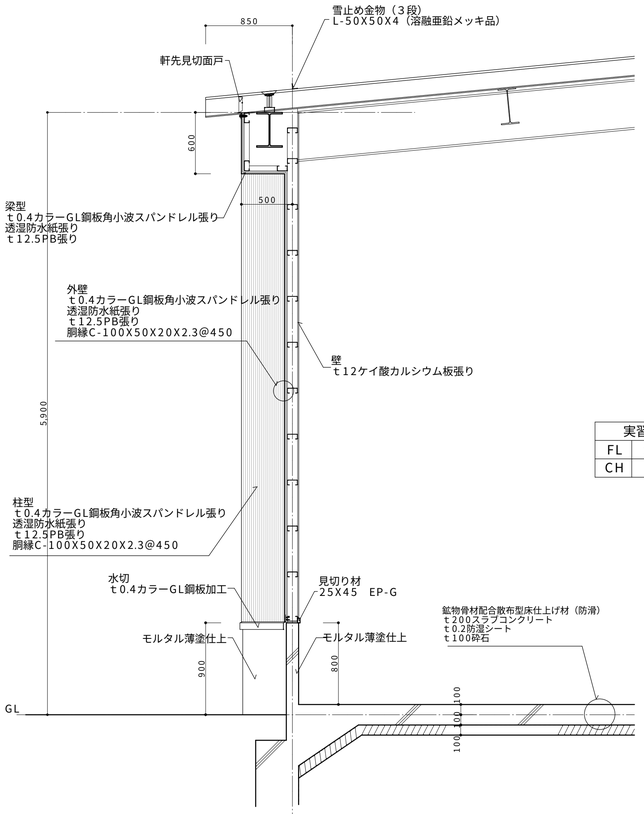


北側立面図　1/100

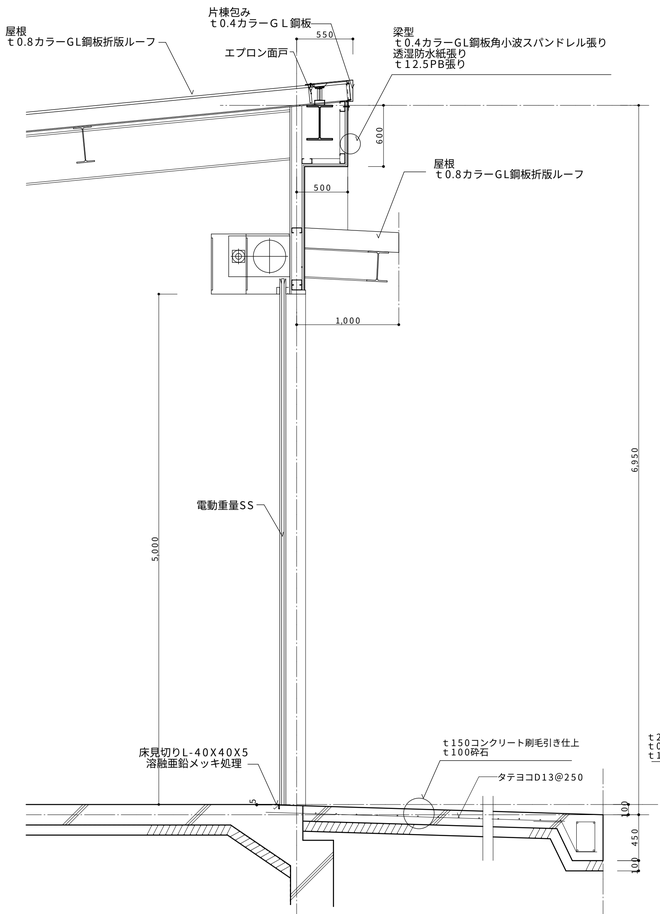
特記事項		承　認	検　図	担　当	製　図
MEMO					

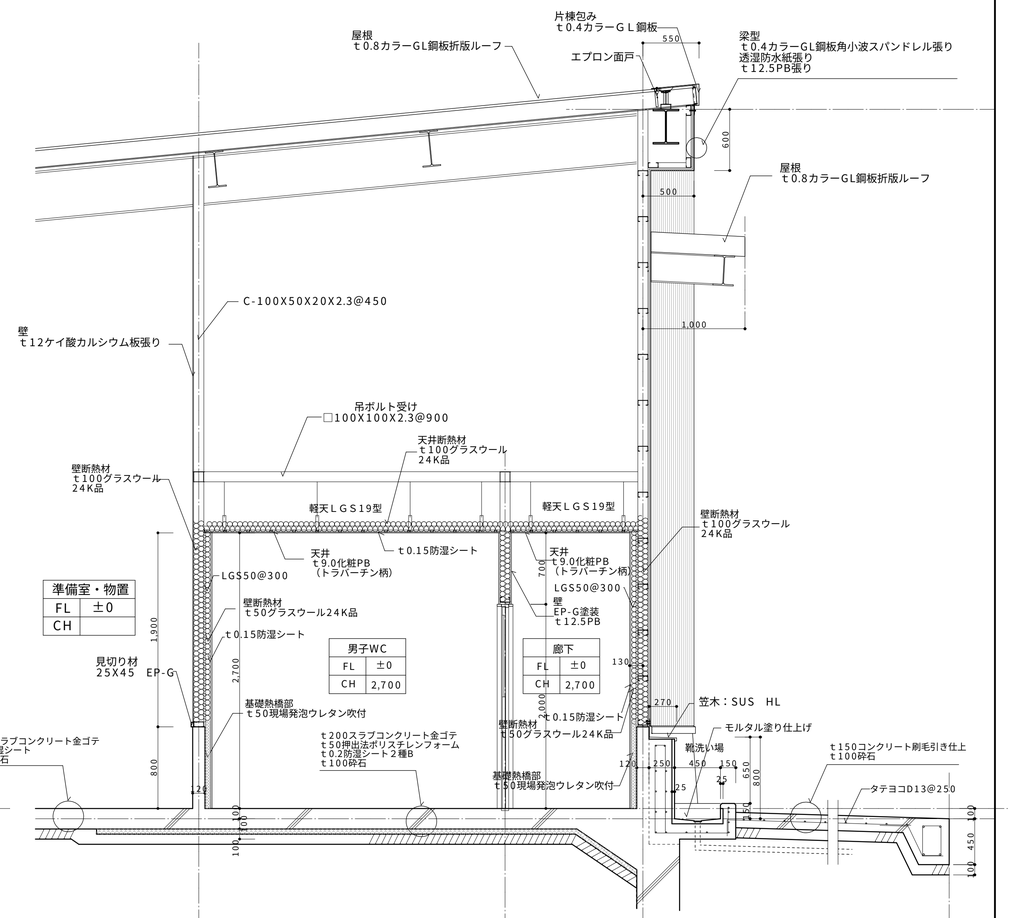
TE-RU
TE-RU ARCHITECTS LTD
株式会社 てる設計
〒036-8085
青森県弘前市大字末広4-3-1
TEL0172-27-8647 FAX0172-27-8648
一級建築士事務所 青森県知事 第716号
一級建築士 建設大臣 第213208号
福士 晃昭

工事名称	五所川原農林高等学校実習棟（リンゴ冷蔵庫）改築工事		図面番号
図面名称	立面図		A-21
縮　尺	A1：1/100 A3：1/200	年 月 日　2025.12	



実習室	
FL	±0
CH	



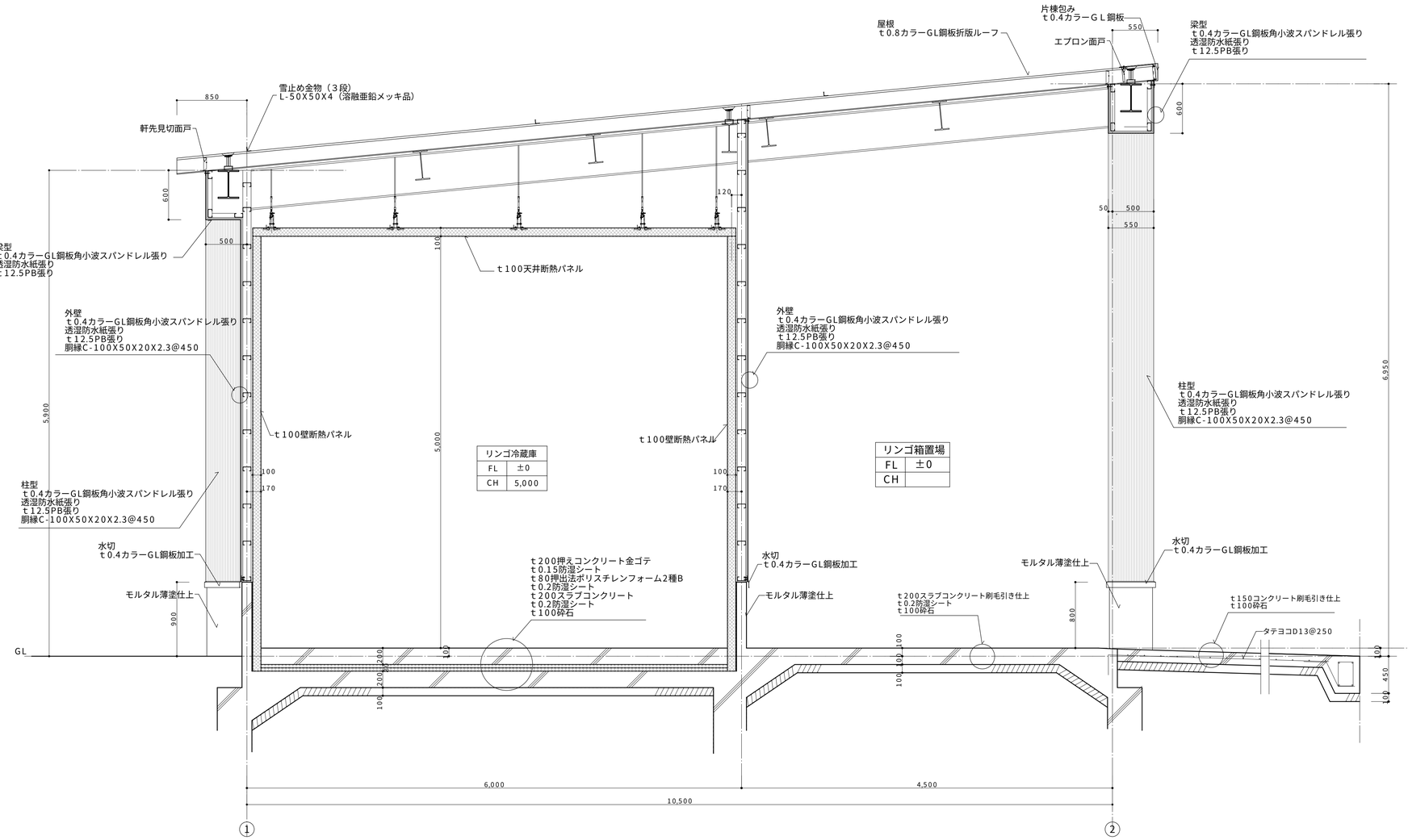


準備室・物置	
FL	±0
CH	

男子WC	
FL	±0
CH	2,700

廊下	
FL	±0
CH	2,700

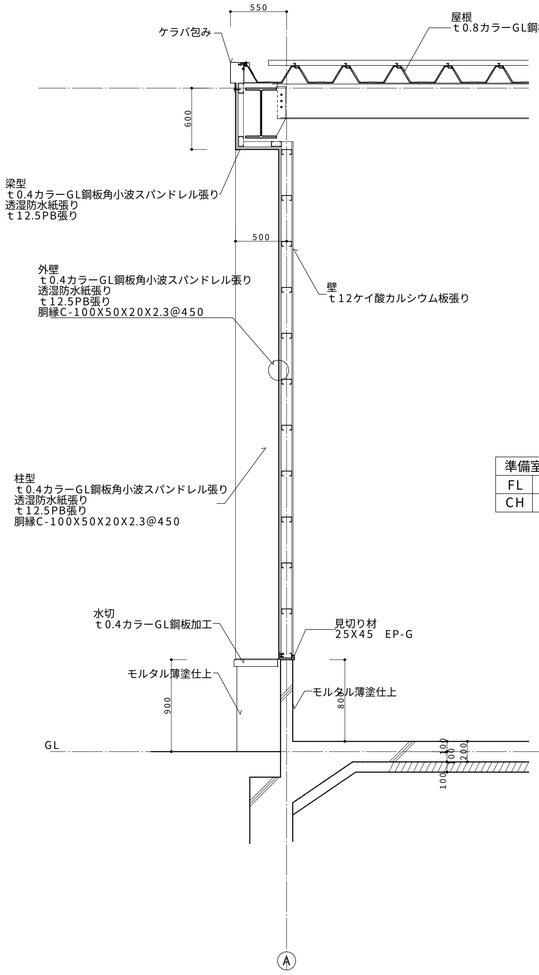
特記事項		承認	検図	担当	製図	TE-RU TE-RU ARCHITECTS LTD	〒036-8085 青森県弘前市大字末広4-3-1 TEL0172-27-8647 FAX0172-27-8648	工事名称	五所川原農林高等学校実習棟（リンゴ冷蔵庫）改築工事	図面番号
	MEMO					株式会社 てる設計	一級建築士事務所 青森県知事 第716号 一級建築士 建設大臣 第213208号 福士 晃昭	図面名称	断面詳細図1	A-22
								縮尺	A1：1/30 A3：1/60	年 月 日 2025.12



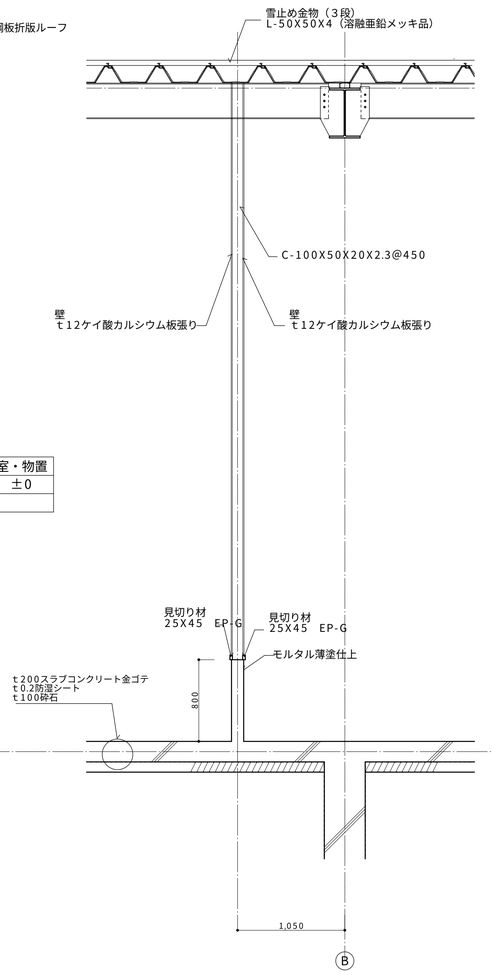
特記事項			承認	検図	担当	製図
MEMO						

TE-RU
TE-RU ARCHITECTS LTD
〒036-8085
青森県弘前市大字末広4-3-1
TEL0172-27-8647 FAX0172-27-8648
株式会社 てる設計
一級建築士事務所 青森県知事 第716号
一級建築士 建設大臣 第213208号
福士 晃昭

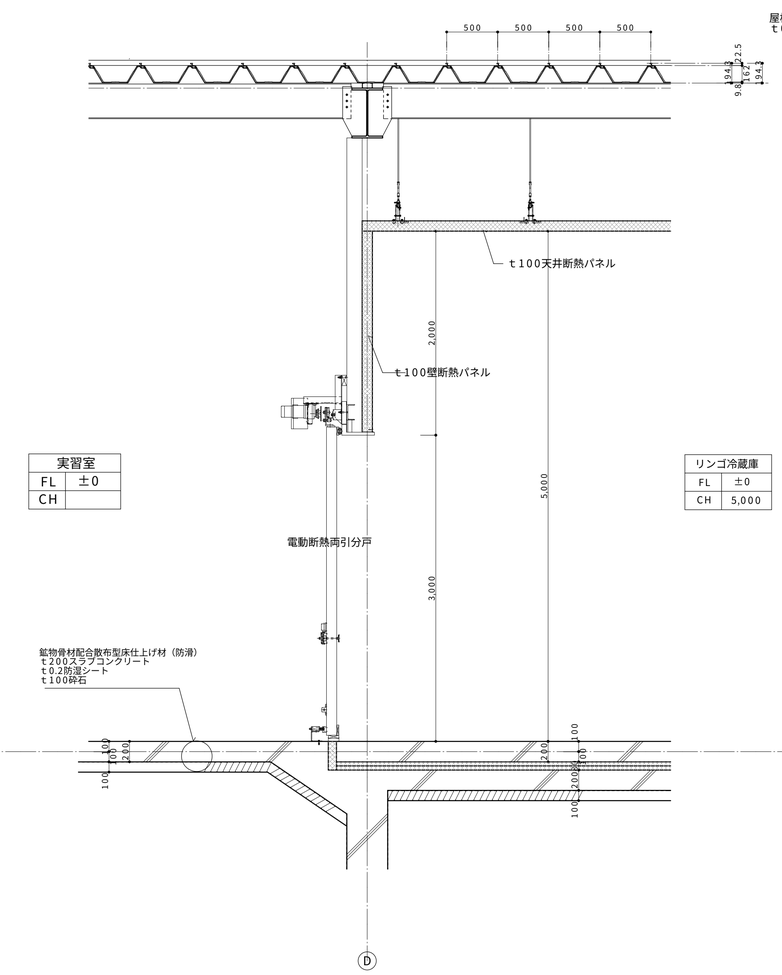
工事名称	五所川原農林高等学校実習棟（リンゴ冷蔵庫）改築工事		図面番号
図面名称	断面詳細図2		A-23
縮尺	A1：1/30 A3：1/60	年 月 日 2026.1	



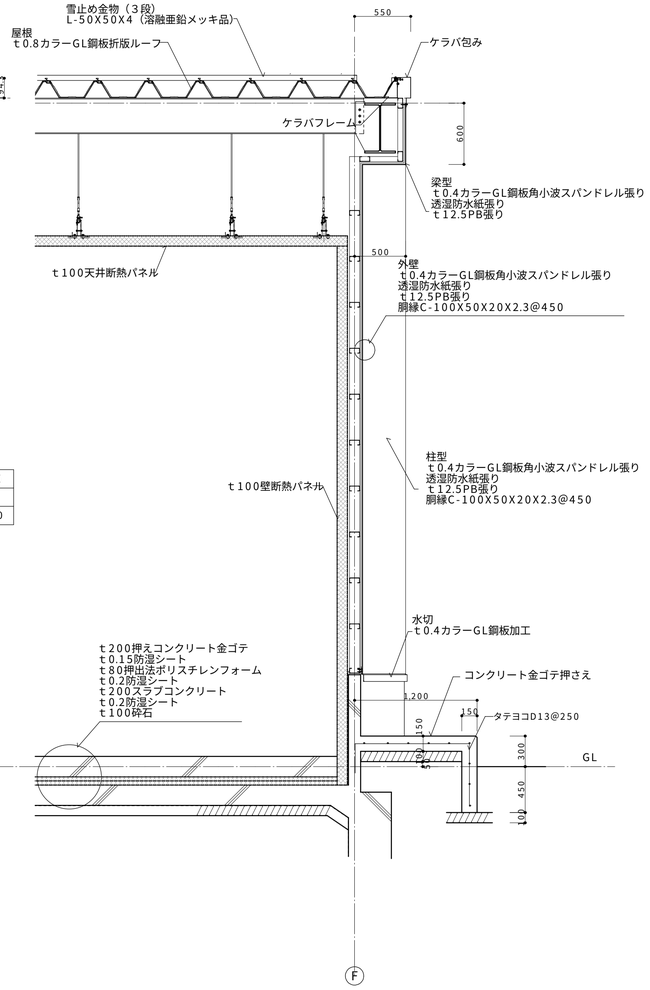
準備室・物置	
FL	±0
CH	



実習室	
FL	±0
CH	



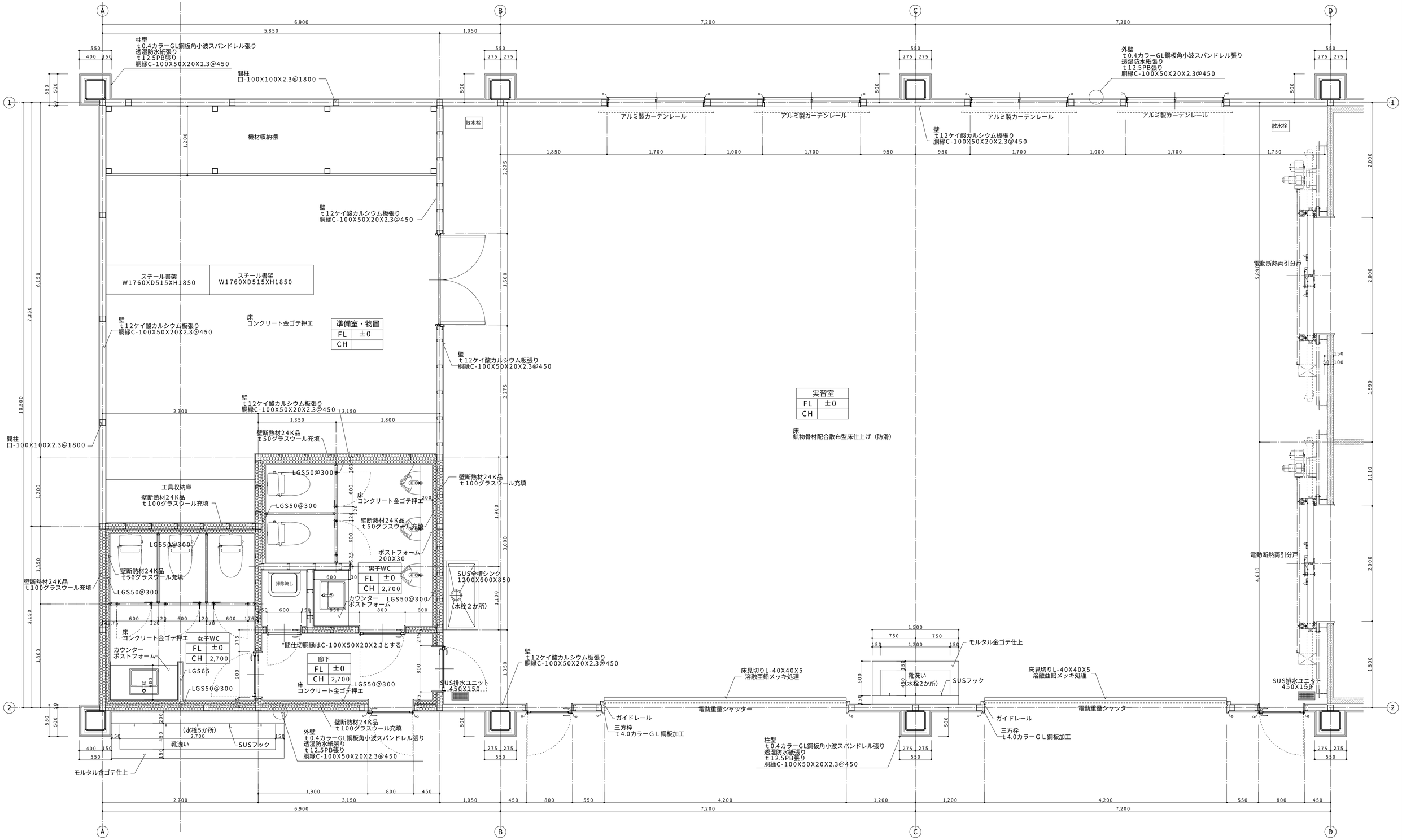
リンゴ冷蔵庫	
FL	±0
CH	5,000



特記事項		承認	検図	担当	製図
MEMO					

TE-RU
TE-RU ARCHITECTS LTD
〒036-8085
青森県弘前市大字末広4-3-1
TEL0172-27-8647 FAX0172-27-8648
株式会社 てる設計
一級建築士事務所 青森県知事 第716号
一級建築士 建設大臣 第213208号
福士 晃昭

工事名称	五所川原農林高等学校実習棟（リンゴ冷蔵庫）改築工事		図面番号
図面名称	断面詳細図3		A-24
縮尺	A1：1/30 A3：1/60	年 月 日 2026.1	



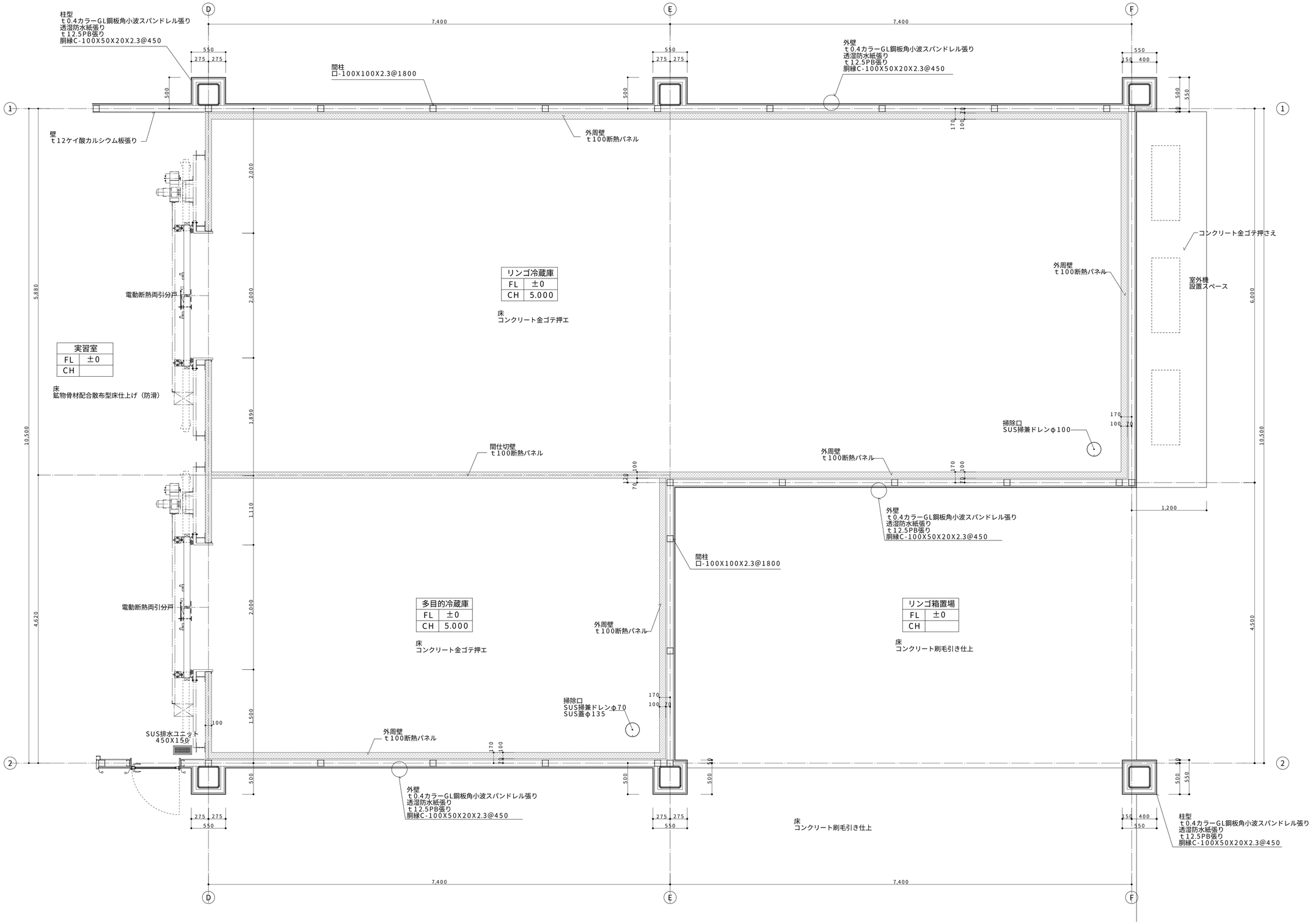
特記事項

承認	検図	担当	製図

MEMO

TE-RU
TE-RU ARCHITECTS LTD
〒036-8085
青森県弘前市大字末広4-3-1
TEL0172-27-8647 FAX0172-27-8648
株式会社 てる設計
一級建築士事務所 青森県知事 第716号
一級建築士 建設大臣 第213208号
福士 晃昭

工事名称	五所川原農林高等学校実習棟（リンゴ冷蔵庫）改築工事		図面番号
図面名称	平面詳細図1		A-25
縮尺	A1：1/30 A3：1/60	年月日 2026.1	

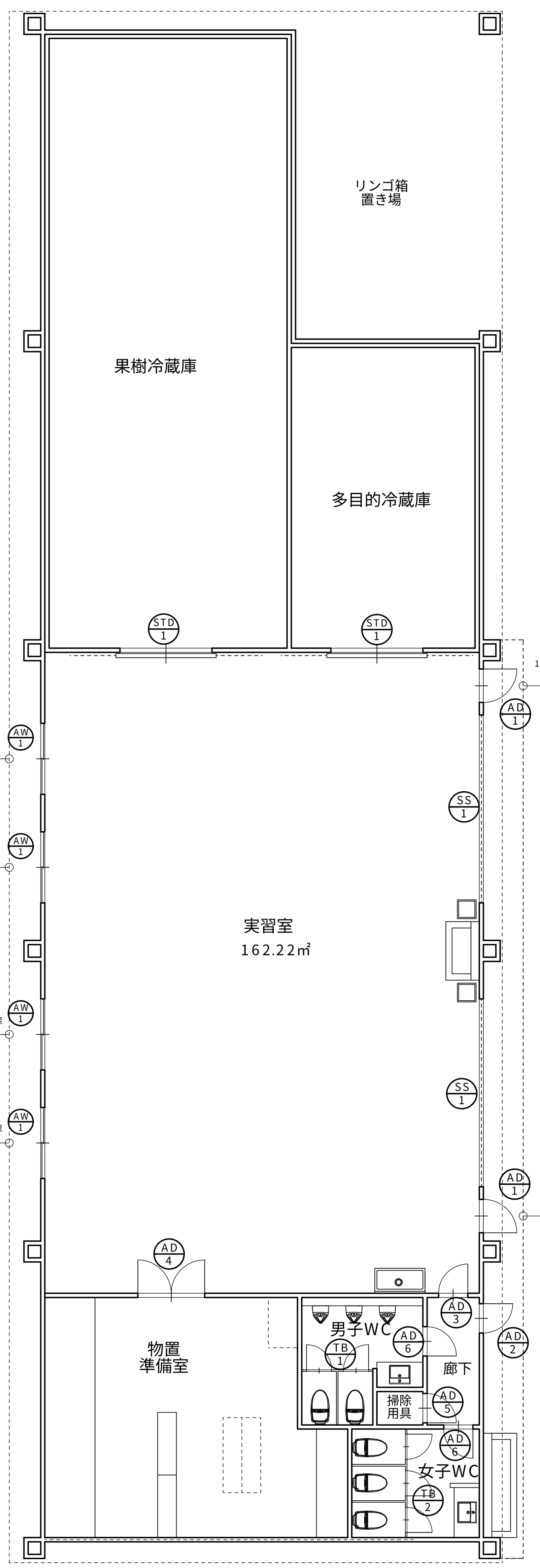


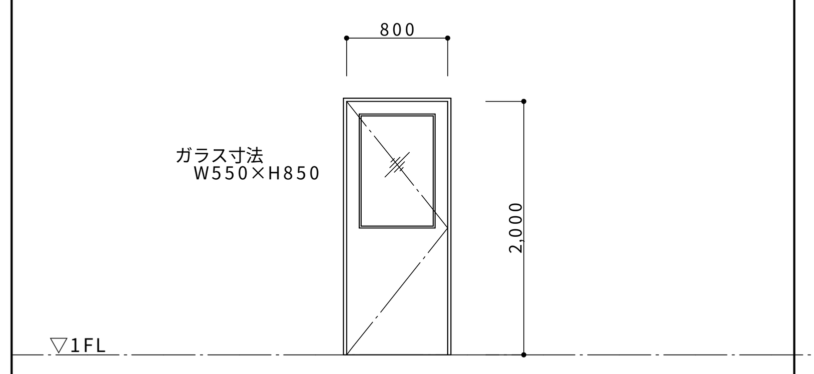
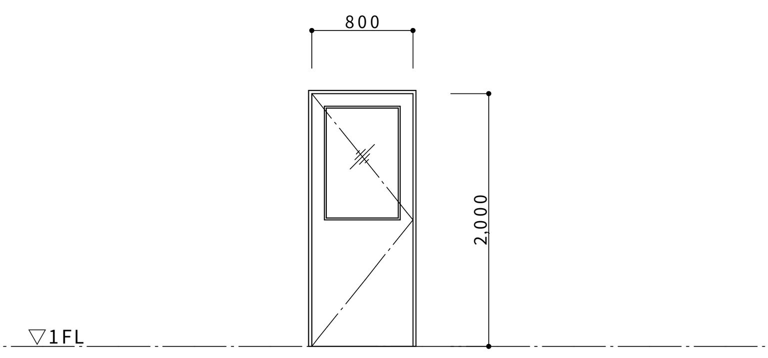
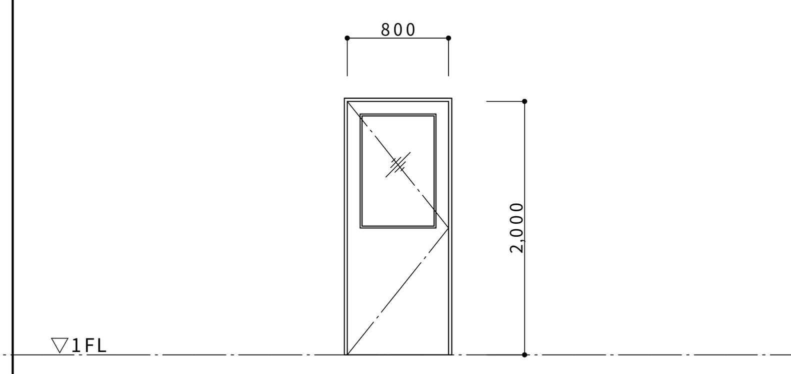
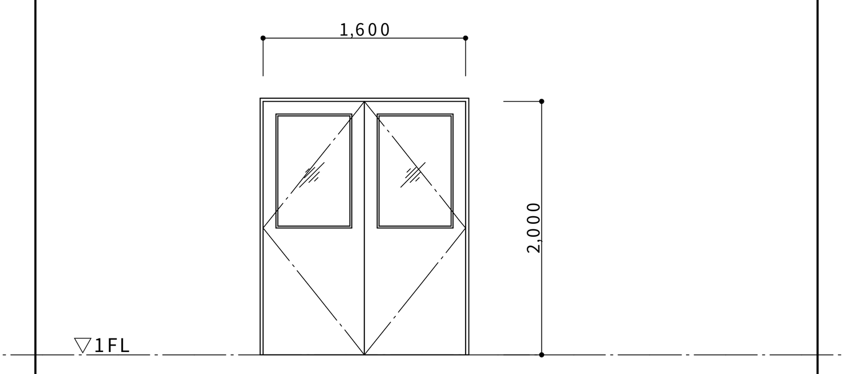
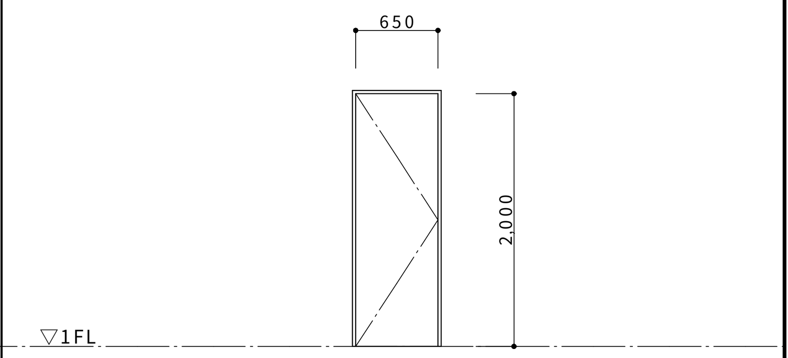
特記事項	承認	検図	担当	製図

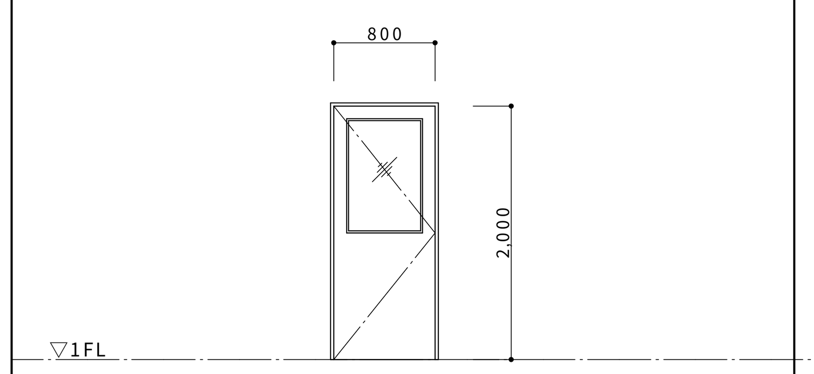
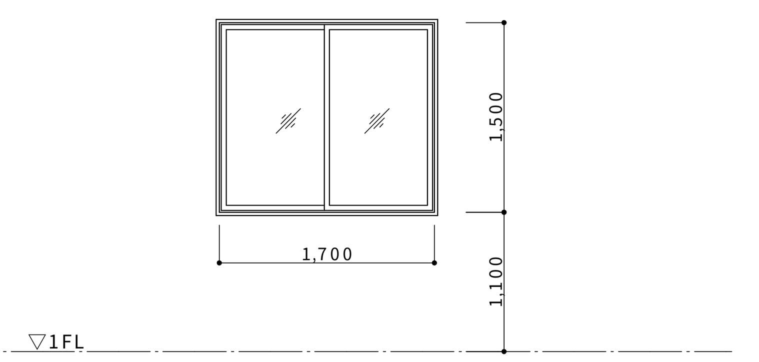
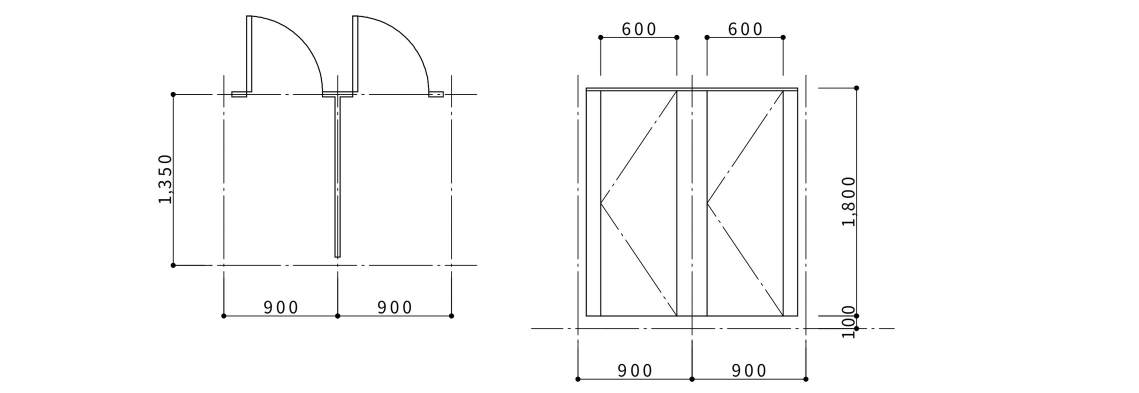
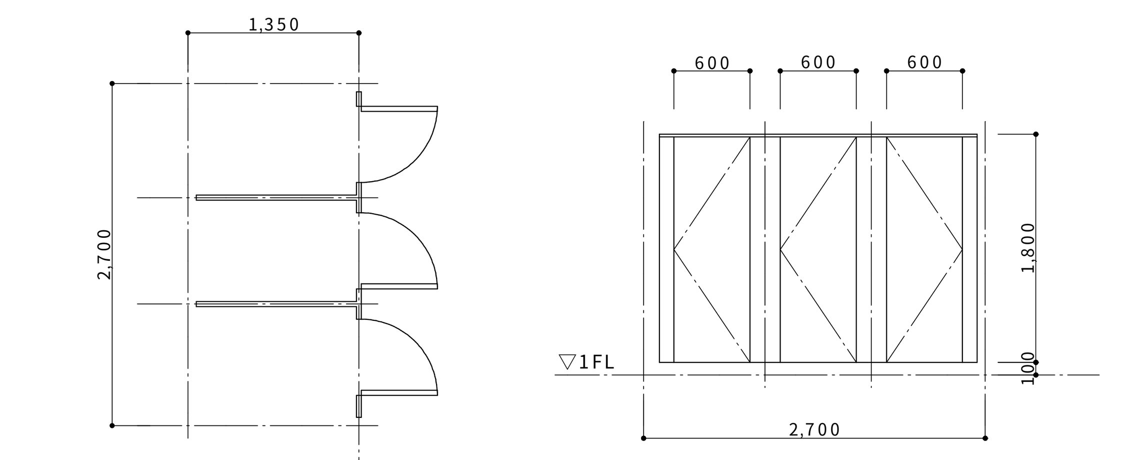
MEMO

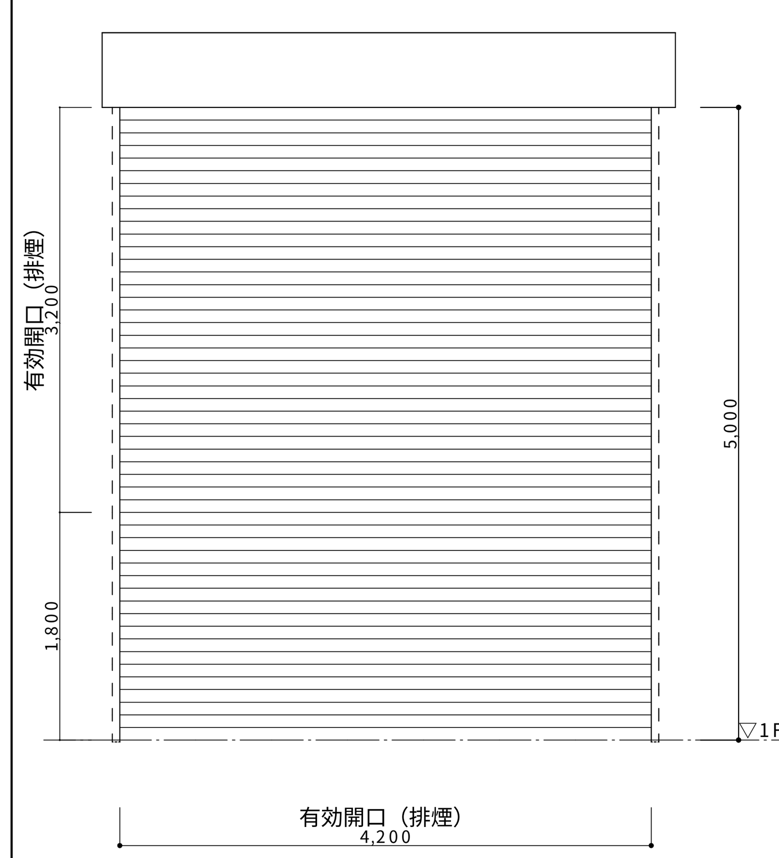
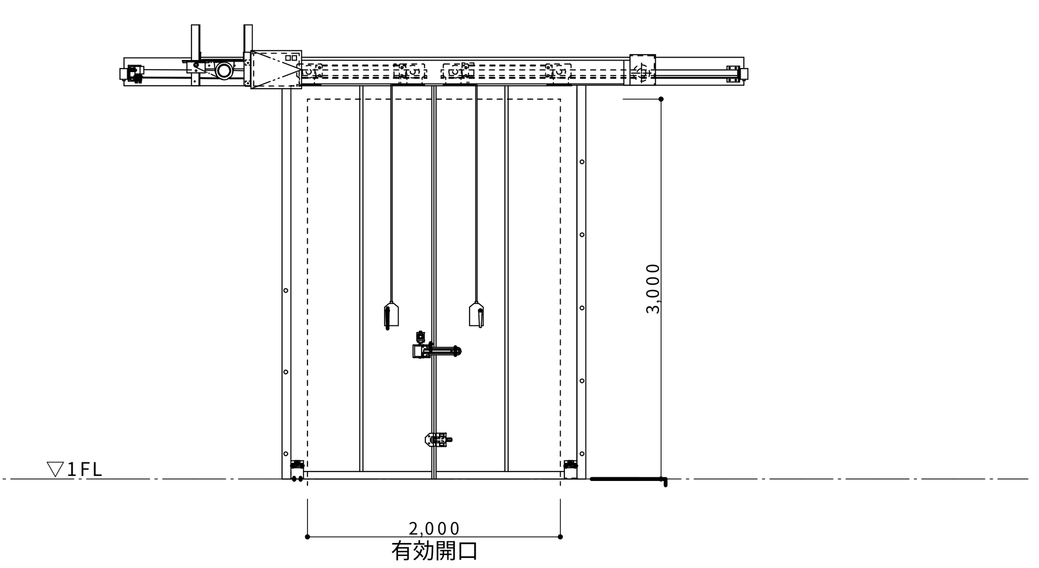
TE-RU
TE-RU ARCHITECTS LTD
〒036-8085
青森県弘前市大字末広4-3-1
TEL0172-27-8647 FAX0172-27-8648
株式会社 てる設計
一級建築士事務所 青森県知事 第716号
一級建築士 建設大臣 第213208号
福士 晃昭

工事名称	五所川原農林高等学校実習棟（リンゴ冷蔵庫）改築工事		図面番号
図面名称	平面詳細図2		A-26
縮尺	A1：1/30 A3：1/60	年月日 2026.1	



符号・個所	AD-1 2カ所	AD-2 1カ所	AD-3 1カ所	AD-4 1カ所	AD-5 1カ所
姿図					
名称・位置	片開きドア 実習室	片開きドア 廊下	片開きドア 廊下	両開きドア 準備室、物置	片開きドア 掃除用具入れ
仕上材	カラーアルミパネルフラッシュ 見込み：70mm	カラーアルミパネルフラッシュ （断熱パネル） 見込み：70mm	カラーアルミパネルフラッシュ （断熱パネル） 見込み：70mm	カラーアルミパネルフラッシュ 見込み：70mm	カラーアルミパネルフラッシュ （断熱パネル） 見込み：70mm
ガラス	FL3	F4-A12-FL3	F4-A12-FL3	FL3	
金物	丁番、レバーハンドル、シリンダー錠、サムターン、ドアクローザー 他一式	丁番、レバーハンドル、シリンダー錠、サムターン、ドアクローザー 他一式	丁番、レバーハンドル、ドアクローザー、他一式	丁番、レバーハンドル、シリンダー錠、サムターン、ドアクローザー フランス落とし、他一式	丁番、レバーハンドル、他一式
備考	アルミ額縁	アルミ額縁	アルミ額縁	アルミ額縁	アルミ額縁

符号・個所	AD-6 2カ所	AW-1 4カ所	TB-1	TB-2
姿図				
名称・位置	片開きドア 男子WC、女子WC	引違窓 実習室	トイレブース 男子WC	トイレブース 女子WC
仕上材	カラーアルミパネルフラッシュ （断熱パネル） 見込み：70mm	カラーアルミ 見込み：70mm	ポリエステル樹脂化粧板（ペーパーコア）アルミエッジ 見込み：40	ポリエステル樹脂化粧板（ペーパーコア）アルミエッジ 見込み：40
ガラス	F4-A12-FL3	FL3		
金物	丁番、レバーハンドル、サムターン、ドアクローザー、他一式	クレセント、水切り、網戸、他一式	ラバトリーヒンジ、表示錠、帽子掛け、頭繋ぎ、SUS巾木、他一式	ラバトリーヒンジ、表示錠、帽子掛け、頭繋ぎ、SUS巾木、他一式
備考	アルミ額縁	アルミ額縁		

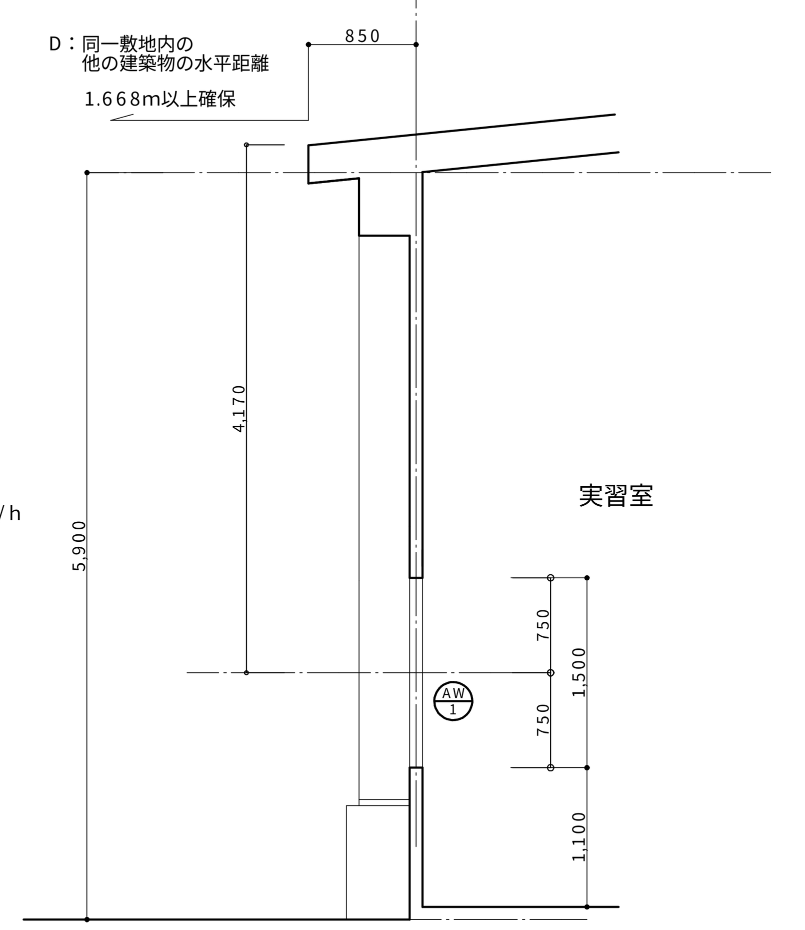
符号・個所	SS-1 2カ所	STD-1 2カ所
姿図		 *別紙詳細図参照
名称・位置	電動式スチールシャッター 実習室	電動式引分式冷蔵庫扉 リンゴ冷蔵庫、多目的冷蔵庫
仕上材	t1.6スチールスラット	SUS面材、硬質ポリウレタンフォーム注入発泡
ガラス		
金物	モーター、制御装置、ガイドレール、セーフティセンサー、他一式	扉金具、デフロストヒーター、駆動モーター、起動スイッチ、他一式
備考	DP耐候性塗料塗り （鉄鋼面アクリルシリコン樹脂塗料B種）	

開口部検討	必要面積	設計面積	判定
採光必要面積（1/5）	162.22 / 5 = 32.44	（0.55×0.85×3.0×2箇所）+（1.7×1.5×3.0×4箇所）=33.40	32.44<33.40 OK
排煙必要面積（1/50）	162.22 / 50 = 3.24	令126条の2第1項二号により緩和	―
換気必要面積（1/20）	162.22 / 20 = 8.11	機械換気とする	―

採光補正係数：D/4.17×10-1.0=3.0
D=1.668m

D：同一敷地内の
他の建築物の水平距離
1.668m以上確保

令20条の2 必要有効換気量
20×（162.22-20×0）/10=324.44
EF-2 設計風量450m3/h×2台=900m3/h
324.44<900.0 ∴適合



消防法 無窓階検討表（1階）

床面積 379.05 ㎡	必要開口部 面積（A／30） 12.635 ㎡	有効開口部 面積合計 13.40 ㎡	算定結果 （普）・無	消防機関 ※

建具記号	開口部位置又は方角	床からの高さ（m）	幅(m) × 高さ(m) × ヶ所 = 小計	開口部面積小計（㎡）	開口部種別	※備考
AD-1	実習室	0	0.8 × 2.0 × 2 = 3.20	3.20	片開きドア	
AW-1	実習室	1.1	1.7 × 1.5 × 4 = 10.20	10.20	引違窓	
			小計	13.40		

特記事項

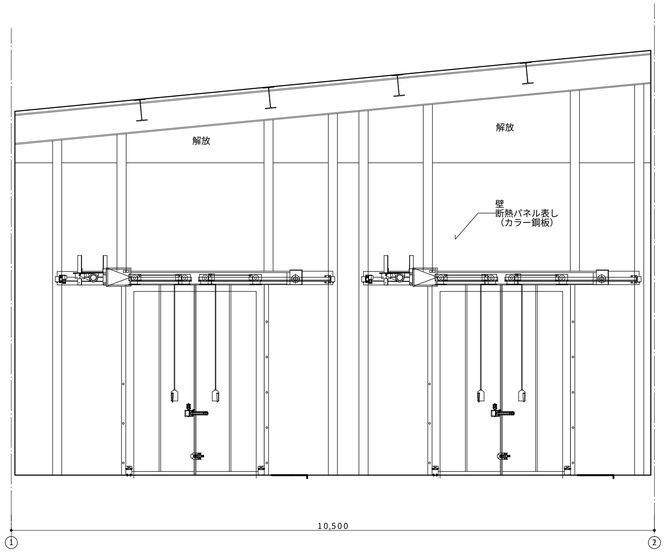
承認	検図	担当	製図

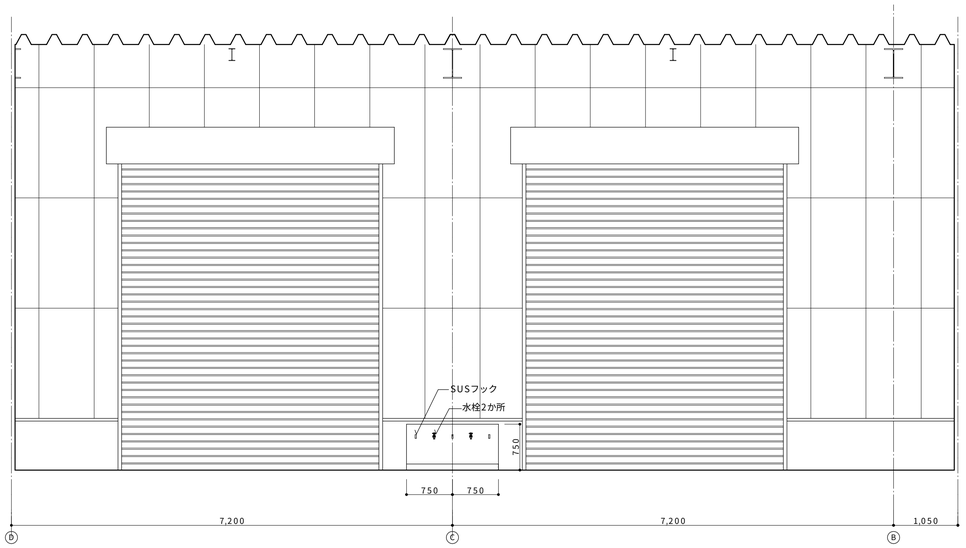
MEMO

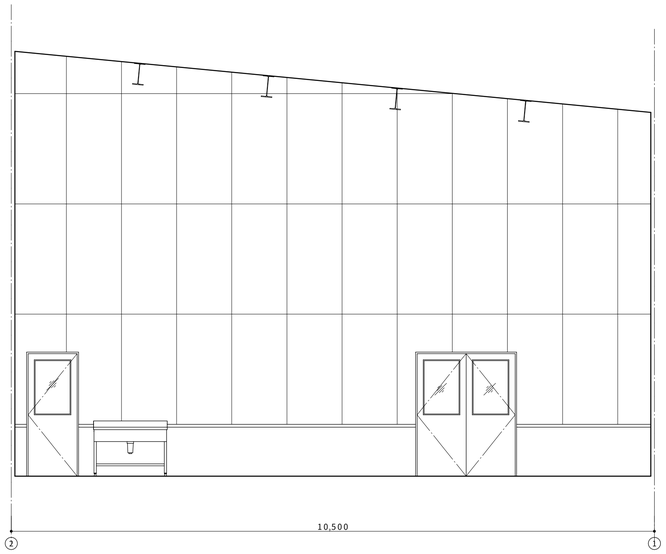
TE-RU
TE-RU ARCHITECTS LTD
株式会社 てる設計
〒036-8085
青森県弘前市大字末広4-3-1
TEL0172-27-8647 FAX0172-27-8648
一級建築士事務所 青森県知事 第716号
一級建築士 建設大臣 第213208号
福士 晃昭

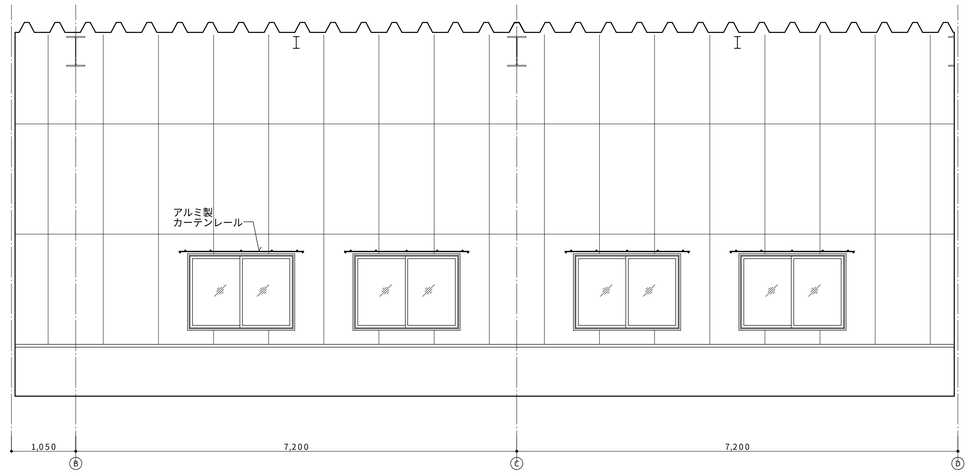
工事名称	五所川原農林高等学校実習棟（リンゴ冷蔵庫）改築工事		
図面名称	建具伏図、建具表		
縮尺	A1：1/50 A3：1/100	年月日	2025.12

図面番号 A-27









実習室	
床	コンクリート+鉱物骨材配合散布型床仕上げ材（防滑）
巾　木	基礎立上り　モルタル薄塗り仕上げ
腰　壁	ｔ12ケイ酸カルシウム板張り素地仕上げ一部断熱パネル表し
壁	ｔ12ケイ酸カルシウム板張り素地仕上げ一部断熱パネル表し
天　井	屋根折版裏表し
廻　縁	
備　考	アルミ製カーテンレール

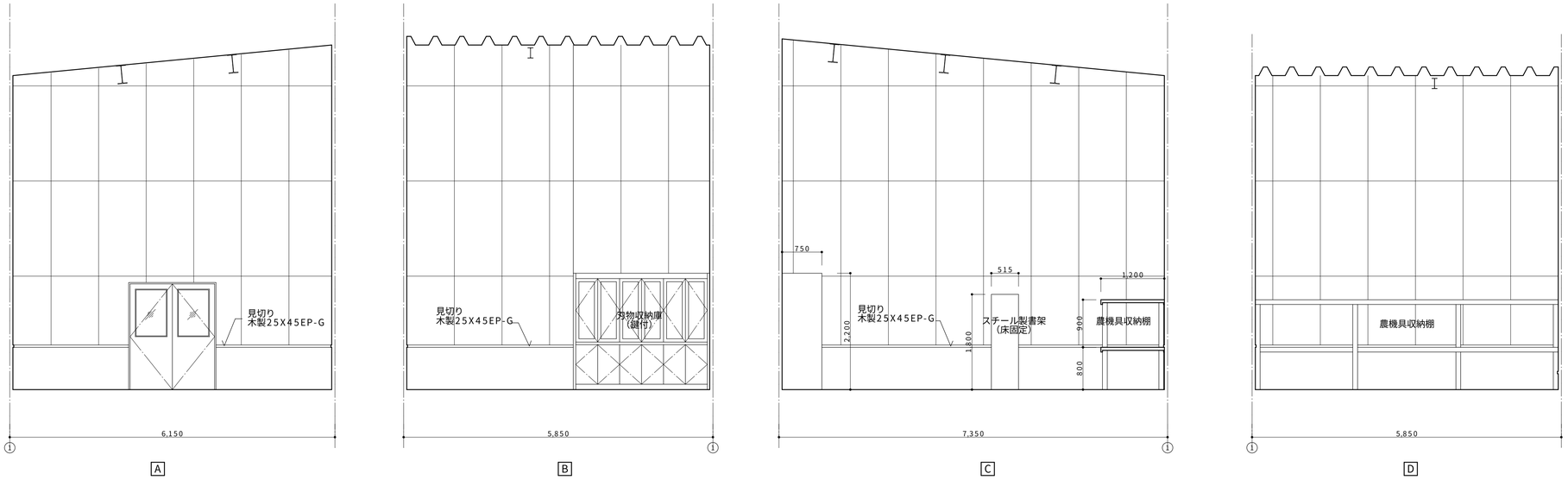
特記事項

	承　認	検　図	担　当	製　図

MEMO

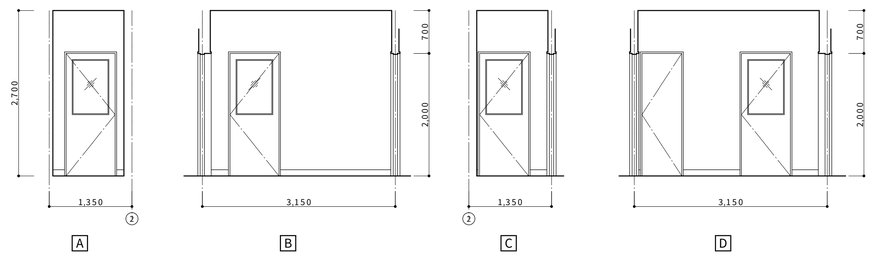
TE-RU
TE-RU ARCHITECTS LTD
〒036-8085
青森県弘前市大字末広4-3-1
TEL0172-27-8647 FAX0172-27-8648
株式会社 てる設計
一級建築士事務所 青森県知事 第716号
一級建築士 建設大臣 第213208号
福士 晃昭

工事名称	五所川原農林高等学校実習棟（リンゴ冷蔵庫）改築工事		図面番号
図面名称	展開図１（実習室）		A-28
縮　尺	A1：1/50 A3：1/100	年 月 日　2025.12	



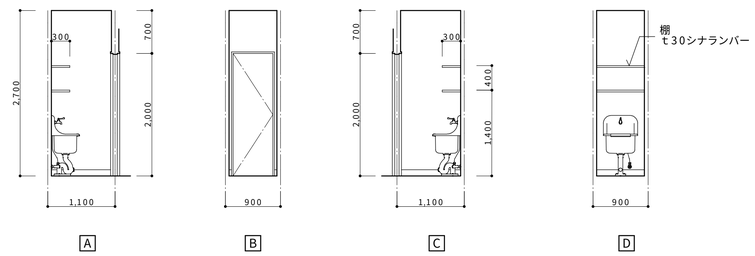
準備室・物置	
床	コンクリート金ゴテ押え
巾木	基礎立上り　モルタル薄塗り仕上げ
腰壁	t12ケイ酸カルシウム板張り　素地仕上げ
壁	t12ケイ酸カルシウム板張り　素地仕上げ
天井	屋根折版裏表し
廻縁	
備考	刃物収納庫（鍵付）、スチール書架X2（固定）
	農機具収納棚

準備室・物置



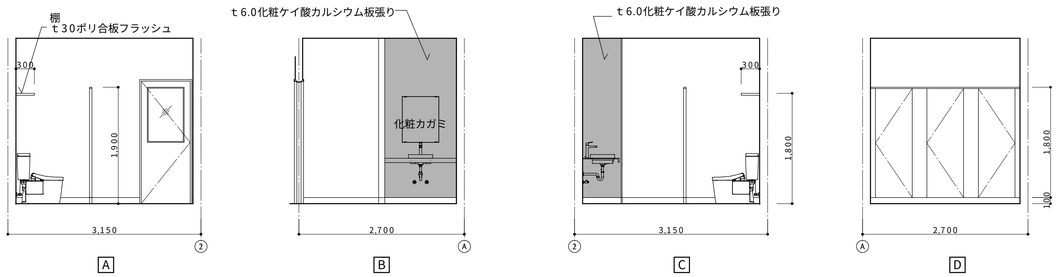
廊下	
床	コンクリート金ゴテ押え
巾木	ソフト巾木H=100
腰壁	EP-G塗装
壁	EP-G塗装
天井	t9.5化粧PB（トラバーチン柄）
廻縁	塩ビコ型
備考	

廊下



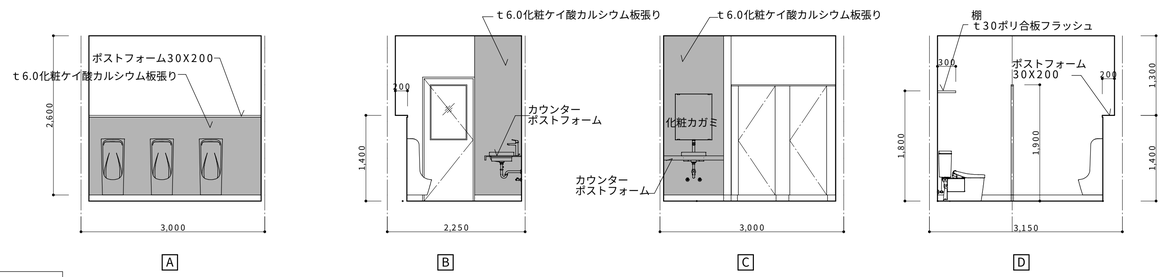
掃除用具入れ	
床	コンクリート金ゴテ押え
巾木	ソフト巾木H=100
腰壁	EP-G塗装
壁	EP-G塗装
天井	t9.5化粧PB（トラバーチン柄）
廻縁	塩ビコ型
備考	棚

掃除用具入れ



女子WC	
床	コンクリート金ゴテ押え
巾木	ソフト巾木H=100
腰壁	EP-G塗装、一部t6.0化粧ケイ酸カルシウム板張り
壁	EP-G塗装、一部t6.0化粧ケイ酸カルシウム板張り
天井	t9.5化粧PB（トラバーチン柄）
廻縁	塩ビコ型
備考	棚、手洗いカウンター：ポストフォーム、化粧カガミ
	ピクトサイン

女子WC



男子WC	
床	コンクリート金ゴテ押え
巾木	ソフト巾木H=100
腰壁	EP-G塗装、一部t6.0化粧ケイ酸カルシウム板張り
壁	EP-G塗装、一部t6.0化粧ケイ酸カルシウム板張り
天井	t9.5化粧PB（トラバーチン柄）
廻縁	塩ビコ型
備考	棚、手洗いカウンター：ポストフォーム、化粧カガミ
	ライニング天板：ポストフォーム、ピクトサイン

男子WC

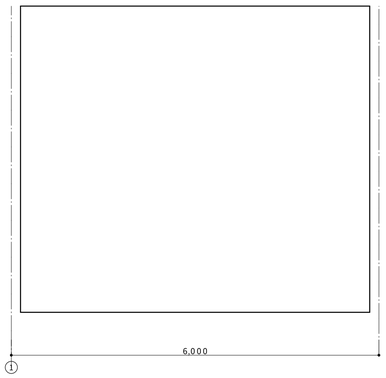
特記事項

承認	検図	担当	製図

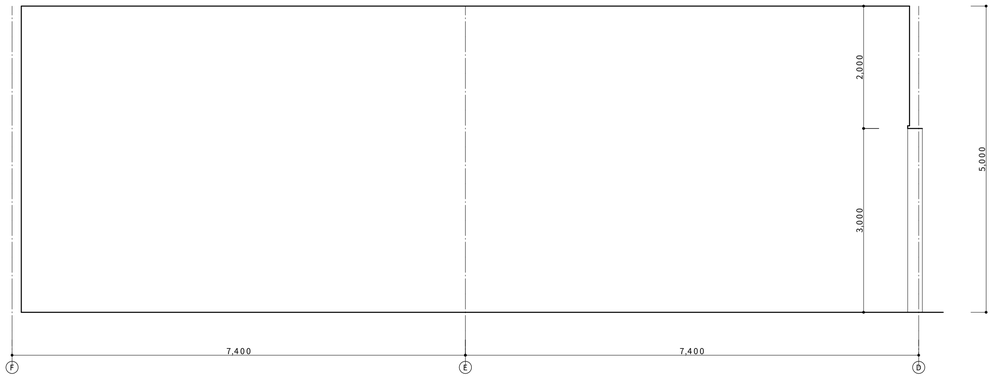
MEMO

TE-RU
TE-RU ARCHITECTS LTD
〒036-8085
青森県弘前市大字末広4-3-1
TEL0172-27-8647 FAX0172-27-8648
株式会社 てる設計
一級建築士事務所 青森県知事 第716号
一級建築士 建設大臣 第213208号
福士 晃昭

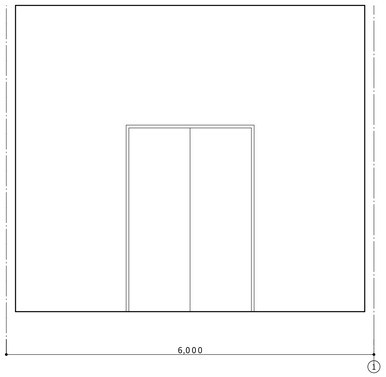
工事名称	五所川原農林高等学校実習棟（リンゴ冷蔵庫）改築工事		図面番号
図面名称	展開図2（準備室物置、廊下、掃除用具入れ、女子WC、男子WC）		A-29
縮尺	A1：1/50 A3：1/100	年月日　2025.12	



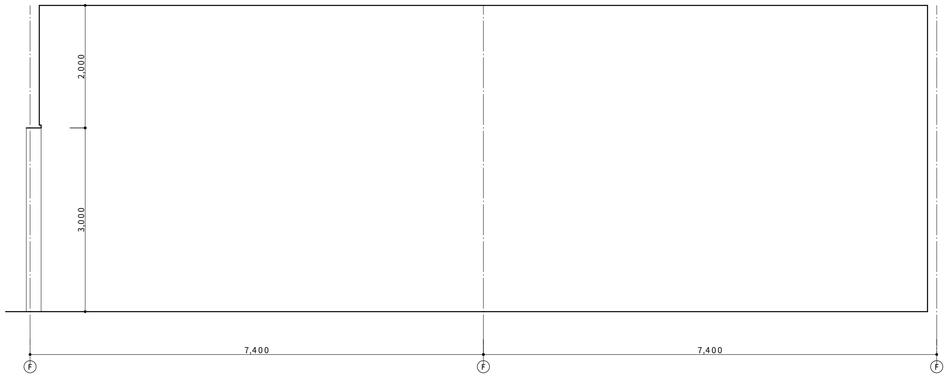
A



B

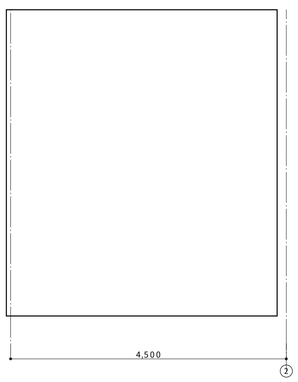


C

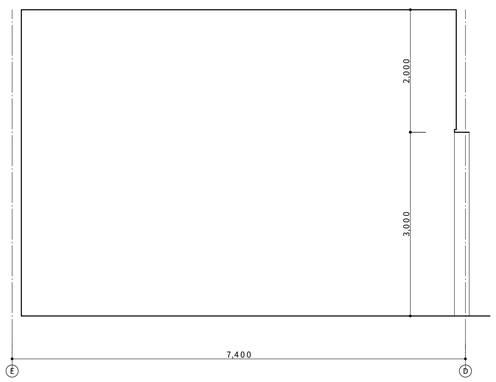


D

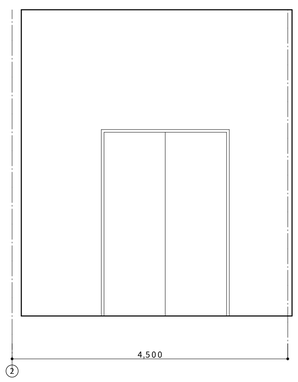
リンゴ冷蔵庫	
床	コンクリート金ゴテ押さえ
巾　木	t100断熱パネル（面材：カラー鋼板）
腰　壁	t100断熱パネル（面材：カラー鋼板）
壁	t100断熱パネル（面材：カラー鋼板）
天　井	t100断熱パネル（面材：カラー鋼板）
廻　縁	
備　考	



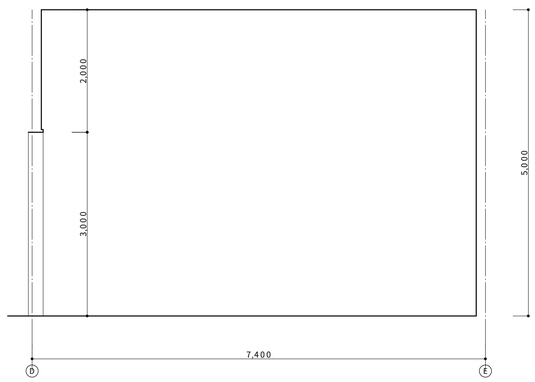
A



B



C



D

多目的冷蔵庫	
床	コンクリート金ゴテ押さえ
巾　木	t100断熱パネル（面材：カラー鋼板）
腰　壁	t100断熱パネル（面材：カラー鋼板）
壁	t100断熱パネル（面材：カラー鋼板）
天　井	t100断熱パネル（面材：カラー鋼板）
廻　縁	
備　考	

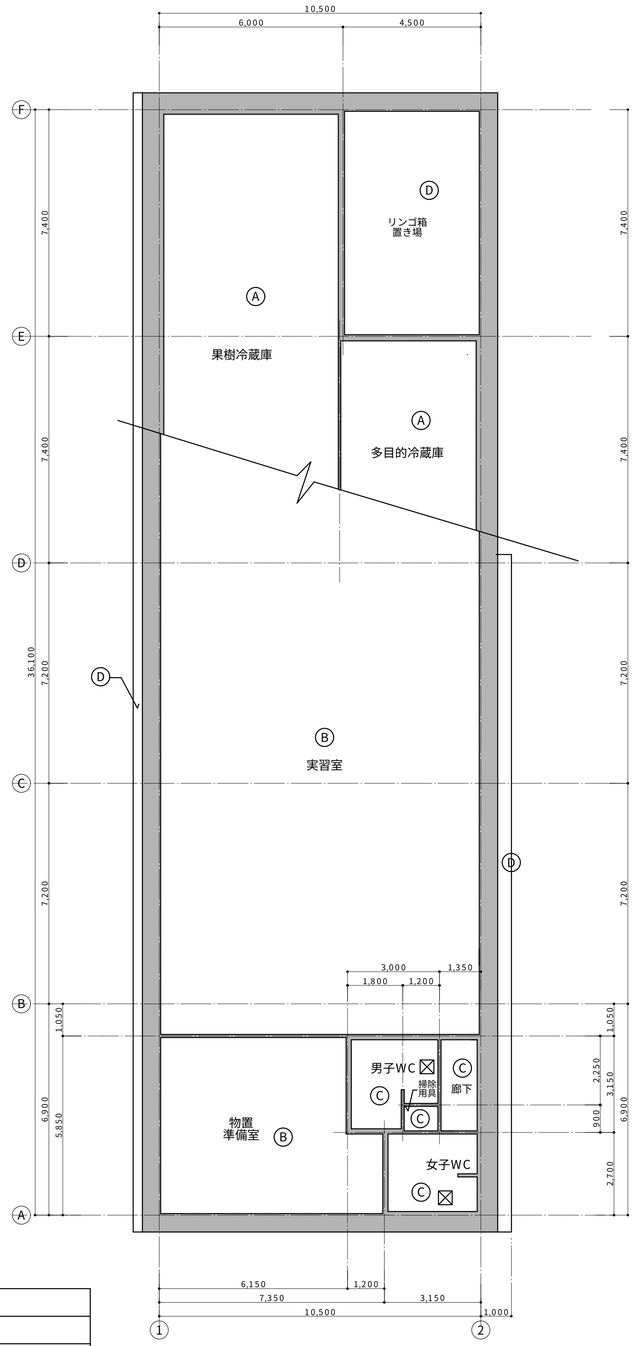
特記事項

承　認	検　図	担　当	製　図

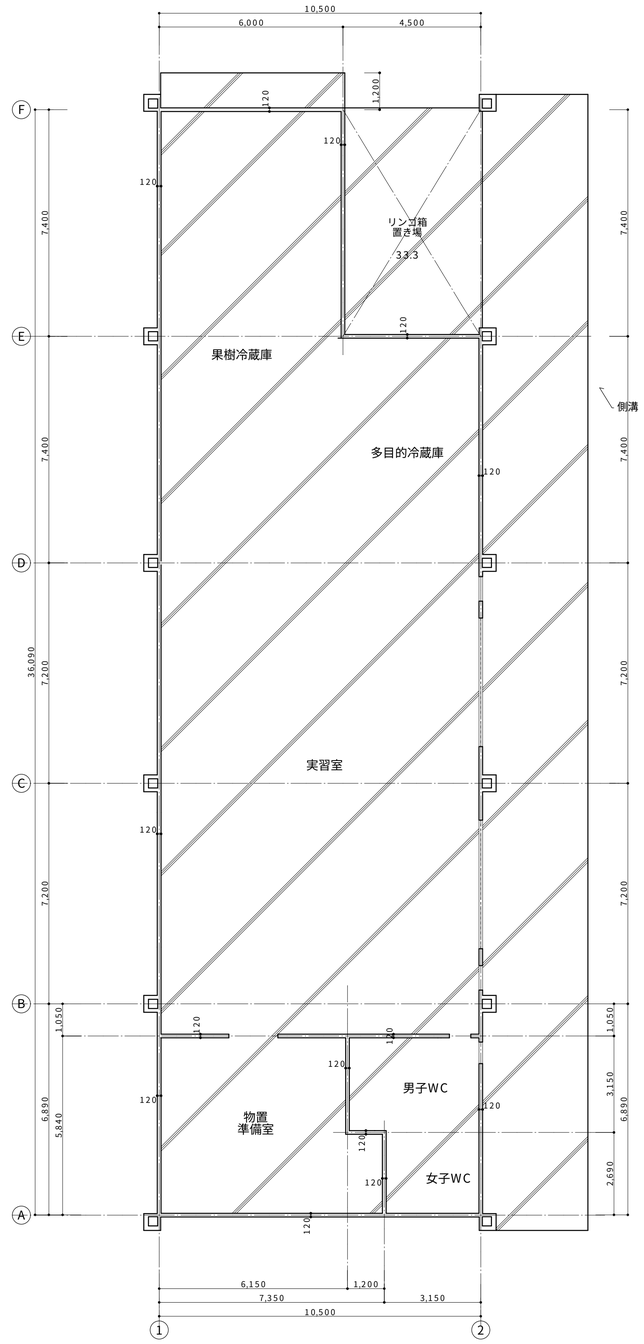
MEMO

TE-RU
TE-RU ARCHITECTS LTD
〒036-8085
青森県弘前市大字末広4-3-1
TEL0172-27-9647 FAX0172-27-8648
株式会社 てる設計
一級建築士事務所 青森県知事 第716号
一級建築士 建設大臣 第213208号
福士 晃昭

工事名称	五所川原農林高等学校実習棟（リンゴ冷蔵庫）改築工事		図面番号
図面名称	展開図3（リンゴ冷蔵庫、多目的冷蔵庫）		A-30
縮　尺	A1：1/50 A3：1/100	年 月 日　2025.12	



天井伏図　1/100



基礎立上部伏図　1/100

凡　　例	
符号、記号	仕上
Ⓐ	t100断熱パネル（面材：カラー鋼板）
Ⓑ	屋根折版裏表し（不燃裏打ち材：グレー色）
Ⓒ	t9.5化粧PB（トラバーチン柄）
Ⓓ	屋根折版裏表し
⊠	アルミ製天井点検口450X450

特記事項

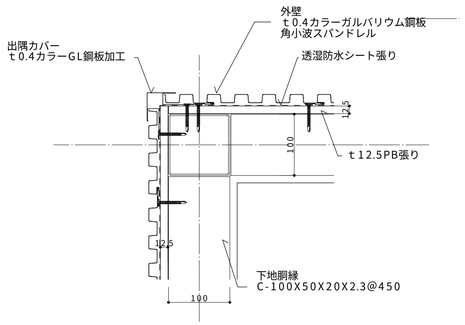
承　認	検　図	担　当	製　図

MEMO

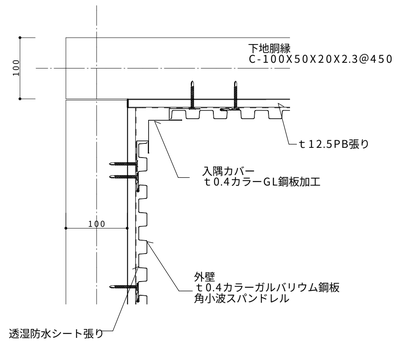
TE-RU
TE-RU ARCHITECTS LTD
〒036-8085
青森県弘前市大字末広4-3-1
TEL0172-27-8647 FAX0172-27-8648
株式会社 てる設計
一級建築士事務所 青森県知事 第716号
一級建築士 登録大臣 第213208号
福士 晃昭

工事名称	五所川原農林高等学校実習棟（リンゴ冷蔵庫）改築工事		図面番号
図面名称	天井伏図、基礎立上部伏図		A-31
縮　尺	A1：1/100 A3：1/200	年 月 日　2026.1	

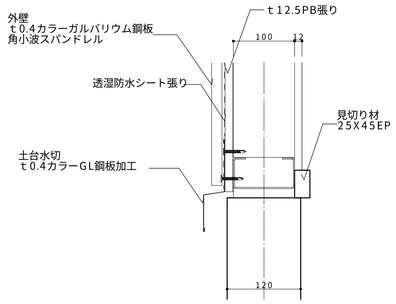
外壁出隅平面詳細図 1/5



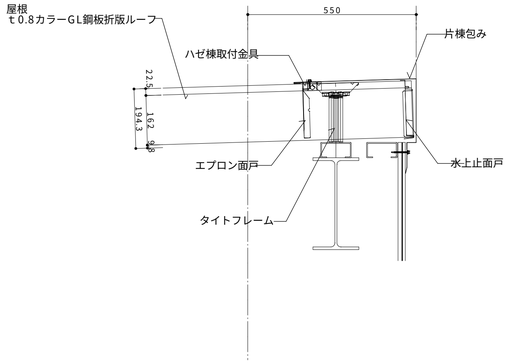
外壁入隅平面詳細図 1/5



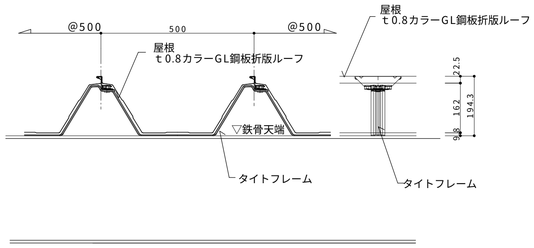
外部土台水切り断面詳細図 1/5



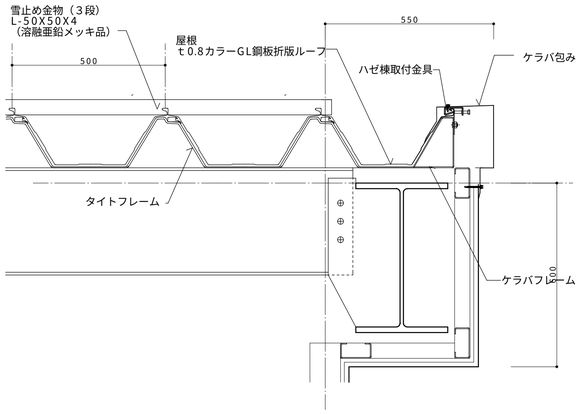
折版軒先包み（水上）詳細図 1/10



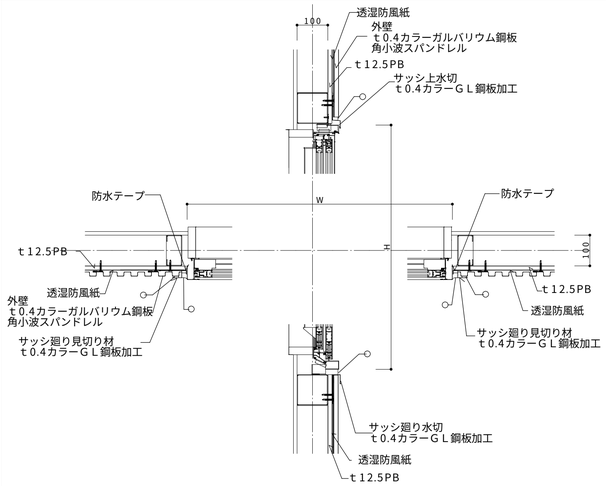
屋根折版詳細図 1/10



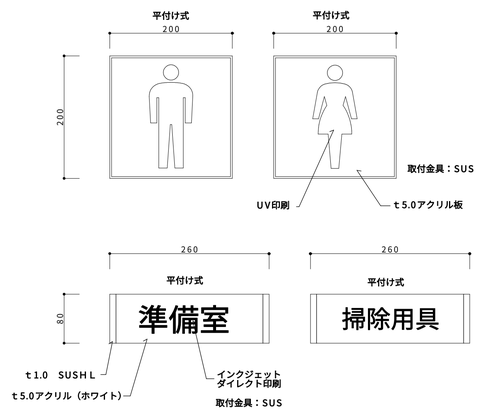
屋根折版ケラバ納まり詳細図 1/10



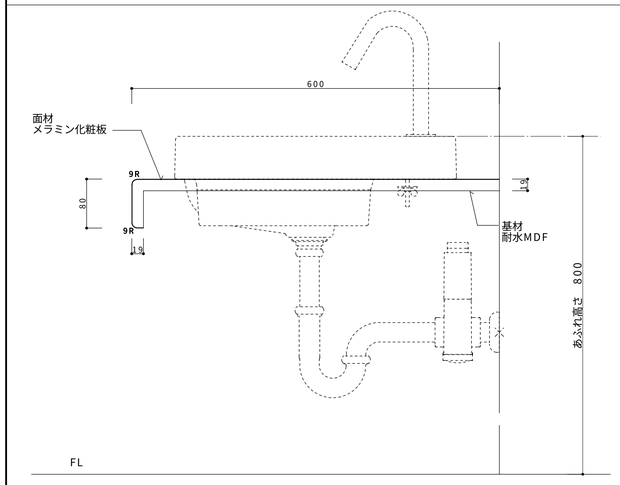
アルミサッシ廻り詳細図 1/10



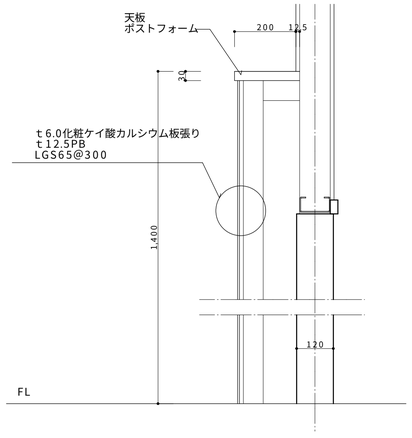
ピクトサイン（参考図） 1/5



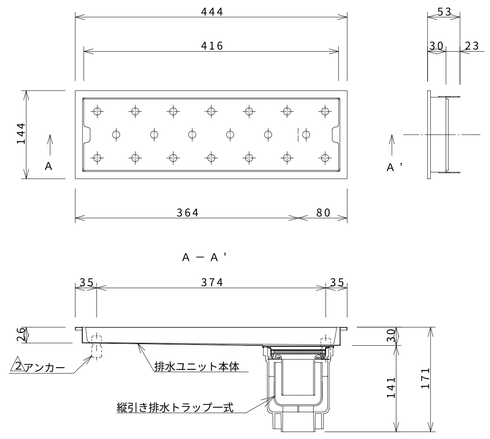
ポストフォームカウンター（WC手洗い）断面詳細図 1/5

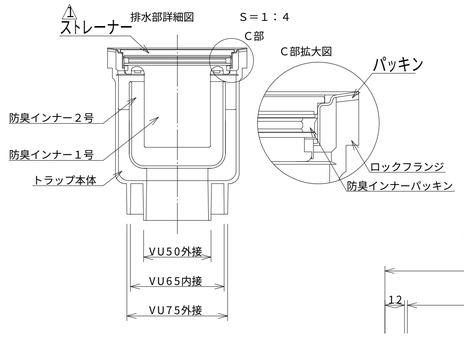


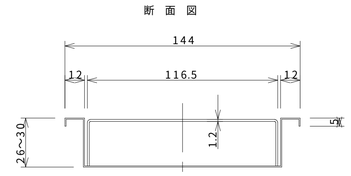
ライニング断面詳細図（男子WC） 1/10



SUS排水ユニット（参考図） 1/5





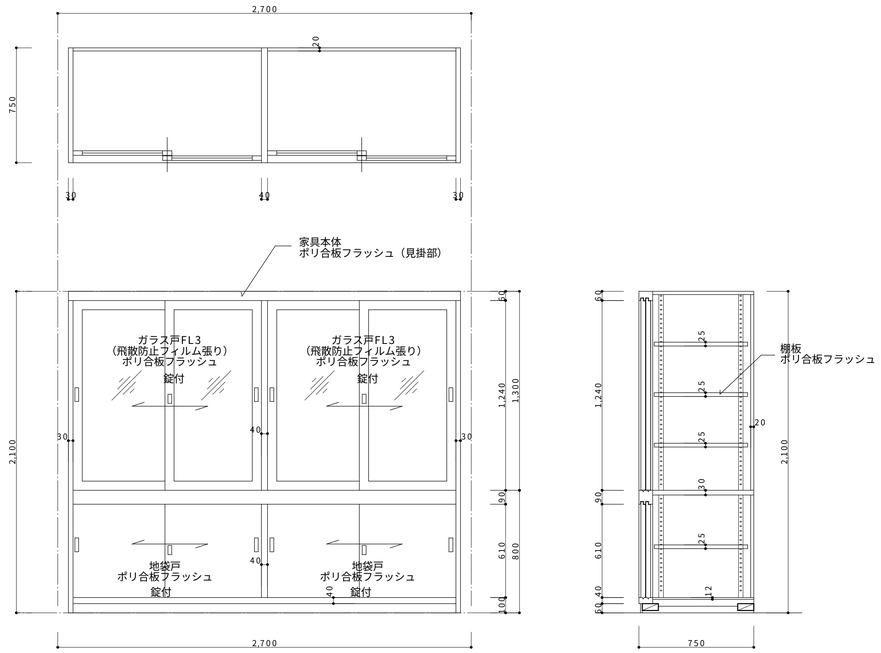


ＨＳＵＴ－１５Ｌ４５０同等品以上とすること。

特記事項		承 認	検 図	担 当	製 図				
						TE-RU TE-RU ARCHITECTS LTD	〒036-8085 青森県弘前市大字末広4-3-1 TEL0172-27-8647 FAX0172-27-8648	工事名称	五所川原農林高等学校実習棟（リンゴ冷蔵庫）改築工事
MEMO						株式会社 てる設計	一級建築士事務所 青森県知事 第716号 一級建築士 建設大臣 第213208号 福士 晃昭	図面名称	部分詳細図1
								縮 尺	A1：1/5、1/10 A3：1/10、1/20
								年 月 日	2026.1
								図面番号	A-32

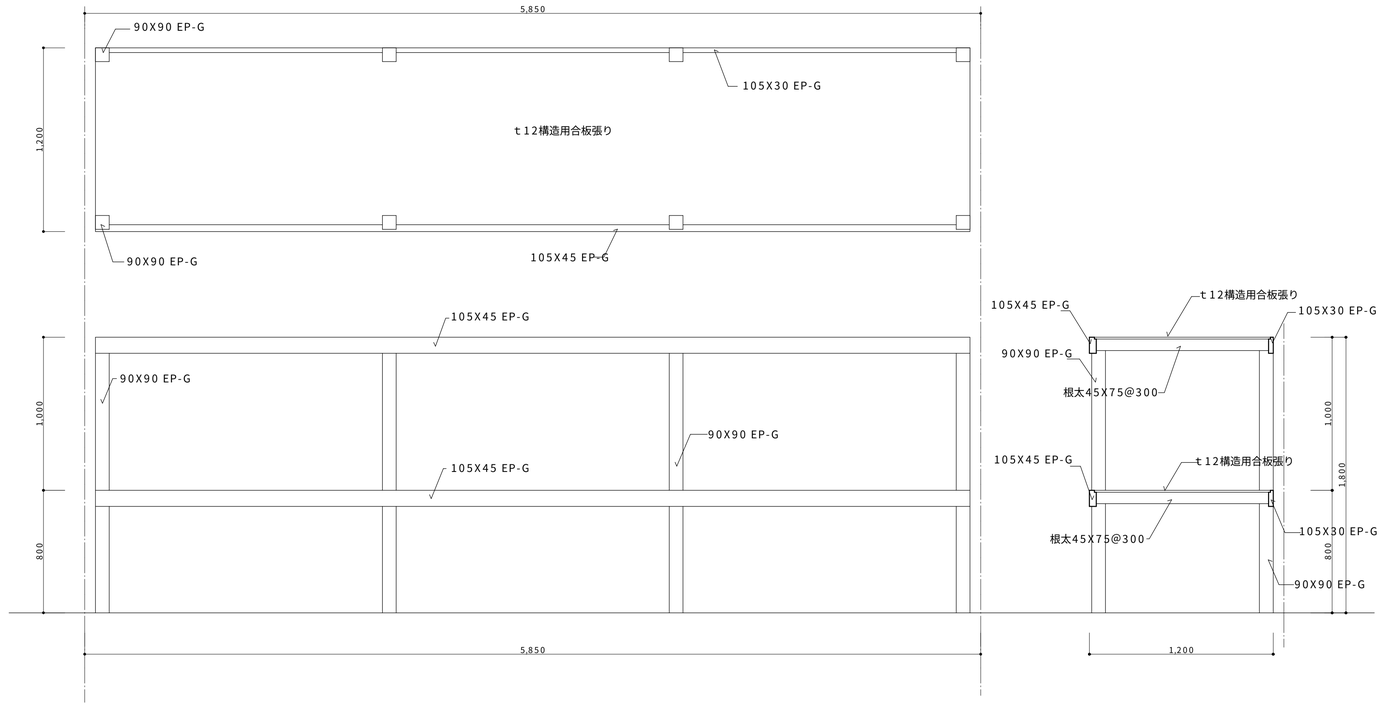
工具収納庫　詳細図

1/20



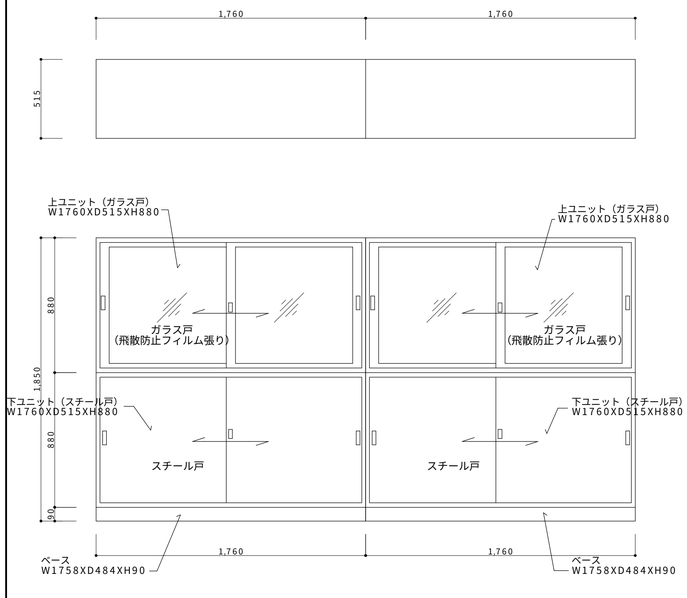
機材収納棚　詳細図

1/20



工具収納庫　詳細図

1/20

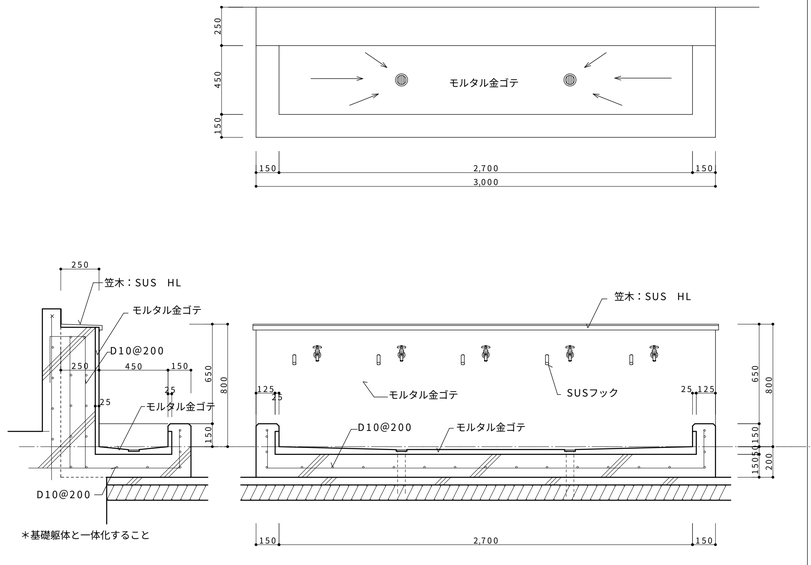


本体：扉、鋼板　焼付塗装
扉：錠付
錠：（開閉表示）
棚ピッチ：24mm

＊ベース、上下左右ユニットは固定し連結すること。
＊地震対策として床スラブと緊結すること。

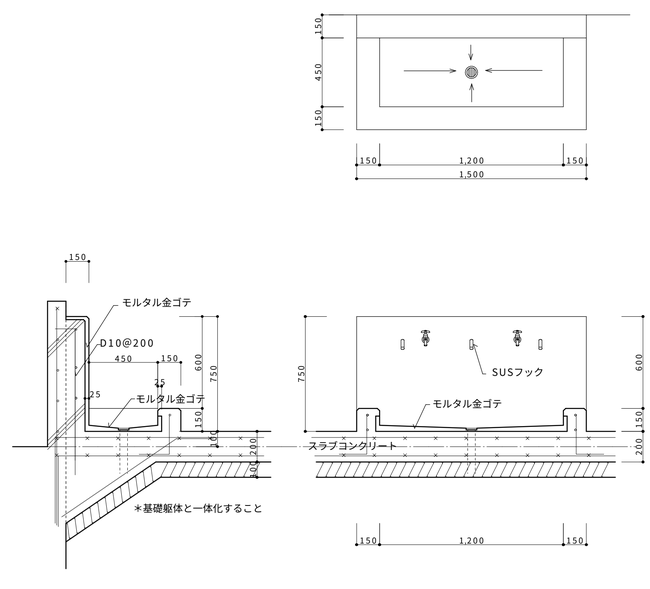
外部靴洗い場　詳細図

1/20



内部靴洗い場　詳細図

1/20



特記事項

承　認	検　図	担　当	製　図

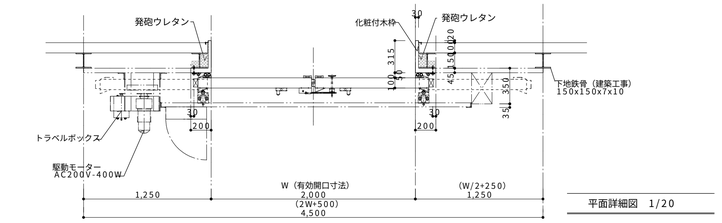
MEMO

TE-RU
TE-RU ARCHITECTS LTD
〒036-8085
青森県弘前市大字末広4-3-1
TEL0172-27-8647 FAX0172-27-8648
株式会社 てる設計
一級建築士事務所　青森県知事　第716号
一級建築士　髙橋大臣　第213208号
福士　晃昭

工事名称	五所川原農林高等学校実習棟（リンゴ冷蔵庫）改築工事		図面番号
図面名称	部分詳細図2		A-33
縮　尺	A1：1/20 A3：1/40	年　月　日　2026.1	

電動断熱両引戸　詳細図

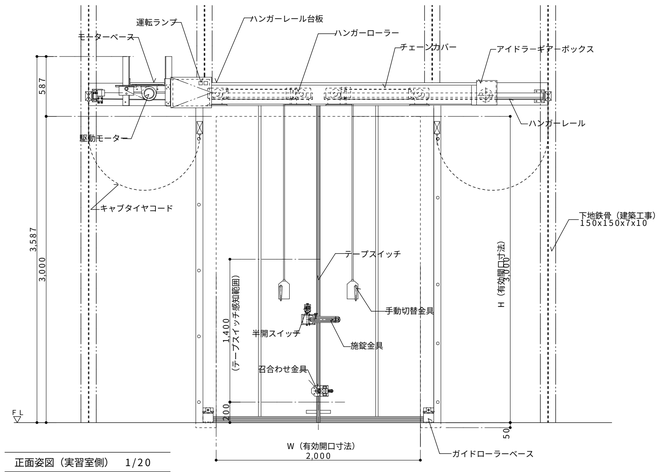
1/30



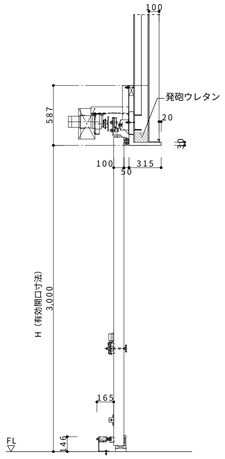
平面詳細図　1/20

電動両引戸仕様表

扉パネル面材	ＳＵＳｘＣＲ２１-０.８ｔ　ＮＯ.４（内外装共）
扉パネル厚	１００mm
扉パネル断熱材	硬質ポリウレタンフォーム注入発泡
扉金具	鋳鉄／鋼板製　亜鉛メッキ仕上げ（ディッピング処理）
デフロストヒーター	扉枠部／非設定
	扉　部／非設定
駆動モーター	３φ－２００Ｖ－４００Ｗ／３φ－４Ｐ
扉開閉速度	２０～３５cm／ｓｅｃ．
起動スイッチ	ローププルスイッチ（全開）
	押しボタンスイッチ（半開）
別途工事	１）一次側電源工事　２）補強枠、補強下地鉄骨工事
	３）フロアーヒーター工事　４）床工事
	５）庫外側プルスイッチ取付け下地及び工事
備考	・開口部廻りは発砲ウレタンにて熱橋部を無くすこと。 ・建具隙間は摺ゴムを設置し隙間を無くすこと。



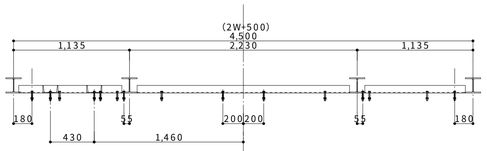
正面姿図（実習室側）　1/20



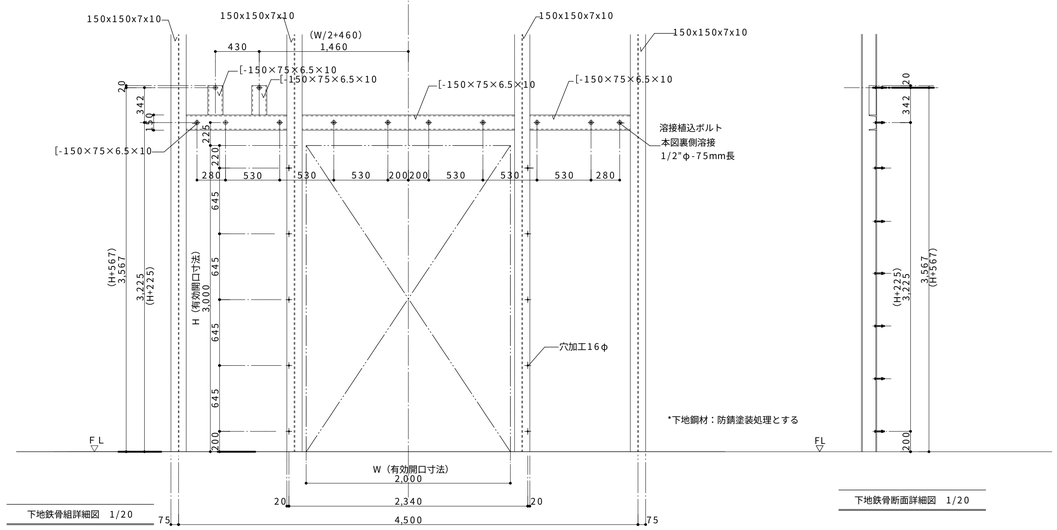
断面詳細図　1/20

電動断熱両引戸下地鉄骨　詳細図

1/30



下地鉄骨平面詳細図　1/20



下地鉄骨組詳細図　1/20

下地鉄骨断面詳細図　1/20

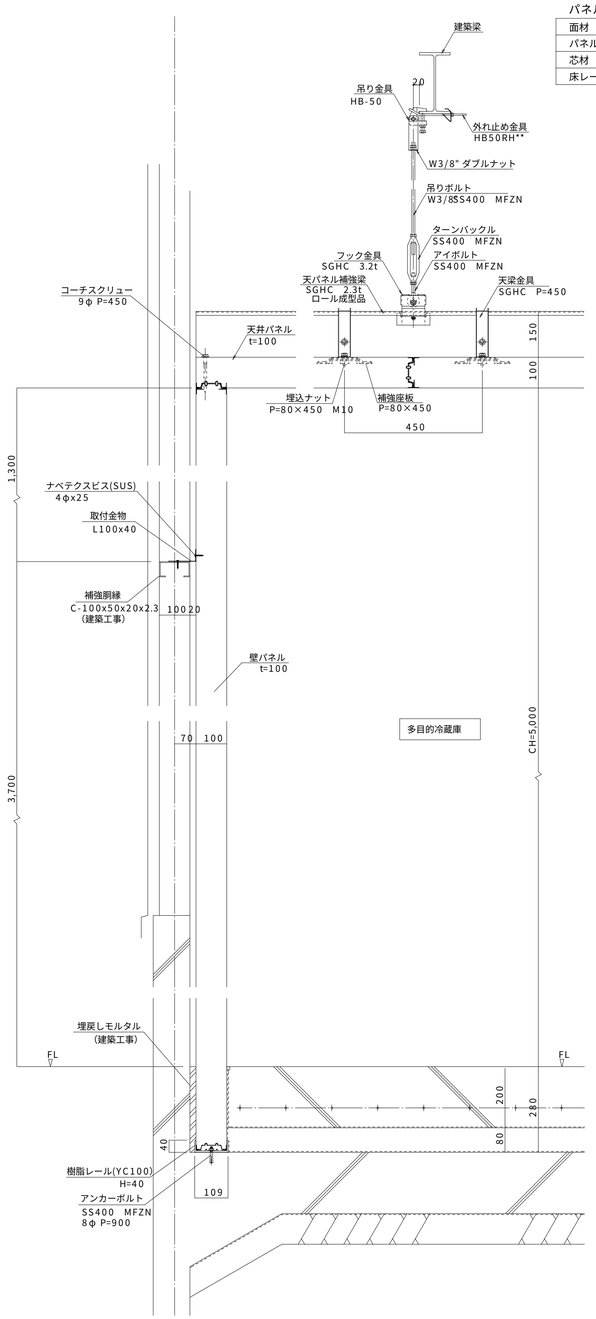
(2W+500)

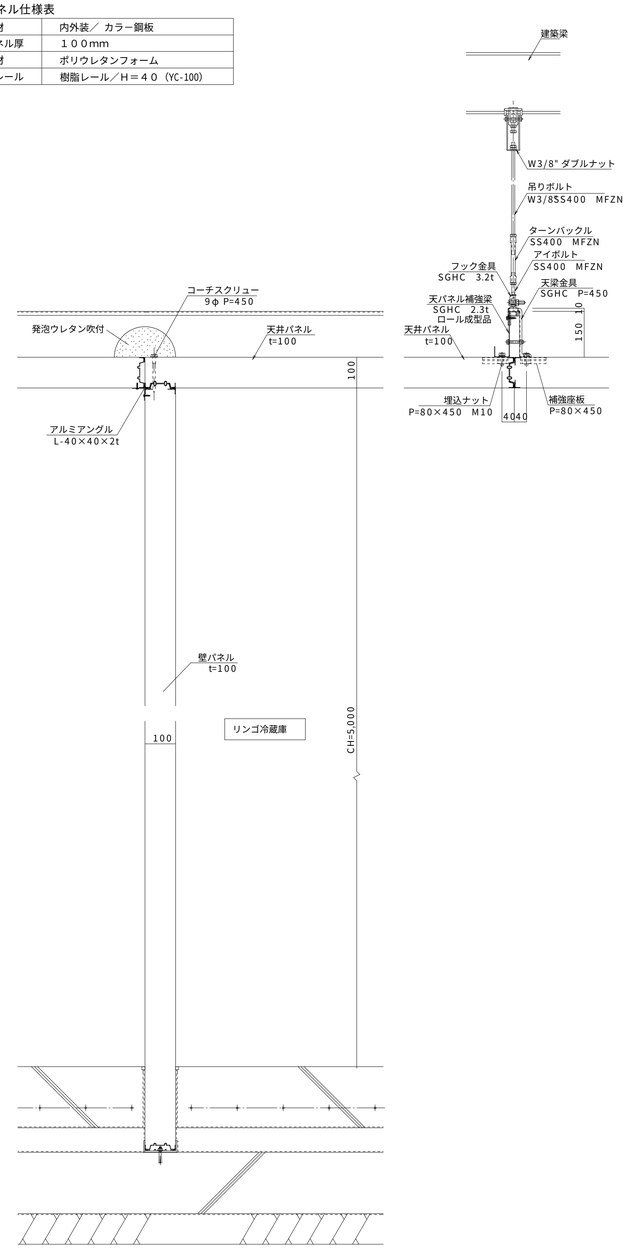
冷蔵庫天井下地材　詳細図

1/10

パネル仕様表

面材	内外装／ カラー鋼板
パネル厚	１００mm
芯材	ポリウレタンフォーム
床レール	樹脂レール／Ｈ＝４０（YC-100）





特記事項	承　認	検　図	担　当	製　図

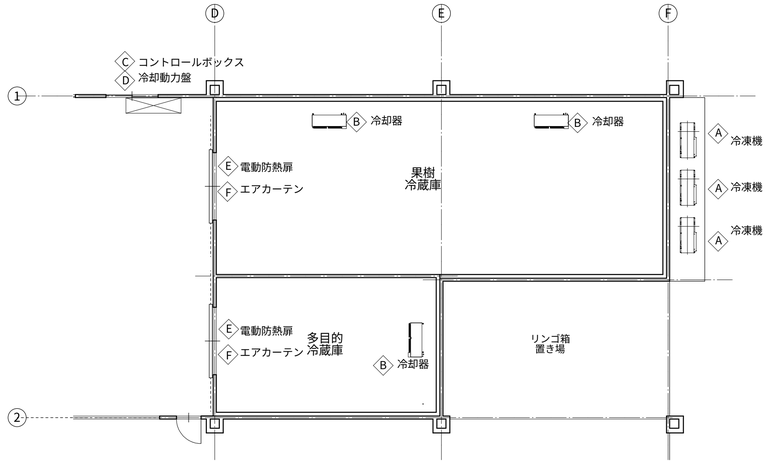
MEMO

TE-RU
TE-RU ARCHITECTS LTD
株式会社 てる設計
〒036-8085
青森県弘前市大字末広4-3-1
TEL0172-27-8647 FAX0172-27-8648
一級建築士事務所 青森県知事 第716号
一級建築士 建設大臣 第213208号
福士 晃昭

工事名称	五所川原農林高等学校実習棟（リンゴ冷蔵庫）改築工事		図面番号
図面名称	冷蔵庫関係詳細図１　断熱扉、扉下地鉄骨、天井下地		A-34
縮　尺	A1：1/10、1/30 A3：1/20、1/60	年 月 日　2026.1	

機器配置図、機器表

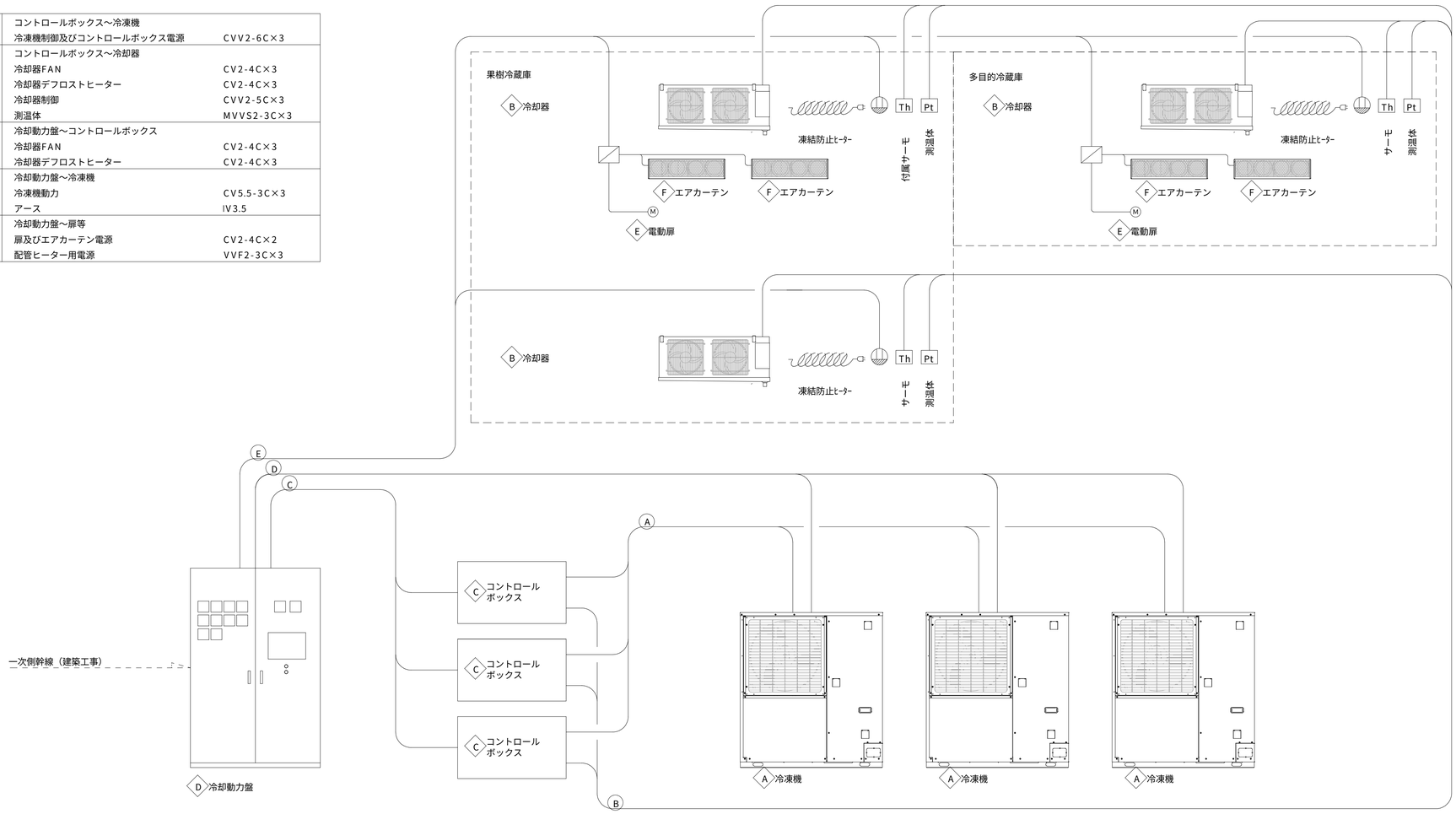
1/100



符号	名称	数量	仕様	動力	重量
A	冷凍機 (参考型式ECOV-DM30WA)	3	一体空冷式インバータスクロール型 呼称出力　3kW 冷凍能力　11kW（ＥＴ-10℃／ＡＴ+32℃）	3φ200V 3.6kW（圧縮機） 0.2kW（ファン）	130kg
B	冷却器 (参考型式UCL-D5VHB)	3	冷媒：R-463A-J　　天吊り型ユニットクーラー 伝熱面積　23.5m²　フィンピッチ　4mm φ320×2　　ヒータデフロスト方式	3φ200V 0.06kw×2（ファン） 2.6kW（ヒーター）	33kg
C	コントロールボックス (参考型式RBS-M20HRA-SQ)	3	鋼製接触器ボックス 壁掛け		7kg
D	冷却動力盤	1	金属製自立式 記録計付		
E	電動防熱扉	2	SUS面材 W2,000×H3,000　t=100	3φ200V 0.4kw（モーター）	
F	エアカーテン (参考型式MK-3510TA4)	4	羽根：φ210㎜ L:1,000㎜タイプ	3φ200V 0.269kw（モーター）	22.5kw

電気系統図

A	コントロールボックス～冷凍機	
	冷凍機制御及びコントロールボックス電源	CVV2-6C×3
B	コントロールボックス～冷却器	
	冷却器FAN	CV2-4C×3
	冷却器デフロストヒーター	CV2-4C×3
	冷却器制御	CVV2-5C×3
	測温体	MVVS2-3C×3
C	冷却動力盤～コントロールボックス	
	冷却器FAN	CV2-4C×3
	冷却器デフロストヒーター	CV2-4C×3
D	冷却動力盤～冷凍機	
	冷凍機動力	CV5.5-3C×3
	アース	IV3.5
E	冷却動力盤～扉等	
	扉及びエアカーテン電源	CV2-4C×2
	配管ヒーター用電源	VVF2-3C×3



特記事項

承　認	検　図	担　当	製　図

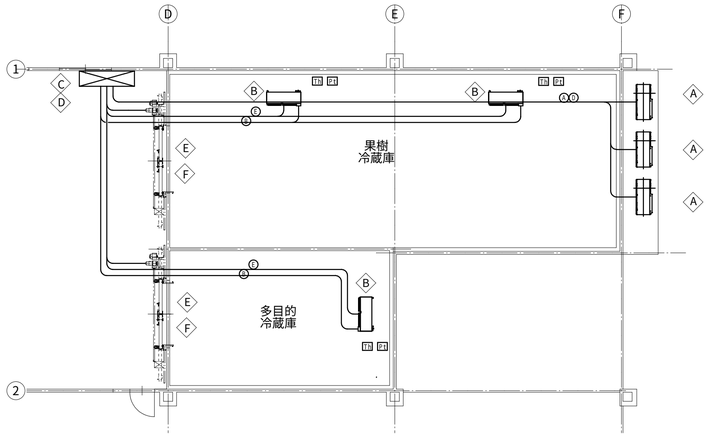
MEMO

TE-RU
TE-RU ARCHITECTS LTD
〒036-8085
青森県弘前市大字末広4-3-1
TEL0172-27-8647 FAX0172-27-8648
株式会社 てる設計
一級建築士事務所 青森県知事 第716号
一級建築士 建設大臣 第213208号
福士 晃昭

工事名称	五所川原農林高等学校実習棟（リンゴ冷蔵庫）改築工事			図面番号
図面名称	冷蔵庫関係詳細図2：機器配置図、機器表、電気系統図			A-35
縮　尺	A1：1/100 A3：1/200	年 月 日	2026.1	

電気経路図

1/100

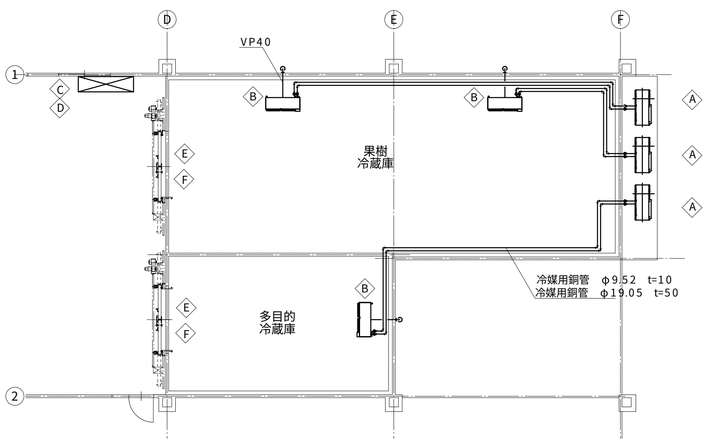


Ⓐ	コントロールボックス～冷凍機	
	冷凍機制御及びコントロールボックス電源	CVV2-6C×3
Ⓑ	コントロールボックス～冷却器	
	冷却器FAN	CV2-4C×3
	冷却器デフロストヒーター	CV2-4C×3
	冷却器制御	CVV2-5C×3
	測温体	MVVS2-3C×3
Ⓒ	冷却動力盤～コントロールボックス	
	冷却器FAN	CV2-4C×3
	冷却器デフロストヒーター	CV2-4C×3
Ⓓ	冷却動力盤～冷凍機	
	冷凍機動力	CV5.5-3C×3
	アース	IV3.5
Ⓔ	冷却動力盤～扉等	
	扉及びエアカーテン電源	CV2-4C×2
	配管ヒーター用電源	VVF2-3C×3

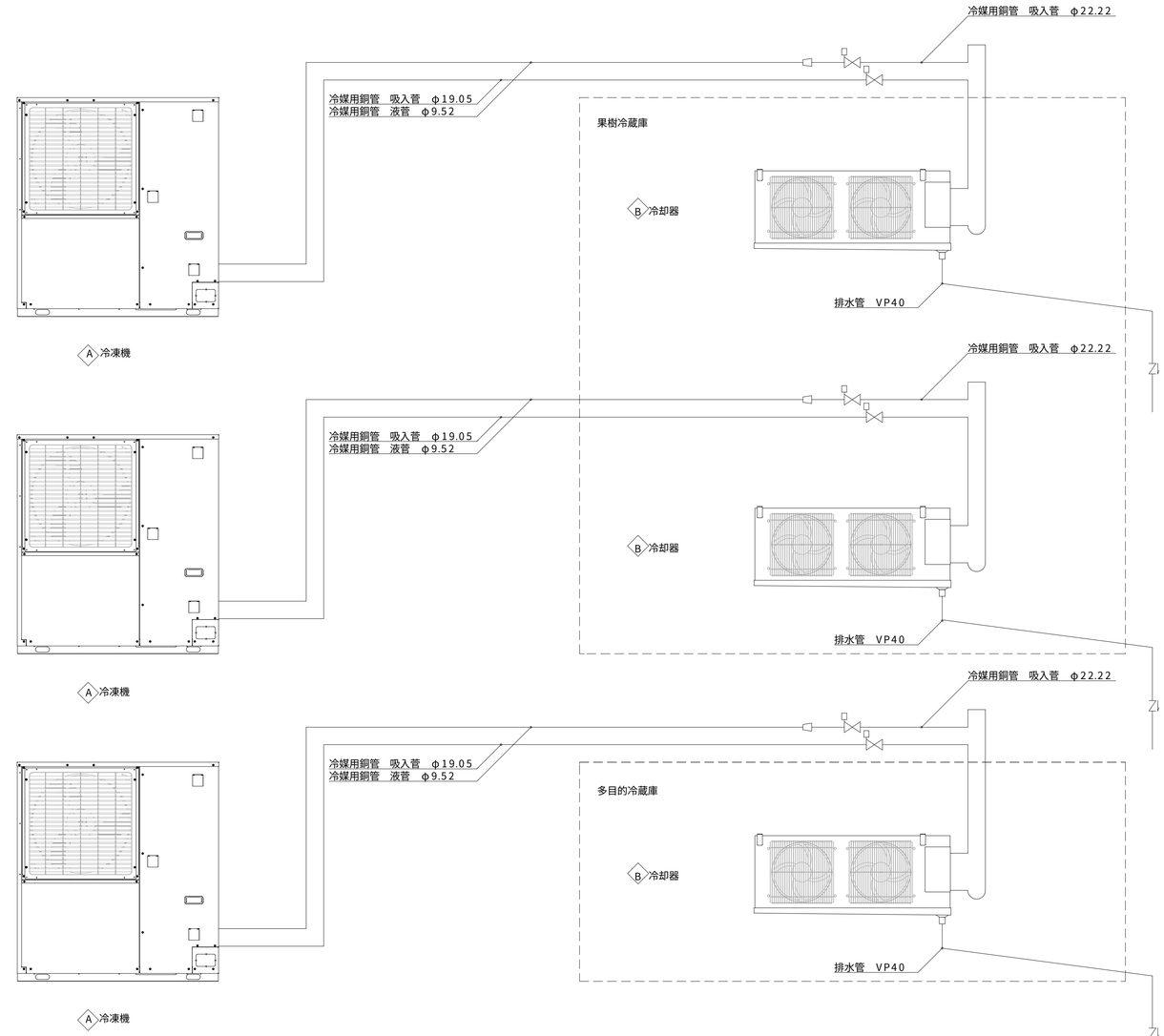
※屋内制御盤から冷蔵庫天井裏までVE管、冷蔵庫天井裏は
転がし、屋外はG管とする

配管経路図

1/100



配管系統図



	機　器
S	電磁弁
R	膨張弁
M	ボール弁
N	エアカット弁
D	レデューサ

※冷媒配管の保温厚は以下とする。
・液管：10mm
・吸入管：50mm
※ドレン配管の保温・仕上げは以下とする。
・トレースヒーター巻
・外部鋼製ラッキング仕上げ

＊専用架台（3か所）：HPHC　H=500
（日晴金属（株）；PB-135-S　同等品）

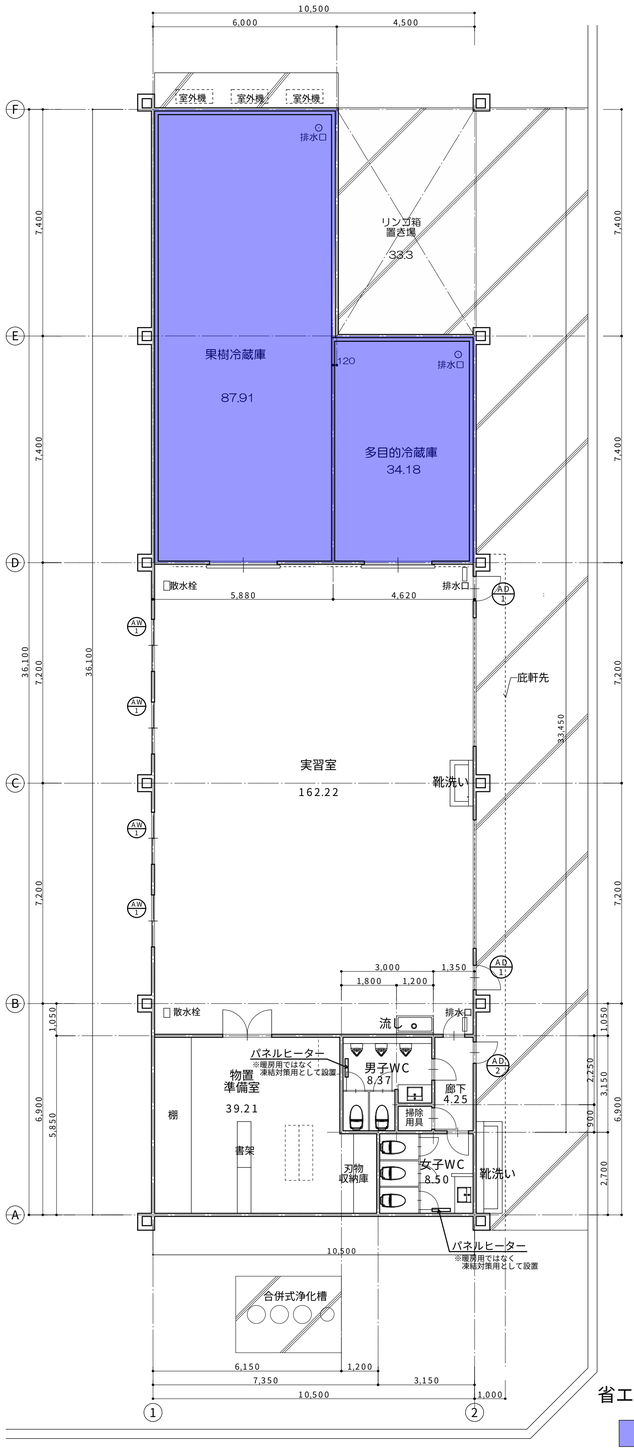
特記事項

承　認	検　図	担　当	製　図

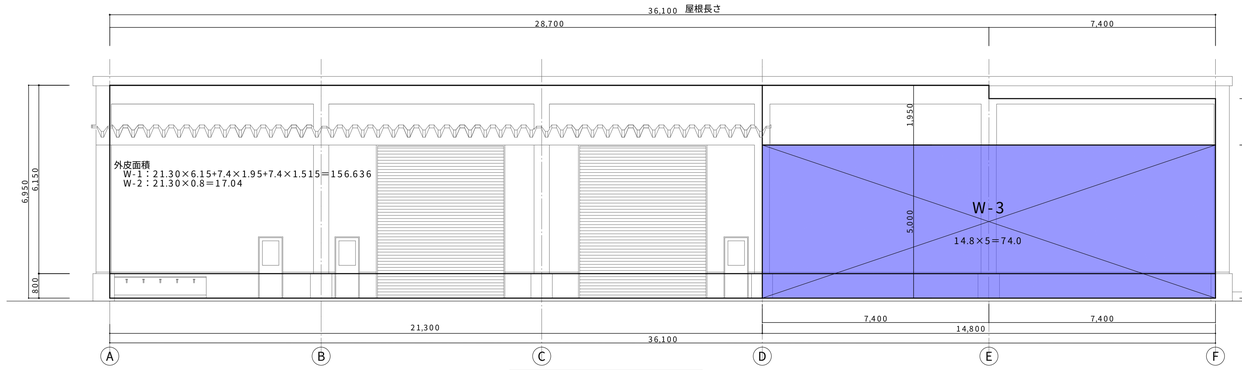
MEMO

TE-RU
TE-RU ARCHITECTS LTD
〒036-8085
青森県弘前市大字末広4-3-1
TEL0172-27-8647 FAX0172-27-8648
株式会社 てる設計
一級建築士事務所　青森県知事　第716号
一級建築士　建設大臣　第213208号
福士　晃昭

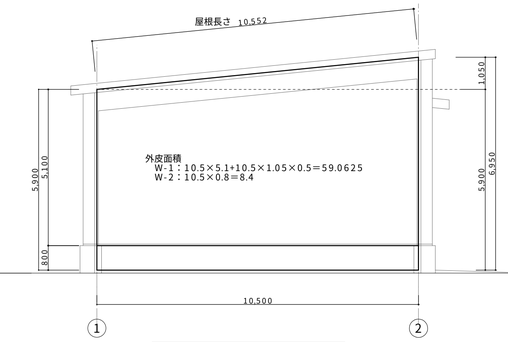
工事名称	五所川原農林高等学校実習棟（リンゴ冷蔵庫）改築工事		図面番号
図面名称	冷蔵庫関係詳細図3：電気経路図、配管経路図、配管系統図		A-36
縮　尺	A1：1/100 A3：1/200	年　月　日　2026.1	



平面図　1/100

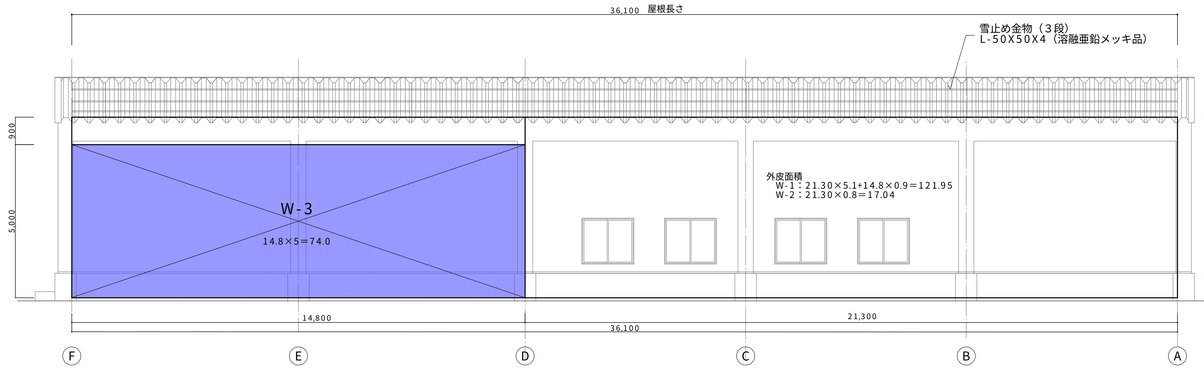


東側立面図　1/100

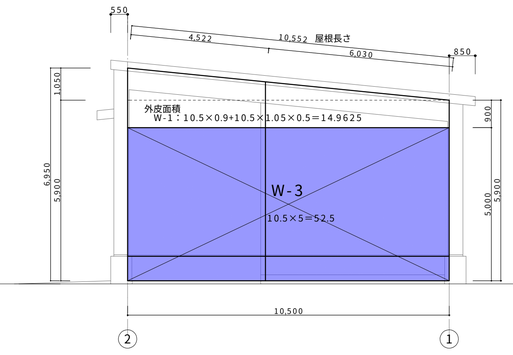


南側立面図　1/100

屋根面積
28.7×10.552+7.4×6.03＝347.4644



西側立面図　1/100



北側立面図　1/100

省エネ法

評価対象外の室：室全体が冷蔵庫であるため評価対象外

検討対象部分外周長さ：（36.1+10.5）×2＝93.2

省エネ法　建物仕様一覧					
建物概要	物件名	五所川原農林高等学校実習棟（リンゴ冷蔵庫）改築工事	空調設備	熱源機器	空調設備なし（トイレのパネルヒーターは凍結対策用）
	地域区分	3地域（青森県五所川原市）			
	建物用途	高等学校　　鉄骨造平屋建て	換気設備	換気扇（便所）	男子WC、女子WC：VD-18ZC14（第三種換気）
	モデル建物	学校モデル			
断熱材	屋根	断熱材はないものとして検討（結露対策用）	照明設備	照明器具（教室）	実習室：高天井用照明器具　×8台
	外壁	冷蔵庫以外の断熱材はないものとして検討（トイレ：凍結対策用） 冷蔵庫：断熱パネルｔ100　ポリイソシアヌレートフォーム（不燃）　熱伝導率0.021W/m・K ※断熱パネルの仕様は同等品以上とすること			
	床	土間床	給湯設備		設置無し
開口部	ドア	アルミドア（AD-1）：パネル・単板ガラス アルミドア（AD-2）：断熱パネル・複層ガラス	昇降機		設置無し
	窓	アルミサッシ（AW-1）：単板ガラス	太陽光発電		設置無し
	シャッター	スチールシャッター（SS-1）：スチールスラット	ｺｰｼﾞｪﾈﾚｰｼｮﾝ設備		設置無し

特記事項

承認	検図	担当	製図

MEMO

TE-RU ARCHITECTS LTD
株式会社 てる設計
〒036-8085
青森県弘前市大字末広4-3-1
TEL0172-27-8647 FAX0172-27-8648
一級建築士事務所 青森県知事 第716号
一級建築士 越智大臣 第213208号
福士 晃昭

工事名称	五所川原農林高等学校実習棟（リンゴ冷蔵庫）改築工事		図面番号
図面名称	省エネ法　建物仕様一覧表、外皮面積算定図		A-37
縮　尺	A1：1/100 A3：1/200	年 月 日　2025.12	

4 地業工事

・支持地盤等

(3.2.1)(4.2.4)(4.3.4)(4.3.5)(4.4.4)(4.5.5)(4.5.6)
・杭基礎
支持層の位置及び土質（基礎ぐいの先端の位置含む）
・図示による（　　）
・
⊙直接基礎
支持地盤の位置及び土質（基礎底部の位置含む）
⊙図示による（標準図-01）
・
試験掘り(根切り底の状態の確認等)
⊙行わない
・行う
位置等
・図示による（　　）
・
・地盤の載荷試験（平板載荷試験）
載荷試験の方法
・地盤工学会基準 JGS 1521による
・
試験の位置、載荷荷重
・図示による（　　）
・
報告書の記載事項
・図示による（　　）
・

・既製ｺﾝｸﾘｰﾄ杭地業

種類　(4.2.2)(4.3.1)(4.3.3)～(4.3.6)(4.3.8)
・遠心力高強度プレストレストコンクリート杭（PHC杭）
・プレストレスト鉄筋コンクリート杭（PRC杭）
・外殻鋼管付きコンクリート杭（SC杭）
SC杭の鋼管材料　・SKK400　・SKK490

杭の種類、性能及び曲げ強度等による区分（種別）、
寸法、継手の箇所数等

		種類種別	ｺﾝｸﾘｰﾄ強度(N/mm2)	杭径(mm)	厚さ(mm)	杭長(mm)	継手数	ｾｯﾄ数	長期設計支持力(kN/本)	備考
試験杭	上杭									
	中杭									
	下杭									
本杭	上杭									
	中杭									
	下杭									

杭先端部形状
・開放形　・半開放形　・閉そく形　・

工法
・セメントミルク工法
試験杭
試験杭の位置
・図示による(　　)　・
掘削深さ
・図示による(　　)　・
杭の支持層への根入れ長さ
・図示による(　　)　・
杭の精度
水平方向の位置ずれ
・杭径の1/4かつ100mm以下　・
建込み時の杭の鉛直度
・1/100以内　・
・特定埋込杭工法
・H13国土交通省告示第1113号第6 による地盤の許容支持力式でα=250を採用できる工法
・H13国土交通省告示第1113号第6 による地盤の許容支持力式のうちα、β、γが以下の値を採用できる工法
α=（　　）、β=（　　）、γ=（　　）
工法
・プレボーリング拡大根固め工法
・中堀り拡大根固め工法
・

・鋼杭地業

杭周固定液
・使用する　・使用しない
試験杭
試験杭の位置
・図示による(　　)　・
杭の支持層への根入れ長さ
※評定等の評価内容による
杭の精度
水平方向の位置ずれ
※評定等の評価内容による
建込み時の杭の鉛直度
※評定等の評価内容による

杭の継手の工法
・溶接継手
溶接材料
・標準仕様書7.2.5(1)(2)による
・
・機械式継手（継手部に接続金具を用いた方式のもの）
工法
※評定等を受けた工法

杭頭の処理等
・処理しない
・処理する
処理方法（切断にともなう補強方法含む）
・図示による(　　)　・

杭頭の中詰め材料
・基礎のコンクリートと同調合のもの

杭施工に伴う発生汚泥の処理
※別途工事
・場内で固化処理した後に搬出

鋼杭の材料　(4.2.2)(4.4.1)(4.4.3)～(4.4.6)

杭の種類、寸法、継手等

		種類	杭径(mm)	板厚(mm)	杭長(mm)	継手数	ｾｯﾄ数	長期設計支持力(kN/本)	備考
試験杭	上杭								
	中杭								
	下杭								
本杭	上杭								
	中杭								
	下杭								

特定埋込杭工法
・H13国土交通省告示第1113号第6 による地盤の許容支持力式でα=250を採用できる工法
・H13国土交通省告示第1113号第6 による地盤の許容支持力式のうちα、β、γが以下の値を採用できる工法
α=（　　）、β=（　　）、γ=（　　）
工法
・

試験杭
試験杭の位置
・図示による(　　)　・

杭の支持層への根入れ長さ
※評定等の評価内容による

杭の精度
水平方向の位置ずれ
※評定等の評価内容による
建込み時の杭の鉛直度
※評定等の評価内容による

・場所打ちｺﾝｸﾘｰﾄ杭地業

杭の継手の工法
・溶接継手
形状
・JIS A 5525による
溶接材料
・標準仕様書7.2.5(1)(2)による
・
・機械式継手
工法
※評定等を受けた工法

杭頭の処理
・処理しない
・処理する
処理方法（切断にともなう補強方法含む）
・図示による(　　)　・

杭頭の中詰め材料
・基礎のコンクリートと同調合のもの

(4.2.2)(4.5.1)(4.5.4)～(4.5.6)
工法
・アースドリル工法
（安定液　※使用する　・使用しない）
・リバース工法
・オールケーシング工法
（孔内の水張り　・行う　・行わない）
併用する工法
・場所打ち鋼管コンクリート杭工法
鋼管巻き材料
・SKK400　・SKK490　・
・拡底杭工法（安定液　・使用する　・使用しない）

寸法等

	軸径(mm)	拡底径(mm)	杭長(mm)	ｾｯﾄ数	長期設計支持力(kN/本)	備考
試験杭						
本　杭						

試験杭
試験杭の位置
・図示による（　　）　・
孔壁の保持状況（孔壁測定）
測定箇所
・試験杭（　　）箇所及び本杭（　　）箇所　・
杭の支持層への根入れ長さ
・図示による（　　）　・
杭の精度
水平方向の位置ずれ
・杭径の1/4かつ100mm以下
・評定等の評価内容による
・
建込み時の杭の鉛直度
・1/100以内
・評定等の評価内容による
・

鉄筋の種類

種類の記号	呼び径(mm)	
・SD295		
・SD345		
・		

帯筋の加工及び組立
・図示による(　　)　・
鉄筋の最小かぶり厚さ
・100mm　・

鉄筋かごの補強

組み立てた鉄筋の節ごとの継手
※重ね継手
重ね継手の長さ　・図示による（　　）・
主筋の基礎底盤への定着長さ
・図示による（　　）　・
セメントの種類
※高炉セメントB種Ⓖ　・
コンクリートの設計基準強度
・図示による(　　)　・
コンクリートの種別
・A種　・B種　・評定等の評価内容による
スランプ
※21cm　・
構造体強度補正値
・3N/mm2　・評定等の評価内容による

・砂利地業

材料　(4.6.2)(4.6.3)
砂利
⊙再生クラッシャランⒼ　・切込砂利又は切込砕石
範囲
⊙基礎下、基礎梁下、土間スラブ下、土間コンクリート下
・図示による(　　)
厚さ
※60mm　⊙100mm

・捨ｺﾝｸﾘｰﾄ地業

範囲　(4.6.4)
⊙基礎下、基礎梁下、土間スラブ下
・図示による（構造図S-02）
厚さ
⊗50mm　・
コンクリートの類別
⊙Ⅰ類（JIS A 5308への適合を認証されたコンクリート）
・Ⅱ類（Ⅰ類以外でJIS A 5308に適合したコンクリート）
・
コンクリートの種類
⊗普通コンクリート　・
設計基準強度
⊗18N/mm2　・
スランプ
⊗15cm又は18cm　・

・床下防湿層

材料　(4.6.2)(4.6.5)
※ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上　・
範囲
・建物内の土間スラブ及び
土間コンクリート下（ピット下を除く）
・建物内の土間スラブ及び
土間コンクリート下（庁舎内車庫、ピット下を除く）

TE-RU
TE-RU ARCHITECTS LTD
株式会社 てる設計
〒036-8085
青森県弘前市大字末広4-3-1
TEL0172-27-8647 FAX0172-27-8648
一級建築士事務所 青森県知事 第716号
一級建築士 建設大臣 第213208号
福士 晃昭

4 地業工事

・地盤改良工法（深層混合処理工法）

材料 (4.7.2)(4.7.3)
固化材の種類 ・セメント系固化材
工法
方式
⊗機械撹拌方式 ・
改良体の設計基準強度(Fc)、改良体長さ、改良率、改良体幅
⊙図示による（構造図S-01） ・
室内配合試験
対象地層、供試体数
⊙図示による（標準図-11） ・
六価クロム溶出試験
⊗行う ・行わない
試験施工
⊙行わない
・行う
位置等
・図示による（ ） ・
改良工事完了後の試験
検査対象、コア採取方法、供試体数、検査方法
⊙図示による（標準図-11） ・
六価クロム溶出試験
・行う ⊙行わない

・地盤改良工法（浅層混合処理工法）

材料 (4.8.2)(4.8.3)
固化材の種類 ・
工法
方式
※原位置混合方式
改良体の設計基準強度(Fc)、改良体長さ、改良率、改良体幅
・図示による（ ） ・
室内配合試験
対象地層、供試体数
・図示による（ ） ・
六価クロム溶出試験
※行う ・行わない
改良工事完了後の試験
検査対象、コア採取方法、供試体数、検査方法
・図示による（ ） ・
六価クロム溶出試験
・行う ・行わない

・置換ｺﾝｸﾘｰﾄ地業（ﾗｯﾌﾟﾙｺﾝｸﾘｰﾄ地業）

形状等
・図示による（ ） ・
支持地盤
・図示による（ ） ・
型枠使用の有無
・無し
・有り 型枠の使用箇所等は図示による（ ）

5 鉄筋工事

・鉄筋

鉄筋の種類等 (5.2.1)

種類の記号	呼び径(mm)	備考
・SD295	D10～D16	
・SD345	D19～D25	
・		
・		

・溶接金網

鉄線の形状等 (5.2.2)

種類	種類の記号	鉄線の形状、網目寸法、鉄線の径（mm）	使用部位
・溶接金網			
・			

・鉄筋の継手

鉄筋の継手の方法等 (5.3.4)(5.5.3)(5.6.3)

部位	継手の方法	呼び径(mm)
柱、梁の主筋	⊙ガス圧接 ・機械式継手 ・溶接継手 ・重ね継手	D19～D25
耐力壁の鉄筋	・重ね継手 ・	
その他の鉄筋（ ）	⊙重ね継手 ・	D10～D16

継手位置
⊙図示による
（構造関係共通事項（配筋詳細図）5.1、6.1、7.1、7.3、8.1）

柱及び梁主筋の重ね継手の長さ
⊙図示による
（構造関係共通事項（配筋詳細図）3.1(a)(2)及び表3.1）

耐力壁の重ね継手の長さ
⊙図示による
（構造関係共通事項（配筋標準図）3.1(a)(2)及び表3.1）

・鉄筋の定着

鉄筋の定着長さ (5.3.4)
⊙図示による（構造関係共通事項（配筋標準図）3.1(b)）

機械式定着工法
・適用する
適用箇所
・図示による（ ） ・
種類
・摩擦圧接接合 ・螺合グラウト固定
・篏合グラウト固定 ・
工法
※第三者機関の評定等を取得している工法とする
必要定着長さ
※評定等の評価内容による
補強筋形状
※評定等の評価内容による
かぶり厚さ
※評定等の評価内容による
品質確認
※評定等の評価内容による
検査
※評定等の評価内容による

・鉄筋のかぶり厚さ及び間隔(溶接金網を含む)

最小かぶり厚さ (5.3.5)
⊙図示による（構造関係共通事項（配筋標準図）4.1表4.1）

軽量コンクリートを適用する場合
・あり 適用箇所( )
・最小かぶり厚さに加える厚さ ( )mm ・
耐久性上不利な箇所がある場合
（塩害等を受けるおそれのある部分等）
・あり 適用箇所( )
・最小かぶり厚さに加える厚さ ( )mm ・

・各部配筋

各部配筋 (5.3.7)
⊙図示による（構造関係共通事項（配筋標準図））

・ガス圧接継手

圧接完了後の圧接部の試験 (5.4.10)
⊗超音波探傷試験
・引張試験
試験方法等
・図示による ・

・ 機械式継手

適用箇所 (5.5.3)(5.5.5)
・図示による（ ） ・
H12建告第1463号に適合する性能
・A級 ・
種類
・ねじ式鉄筋継手
充填方式
・無機グラウト方式 ・有機グラウト方式 ・
・端部ねじ加工継手
・モルタル充填式継手

工法
※第三者機関の評定等を取得している工法
鉄筋相互のあき
※評定等の評価内容による
品質の確認
※評定等の評価内容による
検査
※評定等の評価内容による
施工完了後の継手部の試験
・外観試験
試験対象
※全数
試験項目及び合否判定
※標準仕様書 表5.5.1～表5.5.3による
・評定等の評価内容による
・
不合格となった場合の措置
※標準仕様書5.5.6(1)(ｱ)～(ｳ)による
・図示による（ ）
・
・超音波測定試験
試験対象
・抜取り
ロット
・1組の作業班が1日に行った溶接箇所で、最大200箇所程度とする。
・
試験の箇所数
1ロットに対して（ ）箇所
・全数
試験項目
※挿入長さ
不合格となった場合の措置
・

・ 溶接継手

適用箇所 (5.6.3)(5.6.5)
・図示による( ) ・
H12建告第1463号に適合する性能
・ A級
溶接継手の工法
・図示による( ) ・
鉄筋相互のあき
・標準仕様書5.3.5(4)による
・評定等の評価内容による
・図示による( )
施工完了後の継手部の試験
・外観試験
試験対象
※全数
・超音波探傷試験
試験対象
・抜取り
ロット
・1組の作業班が1日に行った溶接箇所で、最大200箇所程度とする。
・
試験の箇所数
1ロットに対して（ ）箇所
・全数

6 コンクリート工事

・コンクリートの種類

コンクリートの類別 (6.2.1)
⊗Ⅰ類（JIS A 5308への適合を認証されたコンクリート）
・Ⅱ類（Ⅰ類以外で JIS A 5308に適合したコンクリート）

・コンクリートの気乾単位容積質量による種類及び強度等

(6.2.1)～(6.2.4)(6.3.2)(6.10.1)(6.10.2)
・普通コンクリート

設計基準強度(N/mm2)	スランプ(cm)	気乾単位容積質量(t/m3)	適用箇所
・27	※標準仕様書 表6.2.2による	・2.3程度	基礎
・	・	・	

構造体強度補正値 ※標準仕様書 表6.3.2による

・軽量コンクリート

設計基準強度(N/mm2)	スランプ(cm)	気乾単位容積質量(t/m3)	種類	適用箇所
・	※21	・	・1種 ・2種	
・	・	・		

構造体強度補正値 ※標準仕様書 表6.3.2による

・セメント

種類 (6.3.1)
⊗普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又はフライアッシュセメントA種
（普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210に示された規定の他、水和熱が7日目で352J/g以下、かつ28日目で402J/g以下のものとする）
適用箇所（ ）
・高炉セメントB種 G
適用箇所（ ）
・フライアッシュセメントB種 G
適用箇所（ ）

・骨材

アルカリシリカ反応性による区分 (6.3.1)
⊗A ・B

・混和材料

⊙混和剤 (6.3.1)
混和剤の種類
※標準仕様書6.3.1(4)(a)による ・
⊙混和材
混和材の種類
※標準仕様書6.3.1(4)(b)による ・

・寒中ｺﾝｸﾘｰﾄ

適用期間 (6.11.1)(6.11.2)
・図示による( ) ・
構造体強度補正値
・標準仕様書6.11.2(3)(ｱ)による ・積算温度による

・暑中ｺﾝｸﾘｰﾄ

スランプ (6.12.2)
※21m ・
構造体強度補正値
※標準仕様書 表6.12.1による ・

TE-RU
TE-RU ARCHITECTS LTD
株式会社 てる設計
〒036-8085
青森県弘前市大字末広4-3-1
TEL0172-27-8647 FAX0172-27-8648
一級建築士事務所 青森県知事 第716号
一級建築士 建設大臣 第213208号
福士 晃昭

（工事名） 五所川原農林高等学校実習棟（リンゴ冷蔵庫）改築工事
特記仕様書 構造関係（その２）
青森県
（日付） 2026.3
特記-02

・ﾏｽｺﾝｸﾘｰﾄ

適用箇所 (6.13.1)(6.13.2)
・図示による（　　）

セメントの種類
・普通ポルトランドセメント
・中庸熱ポルトランドセメント
・低熱ポルトランドセメント
・高炉セメントB種 G
・フライアッシュセメントB種 G
・シリカセメント

混和材料
・混和剤
混和剤の種類
※標準仕様書6.13.2(2)(ｱ)による　・
・混和材
混和材の種類
※標準仕様書6.13.2(2)(ｲ)による　・
スランプ
※15cm
構造体強度補正値
※標準仕様書 表6.13.1による　・

・無筋ｺﾝｸﾘｰﾄ

コンクリートの種類 (6.14.1)
※普通コンクリート　・
セメントの種類
※普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、
シリカセメントA種又はフライアッシュセメントA種
・高炉セメントB種 G
・フライアッシュセメントB種 G
設計基準強度
※18N/mm2　・
スランプ
※15cm又は18cm　・
適用箇所
※標準仕様書6.14.1(4)(ｱ)～(ｶ)による

・流動化ｺﾝｸﾘｰﾄ

適用箇所 (6.15.1)
・図示による(　　)
空気量
※4.5%　・

・高流動ｺﾝｸﾘｰﾄ

適用箇所 (6.16.1)
・図示による(　　)
材料及び調合
スランプフロー
・図示による　・
空気量
※4.5%　・
単位粗骨材かさ容積
※0.500mm3/mm3以上　・

・打継ぎの位置、ひび割れ誘発目地、打継目地

打継ぎの位置 (6.6.4)(6.8.1)(9.7.3)
⊗標準仕様書6.6.4(1)による
・図示による(　　)
目地寸法
⊗標準仕様書9.7.3(1)(7)による
・図示による(　　)
ひび割れ誘発目地の位置・形状・寸法
・図示による(　　)

・構造体ｺﾝｸﾘｰﾄの仕上り

(6.2.5)
合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ

種別	適用箇所
・A種	
・B種	
・C種	

コンクリートの仕上りの平たんさ（柱・梁・壁）

種別	適用箇所
・a種	化粧打ち放しコンクリート、塗装仕上げ、壁紙張り、接着剤による陶磁器質タイル張り
・b種	仕上塗材塗り
・c種	セメントモルタルによる陶磁器質タイル張り、モルタル塗り、胴縁下地

コンクリートの仕上りの平たんさ（床）

種別	適用箇所
・a種	合成樹脂塗床、ビニル系床材張り、コンクリート直均し仕上げ、フリーアクセスフロア（置敷式）
・b種	カーペット張り、防水下地、セルフレベリング材塗り
・c種	タイル張り、モルタル塗り、二重床

・打増し厚さ（打放し仕上げ部）

(6.8.1)
・打放し仕上げの打増し厚さ（外部に面する部分に限る）
・20mm　・
・打放し仕上げの打増し厚さ（内部に面する部分に限る）
・10mm　・20mm　・

・ 型枠

せき板の材料及び厚さ (6.8.2)
⊙合板 G（※12mm　・　　）

・断熱材を兼用した型枠材
使用箇所
・図示による（　　）　・
性能
熱抵抗値を0.73m²･K/W以上を有するもの
・MCR工法用シート
適用箇所
・図示による（　　）　・
打増し厚さ
・20mm
打増し範囲
・図示による（　　）　・
スリーブの材種、規格等
・図示による（　　）

・床型枠用鋼製ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄの梁側面の打増し処理

床型枠用鋼製デッキプレートを使用する場合は、プレートが支持される梁の側面については、増打ちを行うこと。
コンクリートの打増し厚さ
※10mm
施工範囲
※図示による（　　）
・

・コンクリートの単位水量測定

実施要領 (6.5.1)
⊗図示による（構造関係共通図（構造関係共通事項））

7 鉄骨工事

・鉄骨製作工場

鉄骨製作工場の加工能力 (7.1.3)
⊗建築基準法第68条の25に基づき国土交通大臣から構造方法等の認定を取得している鉄骨製作工場又は同等以上の能力のある工場
（　）グレード以上
・監督職員の承諾する工場

・鉄骨製作工場における施工管理技術者

⊙配置する　・配置しない (7.1.4)

・鋼材

種類等 (7.2.1)(7.2.10)

種類の記号	適用箇所（主要な部分）	規格
SS400	大梁・小梁等	・JISによる
BCR295	柱	・JISによる
SN490C	大梁	・JISによる
		・JISによる
		・JISによる

板厚方向に引張力を受ける鋼板の試験
・行う　適用箇所(　　)　⊙行わない

・高力ボルト

高力ボルトの種類 (7.2.2)(7.3.2)(7.4.2)
⊙トルシア形高力ボルト
・JIS形高力ボルト

ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等
⊙図示による（構造図S-05）　・
摩擦面の処理方法
⊙標準仕様書7.4.2(1)による

・すべり試験の実施
・すべり係数試験　・すべり耐力試験
すべり試験を実施する場合、標準仕様書7.4.2(1)(ｲ)による摩擦面の確認は、本試験で作成した対比試験片で行うこと。

・普通ボルト

ボルト及びナットの材料 (7.2.3)(7.3.2)(7.3.8)
※標準仕様書 表7.2.3による
⊙JIS B 1180（六角ボルト）及びJIS B 1181（六角ナット）による
・JIS B 1180（六角ボルト）附属書JA（規定）及び
JIS B 1181（六角ナット）附属書JA（規定）による
ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等
⊙図示による（構造図S-05）　・
母屋又は胴縁の取付けに使用するボルトの孔径
⊗ねじの呼び径+1.0mm　・

・溶融亜鉛めっき高力ボルト

(7.3.2)(7.4.2)(7.12.5)
ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等
・図示による（　　）　・
摩擦面の処理方法
・ブラスト処理（表面粗度50μmRz以上）
・りん酸塩処理

・すべり試験の実施
・すべり係数試験　・すべり耐力試験
すべり試験を実施する場合、標準仕様書7.12.5(1)(7)又は(ｲ)による摩擦面の確認は、本試験で作成した対比試験片で行うこと。

・アンカーボルト

・構造用アンカーボルト (7.2.4)(7.3.2)
種類
・ABR400　・ABR490　・
⊙建方用アンカーボルト
種類
⊙SS400　・
アンカーボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上げの程度
※標準仕様書 表7.2.3による　・
・標準仕様書7.2.4以外のアンカーボルト
適用箇所
・図示による（　　）　・
種類
・SS400

仕上げの程度
※標準仕様書 表7.2.3による　・
ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等
・図示による（　　）　・

・溶接材料

溶接材料 (7.2.5)
※標準仕様書7.2.5(1)(2)による　・

・ターンバックル

種類 (7.2.6)
建築用ターンバックルボルト
⊗羽子板ボルト　・
建築用ターンバックル胴
⊗割枠式　・
ねじの呼び
・図示による（構造図S-05）　・

・床構造用のデッキプレート

材質、形状及び寸法 (7.2.7)(7.7.8)

	適用箇所	材質･形状･寸法	備考
・ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄ単独の構法			
・ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄとｺﾝｸﾘｰﾄとの合成ｽﾗﾌﾞとする構法			
・			

開口部補強要領（補強筋の定着長さ等を含む）
・図示による（　　）　・
鉄骨部材への溶接方法
・図示による（　　）　・
耐火認定
・あり
耐火時間　・図示による（　　）　・
・なし

・スタッド

種類等 (7.2.8)

呼び名	呼び長さ(mm)	適用箇所
・16		
・19		
・22		

・柱底均しﾓﾙﾀﾙ

無収縮モルタルとする場合の材料、調合等 (7.2.9)
※標準仕様書7.2.9(2)(7)から(I)による　・

・製作精度

(7.3.3)
鉄骨の製作精度は、JASS 6 付則 6 [鉄骨精度検査基準]に加えて、次による通しダイアフラムの突合せ継手の食い違いの寸法
⊗H12建告第1464号第二号イ(2)による

アンダーカットの寸法
⊗H12建告第1464号第二号イ(3)による

食い違い仕口のずれの検査方法及び補強方法
⊙「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による

・仮組

仮組を行う範囲 (7.3.10)
・図示による（　　）　・

・溶接作業を行う技能資格者の技量付加試験

試験の要領 (7.6.3)
・図示による（　　）　・

TE-RU
TE-RU ARCHITECTS LTD
株式会社 てる設計
〒036-8085
青森県弘前市大字末広4-3-1
TEL0172-27-8647 FAX0172-27-8648
一級建築士事務所 青森県知事 第716号
一級建築士 建設大臣 第213208号
福士 晃昭

・溶接接合

開先の形状 (7.6.4)(7.6.7)
・図示による（　　）　・
鋼製エンドタブを切断する部分
切断する箇所
・図示による（　　）　・
切断範囲
・鋼製エンドタブ、裏当て金等は、梁フランジの端から5mm以下を残して直線状に切断する。なお、切断線が交差する場合は、交差部をアール状に加工する。
・
切断面の仕上げ
・標準仕様書7.6.7(1)(ｶ)(b)②による
・
スカラップの形状
・図示による（　　）　・

・入熱、パス間温度の溶接条件

鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件 (7.6.7)(7.6.10)
・図示による（　　）
適用箇所
・図示による（　　）
・柱、梁、ブレースのフランジ端部の完全溶込み溶接部

・溶接部の試験

平12建告第1464号第二号に関する外観試験方法等 (7.6.12)
⊙「突合わせ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」3.5.2 受入検査による
⊗抜き取り検査②　・抜き取り検査①
JASS 6 付則 6 [鉄骨精度検査基準]の付表3「溶接」に関する試験方法等
⊙JASS 6 10.4[受入検査]e.溶接部の外観検査(1)から(5)
ただし、完全溶込み溶接部の外観検査の抜取箇所は、超音波探傷試験の試験箇所と同一とする。外観試験の不合格箇所は、すべて標準仕様書7.6.13による補修を行い、再試験する。
完全溶込み部の超音波探傷試験
⊙工場溶接の場合

AOQL	⊗レベルⅡ	・レベルⅠ		
節	・全て	・	・	・
検査水準	※第6水準	・	・	・

・工事現場溶接の場合
※全て　・

・錆止め塗装

塗料の範囲 (7.8.2、4)(18.3.2)
耐火被覆材の接着する面の塗装範囲
・図示による（　　）　・
耐火被覆材の接着する面以外の塗装範囲
⊗標準仕様書7.8.2(1)(ｱ)～(ｵ)による部分以外
・図示による（　　）
塗料の種別
・下記以外の鉄鋼面は、18章[塗装工事]による
・鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブで鉄骨に溶接されたものの内側の錆止め塗料の種別
※As種　・
・耐火被覆材が接着する面の塗料の種別

・耐火被覆

種類、材料、工法等 (7.9.2)～(7.9.8)

種類	材料・工法	性能(耐火時間)	適用箇所(部位･部分)
・耐火材吹付け	・乾式吹付けﾛｯｸｳｰﾙ		
	・半乾式吹付けﾛｯｸｳｰﾙ		
	・湿式ﾛｯｸｳｰﾙ		
	・		
	・		
・耐火板張り	・繊維混入けい酸ｶﾙｼｳﾑ板		
	・		
・耐火材巻付け	・高断熱ﾛｯｸｳｰﾙ		
	・		
・ﾗｽ張りﾓﾙﾀﾙ塗り			
・耐火塗料	・		

・アンカーボルト等の設置等

構造用アンカーボルトの形状及び寸法 (7.10.3)
・図示による（　　）　・
構造用アンカーボルトの保持及び埋込み
※適切な鋼製アンカーフレーム等を設置して固定する方法
・図示による（　　）　・
建方用アンカーボルトの形状及び寸法
・図示による（　　）　・
建方用アンカーボルトの保持及び埋込み工法
種別
・A種　・B種
柱底均しモルタルの厚さ及び工法の種別
厚さ
・
種別
※A種　・B種

・軽量形鋼構造

ボルトの接合部 (7.11.2)
・普通ボルト接合　・

TE-RU
TE-RU ARCHITECTS LTD
株式会社 てる設計
〒036-8085
青森県弘前市大字末広4-3-1
TEL0172-27-8647 FAX0172-27-8648
一級建築士事務所 青森県知事 第716号
一級建築士 建設大臣 第213208号
福士 晃昭

（工事名） 五所川原農林高等学校実習棟（リンゴ冷蔵庫）改築工事
特記仕様書 構造関係（その４）
青森県
（日付） 2026.3
特記-04

建物概要等

1.構造概要

構造概要

				備考
構造種別	地上	(１)階～(　)階(鉄骨)造	地下 (　)階～(　)階(　)造	
		(　)階～(　)階(　)造	(　)階～(　)階(　)造	
架構形式	X方向	(鉄骨ラーメン)構造		
	Y方向	(鉄骨ラーメン)構造		
耐震構造方式	⊙耐震構造　・制振構造			
	・免震構造(免震層の位置　・基礎下免震　・中間階免震(　)階			
基礎方式	⊙直接基礎⊙独立　・連続　・べた　・　　)			適用箇所は図示による
	・杭基礎(・場所打ちコンクリート杭　・既製コンクリート杭			
	・鋼管杭　・　　)			(　　)
耐震安全性の分類	・Ⅰ類(1.5)　⊙Ⅱ類(1.25)　・Ⅲ類(1.0)			
耐風に関する性能の分類	・Ⅰ類(1.3)　・Ⅱ類(1.15)　⊙Ⅲ類(1.0)			

2.構造設計条件等

計算方法

	X方向	Y方向	備　考
許容応力度計算（令第82条各号＋令第82条の4）【ルート１】	⊙	⊙	X方向、Y方向の適用する計算法に○を記載する
許容応力度等計算　【ルート２】	・	・	
保有水平耐力計算　【ルート３】	・	・	
限界耐力計算	・		
その他の計算法(　　)	・	・	
構造計算適合性判定機関（　　）			
特別な検証法(時刻歴応答解析による)	・		
大臣認定(認定番号　　)			
指定性能評価機関（　　）			
評価　・高層評価　・免震評価　・その他			
(評価番号　　)			

外力等

				備考
地震力	設計用一次固有周期	(0.2205)秒		
	地震地域係数(Z)	Z=・1.0　⊙0.9　・0.8　・0.7		
	地盤の種別	第(２)種地盤　Tc=(0.6)秒		
	標準せん断力係数	X方向	Y方向	
	一次設計	C_0=(0.375)	C_0=(0.375)	
	二次設計	C_0=(　　)	C_0=(　　)	
風圧力(施行令第87条)	地表面粗度区分	基準風速(V_0) (34)m/s	速度圧(q) 966.4N/㎡	
風圧力(施行令第82条の4)	地表面粗度区分	基準風速(V_0)	平均速度圧($\bar{q}$) 966.4N/㎡	
積雪荷重	区域	⊙多雪区域 ・多雪区域以外（特定緩勾配屋根　・有　・無）		
	設計垂直積雪量	(160)cm^2		
	単位荷重	(30)N/m/cm		
	垂直積雪量の低減	・低減する　⊙低減しない		

3.地盤調査資料

・当該敷地の既往調査報告書
⊙当該敷地の既往調査報告書及び今回工事に含まれる地盤調査結果
（今回工事に含まれる地盤調査については図示による。）

4.液状化対策

⊙有り
（範囲、工法、仕様、計測、試験等については図示による。）
・無し
・

5.軽微な変更への対応
（あらかじめの検討）

施工の関係上やむを得ず発生する可能性の高い変更等(位置の変更)
施工誤差を考慮して構造耐力上支障がない検討が行われている部分

・くいの芯ずれを考慮した検討
　許容誤差(　　)
・小ばりの位置の変更を見込んだ大ばり等の検討
・大きさの変更を見込んだスラブ等の検討(屋根床版含む)
・はり貫通孔の大きさと位置の変更を見込んだ検討
・壁開口の位置の変更を見込んだ検討
・スラブの開口及び段差の変更を見込んだ検討
・間柱の位置の変更を見込んだ検討

構造関係共通事項（共通事項）

構-1 総則

1.1 適用範囲

（1）構造関係共通事項(配筋標準図)は鉄筋コンクリート造及び鉄骨鉄筋コンクリート造等における鉄筋の加工、組立等の一般的な標準図とする。
（2）構造関係共通事項(鉄骨標準図)は鉄骨造及び鉄骨鉄筋コンクリート造等における鉄骨の加工、組立の一般的な標準図とする。
（3）建築構造図に特記無き事項は、公共建築工事標準仕様書（建築工事編）令和7年版による。

1.2 用語の定義

（1）「構造図」とは、建築構造図のうち構造関係共通事項（共通事項）、構造関係共通事項（配筋標準図）及び構造関係共通事項（鉄骨標準図）以外の図面をいう。

1.3 優先順位

設計図書の図面のうち建築構造図に相違がある場合の優先順位は以下のとおりとする。
　1．構造図及び構造関係共通事項（共通事項）
　2．構造関係共通事項（配筋標準図）、構造関係共通事項（鉄骨標準図）

1.4 記号等

（1）図面で使用する記号等は表1.1～表1.8、図1.1を標準とする。
（2）異形鉄筋の径(本文、図、表において「D、d」で示す)は、呼び名に用いた数値とする。
（3）長さ、厚さ等の単位は、特記なき限り㎜とする。

表1.1　異形鉄筋の断面表示記号

区分＼径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
建築	●	×	∅	●	○	⊙	⊗	◎

表1.2　各階伏図における記号

記号	説明	記号	説明
S⁰	スラブの配筋種別		杭の位置
	スラブ厚さ		試験杭の位置
	階段の配筋種別		打増しの範囲
D⁰	土間コンクリート		スラブ開口
	コンクリートブロック壁（ＣＢ壁）		ボーリング位置
	梁・スラブの上がり下がりの範囲	（±　　）	FLからの上がり下がり
EW○○ EKW○○ ERW○○	耐力壁 片持ちスラブ階段を受け、かつ耐力壁 土圧を受け、かつ耐力壁		

表1.3　梁貫通孔記号

区分＼径	50	75	100	125	150	175	200	225	250	275	300	325	350	375	400
建　築															

表1.4　スリーブ材質の凡例

管　名	鋼　管	溶融亜鉛めっき鋼版	硬質塩化ビニル管（薄肉管）	つば付き鋼管（黒管）
記号（建築用）	SP（白管）	GA	VU	RS

※建築用以外のスリーブ材質は各工事による。

表1.5　高力ボルト径の記号

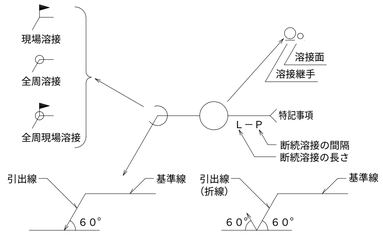
区分＼径	M12	M16	M20	M22	M24
高力ボルト（F10T、S10T）	●	●	●	●	●
溶融亜鉛めっき高力ボルト（F8T相当）					

表1.6　普通ボルト径の記号

区分＼径	M12	M16	M20	M22	M24
普通ボルト	○				

表1.7　溶接方法、溶接継手及び溶接面の分類別記号
設計図中で使用する記号は、JIS Z 3021-2016による。

溶接の種類	基本記号	備　考
I 形開先溶接		ｱﾌﾞｾｯﾄ溶接、ﾌﾗｯｼｭ溶接、摩擦溶接などを含む。
V 形開先溶接、 X 形開先溶接		ｱﾌﾞｾｯﾄ溶接、ﾌﾗｯｼｭ溶接、摩擦溶接などを含む。 X形は基本記号V形を組み合わせたもの。
レ 形開先溶接、 K 形開先溶接		ｱﾌﾞｾｯﾄ溶接、ﾌﾗｯｼｭ溶接、摩擦溶接などを含む。 K形は基本記号レ形を組み合わせたもの。
V 形フレア溶接		
レ 形フレア溶接		
すみ肉溶接		
抵抗スポット溶接、 溶融スポット溶接		
抵抗シーム溶接、 溶融シーム溶接		

項　目	特　記　事　項
	表1.8　溶接の補助記号 区　分 ／ 補助記号 現　場　溶　接 ／ ⚑ 全　周　溶　接 ／ ○ 全　周　現　場　溶　接 ／ ⚑○ 断続溶接の長さ及び間隔 ／ L－P  ※特記無き限り、完全溶込溶接の溶接方法・溶接面は適切な溶接方法等による。 図1.1　溶接記号の記載例
構-2 施工方法等計画書関連等 1.コンクリートの単位水量測定	(1)単位水量の測定は、150m³に1回以上及び荷下し時に品質の異常が認められた時に実施する。 (2)単位水量の上限値は、標準仕様書6.3.2(ｲ)(c)による。 (3)単位水量の管理目標値は次の通りとして、施工する。 1)測定した単位水量が、配合計画書の設計値(以下「設計値」という。)±15kg/m³の範囲にある場合は、その運搬車のレディーミクストコンクリート（以下「生コン」という。）を合格とし、そのまま打設する。 2)測定した単位水量が設計値±15を超え±20kg/m³の範囲にある場合は、その運搬車の生コンを合格とし打設してよいが、水量変動の原因を調査し、生コン生産者に改善を指示する。その後、設計値±15kg/m³以内に安定するまで、運搬車の３台毎に１回、単位水量の測定を行う。 3)測定した単位水量が設計値±20kg/m³を超える場合は、その運搬車の生コンを不合格とし、打設せずに持ち帰らせるとともに、水量変動の原因を調査し、生コン生産者に改善を指示する。その後、単位水量が設計値±20Kg/m³以内になるまで全運搬車の測定を行い、更に設計値±15kg/m³以内に安定するまで、運搬車の３台毎に１回、単位水量の測定を行う。 4)3)により不合格となった生コンを確実に持ち帰ったことを確認する。 (4)単位水量管理についての記録を書面(配合計画書、製造管理記録、打込み時の外気温、コンクリート温度等)と写真により監督職員に提出する。 (5)単位水量の測定方法は、高周波誘電加熱乾燥法(電子レンジ法)、エアメータ法又は静電容量測定法による。また、試験機関は当該生コン生産者以外の機関とする。

TE-RU
TE-RU ARCHITECTS LTD
株式会社 てる設計
〒036-8085
青森県弘前市大字末広4-3-1
TEL0172-27-8647 FAX0172-27-8648
一級建築士事務所 青森県知事 第716号
一級建築士 建設大臣 第213208号
福士 晃昭

平成２７年５月１日　発行　一般社団法人　東京都建築士事務所協会　監修　東京都建築構造行政連絡会

新 構造設計特記仕様　その１

・修正箇所は下線を引くこと
適用は　■　印を記入する。

１．本仕様の適用範囲

（１）本仕様の適用範囲

本特記仕様および配筋標準図は、設計基準強度が 18 N/mm²以上 60 N/mm²以下のコンクリートと、JIS G 3112に規定するSD295A、SD295B、SD345、SD390およびSD490の鉄筋コンクリート用棒鋼を用いる高さが 60 m 以下の鉄筋コンクリート造、鉄骨造等建築物の設計及び工事に適用する。

（２）仕様書等の優先順位

設計図書および仕様書の優先順位は以下による。

①特記仕様
②設計図（伏図、軸組図、部材リスト、詳細図など）
③標準図（鉄筋コンクリート構造配筋標準図など）
④建築工事標準仕様書・同解説（日本建築学会）等

２．建築物の構造内容

（１）建築場所

青森県五所川原市大字一野坪字朝日田12-37他106筆

（２）工事種別

□新築　■増築　□改築　□　□

（３）構造設計一級建築士の関与　□必要　■必要としない

□　法第20条第二号（ □RC造高さ 20 m超　□S造 4 階建以上　□木造高さ 13 m超　□その他 ）
□

（４）階数

地下 0 階　地上 1 階　塔屋 0 階
地下　階　地上　階　塔屋　階
地下　階　地上　階　塔屋　階

（５）構造種別

構造種別	該当階等	架構特徴等
■鉄筋コンクリート造　(RC)	基礎　階～　階	□免震建物
□鉄骨鉄筋コンクリート造 (SRC)	階～　階	□制震建物
■鉄骨造　(S)	1階～ 1 階	□塔状建物
□		□
□		□
□		□

（６）主要用途

□事務所　□共同住宅　□病院　□店舗　□倉庫　■高等学校　□

（７）屋上付属物

□キュービクル　kN　□高架水槽　kN　□広告塔　kN　□煙突　m
□太陽光発電設備　□　□　□

（８）設計荷重

(a)主な積載荷重　(N/m²)

室名	床用	架構用	地震用
屋根	300	300	300
集会室	3500	3200	2100
倉庫×1.5倍	5900	4800	3900

(b)1次設計用地震力

Co = 0.375　Z =0.90　Rt = 1.00　K（地下）=

(c)風荷重

地表面粗度区分　Ⅲ　基準風速　Vo =34　m/sec

(d)雪荷重

■垂直積雪量　160 cm　■設計用雪荷重　4.80 kN/m²　□

(e)特殊の荷重及び仕上材

□エレベーター　kN　基　□受水槽　kN　□エスカレーター
□　□　□　□

（９）構造計算ルート

Ｘ方向ルート　１－（ ２ ）　Ｙ方向ルート　１－（ ２ ）

（10）一次設計時用層間変形角

Ｘ方向　1/　※ rad　Ｙ方向　1/　※ rad
※計算書参照　※計算書参照

（11）付帯工事

□門塀　□擁壁　□駐輪場　□機械式駐車場　□

（12）特定天井

□有　■無

（13）屋根、床、壁

材種	型式　厚　その他	使用箇所	仕様・構法
ALC　(JIS A 5416)	厚	□壁　□床版	□スライド　□ボルト止め
押出し成形セメント版			□ロッキング　□
□ハーフPca版　□Pca版	厚	□壁　□床版	□
折　版	H=162　厚0.8	■屋根　□	■タイトフレーム
特殊デッキプレート 大臣認定（　）	型式　厚	□屋根　□床版	□

３．使用建築材料表・使用構造材料一覧表

（１）コンクリート（レディーミクストコンクリート　JIS Q 1001, JIS Q 1011, JIS A 5308）

適用箇所 階	適用箇所 部位	設計基準強度 Fc = N/mm²	品質基準強度 Fq = N/mm²	スランプ cm (スランプフロー)	比重 γ= kN/m³	備考
	□柱　□壁　□ □梁　■床版　□					
	□柱　□梁　□壁 ■床版　□　□					
	□柱　□梁　□壁 □床版　□　□					
	□柱　□梁　□壁 □床版　□　□					
	□柱　□梁　□壁 □床版　□　□					
	□柱　□梁　□壁 □床版　□　□					
	□床版　□ ■基礎　■地中梁	Fc=27	Fq=27	18	23	Fm=Fq+mSn Fm=27+3=30
	□　□					
	土間コンクリート	■　21				※本仕様適用外
	捨てコンクリート	■　18				※本仕様適用外
セメントの種類		■普通ポルトランドセメント　□中庸熱ポルトランドセメント □低熱ポルトランドセメント　□				
細骨材の種類		■ 砂　□ 山砂　□ 砕砂　□				
粗骨材の種類		■ 砂利　□ 砕石　□　□				
水の区分		■ 水道水　□ 地下水　□ 工業用水 □				
構造体コンクリート強度を保証する材齢		材齢（■28日　□56日　□91日　□　）				
		養生（■標準　□現場水中　□現場封かん　□　）				
単位水量		■ 185 kg/m³ 以下　□ 175 kg/m³ 以下 □				
単位セメント量		■ 270 kg/m³ 以上　□				
混和剤		■ AE減水剤　□ 高性能減水剤　□				
		□　□　□				
空気量		■ 4.5 % 以下　□ 3.0 % 以下　□				
塩化物量		■ 0.3 kg/m³ 以下　□　□				
水セメント比		■ 65 % 以下　□ 50 % 以下　□				

（２）コンクリートブロック　（□ JIS A 5406）

□ A種　□ B種　□ C種　厚 □ 100　□ 120　□ 150　□ 190　使用箇所（□　□　）

（３）鉄　筋

鉄筋	種類	使用径 mm	使用箇所	備考
異形鉄筋 (JIS G 3112)	■ SD295 A	10, 13, 16	基礎	■重ね継手
	□ SD295 B			■ガス圧接継手
	■ SD345	19, 22, 25	地中梁、柱型基礎	□溶接継手
	□ SD390			□機械式継手
	□ SD490			□
	□			□機械式定着工法
高強度せん断補強筋	□ 685			□大臣認定番号
	□ 785			MSRB-
	□ 1275			
	□			
溶接金網 (JIS G 3551)	□			
	□			

注1）SD490をガス圧接する場合は施工前に試験を行うこと。
注2）各継手の使用詳細については本仕様その2の9.(2)鉄筋の項の鉄筋継手の項に■にて表示すること。

（４）鉄　骨

種類	使用箇所	現場溶接	JIS規格・認定番号等
■SS400　□SM400　□SN400 A,B,C	梁・小梁等	□有 ■無	JIS G 3136
■SN490 B　■SN490 C	梁、ダイアフラム	□有 ■無	JIS G 3160
■STKR400　□STKR490	間柱	□有 ■無	JIS G 3466
■BCR295　□BCP235　□BCP325	柱	□有 □無	大臣認定品 認定番号 MSTL-0188 0189
■SSC400	胴縁等	□有 ■無	JIS G 3350
□　□			
□　□			
溶接材料　□			JIS Z
□　□			

（５）ボルト等

■高力ボルト
■F10T(JIS B1186)　■S10T 大臣認定番号（ MBLT-0125 ）　（■M16、■M20、□M22、□M24、□　）
□溶融亜鉛めっき高力ボルト F8T 大臣認定番号（　）　（□M16、□M20、□M22、□M24、□　）
□

■ボルト(JIS B1180)　M12　M　■ 4.8(4T)　□　□

■アンカーボルト（構造用アンカーボルト）
■SS400　M 12, 16　L= 250, 350　mm　ナット（□シングル、■ダブル）
□ABR400　M　L=　mm　ナット（□シングル、□ダブル）（JIS B 1220）
□　M　L=　mm　ナット（□シングル、□ダブル）

□頭付スタッド(JIS B1198)
φ=　L=　mm　使用箇所（□柱　□大梁　□小梁）
φ=　L=　mm　使用箇所（□柱　□大梁　□小梁）

４．地　盤

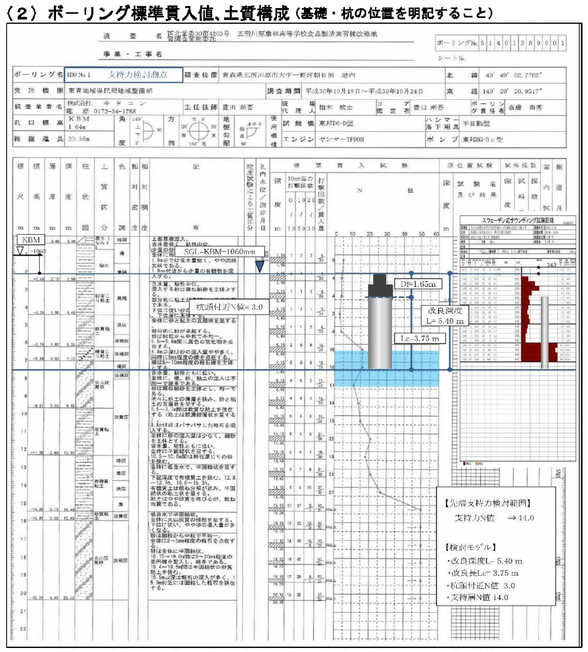
（１）地盤調査資料と調査計画

■有　（■敷地内　□近隣）　□無　（調査計画　□有　□無）

調査項目	資料有り	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画
ボーリング調査	○		静的貫入試験			標準貫入試験	○	
水平地盤反力係数の測定			土質試験			物理探査		
試験堀（支持層の確認）			平板載荷試験			液状化判定		
スウェーデン式サウンディング	○		現場透水試験			ＰＳ検層		

注）上記表中の資料が有るもの、調査計画が有るものに○を記入する。

（２）ボーリング標準貫入値、土質構成（基礎・杭の位置を明記すること）



注）地盤調査及び試験杭の結果により、杭長さ、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある。

５．地業工事

（１）直接基礎　□ベタ基礎　□布基礎　□独立基礎　試験堀 □有 □無
深さ GL－　m、支持層－　、長期許容支持力度　kN/m²　載荷試験 □有 □無

（２）地盤改良　□浅層混合処理工法　■深層混合処理工法　□
深さ　GL－5.40　m、長期許容支持力度　270 kN/m²　載荷試験 □有 ■無
注）「建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針：日本建築センター2002」を参考とする

（３）杭基礎　支持層－

杭種	材料	施工法	備考
□場所打ち コンクリート杭	コンクリートFc　N/mm² スランプ　cm以下 セメント量　kg/m³ 単位水量　kg/m³	□オールケーシング □リバースサーキュレーション □アースドリル □拡底杭　□拡頭・拡底杭 □鋼管補強杭 □ □深 礎　□手掘　□機械掘	認定 第　号 年　月　日

既製杭・杭種	種類	材料	施工法	備考
□ PRC	□Ⅰ種 □Ⅱ種 □Ⅲ種 □	鋼材□	□埋め込み	認定
□ PHC	□A種　□B種　□C種　□	鋼材□	□打ち込み	第　号
□ 鋼管	□	コンクリート□FC85	□	年　月　日
□ SC	□	コンクリート□FC105	□	

杭仕様　□施工計画書承認　□杭施工結果報告書
試験杭　（□有・□無）　（□打ち込み・□載荷・□孔壁測定）　本

杭径(mm)	設計支持力(kN)	杭の先端の深さ(m)	本数	特記事項

６．鉄骨工事　（施工方法等計画書）

（１）鉄骨工事は指示のない限り下記による

■　日本建築学会「ＪＡＳＳ６ 2012年版」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」
■　一社）日本鋼構造協会「建築鉄骨工事施工指針」
■　鉄骨製作管理技術者登録機構「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」

（２）工事監理者の承認を必要とするもの

■製作工場　■製作要領書　□工作図　□施工計画書
■認定または登録工場（大臣認定　S　H　M　Ⓡ　J　グレード　都登録　T1　T2　T3　ランク）
■材料規格証明書※、または試験成績書
■鋼材　■高力ボルト　□特殊ボルト　□頭付スタッド
※一社）日本鋼構造協会「建築構造用鋼材の品質証明ガイドライン」の規格証明方法、またはミルシート。
□社内検査表　□　□

（３）工事監理者が行う検査項目

（■印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること）
■現寸検査　■組立・開先検査　■製品検査　■建方検査　□

（４）接合部の溶接は下記によること

■　平成12年建設省告示第1464号第二号 イ、ロ
■　鉄骨造等の建築物の工事に関する東京都取扱要綱
□　日本建築学会「溶接工作規準、同解説Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ、Ⅶ、Ⅷ、Ⅸ」
□　日本建築学会「鉄骨工事技術指針　工事現場施工編」

（５）接合部の検査

□　溶接部の検査（検査結果は工事監理者に報告すること）

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数 工場自主検査	第三者受入検査	工事監理者	備考
■完全溶込み溶接部（突合せ溶接）□	外観検査（※）	100 % 個	100 % 個	100 % 個	※平成12年建設省告示第1464号第二号による（目視及び計測） (注) 東京都の要綱に基づき必要となる建築物の場合に実施する
	超音波探傷検査	100 % 個	30 % 個	% 個	
	内質検査(注) □硬さ試験	% 個	% 個	% 個	
	内質検査(注) □示温塗料塗布	% 個	% 個	% 個	
	マクロ試験・その他	個		個	
■　隅肉溶接部	外観検査（※）	100 % 個	100 % 個	100 % 個	
第三者検査機関名	工事監理者の指示による事　（都知事登録　号）				

第三者検査機関とは、建築主、工事監理者又は工事施工者が、受入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。

注1）現場溶接部については原則として第三者検査機関による全数検査とし、外観検査、超音波探傷検査を100%行うこと
注2）知事が定めた重大な不具合が発生した場合は、是正前に対応策を建築主事等に報告すること

■　高力ボルトの検査（検査結果は後日工事監理者に報告すること）
軸力導入試験　□ 要　■ 否　高力ボルトすべり係数試験　□ 要　■ 否
■　一次締め後にマーキングを行い、二次締め後そのずれを見て、共回り等の異常が無いことを確認する。
■　トルシア形高力ボルトは二次締め後、マーキングのずれとピンテールの破断を確認する。

（６）防錆塗装

■　防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。錆止めペイントは、□JIS K 5621、□JIS K 5625、■JIS K 5674、□　（フォースター　F☆☆☆☆）を使用し、２回塗りを標準とするが、実状に応じて決定すること。
■　現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調整は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し、２回塗りとする。

（７）耐火被覆の材料

□

７．設備関係

■　建築設備の構造および構造体への緊結部分は、構造耐力上安全な構造方法を用いるものとする。
■　建築設備の支持構造部および緊結金物には、錆止め等、防腐のための有効な措置を講じること。
■　建築物に設ける屋上からの突出する水槽・煙突・その他これらに類するものは、風圧・地震力等に対して構造耐力上主要な部分に緊結され、安全であること。
□　煙突は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを５ｃｍ以上とした鉄筋コンクリート造とすること。
■　設備配管は、地震時等の建物変形に追従できること。また、地震力等に対して適切に支持されていること。
■　設備機器の架台及び基礎については、風圧・地震力等に対して構造耐力上安全であること。
□　エレベーター・エスカレーターの駆動装置等は、構造体に安全に緊結されていること。
また、地震時の層間変形に追従できること。
■　特記以外の梁貫通孔は原則として設けない。
■　床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの１／３以下とし管の間隔を管径の３倍以上かつ５ｃｍ以上を原則とする。
■　告示第1388号第５　給湯設備の地震に対して安全上支障のない構造とする
□

８．その他

■　諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
■　各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。
■　必要に応じて記録写真を撮り保管すること。

特記事項	承認	検図	担当	製図		工事名称	五所川原農林高等学校実習棟（リンゴ冷蔵庫）改築工事	図面番号
構造設計					TE-RU ARCHITECTS LTD	図面名称	新構造設計特記仕様その１	標準図－０１
goto建築設計事務所					〒036-8085 青森県弘前市大字末広4-3-1 TEL0172-27-8647 FAX0172-27-8648			
一級建築士 344621号								
構造設計一級建築士 10033号	MEMO				株式会社 てる設計 一級建築士事務所 青森県知事 第716号 一級建築士 建設大臣 第213209号 福士 晃昭	縮尺	年 月 日 2026 3	
後藤 誉洋								

新 構造設計特記仕様　その２

※修正箇所は下線を引くこと
適用は　■　印を記入する。

９．鉄筋コンクリート工事

（１）コンクリート

鉄筋コンクリート工事の施工に関しては記載無きは、JASS 5 2009 による。

(a) コンクリートの仕様

本仕様書では、JASS 5に規定する普通骨材を用いた一般仕様のコンクリートを「普通コンクリート」と定義し、表9.1に示す様に設計基準強度が36N/mm²以下のコンクリートについてはJASS5の3節～11節を適用し、36N/mm²を超えるコンクリートについてはJASS5の17節（高強度コンクリート）を適用する。また、設計基準強度もしくは品質基準強度と構造体強度補正値から定める調合管理強度以上とし、発注するレディーミクストコンクリートの呼び強度が表9.2に示すJIS規格外となる場合は、法第37条の大臣認定を受けた製品を用いる必要がある。
軽量コンクリートについてはJASS 5の14節によること。

表9.1　コンクリート圧縮強度(N/mm²)に応じた仕様書の使い分け

設計基準強度 Fc	18	21	24	27	30	33	36	39	42	45	48	51	54	57	60
JASS 5での区分	普通コンクリート							高強度コンクリート							

表9.2　レディーミクストコンクリートのJIS規格品

調合管理強度(N/mm²)	21	24	27	30	33	36	39	42	45	48	51	54	57	60	60超
呼び強度（JIS規格品）	21	24	27	30	33	36	40	42	45	50	55	55	60	60	※

※印は規格外

(b) 品質と施工

■ 構造体の計画供用期間の級は特記による。特記が無い場合は標準とする。
　□ 短期　　□ 標準　　■ 長期　　□ 超長期

■ コンクリートは JIS A 5308（レディーミクストコンクリート）に適合するJIS認証工場の製品とする。

■ 設計基準強度が 36 N/mm²を超えるコンクリートを扱うレディーミクストコンクリート工場は、「高強度コンクリート」の製品認証を受けているか、建築基準法第37条第二号によって国土交通大臣が指定建築材料として認定した高強度コンクリートの製造工場とする。

■ レディーミクストコンクリート工場および高強度コンクリートを打設する施工現場には、コンクリート主任技士またはコンクリート技士、あるいはこれらと同等以上の知識経験を有すると認められる技術者が常駐していなければならない。

■ 施工者は、工事に先立ち、コンクリートの調合・製造計画、施工計画、品質管理計画書を作成し、工事監理者の承認を得ること。

■ フレッシュコンクリートの流動性は、スランプまたはスランプフローで表し、設計基準強度が 36 N/mm²以下 33 N/mm²以上の場合スランプ21cm以下、33 N/mm²未満の場合スランプ18cm以下とし設計基準強度が36 N/mm²超 45 N/mm²未満の場合はスランプ 21 cm以下またはスランプフロー 50 cm以下、設計基準強度が 45 N/mm²以上の場合はスランプ 23 cm以下またはスランプフロー 60 cm以下とし、特記による。

■ コンクリートに含まれる塩化物量は、塩化物イオン量として 0.3 kg/m³以下とする。

■ コンクリートの練混ぜから打込み終了までの時間は、原則として120分を限度とする。

■ コンクリート打込み時の自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。

■ 打継ぎ部は構造的に影響の少ない位置を選び打継ぎ処理を行い、打込み前に十分な水湿しを行う。

■ 打込み後の湿潤養生の期間は、セメントの種類および設計基準強度に応じて3日以上とする。

(c) 調合および構造体コンクリート強度

ｉ）高強度コンクリート

□ 調合強度を定めるための基準とする材齢は、特記による。特記のない場合は 28日とする。

□ 構造体コンクリート強度を保証する材齢は、特記による。特記のない場合は 91日とする。

□ 構造体コンクリート強度は、次の①または②を満足するものとする。

① 標準養生した供試体による場合、調合強度を定めるための基準とする材齢において調合管理強度以上とする。

② 構造体温度養生した供試体による場合、構造体コンクリート強度を保証する材齢において設計基準強度に 3 N/mm²加えた値以上とする。

□ 調合管理強度は、以下による。

$_HF_m = F_c + {}_mS_n$ (N/mm²)

$_HF_m$ ： 高強度コンクリートの調合管理強度　(N/mm²)

F_c ： コンクリートの設計基準強度　(N/mm²)

$_mS_n$ ： 高強度コンクリートの構造体強度補正値で JASS 5 による。

□ 調合強度は標準養生供試体の圧縮強度で表すものとし、下記の両式を満足するように定める。

$_HF \geqq {}_HF_m + 1.73\sigma_H$　(N/mm²)

$_HF \geqq 0.85\ {}_HF_m + 3\sigma_H$　(N/mm²)

$_HF$ ： 高強度コンクリートの調合強度　(N/mm²)

σ_H ： 高強度コンクリートの圧縮強度の標準偏差　(N/mm²)　で、レディーミクストコンクリート工場の実績による。実績がない場合は、$0.1(F_c+{}_mS_n)$とする。

ⅱ）普通コンクリート

■ 調合を定めるための基準とする材齢は、原則として 28日とする。

■ 構造体コンクリート強度は表9.3を満足すれば合格とする。

表9.3　構造体コンクリートの圧縮強度の判定基準

供試体の養生方法	試験材齢(1)	判定基準
標準養生(2)	28 日	X ≧ Fm
コ　ア	91 日	X ≧ Fq

ただし、X ： 1回の試験における3個の供試体の圧縮強度の平均値 (N/mm²)
Fm: コンクリートの調合管理強度 (N/mm²)
Fq: コンクリートの品質基準強度 (N/mm²)

[注] (1) 早い材齢において試験を行い、合否判定基準を満たした場合は、合格とする。
(2) 工事監理者の承認を得て、供試体成型後、翌日までは20±10℃の日光および風が直接当らない箇所で、乾燥しないように養生して保管することができる。

＊ 標準養生供試体の代わりにあらかじめ準備した現場水中養生供試体によることができる。
その場合の判定基準は材齢28日までの平均気温が20℃以上の場合は、3個の供試体の圧縮強度の平均値が調合管理強度以上であり、平均気温が20℃未満の場合は、3個の供試体の圧縮強度の平均値から 3 N/mm²を減じた値が品質基準強度以上であれば合格とする。

＊ コア供試体の代わりにあらかじめ準備した現場封かん養生供試体によることができる。
その場合の判定基準は材齢28日を超え91日以内のn日において3個の供試体の圧縮強度の平均値から 3 N/mm²を減じた値が品質基準強度以上であれば合格とする。

■ 調合管理強度は、以下による。

$F_m = F_q + {}_mS_n$ (N/mm²)

F_m ： コンクリートの調合管理強度　(N/mm²)

F_q ： コンクリートの品質基準強度　(N/mm²)

$_mS_n$ ： 標準養生した供試体の材齢 m 日における圧縮強度と構造体コンクリートの n 日における圧縮強度の差による構造体強度補正値　(N/mm²)

■ 調合強度は標準養生した供試体の材齢 m 日における圧縮強度で表すものとし、下記の両式を満足するように定める。調合強度を定める材齢 m 日は、原則として 28 日とする。

$F \geqq F_m + 1.73\sigma$　(N/mm²)

$F \geqq 0.85\ F_m + 3\sigma$　(N/mm²)

F ： コンクリートの調合管理強度　(N/mm²)

σ ： 使用するコンクリートの圧縮強度の標準偏差 (N/mm²) で、レディミクストコンクリート工場の実績による。実績のない場合は 2.5N/mm²、または 0.1Fm の大きい方の値とする。

(d) 検査

■ フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で（一財）国土開発技術センターの技術評価を受けた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真（カラー）を保管し、工事監理者の承認を得る。測定検査の回数は、通常の場合 1 日 1 回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて３回行い、その平均値を試験値とする。

■ スランプの許容差は、普通コンクリートの場合、スランプが 18cm以下の場合±2.5cm、21cmの場合±1.5cm（呼び強度27以上で高性能AE減水剤を使用する場合は±2cm）とする。
高強度コンクリートの場合は、スランプが 18cm以下の場合±2.5cm、21cm以上の場合±2cmとし、スランプフローの許容差は、目標スランプフローが 50cm以下の時は±7.5cm、50cmを超える時は±10cmとする。

■ 使用するコンクリートの圧縮強度試験は、普通コンクリートでは標準養生を行った供試体を用いて材齢 28日で行い、1回の試験は、打込み工区ごと、打込み日ごと、かつ 150m³またはその端数ごとに 3個の供試体を用いて行う。 3回の試験で 1検査ロットを構成する。
高強度コンクリートでは、打込み日かつ 300m³ごとに検査ロットを構成して行う。1検査ロットにおける試験回数は 3回とする。検査は適当な間隔をあけた任意の 3台のトラックアジテータから採取した合計 9個の供試体による試験結果を用いて行う。検査に用いる供試体の養生方法は標準養生とする。

■ 構造体コンクリートの圧縮強度の検査は普通コンクリートでは、打込み工区ごと、打込み日ごと、かつ 150m³またはその端数ごとに 1回行う。 1回の試験には適当な間隔をおいた 3台の運搬車から 1個ずつ採取した合計 3個の供試体を用いる。
高強度コンクリートでは打込み日、打込み工区かつ 300m³ごとに行う。検査には適当な間隔をあけた任意の 3台のトラックアジテータから採取した合計 9個の供試体を用いる。検査に用いる供試体の養生方法は標準養生または構造体温度養生とする。

■ 使用するコンクリートの圧縮強度の判定は、JASS5による。
構造体コンクリートの圧縮強度の判定は、(c)調合および構造体コンクリート強度による。

■ コンクリートの試験は、「建築物の工事における試験および検査に関する東京都取扱要綱」第4条の試験機関で行うこと。
試験・検査機関名　工事監理者の指示による事　（都知事登録　　号）
代行業者名　　（登録番号　　号）
代行業者とは、試験・検査に伴う業務を代行するものを言う。

（２）鉄　筋

(a) 施工

■ 鉄筋はJIS G 3112（鉄筋コンクリート用棒鋼）に適合するものを用いる。溶接金網および鉄筋格子は、JIS G 3551（溶接金網および鉄筋格子）に適合するものを用いる。

□ 高強度せん断補強筋は、技術評価を取得し、建築基準法第37条の材料認定を受けたものを用いる。

■ 鉄筋の加工寸法、形状、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「新 鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)～(3)」による。

■ 鉄筋の継手は重ね継手、ガス圧接継手、機械式継手または溶接継手によることとし、鉄筋径と使用箇所を定め特記による。

表9.4　鉄筋の継手

鉄筋継手工法	継手の位置等の設計条件による仕様・等級				鉄筋の径	使用箇所
	(1) 引張力最小部位	(2) (1)以外の部位（注）				
		A 級	B 級	SA級		
■ 重ね継手	標準図による				■ D（16）以下	基礎
■ 圧接継手	■ 告示1463号第2項各号	□			■ D（19）以上	基礎
□ 溶接継手	□ 告示1463号第3項各号	□	□		□ D（　）以上	
□ 機械式継手	□ 告示1463号第4項各号	□	□	□	□ D（　）以上	

注）(1)以外の部位に設ける継手は、平成12年告示第1463号ただし書きに基づき、日本鉄筋継手協会、日本建築センター等の認定・評定等を取得した継手工法の等級で、構造計算にあたって『鉄筋継手使用基準（建築物の構造関係技術基準解説書 2007）』によって検討した部材の条件・仕様によること。

■ 機械式継手および圧接継手および溶接継手は（公社）日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書」による他、所要の品質が得られるように工事計画および工事管理計画を定めて、工事監理者の承認を受ける。

■ ガス圧接の施工は、強風時または降雨時には原則として作業を行わない。ただし、風除け・覆いなどの設備をした場合には、工事監理者の承認を得て作業を行うことができる。

■ 圧接技量資格者は、（公社）日本鉄筋継手協会によって認証された技量適格性証明書を工事監理者に提出し、承認を受ける。

■ 機械式鉄筋定着工法に用いる定着板には信頼できる機関による性能証明書等を取得した定着金物を用いる。

(b) 検査

継手部の検査方法

各継手工法ごとの検査は平12建告1463号による他、具体的な検査方法は、（公社）日本鉄筋継手協会の仕様書を参照のこと。

表9.5　継手の検査　　※１ロットあたりとする

	継手方法	外観検査	引 張 試 験	超音波探傷試験
1	ガス圧接	■有　100 %	□有 ■無　　%　　個	■有 □無　　%　30個
2	溶　接	■有　　%	□有 □無　　%　　個	□有 □無　　%　　個
3	機 械 式	■有　　%		□有 □無　　%　　個

ガス圧接部分の検査を超音波探傷検査によって行う場合、最初の数ロットについては引張試験も併用し、1回の引張試験は 5本以上とする。（ 1ロットは同一作業班が同一日中に作業した圧接箇所で 200箇所程度とする。）

■ 鉄筋の継手の試験・検査は、「要綱」第4条の試験機関、又は第8条の検査機関で行うこと。
試験・検査機関名　工事監理者の指示による事　（都知事登録　　号）

（３）かぶり厚さ

■ 最小かぶり厚さは、表9.6に規定する設計かぶり厚さを10mm減じた値とする。

■ 設計かぶり厚さは、コンクリート打込み時の変形・移動などを考慮して、最小かぶり厚さが確保されるように、部位・部材ごとに定めるものとし、表9.6以上の値とする。

表9.6　設計かぶり厚さ（単位：mm）

構造体の計画供用期間の級		標準・長期		超長期	
部材の種類		屋　内	屋　外(2)	屋　内	屋　外(2)
構造部材	柱・梁・耐力壁	40	50	40	50
	床スラブ・屋根スラブ	30	40	40	50
非構造部材	構造部材と同等の耐久性を要求する部材	30	40	40	50
	計画供用期間中に維持保全を行う部材 (1)	30	40	(30)	(40)
直接土に接する柱・梁・壁・床および布基礎の立上り部分、擁壁の壁部分		50			
基礎、擁壁の基礎・底盤		70			

注）(1) 計画供用期間の級が超長期で計画供用期間中に維持保全を行う部材では、維持保全の周期に応じて定める。
(2) 計画供用期間の級が標準、長期および超長期で、耐久性上有効な仕上げを施す場合は、屋外側では設計かぶり厚さを 10mm減じることができる。

■ 完成した構造体の各部位における最外側鉄筋のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。

■ コンクリート構造体に誘発目地・施工目地などを設ける場合は、建築基準法施行令第79条に規定する数値を満足し、構造耐力上必要な断面寸法を確保し、防水上および耐久性上有効な措置を講じれば上記によらなくても良い。

（４）型　枠

■ 型枠および支保工の存置期間は、昭63年建告第1655号に基づき下表による。

表9.7　型枠存置日数　　昭和46年建設省告示第110号（昭和63年改正建設省告示第1655号）

種類	せき板				支柱		
部位	基礎、梁側、柱、壁		スラブ下、梁下		スラブ下		梁下
セメントの種類 / 存置期間の平均気温	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント 普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種
コンクリートの材令（日）　15℃以上	2	3	4	6	8	17	28
5℃～15℃	3	5	6	10	12	25	28
5℃未満	5	8	10	16	15	28	28
コンクリートの圧縮強度	※ 5.0N/mm²		設計基準強度の50%		設計基準強度の85%		設計基準強度の100%

※ JASS 5では普通コンクリートの場合計画供用期間の級が標準にあっては 5 N/mm²以上、長期及び超長期の場合は 10 N/mm²以上、また高強度コンクリートの場合は 10 N/mm²以上。

注）1 片持ち梁、庇、スパン 9.0m以上の梁下は、工事監理者の承認による。

注）2 大梁の支柱の盛替えは行わない。また、その他の梁の場合も原則として行わない。

注）3 支柱の盛替えは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。

注）4 盛替え後の支柱頂部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。

注）5 支柱の盛替えは、小梁が終ってからスラブを行う。一時に全部の支柱を取り払って盛替えをしてはならない。

注）6 直上階に著しく大きい積載荷重がある場合においては、支柱（大梁の支柱を除く）の盛替えを行わないこと。

注）7 支柱の盛替えは、養生中のコンクリートに有害な影響をもたらすおそれのある振動または衝撃を与えないように行うこと。

特記事項	承　認	検　図	担　当	製　図
構造設計 goto建築設計事務所 一級建築士 344621号 構造設計一級建築士 10033号 後藤　誉洋				
MEMO				

TE-RU
TE-RU ARCHITECTS LTD
〒036-8085
青森県弘前市大字末広4-3-1
TEL0172-27-8647 FAX0172-27-8648
株式会社 てる設計
一級建築士事務所 青森県知事 第716号
一級建築士 建設大臣 第213208号
福士 晃昭

工事名称	五所川原農林高等学校実習棟（リンゴ冷蔵庫）改築工事			図面番号
図面名称	新構造設計特記仕様その２			標準図－０２
縮　尺		年　月　日	2026.3	

平成２７年５月１日　発行　一般社団法人　東京都建築士事務所協会　監修　東京都建築構造行政連絡会

新 鉄筋コンクリート構造配筋標準図（1）

※修正箇所は下線を引くこと

１．一般事項

（１）構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。

（２）記号

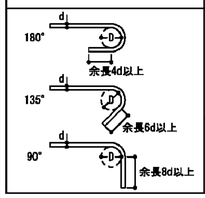
d･･･異形棒鋼の呼び名に用いた数値（径）　D･･･部材の成、又は鉄筋内法直径

@･･･間隔　r･･･半径　℄･･･中心線　ℓ_o･･･部分間の内法距離　ｈｏ･･･部材間の内法高さ

ＳＴ･･･あばら筋　ＨＯＯＰ･･･帯筋　Ｓ.ＨＯＯＰ･･･補強帯筋

２．鉄筋加工

（１）鉄筋の折り曲げ加工

図	折り曲げ角度	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折り曲げ内法直径(D)
	180° 135° 90°	SD295A SD295B SD345	D16以下	3d以上
			D19～D41	4d以上
		SD390	D41以下	5d以上
	90°	SD490	D25以下	
			D29～D41	6d以上

［注］（１）dは呼び名に用いた数値とする。

（２）スパイラル筋の重ね継手部に90°フックを用いる場合は、余長は12d以上とする。

（３）片持スラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フックまたは135°フックを用いる場合は、余長は4d以上とする。

（４）スラブ筋、壁筋には、溶接金網を除いて丸鋼を使用しない。

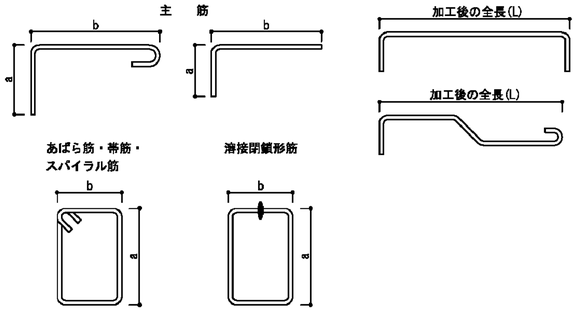
（５）折り曲げ内法直径を上表の数値よりも小さくする場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い支障ないことを確認した上で、工事監理者の承認を得る。

（６）SD490の鉄筋を90°を超える曲げ角度で折り曲げ加工する場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い、支障ないことを確認した上で、工事監理者の承認を得る。

（２）加工寸法の許容差　(mm)

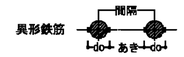
項目			符号	許容差
各加工寸法(1)	主筋	D25以下	a，b	± 15
		D29以上D41以下	a，b	± 20
	あばら筋・帯筋・スパイラル筋		a，b	± 5
加工後の全長			L	± 20

［注］（１）各加工寸法及び加工後の全長の測り方の例を下図に示す。



（３）鉄筋のあき

異形鉄筋では呼び名に用いた数値1.5d以上、組骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25mmのうち最も大きい値。



（４）鉄筋のフック

a～eに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。

a. あばら筋、帯筋、および幅止メ筋

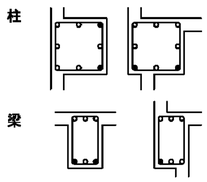
b. 煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む）

c. 柱、梁(基礎梁は除く)の出すみ部分
および下端の両端にある場合の鉄筋(右図参照)

d. 単純梁の下端筋

e. その他、本配筋標準に配載する箇所

図の● 印の鉄筋の重ね継手の末端にはフックが必要



（５）定着長さ

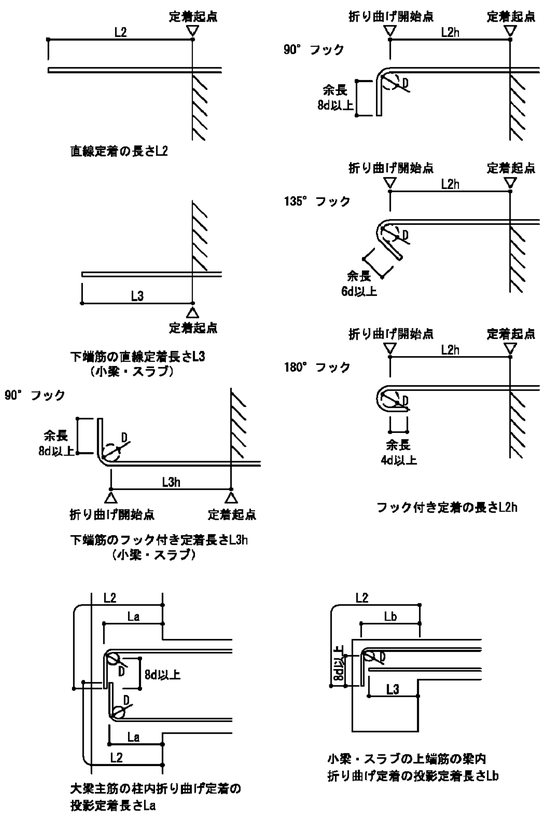
鉄筋種別	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm²)	定着の長さ 一般 L2 (フックなし)	一般 L2h (フックあり)	一般 La(3)	一般 Lb	小梁下端筋 L3 (フックなし)	小梁下端筋 L3h (フックあり)	スラブ下端筋 L3 (フックなし)
SD295A SD295B	18	40d	30d	20d	15d	20d	10d	10d かつ 150以上
	21	35d	25d	15d	15d			
	24～27	30d	20d	15d	15d			
	30～36	30d	20d	15d	15d			
	39～45	25d	15d	15d	15d			
	48～60	25d	15d	15d	15d			
SD345	18	40d	30d	20d	20d			
	21	35d	25d	20d	20d			
	24～27	35d	25d	20d	15d			
	30～36	30d	20d	15d	15d			
	39～45	30d	20d	15d	15d			
	48～60	25d	15d	15d	15d			
SD390	21	40d	30d	20d	20d			
	24～27	40d	30d	20d	20d			
	30～36	35d	25d	20d	15d			
	39～45	35d	25d	15d	15d			
	48～60	30d	20d	15d	15d			
SD490	24～27	45d	35d	25d	—	—	—	—
	30～36	40d	30d	25d	—			
	39～45	40d	30d	20d	—			
	48～60	35d	25d	20d	—			

［注］（１）フック付き鉄筋の定着長さL2hは、定着起点から鉄筋の折り曲げ開始点までの距離とし、折り曲げ開始点以降のフック部は定着長さに含まない。

（２）フック部の折り曲げ内法直径D及び余長は、「鉄筋の折り曲げ加工」の表による。

（３）梁主筋を柱へ定着する場合、水平定着長さがL2h確保できない場合は折り曲げ定着とし、全定着長をL2以上とするとともに、水平投影長さをLa以上とし、余長を8d以上とする。尚、Laの値は原則として柱せいの3/4倍以上とする。

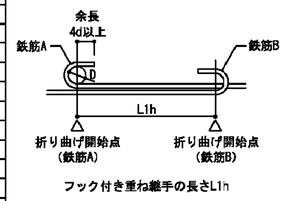
（４）耐圧スラブの下端筋の定着長は一般定着L2とする。



（６）継手

■重ね継手

鉄筋種別	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm²)	重ね継手長さ L1 (フックなし)	L1h (フックあり)
SD295A SD295B	18	45d	35d
	21	40d	30d
	24～27	35d	25d
	30～36	35d	25d
	39～45	30d	20d
	48～60	30d	20d
SD345	18	50d	35d
	21	45d	30d
	24～27	40d	30d
	30～36	35d	25d
	39～45	35d	25d
	48～60	30d	20d
SD390	21	50d	35d
	24～27	45d	35d
	30～36	40d	30d
	39～45	40d	30d
	48～60	35d	25d
SD490	24～27	56d	40d
	30～36	50d	35d
	39～45	45d	35d
	48～60	40d	30d



［注］（１）表中のdは、異形鉄筋の呼び名の数値を表し、丸鋼には適用しない。

（２）直径の異なる鉄筋相互の重ね継手の長さは、細い方のdによる。

（３）フック付き重ね継手の長さは、鉄筋相互の折り曲げ開始点間の距離とし、折り曲げ開始点以降のフック部は継手長さに含まない。

■継手に関する注意点

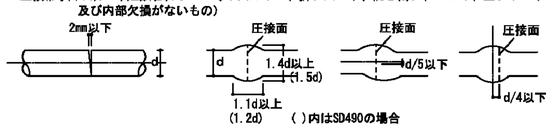
1．継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする。

2．D29以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない。

3．鉄筋径dの差が7mmを超える場合は、圧接としてはならない。

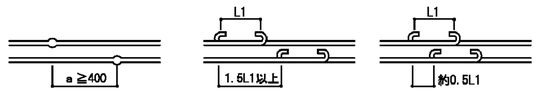
4．ガス圧接継手の形状、および継手の配置は下図による。

・ガス圧接形状（平成12年建設省告示1463号下図のほか、折れ曲がり、焼き割れ、へこみ、垂れ下がり及び内部欠損がないもの）



・圧接継手

・重ね継手（下図のいずれかとする）



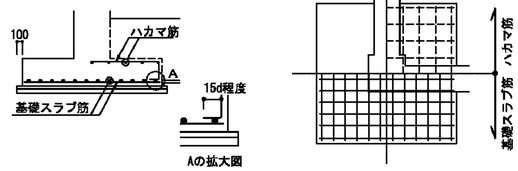
5．溶接継手および機械式継手を用いる場合は、信頼できる機関の評定等を受けたA級継手工法とする。

6．非破壊検査は工事監理者が承諾した信頼できる検査機関で行うこと。

３．杭・基礎　（配筋については地震力等の水平力等を考慮して別途検討すること）

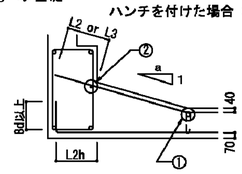
（１）直接基礎

①独立基礎



②ベタ基礎

ハンチを付けた場合（ａ≧3）



1．耐圧版鉄筋の継手位置は床スラブにならう
但し上筋と下筋を読みかえる

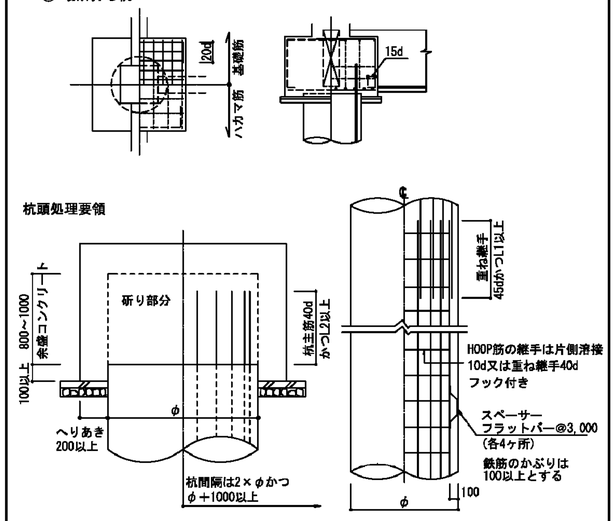
2．① の鉄筋はスラブ主筋の径以上とする

3．② の鉄筋はD13以上

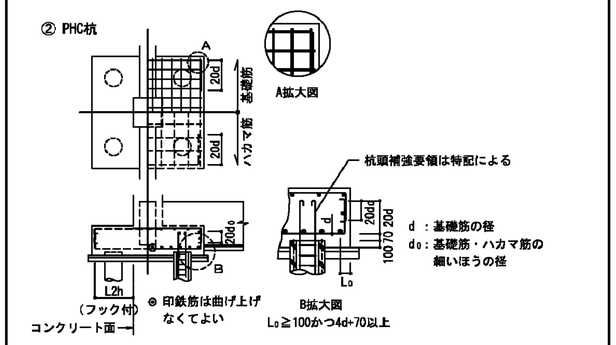
4．埋戻し土のある場合は40を70とする

（２）杭基礎

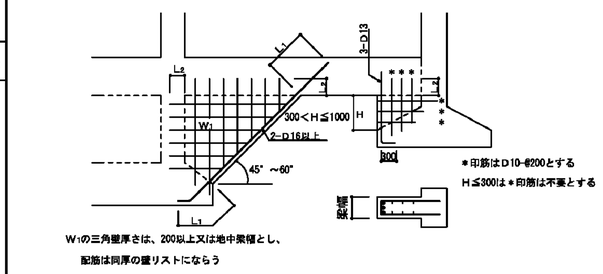
① 場所打ち杭



② PHC杭



（３）基礎接合部の補強



特記事項	承認	検図	担当	製図
構造設計				
goto建築設計事務所				
一級建築士 344621号				
構造設計一級建築士 10033号				
後藤　誉洋				

MEMO

TE-RU
TE-RU ARCHITECTS LTD
〒036-8085
青森県弘前市大字末広4-3-1
TEL0172-27-8847 FAX0172-27-8848
株式会社 てる設計
一級建築士事務所　青森県知事　第716号
一級建築士　建設大臣　第213208号
福士　晃昭

工事名称	五所川原農林高等学校実習棟（リンゴ冷蔵庫）改築工事		図面番号
図面名称	新鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)		標準図－０３
縮　尺		年　月　日　2006 2	

平成２７年５月１日　発行　一般社団法人　東京都建築士事務所協会　監修　東京都建築構造行政連絡会

新鉄筋コンクリート構造配筋標準図（２）

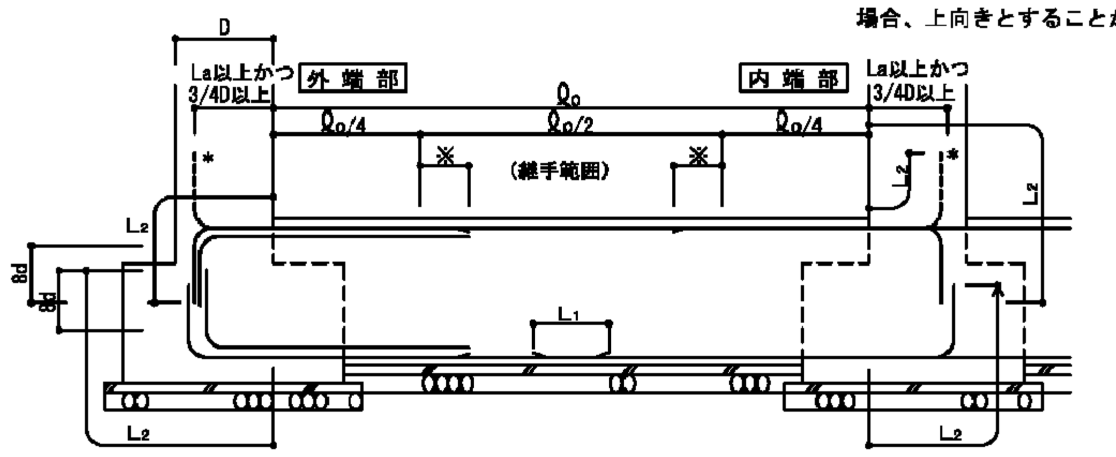
※修正箇所は下線を引くこと

４．地中梁

（１）独立基礎、杭基礎の場合（定着、継手）

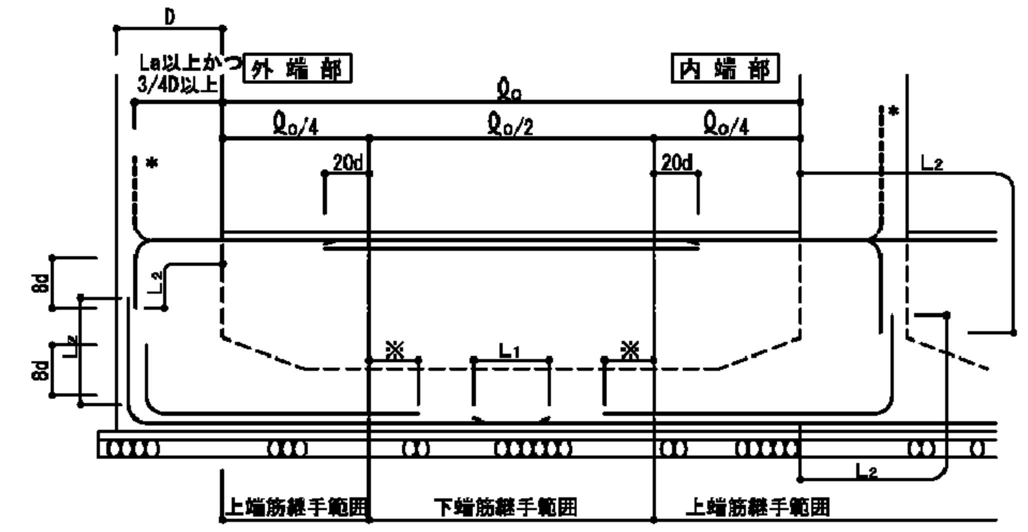
（長期荷重が支配的な場合の継手は6.(2)大梁継手位置とする）

＊上端主筋の定着は、やむをえない場合、上向きとすることができる



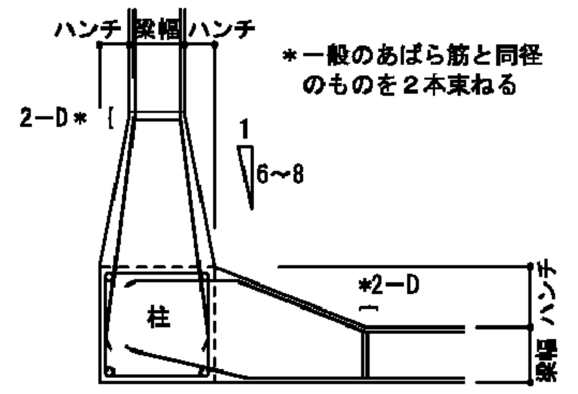
※主筋のカットオフ長さは ℓo/4 + 15dを基本とし、特別な長さを要する部分は6. 大梁の項の表6-1による

（２）布基礎、べた基礎の場合（定着、継手）



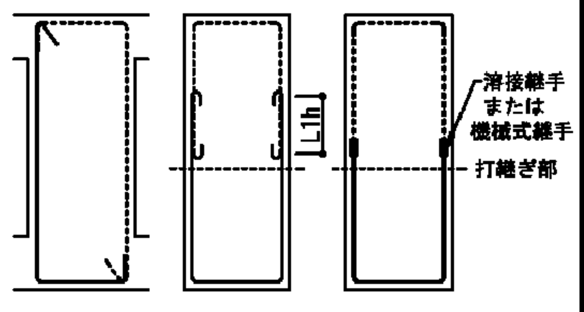
※主筋のカットオフ長さは ℓo/4 + 15dを基本とし、特別な長さを要する部分は6. 大梁の項の表6-1による

（３）水平ハンチの場合のあばら筋加工要領



＊一般のあばら筋と同径のものを２本束ねる

（４）せいの高い梁のあばら筋加工要領図

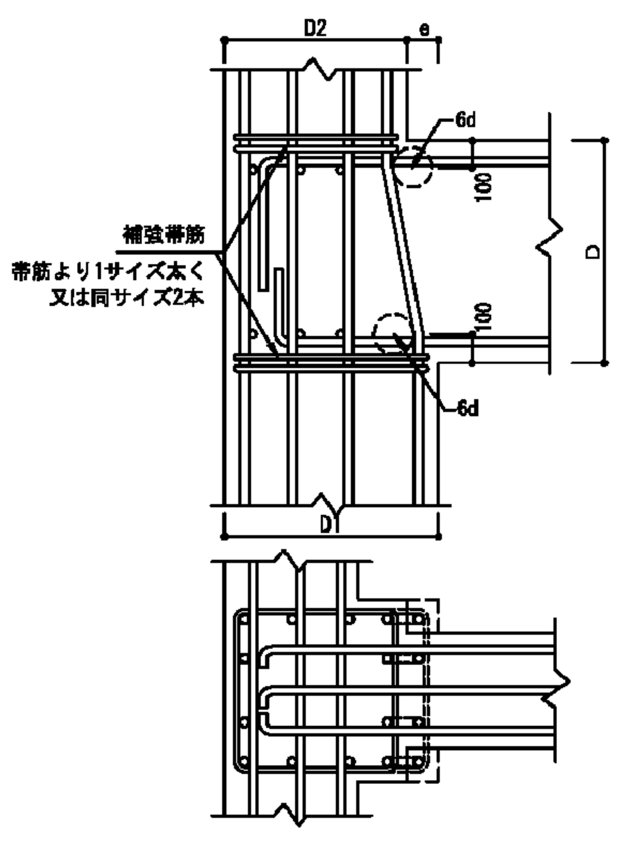


［注］（イ）で、⌊ を使用してよいが、⌊ は使用してはいけない

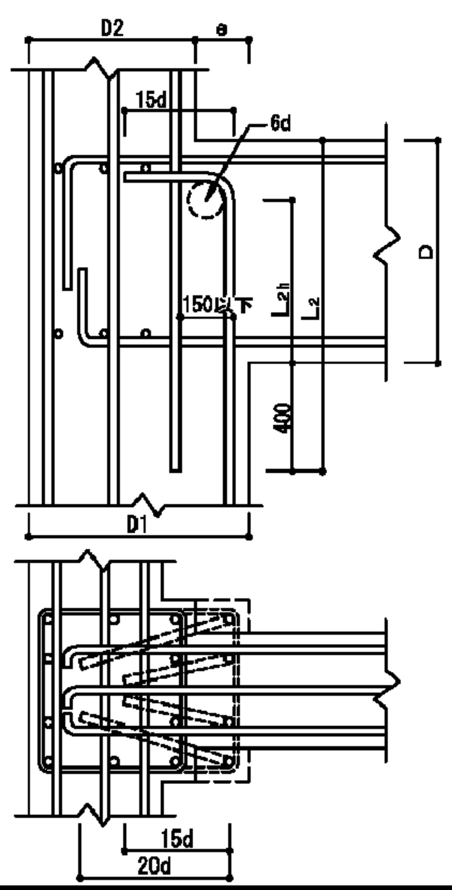
（ロ）では、あばら筋の継手は180°フック付きとする。

（６）絞り

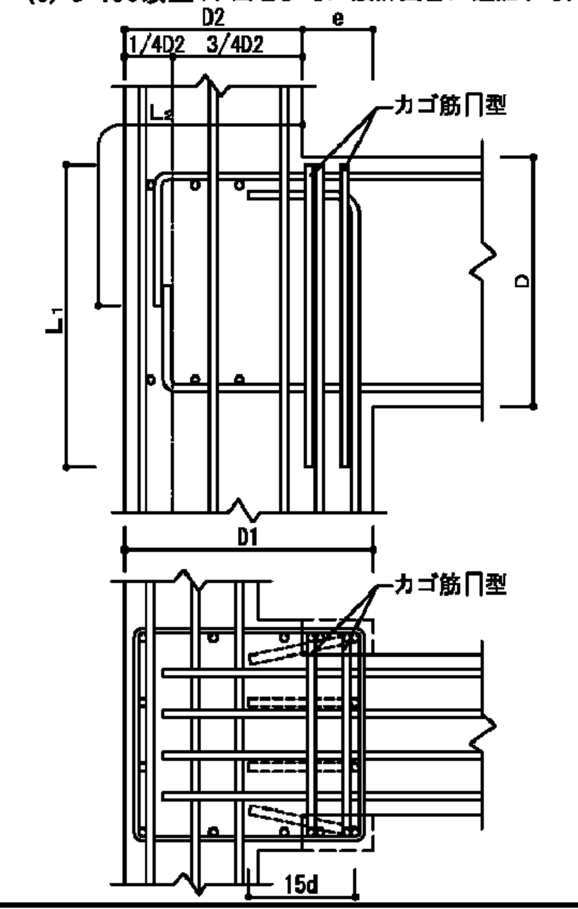
(a) e≦D/6かつ150



(b) 150≧e＞D/6

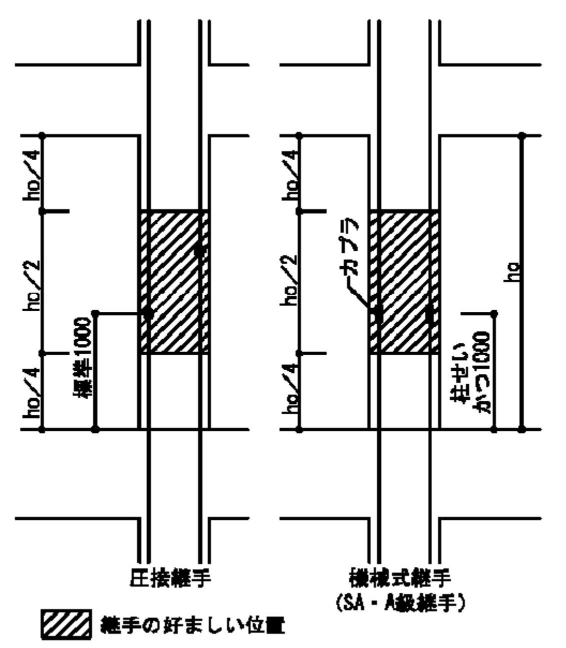


(c) e=150以上（下図を参考に設計図書に追記する）



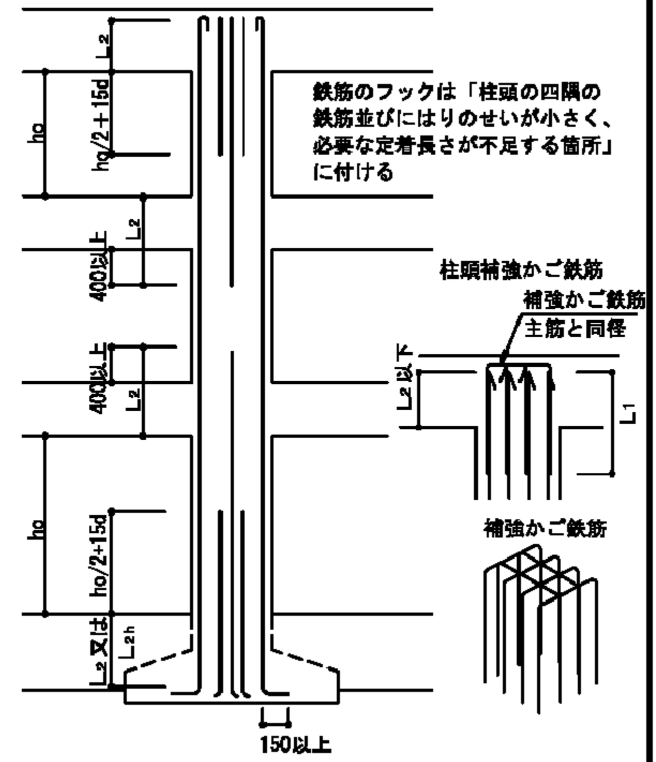
５．柱

（１）柱主筋の継手位置

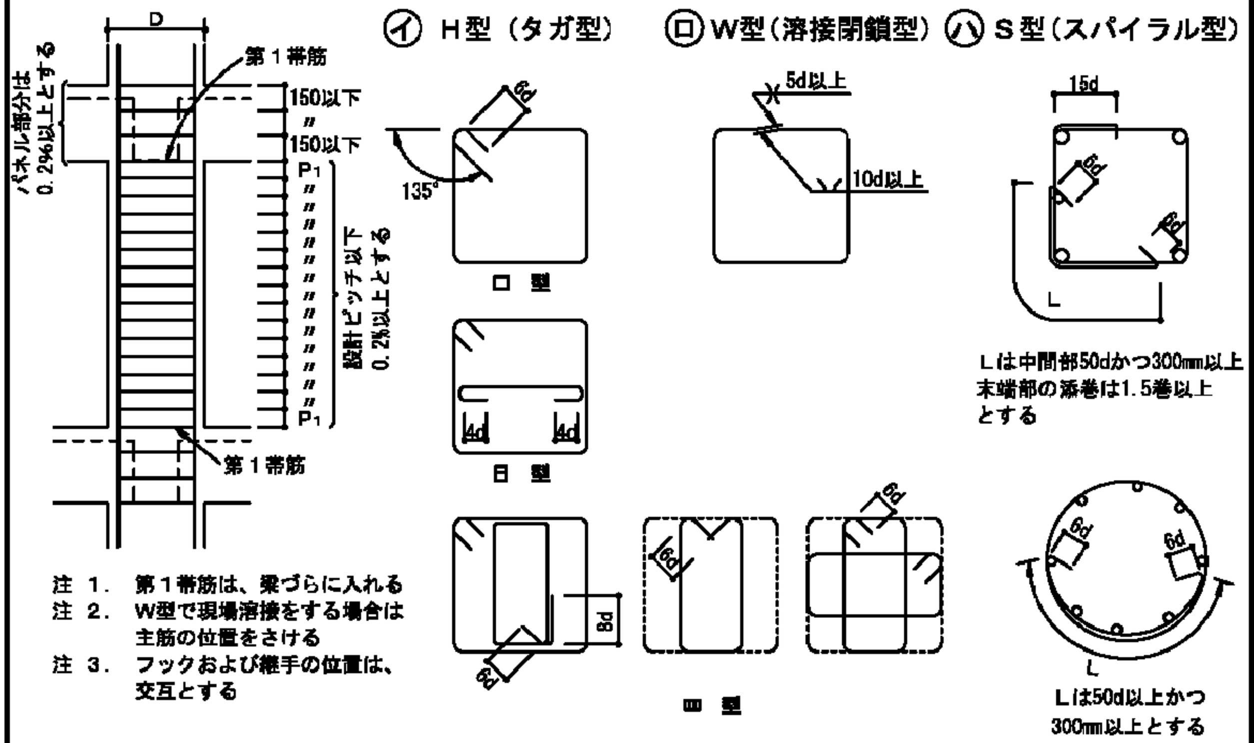


（２）柱主筋の定着

柱、梁の定着L2以上が確保されない場合はかご鉄筋で補強、または特記により増強する。

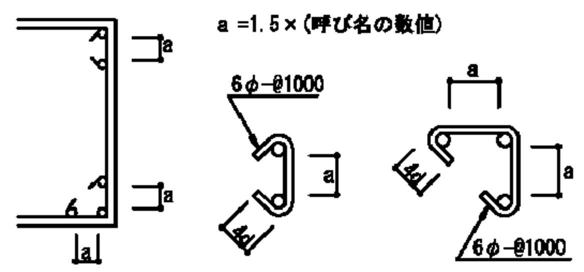


（３）帯　筋

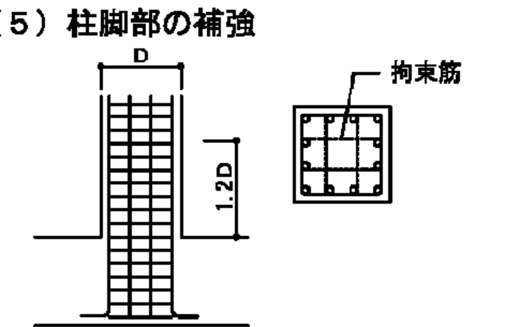


注 1. 第１帯筋は、梁づらに入れる
注 2. W型で現場溶接をする場合は主筋の位置をさける
注 3. フックおよび継手の位置は、交互とする

（４）寄せ筋の保持



（５）柱脚部の補強



1階柱脚の主筋は梁上から柱せいの1.2倍の範囲を拘束筋で拘束する

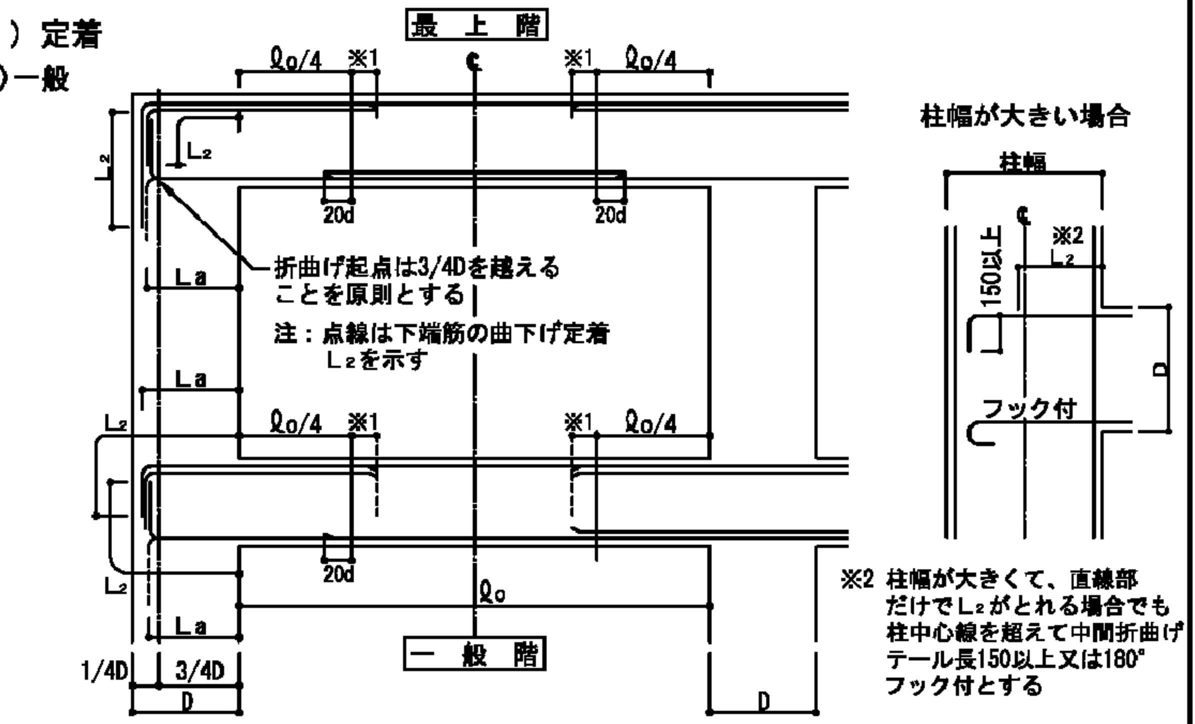
拘束筋は以下による

□帯筋と同径・同ピッチ、X・Y 2巻づつ
□図示による

６．大梁

（１）定着

ⓐ一般



※1 主筋のカットオフ長さは ℓo/4 + 15dを基本とし、特別な長さを要する部分は表6-1による

ⓑハンチがある場合

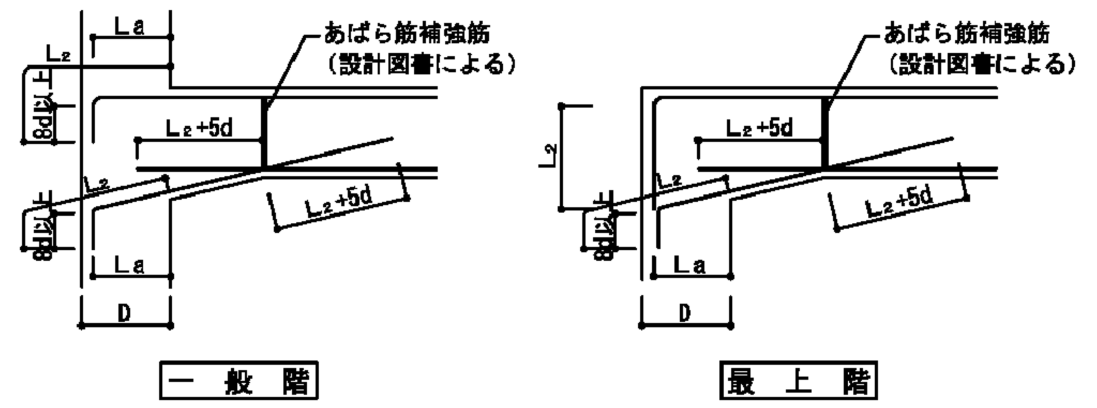
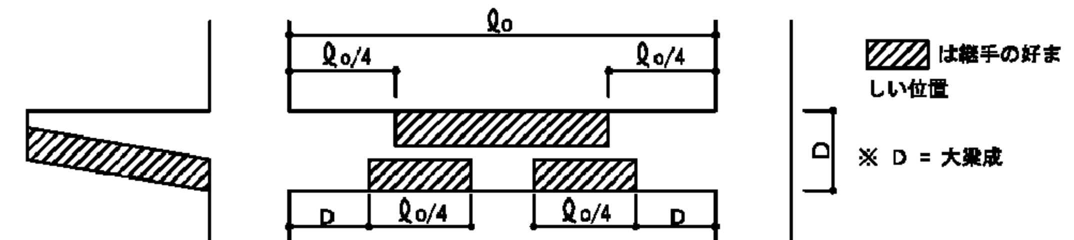


表6-1　特別なカットオフ長さを要する部材　(mm)

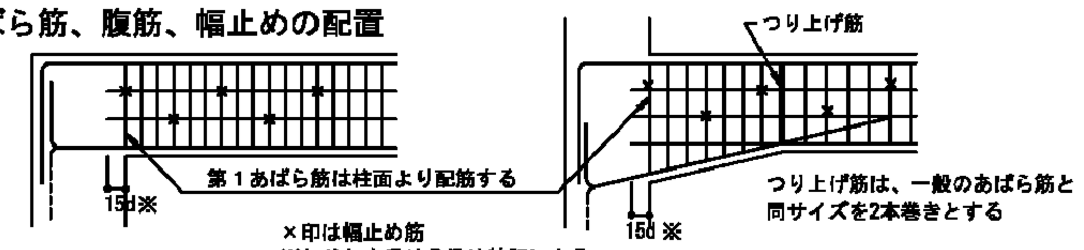
部材名	ℓo/4 に加える長さ	部材名	ℓo/4 に加える長さ

（２）大梁主筋の継手

（SA級、A級継手を使用する場合の継手位置は特記による）

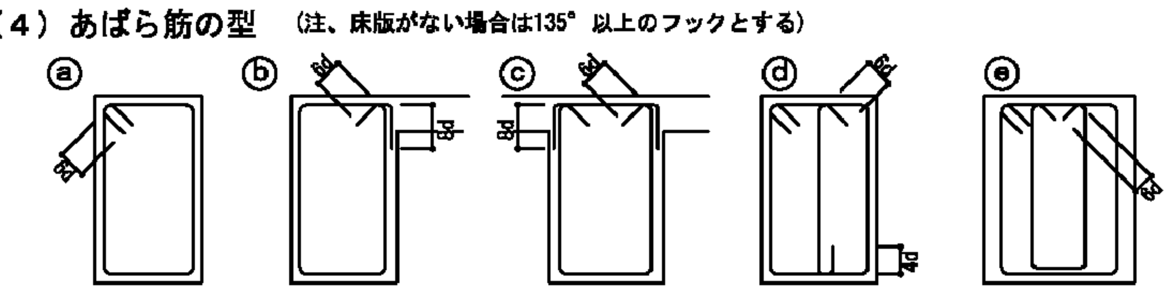


（３）あばら筋、腹筋、幅止めの配置



×印は幅止め筋
※ねじれを受ける梁は特記による

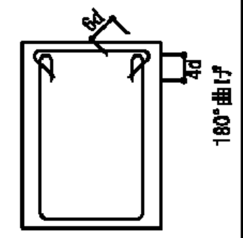
（４）あばら筋の型　（注、床版がない場合は135°以上のフックとする）



（イ）原則として ⓐ のフック先曲とする。片側床版付（L型）梁で ⓑ 、両側床版付（T型）梁で ⓒ 又は ⓑ とすることができる。

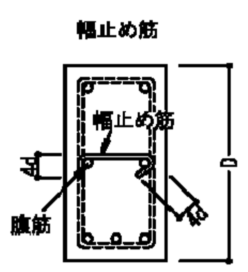
（ロ）フックの位置は ⓐ にあっては交互、ⓑ にあってはスラブ付側とする。

ⓕ 梁成の大きい場合やSRC造のあばら筋の納まりに使用することができる。



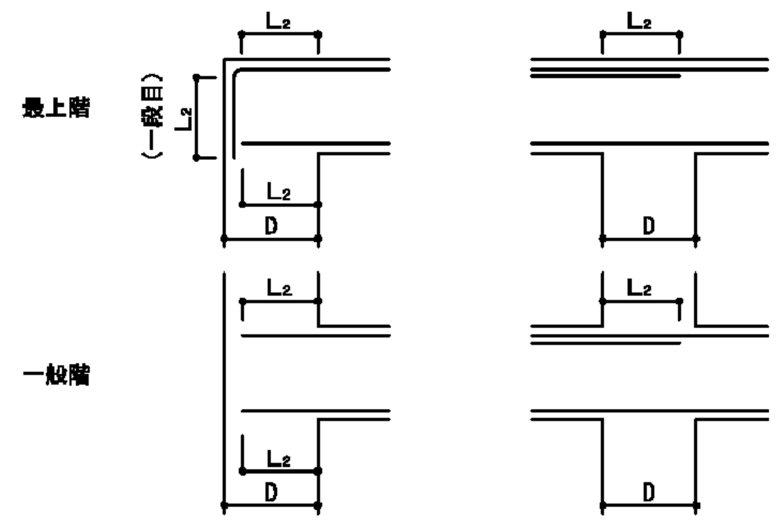
（５）幅止め筋の本数、加工

腹　筋	D＜600 不要	
	600≦D＜900	2－D10　1段
	900≦D＜1200	4－D10　2段
	1200≦D	D10@300以内
	1200以上	D13@300以内
幅止め筋	D10@1000以内で割り付ける	

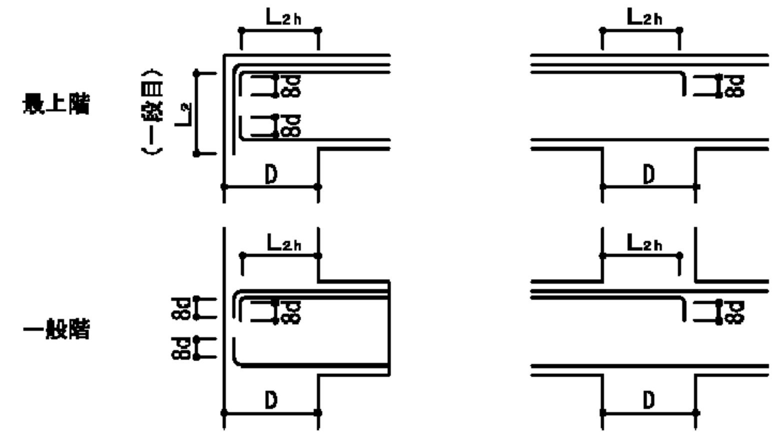


（６）梁主筋の定着

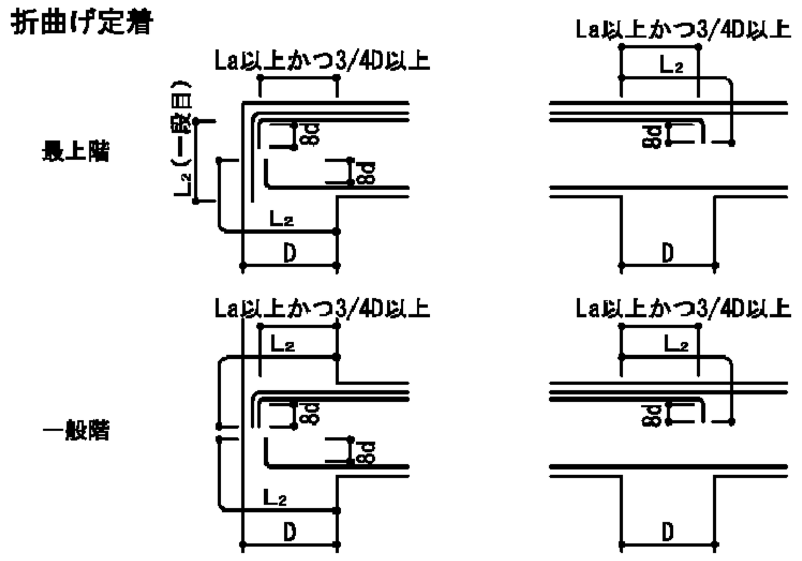
① 直線定着



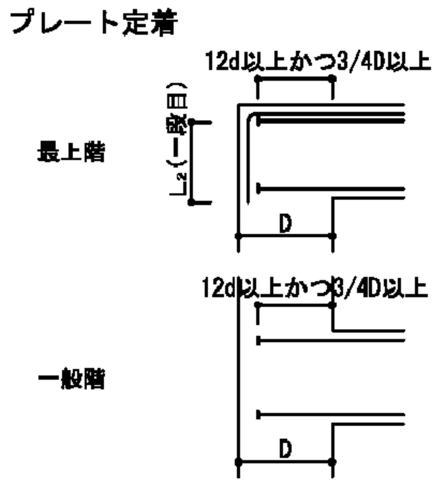
② 90°フック付直線定着



③ 折曲げ定着



④ プレート定着



※最上階 L型接合部における上端筋の一段目の定着にプレート定着を用いてはならない。

※プレート定着には性能証明等を取得した材料を用い、その工法の適用範囲と仕様を確認する。

特記事項	承認	検図	担当	製図			
構造設計					TE-RU ARCHITECTS LTD	工事名称	五所川原農林高等学校実習棟（リンゴ冷蔵庫）改築工事
goto建築設計事務所	MEMO				〒036-8085 青森県弘前市大字末広4-3-1 TEL0172-27-8647 FAX0172-27-8648	図面名称	新鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)
一級建築士　344621号					株式会社 てる設計	縮尺	
構造設計一級建築士　10033号					一級建築士事務所　青森県知事　第716号 一級建築士　建設大臣　第213208号　福士　晃昭	年月日	2026.2
後藤　誉洋						図面番号	標準図－０４

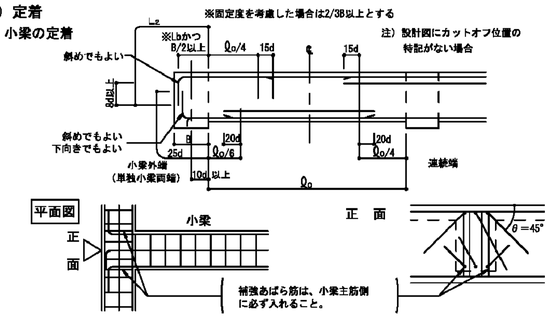
平成２７年５月１日　発行　一般社団法人　東京都建築士事務所協会　監修　東京都建築構造行政連絡会

新鉄筋コンクリート構造配筋標準図（3）

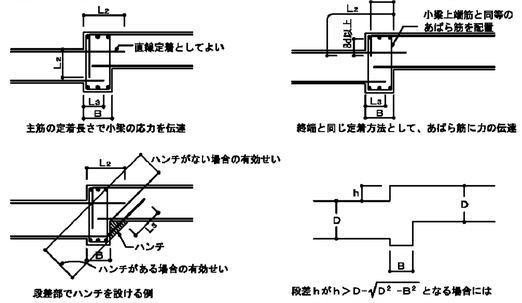
7．小梁、片持梁

（1）定着

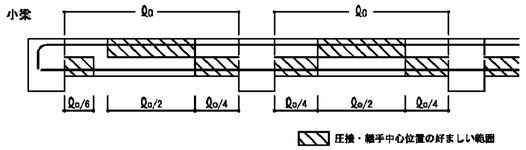
ⓐ 小梁の定着



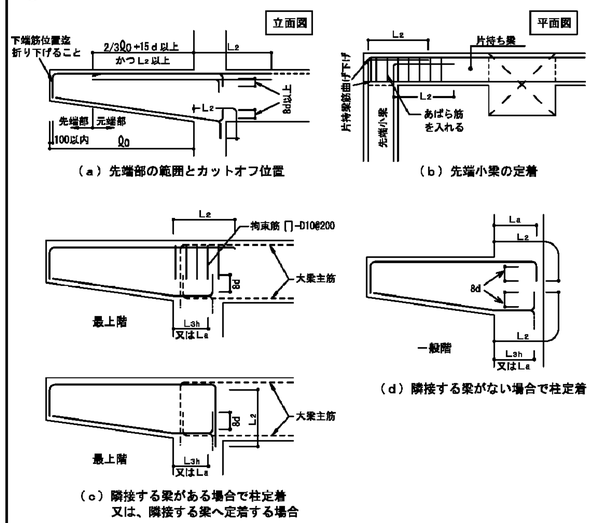
ⓑ段差小梁の配筋（連続端の場合）



ⓒ小梁筋の継手位置



ⓓ片持梁の定着　注）上端筋の柱内への定着は3/4D以上とすること。



（a）先端部の範囲とカットオフ位置

（b）先端小梁の定着

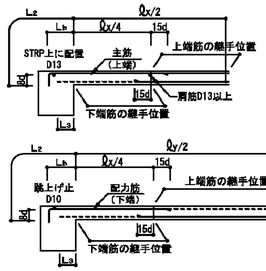
（d）隣接する梁がない場合で柱定着

（c）隣接する梁がある場合で柱定着又は、隣接する梁へ定着する場合

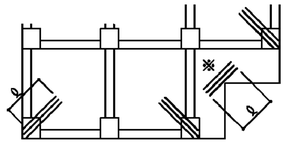
8．床　版

（1）定着および継手

一般床スラブ（四辺固定）



（2）屋根スラブの補強

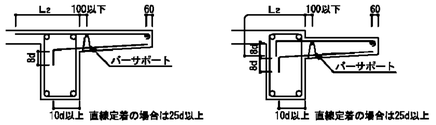


ⓐ 補強筋は各3-D13又はスラブ主筋の同一径で ℓ=1500とし、上端筋の上に配筋する。配筋の際かぶり厚に注意すること。

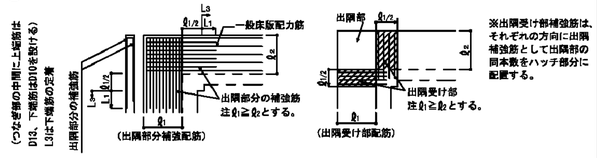
ⓑ ※の個所（入隅）は各階補強する

（3）片持床スラブ定着及び出隅部補強

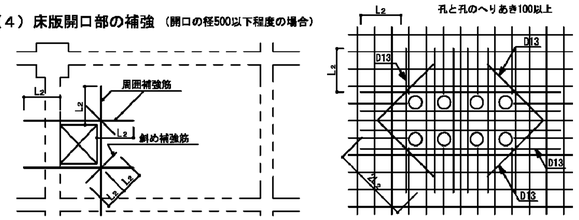
ⓐ片持床スラブ定着



ⓑ片持スラブ出隅部補強　注）出隅部の補強筋は、計算により算出する。



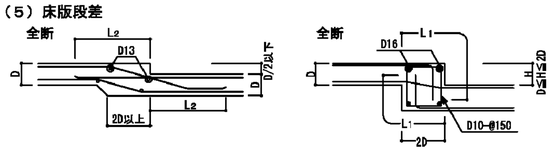
（4）床版開口部の補強（開口の径500以下程度の場合）



床版厚さD	周　囲	斜　め
D≦150	各2－D13	各1－D13
150＜D≦300	各2－D13	各2－D13
300＜D≦500	各2－D19	各2－D16

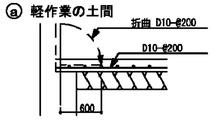
注）設備の小開口が連続してあく場合は縦、横、斜補強筋とは別に開口によって切断される鉄筋と同じ鉄筋を開口をさけて補強する。

（5）床版段差

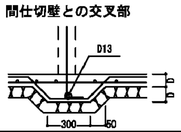


（6）土間コンクリート

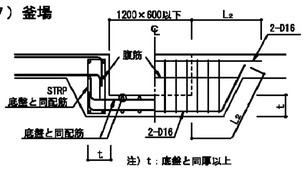
ⓐ 軽作業の土間



ⓑ 間仕切壁との交叉部



（7）釜場



注）t：底盤と同厚以上

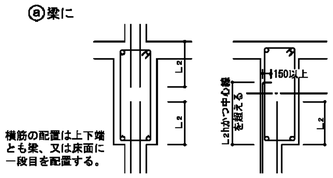
（8）打継ぎ補強（ダメ穴打断面について）

- 配計記筋間隔の1/2ピッチ　長さ２Ｌ1以上
- 無筋部分D10-@200　長さ800以上

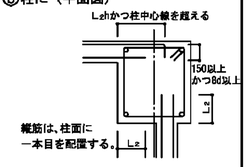
9．壁

（1）定着

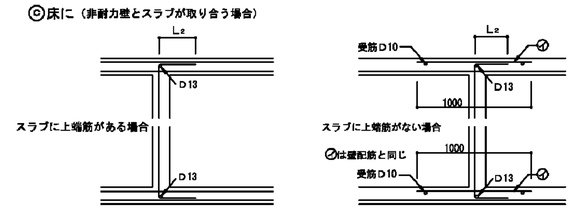
ⓐ梁に



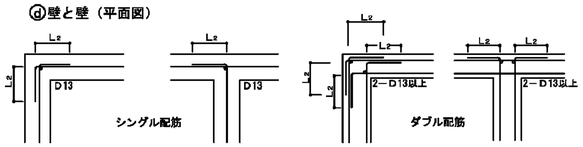
ⓑ柱に（平面図）



ⓒ床に（非耐力壁とスラブが取り合う場合）

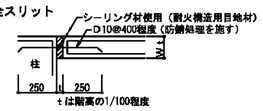


ⓓ壁と壁（平面図）

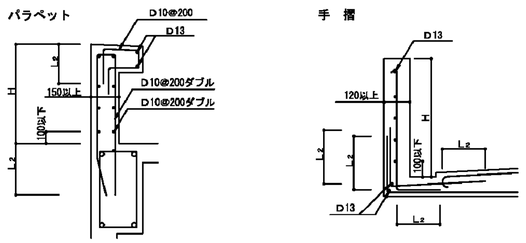


（2）スリット部（設計図に記入のあるとき）

完全スリット



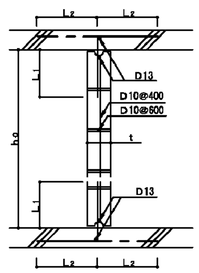
（3）手摺、パラペット



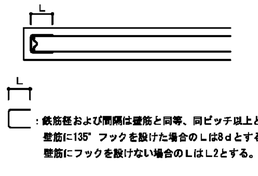
（但し、H＞８００以上の場合、設計図による）

（4）コンクリートブロック帳壁

一般の場合



（5）耐震壁端部の納まり

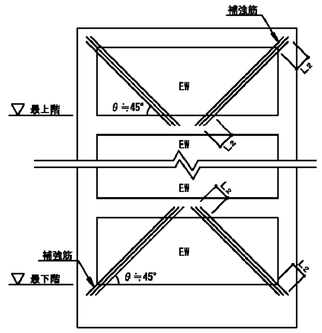


注）ho≦25ｔかつ3500以下とする。但し直交方向25ｔ以内に壁、又は柱がある場合は除く

注）hはコンクリートブロック段数調整寸法とする。但し、200≦h≦400

注）継手部は必ずモルタルを充填すること

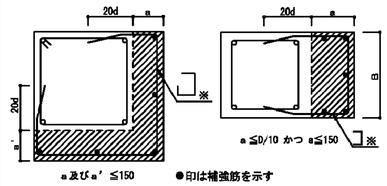
（6）連層耐震壁乾燥収縮の補強筋



注）補強筋はEW150の場合3-D13@100シングル
EW180～200の場合4-D13@100シングル
EW250以上の場合4-D16@100ダブルとする。

10．柱、梁増打コンクリート補強（増打するときは事前に設計者、及び工事監理者と打合せのこと）

（1）柱



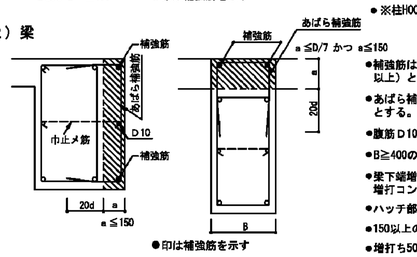
- ハッチ部分は増打コンクリートを示す。
- ハッチ部分の面積 A cm²

補強タテ筋

A＜500	500≦A＜1000
3-D16	4-D16

- 150以上の増打ちは図示による。
- 増打ち50以下は補強なし。
- ※柱HOOPと同径、同ピッチとする。

（2）梁

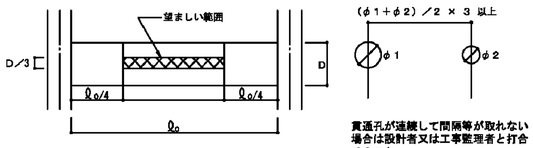


- 補強筋は、梁主筋の１段落し径（Ｄ１６以上）とする。
- あばら補強筋は、梁と同径、同ピッチとする。
- 腹筋Ｄ10ピッチは、梁の腹筋と合せる。
- B≧400の場合は補強筋を３本とする。
- 梁下端増打コンクリートの場合も上端増打コンクリート補強と同様とする。
- ハッチ部分は増打コンクリートを示す。
- 150以上の増打ちは図示による。
- 増打ち50以下は補強なし。

11．梁貫通孔補強（開口補強筋については計算により確認すること）

（1）設置可能範囲

梁端部（スパンℓ／１０以内かつ２Ｄ以内）は原則として避ける



貫通孔が連続して間隔等が取れない場合は設計者又は工事監理者と打合せのこと。

（2）既製品（指定条件と異なる場合は、設計者又は工事監理者と打合せのこと）

■製品名 MAXウェブレン（高強度せん断補強筋）

施工前に計算書を提出し、承認を得ること。

設計時に使用する評価取得品については計算書を提出する事。

特記事項	承　認	検　図	担　当	製　図		工事名称	五所川原農林高等学校実習棟（リンゴ冷蔵庫）改築工事	図面番号
構造設計					TE-RU ARCHITECTS LTD	図面名称	新鉄筋コンクリート構造配筋標準図(3	標準図－05
goto建築設計事務所					〒036-8085 青森県弘前市大字末広4-3-1 TEL0172-27-8647 FAX0172-27-8648	縮　尺	年　月　日　2026 2	
一級建築士 344621号	MEMO				株式会社 てる設計 一級建築士事務所 青森県知事 第716号 一級建築士 建設大臣 第213208号 福士 晃昭			
構造設計一級建築士 10033号								
後藤 誉洋								

平成２７年５月１日　発行　一般社団法人　東京都建築士事務所協会　監修　東京都建築構造行政連絡会

鉄 骨 構 造 標 準 図（1）

※修正箇所は下線を引くこと

１．一般事項

（１）材料及び検査

(a) 新構造設計特記仕様その1による
(b) 適用範囲は、鋼材を用いる工事に適用し、かつ鋼材の厚さが40mm以下のものとする
　但し、ベースプレートの厚さは除く
(c) 社内検査結果の検査報告書には、鉄骨の寸法・精度及びその他の結果を添付する

（２）工作一般

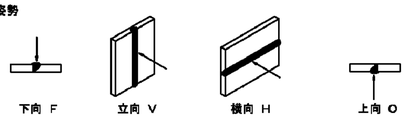
(a) 鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事監理者の承認を得る
(b) 鋼管部材の分岐継手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による
(c) 高張力鋼の歪み矯正は、冷間矯正とする

（３）高力ボルト接合

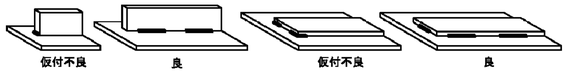
(a) 本締めに使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない
(b) 高力ボルトの摩擦面の処理は黒皮などを座金外径２倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した赤さび状態であること。但し、ショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面荒さが、50μmRz以上である場合は、赤さびは発生しないままでよい。
(c) 高力ボルトの締付けに使用する機器はよく整備されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分に密着するよう注意して行う。

（４）溶接接合

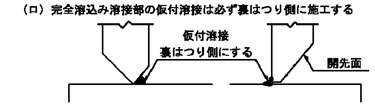
(a) 平成12年建設省告示第1464号第二号イ、ロによる、溶接部の性能、溶着金属の性能を満足すること。
(b) 溶接技能者
　溶接技能者は施工する溶接に適応するJISZ3801(手溶接)又はJISZ3841(半自動溶接)
　の溶接術検定試験に合格し引続き、半年以上溶接に従事している者とする
(c) 溶接機器
　(イ) 交流アーク溶接機 300A～500A　　(ニ) 炭酸ガスアーク半自動溶接機
　(ロ) アークエアーガウジング機(直流)　　(ホ) 溶接電流を測定する電流計
　(ハ) サブマージアーク溶接機一式　　(ヘ) 溶接棒乾燥器
(d) 溶接方法
　アーク手溶接（ＭＣ）　　ガスシールドアーク半自動溶接（ＧＣ）
　セルフ(ノンガス)シールドアーク半自動溶接（ＮＧＣ）　　アークエアーガウジング（ＡＡＧ）
(e) 溶接姿勢



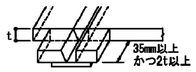
(f) 組立溶接技能者は、原則として本工事に従事する者が行う
　(イ) 仮付位置
　組立溶接は溶接の始,終端,隅角部など強度上,工作上,問題となり易い箇所は避ける



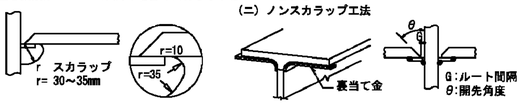
　(ロ) 完全溶込み溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する



(g) 溶接施工
　(イ) エンドタブ
　　Ⅰ)完全溶込み溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同開先形状のエンドタブを取り付ける
　　Ⅱ)エンドタブの材質は,母材と同質とする
　　Ⅲ)エンドタブの長さは、ＭＣ:35mm以上
　　ＮＧＣ,ＧＣ:40mm以上とし特記のない場合は、
　　溶接終了後、母材より10mm程度残し切断して、
　　グラインダー仕上げとする



　　Ⅳ)プレス鋼板タブ、固形タブ使用については、資料を提出し設計者、又は工事監理者の承認を得る
　(ロ) 裏当て金
　　材質は母材と同質材料とし厚さは手溶接で6mm、半自動溶接で9mm以上、巾は25mm以上を原則とする
　　但し、溶接性能が確認できれば監理者の承認を得て変更することができる
　(ハ) スカラップ半径は30～35mmと10mmのダブルアールとする
　　但し梁成が D=150mm未満の場合のスカラップはr=20mmとする
　(ニ) ノンスカラップ工法



　(ホ) 裏はつり
　　規準図の溶接においてＡＡＧと記載のある部分は全て、アークエアガウジングを行った上で、部材に確認マークを付ける
　(ヘ) 現場溶接の開先面には、溶接に支障のない防錆材を塗布する。又、開先部を傷めない様に養生を行う

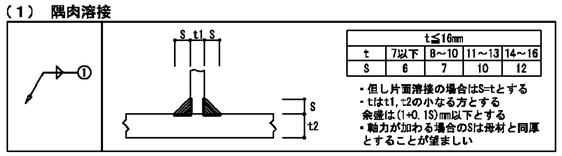
（５）塗 装

コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートとの接触面で、コンクリートと一体とする設計仕様になっている部分は、塗装をしない

２．溶接規準図

(注) f:余盛　G:ルート間隔　R:フェース　S:脚長　(単位mm)

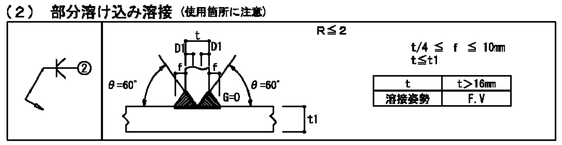
（１）隅肉溶接



t≦16mm				
t	7以下	8～10	11～13	14～16
S	6	7	10	12

・但し片面溶接の場合はS=tとする
・tはt1,t2の小なる方とする
　余盛は(1+0.1S)mm以下とする
・軸力が加わる場合のSは母材と同厚とすることが望ましい

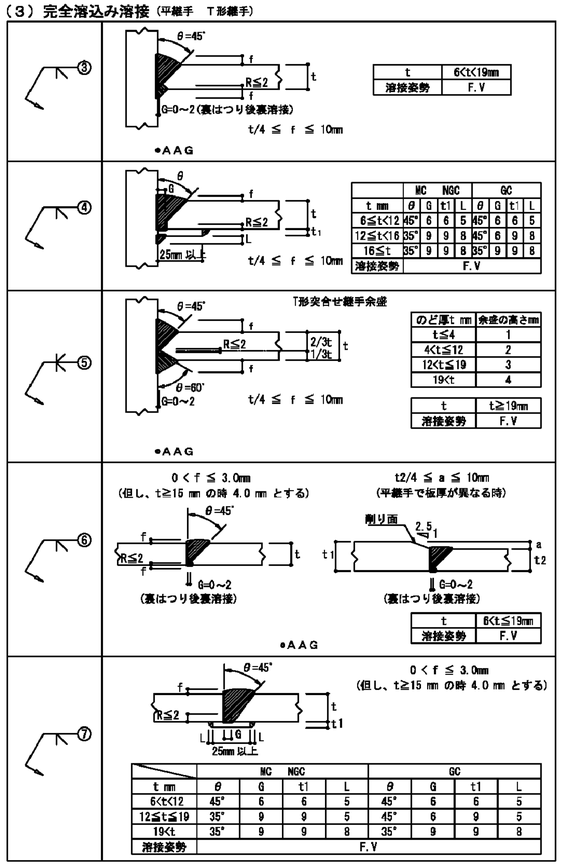
（２）部分溶け込み溶接（使用箇所に注意）



t/4 ≦ f ≦ 10mm
t≦t1

t	t>16mm
溶接姿勢	F.V

（３）完全溶込み溶接（平継手　T形継手）



t	6<t<19mm
溶接姿勢	F.V

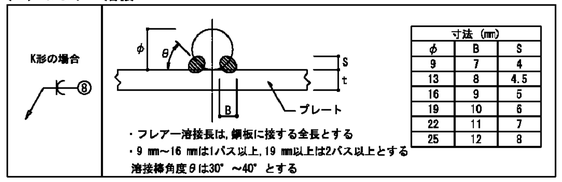
	MC	NGC			GC			
t mm	θ	G	t1	L	θ	G	t1	L
6≦t<12	45°	6	6	5	45°	6	6	5
12≦t<16	35°	9	9	8	45°	6	9	8
16≦t	35°	9	9	8	35°	9	9	8
溶接姿勢	F.V							

のど厚t mm	余盛の高さmm
t≦4	1
4<t≦12	2
12<t≦19	3
19<t	4

t	t≧19mm
溶接姿勢	F.V

	MC	NGC			GC			
t mm	θ	G	t1	L	θ	G	t1	L
6<t<12	45°	6	6	5	45°	6	6	5
12≦t≦19	35°	9	9	5	45°	6	9	5
19<t	35°	9	9	8	35°	9	9	8
溶接姿勢	F.V							

（４）フレアー溶接

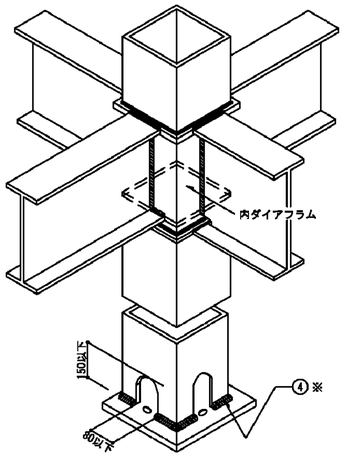


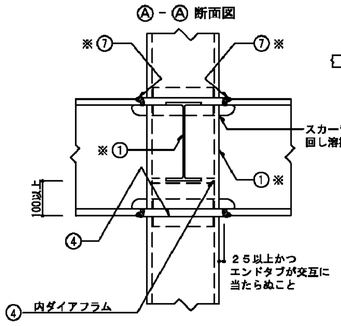
寸法 (mm)		
φ	B	S
9	7	4
13	8	4.5
16	9	5
19	10	6
22	11	7
25	12	8

・フレアー溶接長は,鋼板に接する全長とする
・9 mm～16 mmは1パス以上,19 mm以上は2パス以上とする
　溶接棒角度θは30°～40°とする

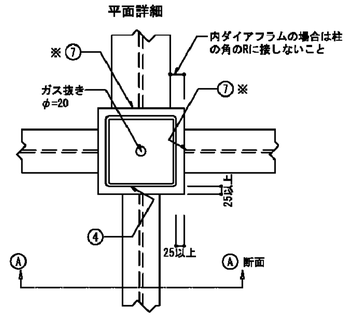
※ 溶接記号番号を○中に記入のこと

●BOX型（通しダイアフラムの場合）





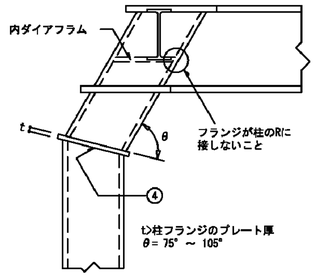
⑦ ※ はりフランジは、通しダイアフラムの厚み(t)の内部で溶接する事。

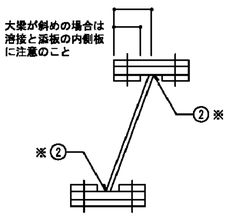


① ※ t>16 mm 場合の溶接は、②・又は③～⑤とする。

ダイアフラム厚は、接合する梁の最大厚の２サイズアップ以上とする。
＜ 柱材料:BCR295, BCP325を使用する場合 ＞
ダイアフラムは、柱フランジ厚 16 mm未満の場合 SN490C　SN490B
　　柱フランジ厚 16 mm以上の場合 SN490C　を使用する。

● 柱が途中で折れる場合、及び梁せいが異なる場合





② ※ t>16 mm 場合の溶接は、③～⑤とする。

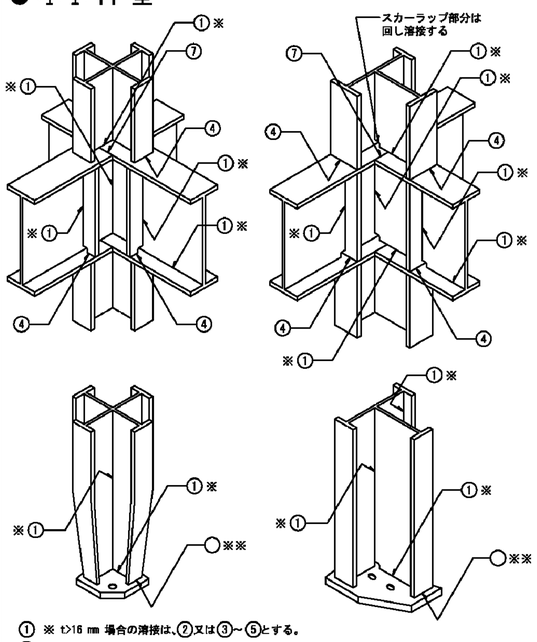
●鋼材種別による溶接条件

溶接材料と入熱量・パス間温度

鋼材の種類	溶 接 材 料	入熱 (kJ/cm)	パス間温度(℃)
400N/mm²級鋼	JIS Z 3312	40 以下	350 以下
	YGW-11、15		
	YGW-18、19		
	JIS Z 3315		
	YGA-50W、50P		
490N/mm²級鋼	JIS Z 3312	40 〃	350 〃
	YGW-11、15	30 〃	250 〃
	YGW-18、19	40 〃	350 〃
	JIS Z 3315	40 〃	350 〃
	YGA-50W、50P		

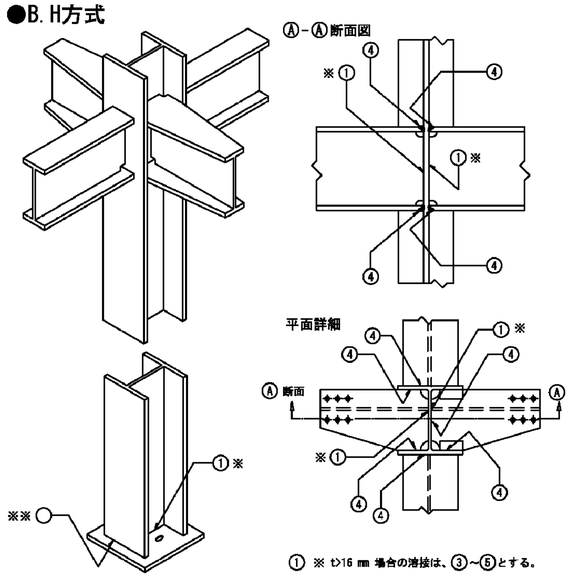
注）STKR,BCR,BCP材はJIS Z 3312、のみ使用可
「新構造設計特記仕様その1 6.鉄骨工事(2)口認定または登録工場」のグレード別に定められた適用範囲と溶接条件制限事項による。

●十 I H 型



① ※ t>16 mm 場合の溶接は、②又は③～⑤とする。
○ ※※ 印は設計者が記入すること。

●B.H方式



① ※ t>16 mm 場合の溶接は、③～⑤とする。

特記事項	承 認	検 図	担 当	製 図
構造設計				
goto建築設計事務所				
一級建築士 344621号				
構造設計一級建築士 10033号				
後藤　誉洋				

MEMO

TE-RU
TE-RU ARCHITECTS LTD
〒036-8085
青森県弘前市大字末広4-3-1
TEL0172-27-8847 FAX0172-27-8848
株式会社 てる設計
一級建築士事務所 青森県知事 第716号
一級建築士 建設大臣 第213208号
福士 晃昭

工事名称	五所川原農林高等学校実習棟（リンゴ冷蔵庫）改築工事		
図面名称	鉄骨構造標準図(1)		
縮　尺		年 月 日	2026 2

図面番号　標準図－０６

平成２７年５月１日　発行　一般社団法人　東京都建築士事務所協会　監修　東京都建築構造行政連絡会

鉄 骨 構 造 標 準 図（2）

※修正箇所は下線を引くこと

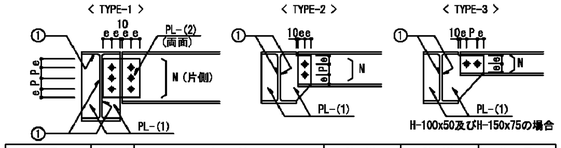
３．継手規準図，その他

（１）高力ボルト、ボルト、アンカーボルトのピッチ（P）　ボルト穴径・最小縁端距離　(mm)

	呼び径 d	ボルト穴径	最小縁端距離 (e) (1)	(2)	(3)	(2)(3)の標準	ピッチ (P) 最小	標準
高力ボルト	M16	18	40	28	22	40	40	60
	M20	22	50	34	26	40	50	60
	M22	24	55	38	28	40	55	60
	M24	26	60	44	32	45	60	70
アンカーボルト・ボルト（）内はボルトを示す	M16	21 (16.5)		28	22	(40)	(40)	(60)
	M20	25 (20.5)		34	26	(40)	(50)	(60)
	M22	27 (22.5)		36	28	(40)	(55)	(60)
	M24	29 (24.5)		44	32	(45)	(60)	(70)
	M27	32		49	36			
	M30	35		54	40			
	M30を超える	呼び径＋5		9d/5	4d/3			

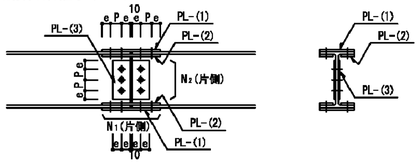
〔注〕(1) 引張材の接合部で応力方向にボルトが3本以上並ばない場合の応力方向の縁端距離
(2) せん断縁・手動ガス切断縁の場合の最端距離
(3) 圧延縁・自動ガス切断縁・のこ引き縁・機械仕上縁の場合の縁端距離

（２）ピン接合梁継手リスト



符号	タイプ	部　材	PL-(1)	PL-(2)	N - 径
	3	H－125・60・6・8	6		2－M16
	3	H－150・75・5・7	6		2－M16
	2	H－175・90・5・8	6		2－M16
B2,B4	2	H－200・100・5.5・8	~~6~~ 9		~~2－M16~~ 2,4－M20
	2	H－250・125・6・9	6		3－M16
B3	2	H－300・150・6.5・9	9		~~3－M20~~ 2－M20
B1	2	H－350・175・7・11	~~9~~ 12		~~4－M20~~ 3,4－M20
	1	H－350・175・7・11	9	6	4－M20
	2	H－400・200・8・13	9		5－M20
	1	H－400・200・8・13	9	9	4－M20

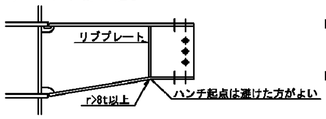
（３）剛接合梁継手リスト　(SCSS-H97による)



〔注〕端部をBHとする場合の部材は設計図による

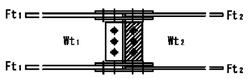
符号	部　材	フランジ PL-(1)	PL-(2)	N1- 径	ウエブ PL-(3)	N2- 径
G1,G1a	H－488・300・11・18	PL-12	PL-12	16-M20	PL-12	16-M20
G2	H－340・250・ 9・14	PL-12	PL-12	16-M20	PL-9	12-M20

（４）ハンチ部の継手



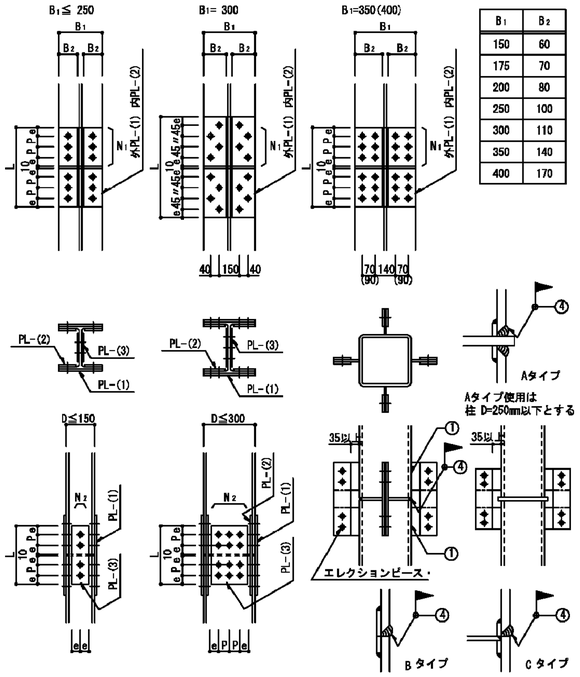
ハンチ勾配は普通1:4程度であるが構造図による
r：半径　t：板厚

フランジ及びウエブ厚の差のある場合



Ft1-Ft2 / Wt1-Wt2 ≧1mm　フィラプレート併用の事

（５）柱継手リスト



B1	B2
150	60
175	70
200	80
250	100
300	110
350	140
400	170

注〕現場溶接は原則として超音波探傷試験を100%行う

符号	部　材	フランジ PL-(1)	PL-(2)	N1- 径	ウエブ PL-(3)	N2- 径

（６）鉄筋ブレース　(JIS規格品とする … JIS A 5540 … 2008 / 5541 … 2008)

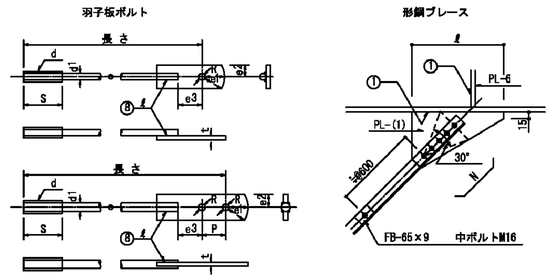
(a) 羽子板ボルト

ねじの呼び (d)			M12	M14	M16	M18	M20	M22	M24
軸径 d1	最大		10.83	12.66	14.66	16.33	18.33	20.33	22.00
	最小		10.59	12.41	14.41	16.07	18.07	20.07	21.69
調整ねじの長さ		S	100	115	125	140	150	165	175
取付けボルト穴径 許容差 +0 -0.5 mm		R	17.0	17.0	17.0	21.5	21.5	23.5	21.5
はしあき(最小)	(2)	e1	40	40	45	50	50	55	50
切板製	へりあき(最小) (1)	e2	28	28	28	34	34	38	38
	板厚	t	6	6	6	9	9	9	9
平鋼製	へりあき(最小) (1)	e2	25.0	25.0	25.0	32.5	32.5	37.5	37.5
	板厚	t	5	6	6	9	9	9	9
ボルト端から取付ボルト穴芯のあき(最小)		e3	52	52	59	66	66	73	70
溶接長さ(最小)		ℓ	40	50	55	60	75	85	85
(2) 取付ボルト	種類		JIS B 1186 2種高力ボルト(F10T)						
	ねじの呼び		M12	M16	M16	M20	M20	M22	M20
	本数		1	1	1	1	1	1	2

〔注〕(1) e1,e2が確保されてれば形状は自由でよい
(2) 羽子板とガセットプレートの場合は表に示す取付けボルトを使用し、一面せん断(支圧)接合とする

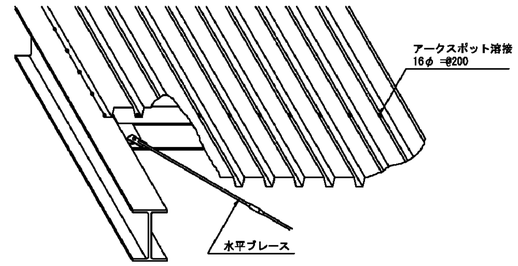
(b) 形鋼ブレース

符号	部　材	PL-(1)	N - 径	ℓ

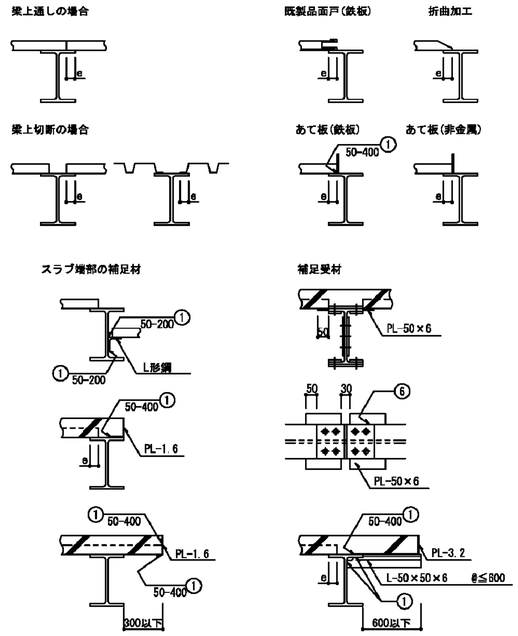


（７）デッキプレート（床剛性を考慮する合成床、合成梁のときは構造図参照）

梁との溶接およびコネクター

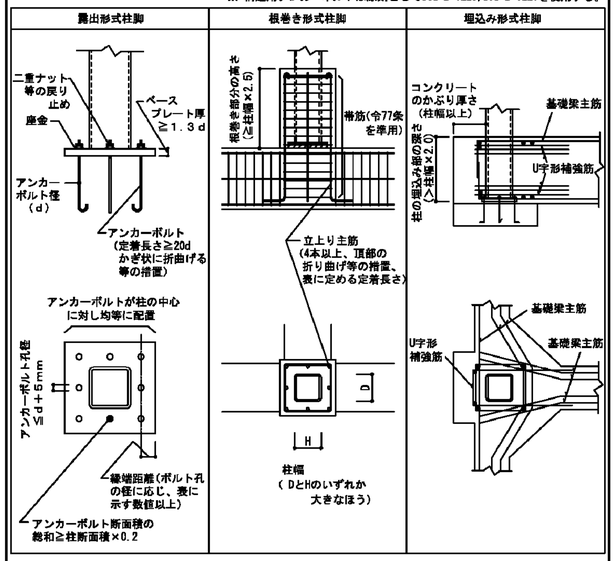


受梁へのかかり寸法及端部処理　e≧35mm



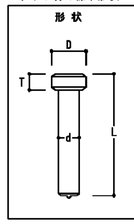
（８）柱脚

注）許容応力度計算を行わなかった場合の構造形式
※ 構造用アンカーボルトは原則としてJIS B 1220,JIS B 1221を使用する。



（９）頭付きスタッド（JIS B 1198 - 2011）

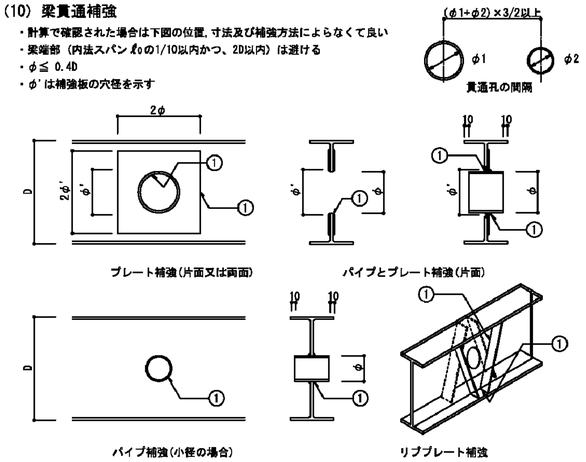
スタッド材の標準形状・寸法



呼び名	軸径 d mm	頭径 D mm	頭高さ T mm	呼び長さ L mm
φ13 mm	13	25	8	□80 □100 □120 □
φ16 mm	16	29	8	□80 □100 □120 □
φ19 mm	19	32	10	□80 □100 □120 □150 □
φ22 mm	22	35	10	□80 □100 □120 □150 □
φ25 mm	25	41	12	□120 □150 □170 □

（10）梁貫通補強

・計算で確認された場合は下図の位置，寸法及び補強方法によらなくて良い
・梁端部（内法スパン ℓ0 の1/10以内かつ、2D以内）は避ける
・φ≦ 0.4D
・φ'は補強板の穴径を示す



プレート補強の板厚

スリーブ径	補強板
φ≦ 0.15D	補強板不要
φ≦ D/4	Web板厚以上（片面）
φ≦ D/3	Web板厚x1.2倍以上（片面）
φ≦ 0.4D	Web板厚以上（両面）

特記事項	承認	検図	担当	製図	
構造設計					
goto建築設計事務所					
一級建築士 344621号					
構造設計一級建築士 10033号					
後藤　誉洋	MEMO				

TE-RU
TE-RU ARCHITECTS LTD
〒036-8085
青森県弘前市大字末広4-3-1
TEL0172-27-8847 FAX0172-27-8848
株式会社 てる設計
一級建築士事務所 青森県知事 第716号
一級建築士 建設大臣 第213208号
福士 晃昭

工事名称	五所川原農林高等学校実習棟（リンゴ冷蔵庫）改築工事		図面番号
図面名称	鉄骨構造標準図(2		標準図－07
縮　尺		年 月 日	2026 2

ISベース柱脚工法設計・施工標準図
(SP：角形鋼管用 保有耐力接合タイプ)1/3

一般財団法人 日本建築センター 鋼構造評定委員会評定 BCJ評定－ST0282-03（2023年10月20日）

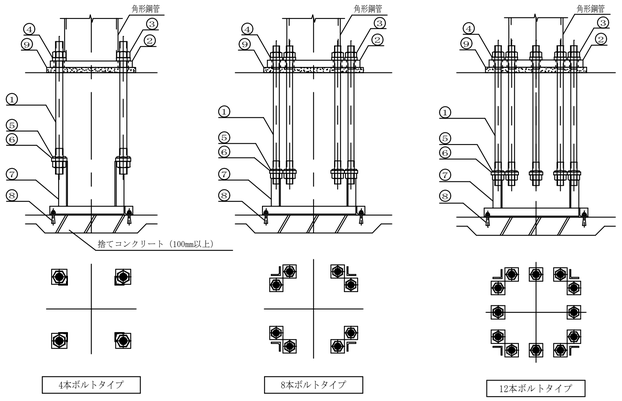
国土交通大臣認定番号（アンカー用ボルトセット）		※（ ）はミルメーカーと加工工場を示す。	
MBLT-0116	M24～M48（朝日工業・アイエスケー中島工場）	MBLT-0180	M24～M48（朝日工業・アイエスケー前橋工場）
MBLT-0144	M30～M48（JFE条鋼・アイエスケー中島工場）	MBLT-0181	M30～M48（JFEスチール・アイエスケー前橋工場）
MBLT-0164	M52～M76（JFE条鋼・アイエスケー前橋工場）		

適用柱材
F値=235N/mm², 275N/mm², 295N/mm², 325N/mm²

2024年11月 作成

アイエスケー株式会社
（大阪本社）TEL 06-6449-0881
FAX 06-6449-0877
（東京支店）TEL 03-6205-4144
FAX 03-5251-5226

1. 構造概要

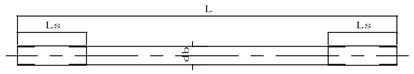


① アンカーボルト　② ベースプレート
③ 一種ナット（シングルナット）　… 土間コンクリート等で被覆する場合は、シングルナットを標準仕様とする。被覆されない場合は、ダブルナット又は六角リングにて緩み止めを行う。
④ 丸座金　⑦ セットフレーム
⑤ 六角リング　⑧ セットアンカー
⑥ 定着板　⑨ モルタル（30～50mm）

3. アンカー用ボルトセット

3-1. アンカーボルト

材料：　大臣認定材料（ISB740C, ISB740E, ISB800B）

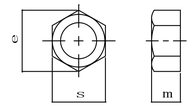


(mm)

品番	呼び径	ピッチ	db ISB740C	db ISB740E	db ISB800B	L	Ls
A1	M24	3.0	22.0	－	－	595	100
A21	M30	3.5	28.0		－	605	115
A31	M36	4.0	33.15	33.0	－	675	130
A34						825	
A41	M42	4.5	38.92	38.8	－	745	145
A42						845	
A43						945	
A44						1045	
A52	M48	5.0	45.0		－	1015	160
A53						1115	
A61	M52	5.0	－		49.0	1100	185
A62						1200	
A71	M56	5.5	－		52.0	1165	195
A72						1265	
A81	M60	5.5	－		56.0	1230	205
A91	M64	6.0	－		60.0	1295	215
A92						1395	
AA1	M68	6.0	－		64.0	1360	225
AA2						1460	
AB1	M72	6.0	－		67.8	1425	235
AC1	M76	6.0	－		71.8	1490	245

3-2. ナット

種類：　1種六角ナット　JIS B 1181
強度区分：　JIS B 1052　8（M48以下）
強度区分：　JIS B 1052　10（M52以上）

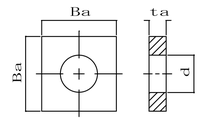


(mm)

呼び径	m	s	e
M24	19	36	41.6
M30	24	46	53.1
M36	29	55	63.5
M42	34	65	75.0
M48	38	75	86.5
M52	42	80	92.4
M56	45	85	98.1
M60	48	90	104.0
M64	51	95	110.0
M68	54	100	115.0
M72	58	105	121.0
M76	61	110	127.0

3-4. 定着板

材質：　一般構造用圧延鋼材　SS400（M48以下）
　　溶接構造用圧延鋼材　SM490A（M52以上）

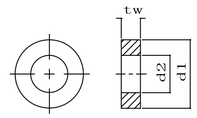


(mm)

呼び径	品番	Ba	ta	d
M24	P1	50	9	26
M30	P2	65	12	32
M36	P3	75	16	38
M42	P4	85	19	44
M48	P5	95	22	50
M52	P6	115	25	54
M56	P7	120	25	58
M60	P8	130	28	62
M64	P9	135	32	66
M68	PA	140	32	70
M72	PB	150	36	74
M76	PC	155	36	78

3-3. 丸座金

材質：　一般構造用圧延鋼材　SS400

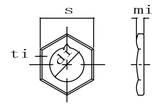


(mm)

呼び径	品番	d1	d2	tw
M24	C1	52	25	9
M30	C2	58	31	12
M36	C3	68	37	16
M42	C4	78	43	19
M48	C5	90	50	19
M52	C6	100	54	25
M56	C7	108	58	28
M60	C8	114	62	32
M64	C9	120	66	36
M68	CA	128	70	36
M72	CB	134	74	36
M76	CC	140	78	36

3-5. 六角リング

材質：　JIS G3131 SPHC



(mm)

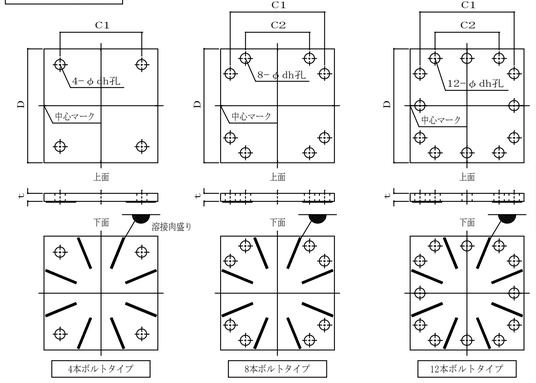
呼び径	S	di	mi	ti
M24	36	22.5	5	1.6
M30	46	28.9	7	2.0
M36	55	33.6	8	2.0
M42	65	39.2	9	2.3
M48	75	45.7	10	2.3
M52	80	49.9	11	2.8
M56	85	52.6	12	2.8
M60	90	56.6	12	3.2
M64	95	60.3	13	3.2
M68	100	64.3	14	3.2
M72	105	68.2	14	3.6
M76	110	72.2	15	3.6

2. ベースプレート

2-1. 材質

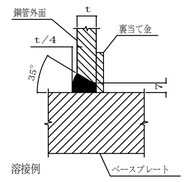
JIS G 3136 SN490B（t=40mm以下の場合のみ使用）
建築構造用認定鋼板　TMCP325B（板厚の制限なしで使用）

2-2. 形状と寸法



※ベースプレートは
"中心マーク"のある面が上面（鋼管取付面）
"溶接突起"のある面が下面（底面）

2-3. 柱材との溶接



柱材とベースプレートの溶接は、完全溶け込み溶接とする。

※溶接施工に関しては、
「日本建築学会；建築工事標準仕様書 JASS 6鉄骨工事」に準じる。

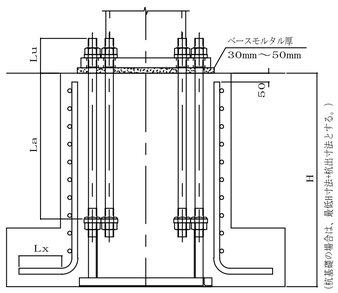
※柱材のめっき仕様について
柱材をめっきする場合は、「SP-Gタイプ」をご採用ください。

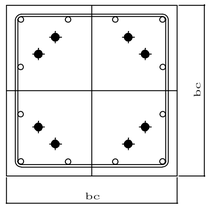
4. コンクリート柱形

4-1. 使用材料

コンクリート：　Fc=21N/mm²　以上（鋼管サイズ□550以下）
　　Fc=24N/mm²　以上（鋼管サイズ□600以上）
鉄筋：　JIS G 3112 SD295A（D16以下）
　　JIS G 3112 SD345（D19～D25）
　　JIS G 3112 SD390（D29以上）

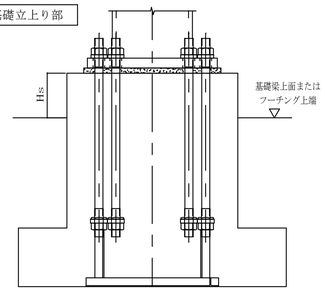
4-2. 形状・配筋





・主筋頂部のフックは、設けないことを標準とする。
・トップフープは、シングルを標準とする。
・Lxは、使用する主筋呼径の10倍以上とする。
　なお、Lxの定着方向は指定しないため、内側に向けても問題ないものとする。
・主筋、帯筋の径・本数は、標準柱形の場合を示す。
・柱形の幅（bc）を標準柱形より拡げた場合、検討が必要。
　柱形を拡げる場合や、柱芯が偏心する場合は、弊社までご相談ください。

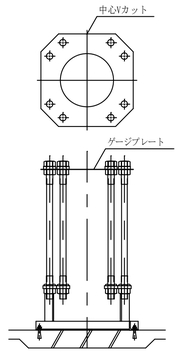
4-3. 基礎立上り部



・柱形の配筋が標準の場合
　基礎立上り高さ（Hs）は、250mm以下とする。
・立上り高さ（Hs）が250mmを超える場合は、
　検討が必要となるため、弊社までご相談ください。

5. 施工

※（ ）は、元請施工範囲を示す。
6.［コンクリート打設前検査］は、契約内容による。



アンカーボルト据付図

1. 施工打合せ
2.（捨てコンクリートの打設）…捨てコン厚さは100mm以上とする。
3.（墨出し）…柱芯を明示する。
4. アンカーボルト据付
5.（配筋・型枠）
　　ゲージプレートを外したり、上に物を置いたり、乗ったりしない。
　　アンカーボルト、セットフレーム等と鉄筋を拘束しない。
　　アンカーボルトに熱を加えない。
6.［コンクリート打設前検査］
7.（コンクリート打設）
8.（鉄骨建方・アンカーボルトの本締）
　　まんじゅう高さは（30～50mm）とする。
　　まんじゅうに使用する材料に規定はない。
　　まんじゅうの大きさは施工マニュアルを参照。
9. ベースモルタルの充てん…ISグラウト以外は使用不可。
10. ナットの緩み確認
11.（充てん型枠脱型・廃棄）

6. 施工管理

・ISベースの施工（アンカーボルトの据付及びベースモルタルの充てん）は、弊社が認定した施工者が行う。
・施工は、施工マニュアルに準じて行い、施工後「チェックシート」により許容範囲内にあることを確認する。
・材料は弊社にて支給する。支給品以外の材料を使用した場合、ISベースの性能を保証できない場合がある。
・アンカー用ボルトセットは大臣認定材である。形状・寸法・材質の変更、切り欠き・溶接などの加工は認められない。

特記事項	承認	検図	担当	製図
構造設計 goto建築設計事務所 一級建築士 344621号 構造設計一級建築士 10033号 後藤 誉洋				
MEMO				

TE-RU ARCHI TECTS LTD
株式会社 てる設計
〒036-8085
青森県弘前市大字末広4-3-1
TEL0172-27-8647 FAX0172-27-8648
一級建築士事務所 青森県知事 第716号
一級建築士 建設大臣 第213208号
福士 晃昭

工事名称	五所川原農林高等学校実習棟（リンゴ冷蔵庫）改築工事	図面番号
図面名称	ISベース柱脚工法設計・施工標準図(1)	標準図-08
縮尺	年 月 日 2026.2	

ISベース柱脚工法設計・施工標準図
(SP：角形鋼管用 保有耐力接合タイプ)2/3

一般財団法人 日本建築センター 鋼構造評定委員会評定 BCJ評定－ST0282-03（2023年10月20日）

国土交通大臣認定番号（アンカー用ボルトセット）		※（ ）はミルメーカーと加工工場を示す。	
MBLT-0116	M24～M48（朝日工業・アイエスケー中島工場）	MBLT-0180	M24～M48（朝日工業・アイエスケー前橋工場）
MBLT-0144	M30～M48（JFE条鋼・アイエスケー中島工場）	MBLT-0181	M30～M48（JFEスチール・アイエスケー前橋工場）
MBLT-0164	M52～M76（JFE条鋼・アイエスケー前橋工場）		

適用柱材(F値=235N/mm^2,275N/mm^2,295N/mm^2,325N/mm^2)

□150×150～□550×550

2024年11月 作成

アイエスケー株式会社
（大阪本社）TEL 06-6449-0881
FAX 06-6449-0877
（東京支店）TEL 03-6205-4144
FAX 03-5251-5226

採用	柱脚記号	鋼管サイズ（mm）	適用鋼管（mm） ※柱材は、指定JIS規格品または大臣認定品とする。 柱材の基準強度（N/mm^2） 235	275・295	325	ベースプレート ベースプレート記号	D（mm）	C1（mm）	C2（mm）	dh（mm）	t（mm）	アンカーボルト 本数-呼び径（品番）	Lu（mm）	La（mm）	コンクリート柱形（標準） bc（最小～最大）（mm）	主筋	帯筋	Lx（mm）	コンクリート強度（N/mm^2）	最低H寸法（mm） ※杭基礎の場合は（最低H寸法+杭出寸法）
	SP151	□150	t ≦ 9	t ≦ 6	－	S2529	290	210	－	φ36	25	4-M24（A1）	125	410	500～540	12-D16	D13@150	160	21以上	550以上
	SP152		t ≦ 12	t ≦ 12	－	S3231	310	210	－	φ42	32	4-M30（A21）	135	400	500～630	16-D16	D13@150	160	21以上	550以上
	SP171	□175	t ≦ 9	t ≦ 6	－	S2532	320	230	－	φ42	25	4-M30（A21）	135	400	500～540	12-D16	D13@150	160	21以上	550以上
	SP172		t ≦ 12	t ≦ 12	－	S3635	350	250	－	φ50	36	4-M36（A31）	155	440	540～630	16-D16	D13@150	160	21以上	600以上
	SP201	□200	t ≦ 9	t ≦ 9	－	S3235	350	260	－	φ50	32	4-M36（A31）	155	440	560～650	12-D19	D13@100	190	21以上	600以上
	SP202		t ≦ 12	t ≦ 12	－	S4038	380	280	－	φ50	40	4-M36（A31）	155	440	570～750	16-D19	D13@100	190	21以上	600以上
	SP203		t ≦ 16	t ≦ 16	－	S4538T	380	270	－	φ58	45	4-M42（A41）	175	480	580～840	20-D19	D13@100	190	21以上	650以上
	SP251	□250	t ≦ 6	t ≦ 6	－	S2840	400	310	－	φ50	28	4-M36（A31）	155	440	620～650	12-D19	D13@100	190	21以上	600以上
	SP252		t ≦ 9	t ≦ 9	－	S3645A	450	340	－	φ50	36	4-M36（A31）	155	440	650～680	16-D19	D13@100	190	21以上	600以上
	SP253		t ≦ 12	t ≦ 12	－	S4045	450	330	－	φ58	40	4-M42（A41）	175	480	640～840	20-D19	D13@100	190	21以上	650以上
	SP254		t ≦ 16	t ≦ 16	－	S4548T	480	380	230	φ50	45	8-M36（A34）	155	590	680～980	20-D22	D13@100	220	21以上	750以上
	SP301	□300	t ≦ 9	t ≦ 9	－	S3648	480	370	－	φ58	36	4-M42（A42）	175	580	680～840	16-D22	D13@100	220	21以上	750以上
	SP302		t ≦ 12	t ≦ 12	t ≦ 9	S4050	500	400	250	φ50	40	8-M36（A34）	155	590	730～840	20-D22	D13@100	220	21以上	750以上
	SP303		t ≦ 16	t ≦ 16	t ≦ 12	S4553T	530	420	250	φ58	45	8-M42（A43）	175	680	740～840	24-D22	D13@100	220	21以上	850以上
	SP304		t ≦ 19	t ≦ 19	t ≦ 16	S5057T	570	440	270	φ58	50	8-M42（A43）	175	680	770～1120	20-D25	D13@100	250	21以上	850以上
	SP305		t ≦ 19	t ≦ 22	t ≦ 19	S5560T	600	470	300	φ58	55	8-M42（A43）	175	680	800～1120	20-D25	D13@100	250	21以上	850以上
	SP351	□350	t ≦ 12	t ≦ 12	t ≦ 9	S4056	560	460	290	φ58	40	8-M42（A43）	175	680	780～1070	24-D22	D13@100	220	21以上	850以上
	SP352		t ≦ 16	t ≦ 16	t ≦ 12	S5062AT	620	500	330	φ58	50	8-M42（A43）	175	680	850～1070	24-D22	D13@100	220	21以上	850以上
○	SP353		t ≦ 19	t ≦ 19	t ≦ 16	S5063T	630	470	280	φ66	50	8-M48（A52）	195	720	830～1230	24-D25	D13@100	250	21以上	900以上
○	SP354		t ≦ 22	t ≦ 22	t ≦ 19	S6067T	670	530	340	φ66	60	8-M48（A52）	195	720	880～1260	28-D25	D13@100	250	21以上	900以上
	SP355		t ≦ 22	t ≦ 25	t ≦ 22	S6571T	710	550	360	φ66	65	8-M48（A52）	195	720	930～1260	28-D25	D13@100	250	21以上	900以上
	SP401	□400	t ≦ 12	t ≦ 12	t ≦ 9	S4565T	650	540	370	φ58	45	8-M42（A43）	175	680	860～1230	24-D25	D13@100	250	21以上	850以上
	SP402		t ≦ 16	t ≦ 16	t ≦ 12	S5067T	670	540	350	φ66	50	8-M48（A53）	195	820	880～1230	24-D25	D13@100	250	21以上	1000以上
	SP403		t ≦ 19	t ≦ 19	t ≦ 16	S6073T	730	590	400	φ66	60	8-M48（A53）	195	820	960～1230	24-D25	D13@100	250	21以上	1000以上
	SP404		t ≦ 22	t ≦ 22	t ≦ 19	S7078T	780	630	440	φ66	70	8-M48（A53）	195	820	1020～1230	24-D25	D13@100	250	21以上	1000以上
	SP405		t ≦ 25	t ≦ 25	t ≦ 22	S7074T	740	590	400	φ66	70	12-M48（A53）	195	820	980～1260	32-D25	D13@100	250	21以上	1000以上
	SP406		t ≦ 25	t ≦ 25	t ≦ 22	S7077T	770	600	360	φ74	70	8-M56（A71）	245	800	1020～1260	36-D25	D13@100	250	21以上	1000以上
	SP451	□450	t ≦ 12	t ≦ 12	t ≦ 9	S5073T	730	620	450	φ58	50	8-M42（A43）	175	680	950～1150	24-D25	D13@100	250	21以上	850以上
	SP452		t ≦ 16	t ≦ 16	t ≦ 12	S5576T	760	630	440	φ66	55	8-M48（A53）	195	820	990～1260	28-D25	D13@100	250	21以上	1000以上
	SP453		t ≦ 19	t ≦ 19	t ≦ 16	S7085AT	850	680	490	φ66	70	8-M48（A53）	195	820	1100～1260	28-D25	D13@100	250	21以上	1000以上
	SP454		t ≦ 22	t ≦ 22	t ≦ 19	S7081T	810	660	470	φ66	70	12-M48（A53）	195	820	1100～1260	32-D25	D13@100	250	21以上	1000以上
	SP455		t ≦ 25	t ≦ 25	t ≦ 22	S7588T	880	680	490	φ66	75	12-M48（A53）	200	820	1140～1260	36-D25	D13@100	250	21以上	1000以上
	SP456		t ≦ 25	t ≦ 25	t ≦ 22	S7085BT	850	690	450	φ74	70	8-M56（A71）	245	800	1150～1260	36-D25	D13@100	250	21以上	1000以上
	SP457		t ≦ 28	t ≦ 28	t ≦ 25	S7586T	860	680	420	φ80	75	8-M60（A81）	255	850	1130～1260	40-D25	D13@100	250	21以上	1050以上
	SP501	□500	t ≦ 12	t ≦ 12	t ≦ 9	S5075T	750	630	440	φ66	50	8-M48（A53）	195	820	970～1260	28-D25	D13@100	250	21以上	1000以上
	SP502		t ≦ 16	t ≦ 16	t ≦ 12	S6079T	790	660	470	φ66	60	12-M48（A53）	195	820	1050～1260	32-D25	D13@100	250	21以上	1000以上
	SP503		t ≦ 16	t ≦ 16	t ≦ 12	S5581T	810	670	440	φ70	55	8-M52（A61）	235	750	1050～1260	32-D25	D13@100	250	21以上	950以上
	SP504		t ≦ 19	t ≦ 19	t ≦ 16	S6587AT	870	690	500	φ66	65	12-M48（A53）	195	820	1130～1260	32-D25	D13@100	250	21以上	1000以上
	SP505		t ≦ 19	t ≦ 19	t ≦ 16	S7089T	890	730	500	φ70	70	8-M52（A61）	235	750	1150～1260	36-D25	D13@100	250	21以上	950以上
	SP506		t ≦ 22	t ≦ 22	t ≦ 19	S7088T	880	710	450	φ80	70	8-M60（A81）	255	850	1140～1600	32-D29	D16@100	290	21以上	1050以上
	SP507		t ≦ 25	t ≦ 25	t ≦ 22	S7592T	920	740	480	φ80	75	8-M60（A81）	255	850	1200～1600	32-D29	D16@100	290	21以上	1050以上
	SP508		t ≦ 28	t ≦ 28	t ≦ 25	S8092T	920	720	440	φ88	80	8-M68（AA1）	275	950	1220～1690	36-D29	D16@100	290	21以上	1200以上
	SP551	□550	t ≦ 12	t ≦ 12	t ≦ 9	S5585T	850	720	530	φ66	55	8-M48（A53）	195	820	1100～1260	28-D25	D13@100	250	21以上	1000以上
	SP552		t ≦ 16	t ≦ 16	t ≦ 12	S6589T	890	740	550	φ66	65	12-M48（A53）	195	820	1150～1260	36-D25	D13@100	250	21以上	1000以上
	SP553		t ≦ 16	t ≦ 16	t ≦ 12	S6591AT	910	770	540	φ70	65	8-M52（A61）	235	750	1180～1260	36-D25	D13@100	250	21以上	950以上
	SP554		t ≦ 19	t ≦ 19	t ≦ 16	S6590T	900	740	480	φ80	65	8-M60（A81）	255	850	1170～1600	32-D29	D16@100	290	21以上	1050以上
	SP555		t ≦ 22	t ≦ 22	t ≦ 19	S7597T	970	800	540	φ80	75	8-M60（A81）	255	850	1260～1500	32-D29	D16@100	290	21以上	1050以上
	SP556		t ≦ 25	t ≦ 25	t ≦ 22	S8099T	990	790	520	φ84	80	8-M64（A91）	265	900	1280～1690	36-D29	D16@100	290	21以上	1100以上
	SP557		t ≦ 28	t ≦ 28	t ≦ 25	S8098T	980	770	470	φ92	80	8-M72（AB1）	285	1000	1300～1790	40-D29	D16@100	290	21以上	1250以上

特記事項
構造設計
goto建築設計事務所
一級建築士 344621号
構造設計一級建築士 10033号
後藤 誉洋

承認	検図	担当	製図

MEMO

TE-RU
TE-RU ARCHITECTS LTD
〒036-8085
青森県弘前市大字末広4-3-1
TEL0172-27-8647 FAX0172-27-8648
株式会社 てる設計
一級建築士事務所 青森県知事 第716号
一級建築士 建設大臣 第213208号
福士 晃昭

工事名称	五所川原農林高等学校実習棟（リンゴ冷蔵庫）改築工事	図面番号
図面名称	ISベース柱脚工法設計・施工標準図(2)	標準図-09
縮尺	年月日 2026.2	

ISベース柱脚工法設計・施工標準図
(SP:角形鋼管用 保有耐力接合タイプ)3/3

一般財団法人 日本建築センター 鋼構造評定委員会評定 BCJ評定－ST0282-03（2023年10月20日）

国土交通大臣認定番号（アンカー用ボルトセット）		※（ ）はミルメーカーと加工工場を示す。	
MBLT-0116	M24～M48（朝日工業・アイエスケー中島工場）	MBLT-0180	M24～M48（朝日工業・アイエスケー前橋工場）
MBLT-0144	M30～M48（JFE条鋼・アイエスケー中島工場）	MBLT-0181	M30～M48（JFEスチール・アイエスケー前橋工場）
MBLT-0164	M52～M76（JFE条鋼・アイエスケー前橋工場）		

適用柱材(F値=235N/mm^2,275N/mm^2,295N/mm^2,325N/mm^2)

□600×600～□800×800

2024年11月 作成

アイエスケー株式会社
（大阪本社）TEL 06-6449-0881
FAX 06-6449-0877
（東京支店）TEL 03-6205-4144
FAX 03-5251-5226

採用	柱脚記号	鋼管サイズ（mm）	適用鋼管（mm） ※柱材は、指定JIS規格品または大臣認定品とする。 柱材の基準強度（N/mm^2） 235	275	325	ベースプレート ベースプレート記号	D（mm）	C1（mm）	C2（mm）	dh（mm）	t（mm）	アンカーボルト 本数-呼び径（品番）	Lu（mm）	La（mm）	コンクリート柱形（標準） bc（最小～最大）（mm）	主筋	帯筋	Lx（mm）	コンクリート強度（N/mm^2）	最低H寸法（mm） ※杭基礎の場合は（最低H寸法+杭出寸法）
	SP601	□600	t ≦ 9	－	－	S4584T	840	730	560	φ58	45	8-M42（A44）	175	780	1090～1120	20-D25	D16@100	250	※ 24以上	950以上
	SP602		t ≦ 16	－	t ≦ 12	S5590T	900	760	530	φ70	55	8-M52（A62）	235	850	1170～1380	24-D29	D16@100	290	※ 24以上	1050以上
	SP603		t ≦ 22	t ≦ 16	t ≦ 16	S6594T	940	780	520	φ80	65	8-M60（A81）	255	850	1220～1600	32-D29	D16@100	290	※ 24以上	1050以上
	SP604		t ≦ 28	t ≦ 22	t ≦ 22	S7097T	970	790	510	φ88	70	8-M68（AA1）	275	950	1270～1790	40-D29	D16@100	290	※ 24以上	1200以上
	SP605		t ≦ 32	t ≦ 25	t ≦ 25	S85106T	1060	850	570	φ88	85	8-M68（AA1）	275	950	1370～1790	40-D29	D16@100	290	※ 24以上	1200以上
	SP606		t ≦ 38	t ≦ 28	t ≦ 28	S95106T	1060	800	500	φ92	95	8-M72（AB1）	285	1000	1400～1870	44-D29	D16@100	290	※ 24以上	1250以上
	SP651	□650	t ≦ 12	－	－	S5593T	930	800	610	φ66	55	8-M48（A53）	195	820	1200～1260	28-D25	D16@100	250	※ 24以上	1000以上
	SP652		t ≦ 16	－	t ≦ 12	S6097T	970	820	580	φ74	60	8-M56（A72）	245	900	1250～1490	28-D29	D16@100	290	※ 24以上	1100以上
	SP653		t ≦ 22	t ≦ 16	t ≦ 16	S65100T	1000	830	560	φ84	65	8-M64（A91）	265	900	1300～1690	36-D29	D16@100	290	※ 24以上	1100以上
	SP654		t ≦ 25	t ≦ 19	t ≦ 19	S70102T	1020	840	560	φ88	70	8-M68（AA1）	275	950	1320～1790	40-D29	D16@100	290	※ 24以上	1200以上
	SP655		t ≦ 28	t ≦ 25	t ≦ 22	S85112T	1120	910	630	φ88	85	8-M68（AA2）	275	1050	1450～1790	40-D29	D16@100	290	※ 24以上	1300以上
	SP656		t ≦ 32	t ≦ 25	t ≦ 25	S95112T	1120	850	550	φ92	95	8-M72（AB1）	285	1000	1450～1960	48-D29	D16@100	290	※ 24以上	1250以上
	SP701	□700	t ≦ 12	－	－	S55100T	1000	860	630	φ70	55	8-M52（A62）	235	850	1300～1380	24-D29	D16@100	290	※ 24以上	1050以上
	SP702		t ≦ 16	－	t ≦ 12	S65104T	1040	880	620	φ80	65	8-M60（A81）	255	850	1350～1600	32-D29	D16@100	290	※ 24以上	1050以上
	SP703		t ≦ 22	t ≦ 19	t ≦ 19	S70107T	1070	890	610	φ88	70	8-M68（AA1）	275	950	1420～1870	44-D29	D16@100	290	※ 24以上	1200以上
	SP704		t ≦ 25	t ≦ 19	t ≦ 19	S85116T	1160	950	670	φ88	85	8-M68（AA1）	275	950	1500～1870	44-D29	D16@100	290	※ 24以上	1200以上
	SP705		t ≦ 32	t ≦ 25	t ≦ 25	S90117T	1170	920	610	φ96	90	8-M76（AC1）	295	1050	1570～1960	48-D29	D16@100	290	※ 24以上	1300以上
	SP751	□750	t ≦ 19	－	－	S65110T	1100	930	660	φ84	65	8-M64（A92）	265	1000	1420～1690	36-D29	D16@100	290	※ 24以上	1200以上
	SP752		t ≦ 25	t ≦ 19	t ≦ 19	S70114T	1140	950	650	φ92	70	8-M72（AB1）	285	1000	1520～1960	48-D29	D16@100	290	※ 24以上	1250以上
	SP753		t ≦ 25	t ≦ 19	t ≦ 19	S85122T	1220	1010	730	φ88	85	8-M68（AA2）	275	1050	1580～1960	48-D29	D16@100	290	※ 24以上	1300以上
	SP754		t ≦ 28	t ≦ 25	t ≦ 25	S100125T	1250	980	670	φ96	100	8-M76（AC1）	295	1050	1700～1980	56-D29	D16@100	290	※ 24以上	1300以上
	SP801	□800	t ≦ 19	t ≦ 16	t ≦ 16	S70117T	1170	990	710	φ88	70	8-M68（AA2）	275	1050	1500～1870	44-D29	D16@100	290	※ 24以上	1300以上
	SP802		t ≦ 25	t ≦ 19	t ≦ 19	S75120T	1200	1000	690	φ96	75	8-M76（AC1）	295	1050	1620～1980	52-D29	D16@100	290	※ 24以上	1300以上
	SP803		t ≦ 25	t ≦ 19	t ≦ 19	S85127T	1270	1060	760	φ92	85	8-M72（AB1）	285	1000	1640～1980	52-D29	D16@100	290	※ 24以上	1250以上
	SP804		t ≦ 28	t ≦ 22	t ≦ 22	S100130T	1300	1030	720	φ96	100	8-M76（AC1）	295	1050	1720～1980	56-D29	D16@100	290	※ 24以上	1300以上

特記事項
構造設計
goto建築設計事務所
一級建築士 344621号
構造設計一級建築士 10033号
後藤 誉洋

承 認	検 図	担 当	製 図

MEMO

TE-RU
TE-RU ARCHI TECTS LTD
〒036-8085
青森県弘前市大字末広4-3-1
TEL0172-27-8647 FAX0172-27-8648
株式会社 てる設計
一級建築士事務所 青森県知事 第716号
一級建築士 建設大臣 第213208号
福士 晃昭

工事名称	五所川原農林高等学校実習棟（リンゴ冷蔵庫）改築工事	図面番号
図面名称	ISベース柱脚工法設計・施工標準図(3)	標準図-10
縮 尺	年 月 日 2026.2	

GIコラム-S工法　特記仕様書

1.工事概要

本地業はＧＩコラム-Ｓ工法による地盤改良地業であり、スラリー状のセメント系固化材を地中に注入しながらＧＩコラム-Ｓ工法専用の攪拌翼を装備した攪拌ヘッド（攪拌装置）を用いて現地盤を機械的に混合攪拌し固化材の化学反応により所要の強度を持つ改良体を築造する工法である。

2.一般事項

(1)　本工法は「建築技術性能認証委員会」にて証明された技術性能証明取得工法(GBRC 性能証明第18-01号)とする。

(2)　本工事は、本特記仕様書によるほか『2018年版 建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針』（日本建築センター、ベターリビング以下指針という）による。

3.特記事項

(1)　コラムの径・掘削深度（改良長・空掘長）・本数・配置等は設計図書による。ただし、コラムの径・長さ・本数・配置及び固化材液の配合等について、土質や地盤の状況により変更した方が適切だと判断される場合は、監督員の承認の下に変更することができる。

(2)　コラムの設計基準強度は、Fc＝1000 KN/㎡とする。

(3)　設計の要求する性能を担保するため、適切な配合管理及び品質検査を実施する。

(4)　本工事工法は建築技術性能証明書にて証明された工法とし、事前にその証明書を監理者に提出し承認を得ることとする。

4.施工計画

(1)　本工事施工業者は、GIコラム工法の施工技術に精通したGIコラム研究会会員とする。

(2)　施工計画書
工事に先立ち、施工計画書を監督員に提出する。施工計画書は、次の事項を明記する。

ａ．工事内容（コラム径、コラム長、空掘長、コラム数等）
ｂ．工事期間及び工程
ｃ．工事要領（使用固化材、配合、吐出量等）
ｄ．施工機器
ｅ．施工管理の方法
ｆ．品質管理の方法
ｇ．各種作業の主たる従事者の組織表
ｈ．環境の保全対策
ｉ．安全対策
ｊ．建築技術性能証明書添付

5.施　　工

(1)　作業地盤は、施工機械が傾斜・転倒しないように養生する。

(2)　施工手順は、施工計画書による。

(3)　本工事により排出される発生残土は、場内処分とする。

(4)　施工に対して疑義が生じた場合は、ただちに監督員と協議し、その指示を受ける。

6.施工機械

(1)　ＧＩコラム-Ｓ工法専用の攪拌翼が装備された攪拌ヘッドを用いる事。

(2)　所定の施工管理項目を、計測・記録できる施工管理装置を用いること。

(3)　改良機本体は、ＹＢＭ製のGI-50C、GI-80C、GI-130C、GI-220Cとしリーダー付きで自走式とする。

(4)　ミキシングプラントは、所定の吐出量を十分供給できるものとする。

7.配合管理

(1)　固化材液に使用する固化材は、セメント系固化材を使用する。

(2)　配合強度（指針内の推定式でも可）
割増係数は、変動係数を想定し9項に規定する抜き取りヶ所数Ｎに応じて下表を用いて設定する。

抜取数	N	1	2	3	4～6	7～8	9～
Vc　25%	α	2.163	1.918	1.815	1.719	1.651	1.594

Ｘｆ＝α×Ｆｃ　［α:割増し係数、　Ｘｆ：配合強度］　合格確率80%、変動係数25%

(3)　室内配合試験
固化材液の配合（Ｗ/Ｃ）使用量（添加量）は、室内配合試験の結果に基づいて現場室内強度比を参考にして、配合強度を満足するように決定する。　X1＝Xf/αf1　　[現場室内強度比(αf1)　　砂質土：0.72、粘性土：0.68]

(4)　配合計画を以下とするが室内配合試験により決定する。（土質や試験結果により変更する場合が有る。）
ａ．水/固化材比　　本工法の標準的な水セメント比は60～100%である。
ｂ．固化材仮添加量　　300 Kg/m³

8.施工管理

(1)　施工の安定性を確保するため下記に示す項目について管理する。

管理項目	管理内容		備考
寸法・形状の管理	鉛直性	改良機のリーダーに設置された傾斜計による。	1/100 以内
	コラム芯	掘削攪拌翼をコラム芯に合わせる。	± 100 ㎜以内
	掘削深度	深度計で計測し記録する。	記録
	改良径	掘削攪拌翼の形状を計測する。	計測
固化材管理	材料の計量	計量器（練り水・固化材）による。	Ｗ/Ｃ＝± 2%以内
	スラリー比重	比重計による。	計測
	スラリー吐出量	流量計により計測し記録する。	記録
攪拌混合度の管理	掘削攪拌翼	掘削・攪拌翼の枚数など。	記録
支持地盤の管理	トルク値	トルク計により計測し記録する。 着底判定は監督員と協議して決定する。	記録

9.品質検査

(1)　検査ヶ所(コア採取ヶ所数)

(2)　頭部：１ヶ所　　深部：1ヶ所

(3)　合格判定

ａ．採取ヶ所１ヵ所当たり３個の供試体を採取し、その平均強度をそのヶ所の強度とする。
ｂ．検査手法

$$\Sigma XN \geqq XL = Fc + ka \cdot \sigma d$$

ＸＮ　：　総採取ヶ所数の一軸圧縮強度のΣ平均値（KN/㎡ ）
ＸＬ　：　合格判定値（KN/㎡）
Ｆｃ　：　設計基準強度（KN/㎡）

合否の判定は、総採取ヶ所数の一軸圧縮強度平均値が、下式を満足した場合を合格とする。

σｄ　：　標準偏差（KN/㎡）　＝　Vd・qud
Ｖｄ　：　変動係数（25%）
ｑｕｄ：　想定した平均一軸圧縮強さ（KN/㎡）

採取ヶ所数　Ｎ	1	2	3	4～6	7～8	9～
合格判定係数　Ｋａ	1.9	1.7	1.6	1.5	1.4	1.3

10.報　　告

工事完了後、次の項目について報告書をまとめ監督員に提出する。

ａ．コラムの伏図及び番号
ｂ．コラムの施工日
ｃ．コラムの径・及び長さ
ｄ．掘削深度
ｅ．トルク値
ｆ．固化材液の配合及び注入量と固化材の使用量
ｇ．コアの強度管理試験結果
ｈ．合格判定結果

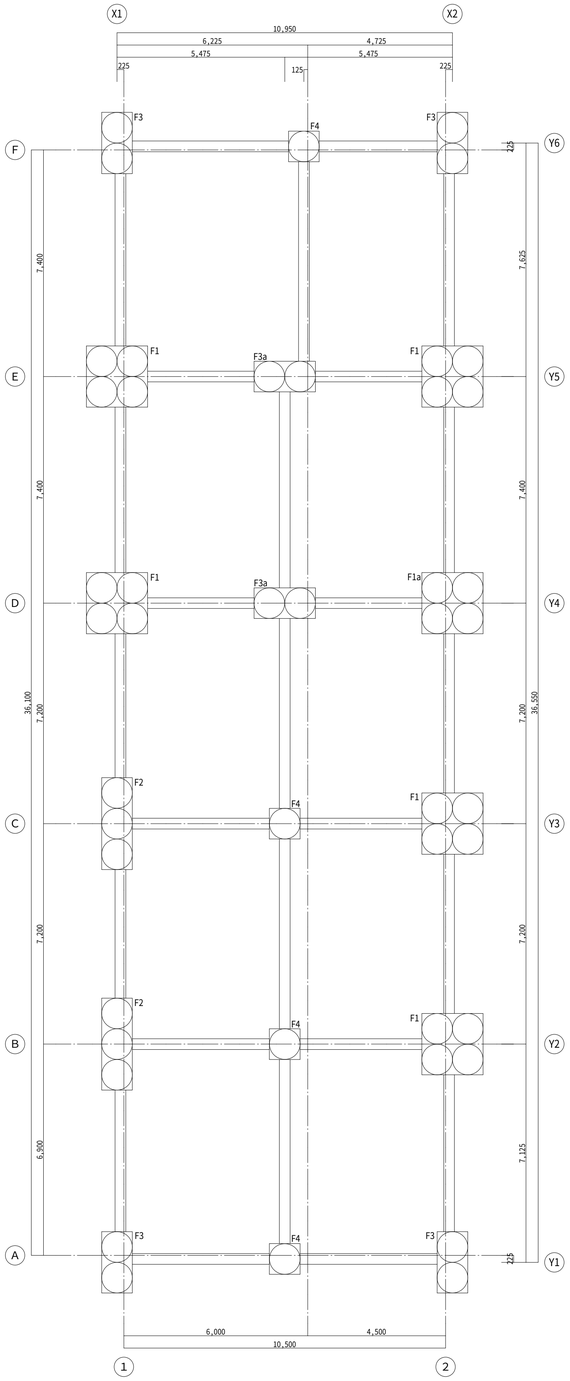
11.その他

施工に当たっては、セメント系固化材等からの六価クロム溶出試験を事前配合試験に実施し、環境庁告示46号の基準値（検液1Lにつき0.05mg以下であること）を確認するか、または六価クロム溶出低減型固化材を用いる。

特記事項	承　認	検　図	担　当	製　図
構造設計 goto建築設計事務所 一級建築士 344621号 構造設計一級建築士 10033号 後藤　誉洋				
MEMO				

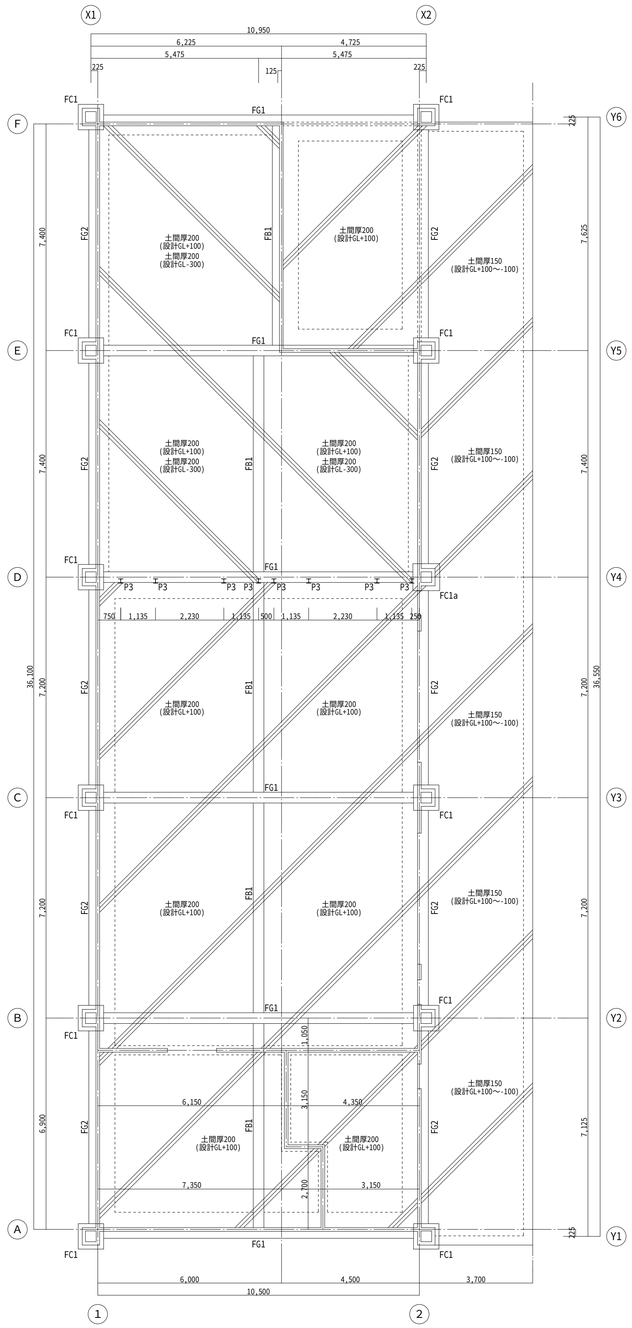
TE-RU
TE-RU ARCHITECTS LTD
〒036-8085
青森県弘前市大字末広4-3-1
TEL0172-27-8647 FAX0172-27-8648
株式会社 てる設計
一級建築士事務所 青森県知事 第716号
一級建築士 建設大臣 第213208号
福士 晃昭

工事名称	五所川原農林高等学校実習棟（リンゴ冷蔵庫）改築工事		図面番号
図面名称	GIコラム-S工法　特記仕様書		標準図－１１
縮　尺		年　月　日　2026.2	



柱状改良伏図　1/100

：深層混合処理工法(GIコラム-S工法)
基準強度　1000(kN/㎡)
改良径　1,000㎜
掘削長　5,400㎜
空堀長　1,650㎜
改良長　3,750㎜　本数　46本



基礎伏図　1/100

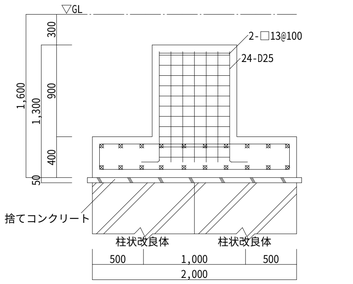
※土間コンクリート下の地盤は十分に転圧等を行い締固めする事
また、砕石施工後も十分に転圧を行い締固めする事

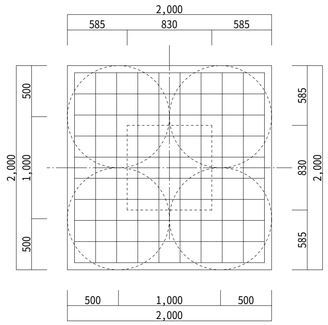
特記事項		承　認	検　図	担　当	製　図
構造設計 goto建築設計事務所 一級建築士　344621号 構造設計一級建築士　10033号 後藤　誉洋	MEMO				

TE-RU
TE-RU ARCHITECTS LTD
〒036-8085
青森県弘前市大字末広4-3-1
TEL0172-27-8847 FAX0172-27-8648
株式会社 てる設計
一級建築士事務所 青森県知事 第716号
一級建築士 建設大臣 第213200号
福士 晃昭

工事名称	五所川原農林高等学校実習棟（リンゴ冷蔵庫）改築工事			図面番号
図面名称	柱状改良伏図、基礎伏図			S-01
縮　尺	A1：1/100 A3：1/200	年　月　日	2026.3	

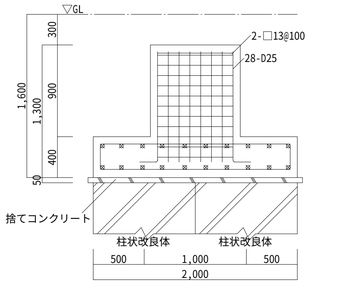
F1

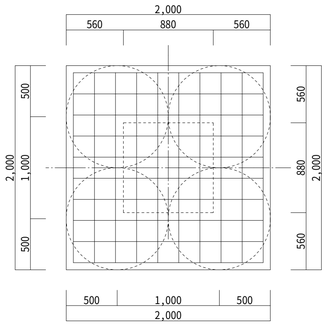




上端筋・下端筋とも
縦筋10-D13
横筋10-D13
柱状改良体 4-φ1000

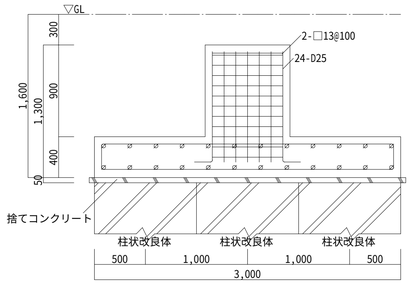
F1a

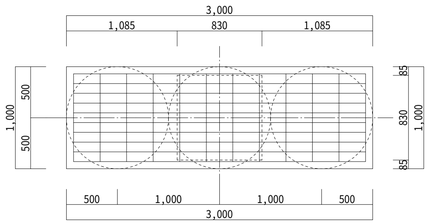




上端筋・下端筋とも
縦筋10-D13
横筋10-D13
柱状改良体 4-φ1000

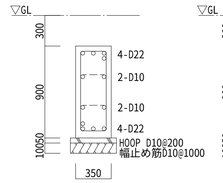
F2



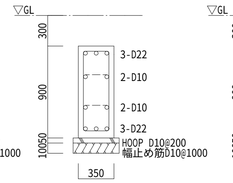


上端筋・下端筋とも
縦筋12-D16
横筋10-D16
柱状改良体 3-φ1000

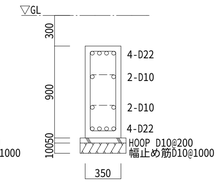
FG1



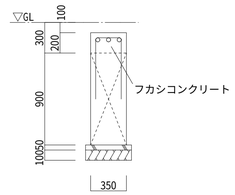
FG2

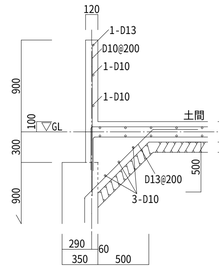


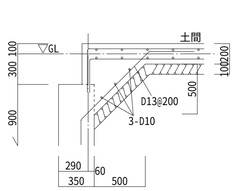
FB1

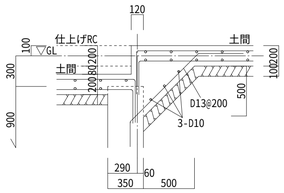


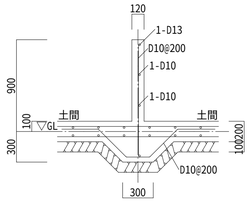
フカシ主筋 FG1 3-D19 フカシHOOP FG1 D10@200
FB1 3-D19 FB1 D10@200





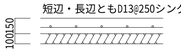






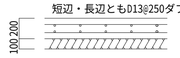
土間コンクリート厚150

短辺・長辺ともD13@250シングル

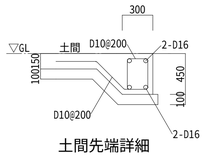


土間コンクリート厚200

短辺・長辺ともD13@250ダブル



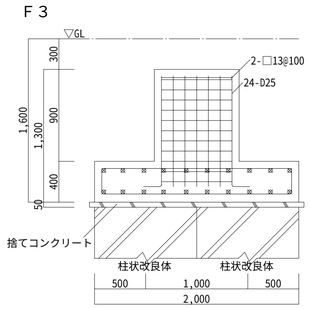
※土間コンクリート下の地盤は十分に転圧等を行い締固めする事
また、砕石施工後も十分に転圧を行い締固めする事



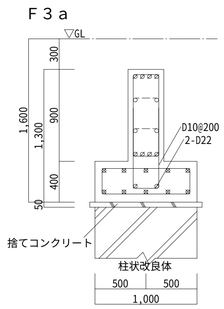
土間先端詳細

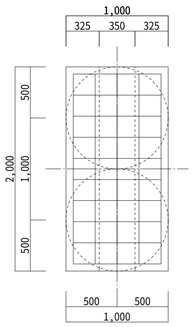
基礎詳細図 1/30

F3

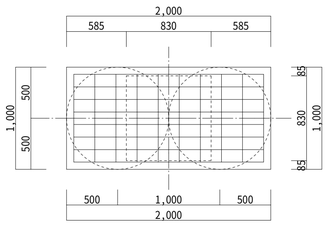


F3a



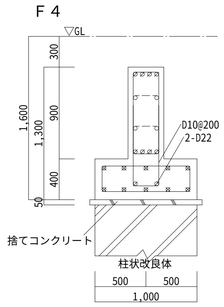


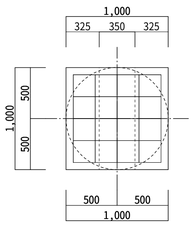
上端筋・下端筋とも
縦筋5-D13
横筋10-D13
柱状改良体 2-φ1000



上端筋・下端筋とも
縦筋10-D13
横筋8-D13
柱状改良体 2-φ1000

F4



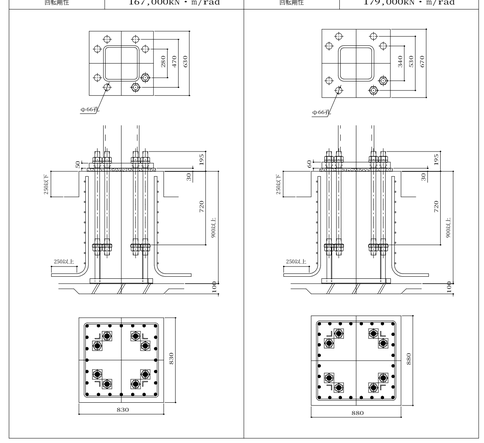


上端筋・下端筋とも
縦筋5-D13
横筋5-D13
柱状改良体 1-φ1000

フーチング詳細図 1/30

柱脚詳細図 1/30

柱脚記号	SP353(FC1)	柱脚記号	SP354(FC1a)
柱寸法	□350×350	柱寸法	□350×350
アンカーボルト	8-M48	アンカーボルト	8-M48
ベースプレート	630×630×50	ベースプレート	670×670×60
柱形断面	最小：830×830	柱形断面	最小：880×880
	最大：1230×1230		最大：1260×1260
最小コンクリート強度	21N/mm²	最小コンクリート強度	21N/mm²
柱主筋	24-D25	柱主筋	28-D25
帯筋	D13@100	帯筋	D13@100
回転剛性	167,000kN・m/rad	回転剛性	179,000kN・m/rad



使用材料

コンクリート	FC27	
鉄筋	D16以下	SD295
鉄筋	D19以上	SD345

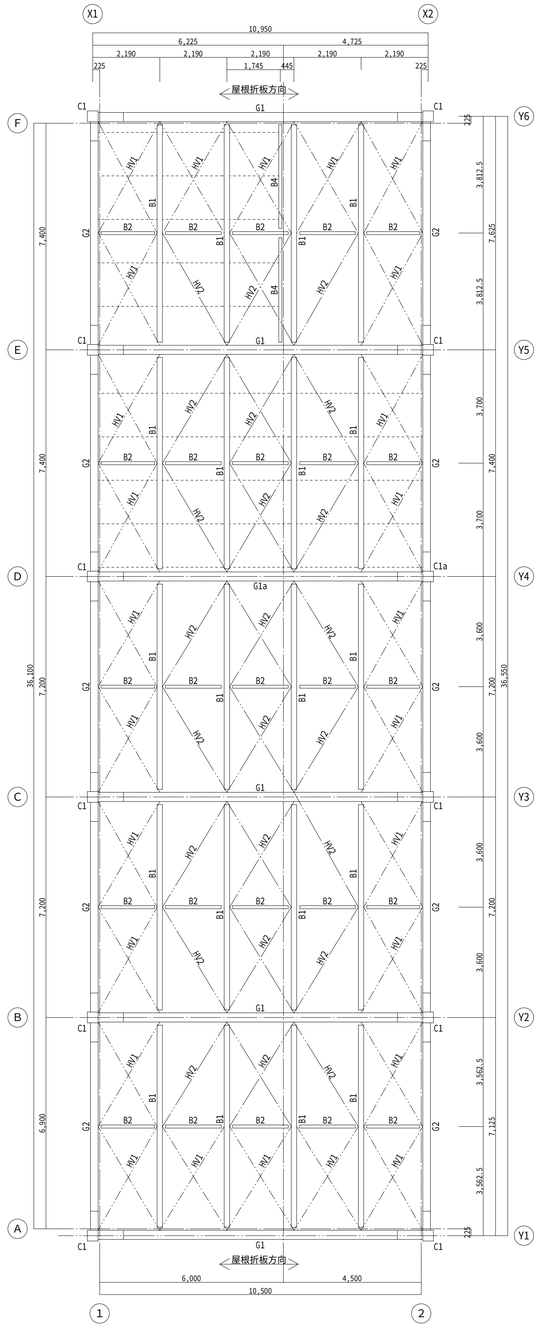
特記事項
構造設計
goto建築設計事務所
一級建築士 344621号
構造設計一級建築士 10033号
後藤 誉洋

承認	検図	担当	製図

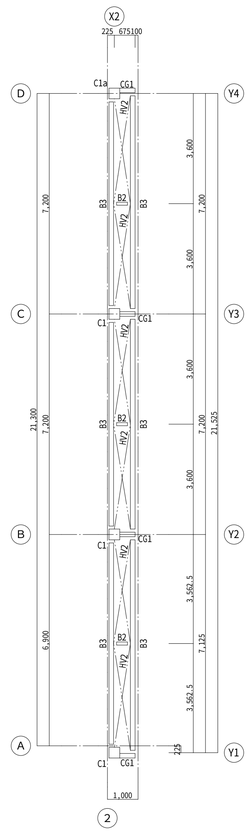
MEMO

TE-RU
TE-RU ARCHITECTS LTD
〒036-8205
青森県弘前市大字末広4-3-1
TEL0172-27-8647 FAX0172-27-8648
株式会社 てる設計
一級建築士事務所 青森県知事 第716号
一級建築士 建設大臣 第21226号
福士 晃昭

工事名称	五所川原農林高等学校実習棟（リンゴ冷蔵庫）改築工事		図面番号
図面名称	フーチング詳細図、基礎詳細図、柱脚リスト		S-02
縮尺	A1：1/30 A3：1/60	年月日 2026.3	



小屋伏図　1/100



庇部伏図　1/100

柱リスト

符号	部材	柱脚	備考	部材種別	細長比
C1	□−350×350×19	ISベース SP353	BCR295	FA	7250/133 = 54.52<200
C1a	□−350×350×22	ISベース SP354	BCR295	FA	7250/132 = 54.93<200

大梁リスト

符号	部材	継手	備考	部材種別
G1	H −488×300×11×18	フランジ 2PL−12 HTB16−M20 ウェブ 2PL−12 HTB16−M20	SS400	FA
G1a	H −488×300×11×18	フランジ 2PL−12 HTB16−M20 ウェブ 2PL−12 HTB16−M20	SN490B	FA
G2	H −340×250× 9×14	フランジ 2PL−12 HTB16−M20 ウェブ 2PL−9 HTB12−M20	SS400	FA

小梁・片持ち梁リスト

符号	部材	取付	備考
B1	H −350×175× 7×11	Y1・Y6通り PL−12 HTB 4−M20	SS400
		上記以外の通り PL−12 HTB 3−M20	
B2	H −200×100×5.5×8	X1・X2通り PL−9 HTB 4−M20	SS400
		上記以外の通り PL−9 HTB 2−M20	
B3	H −300×150×6.5×9	PL−9 HTB 2−M20	SS400
B4	H −200×100×5.5×8	PL−9 HTB 2−M20	SS400
CG1	H −300×150×6.5×9	溶接	SS400

二次部材リスト

符号	部材		取付	備考
P1	□−100×100×6.0		柱頭 2PL-6 2-M16 柱脚 2L-75×75×6 A・B 2-M16 L=350	STKR400
P2	□−100×100×3.2		柱頭 2PL-6 2-M12 柱脚 2L-75×75×6 A・B 2-M12 L=250	STKR400
P3	H−150×150× 7×10		柱頭 PL-6 2-M16 柱脚 BPL-19×170×170 A・B 2-M16 L=350	SS400
H1	□−100×100×3.2		2PL−6 2−M12	STKR400
H2	C−100×50×20×2.3		PL−4.5 1−M12	SSC400
胴縁	C−100×50×20×2.3@450		PL−4.5 1−M12	SSC400
水平ブレース	HV1	M24(JIS規格品)	PL−12 HTB2−M20	SS400
	HV2	M16(JIS規格品)	PL−9 HTB1−M16	SS400
天井受け	C−100×50×20×2.3@1500		PL−4.5 1−M12	SSC400

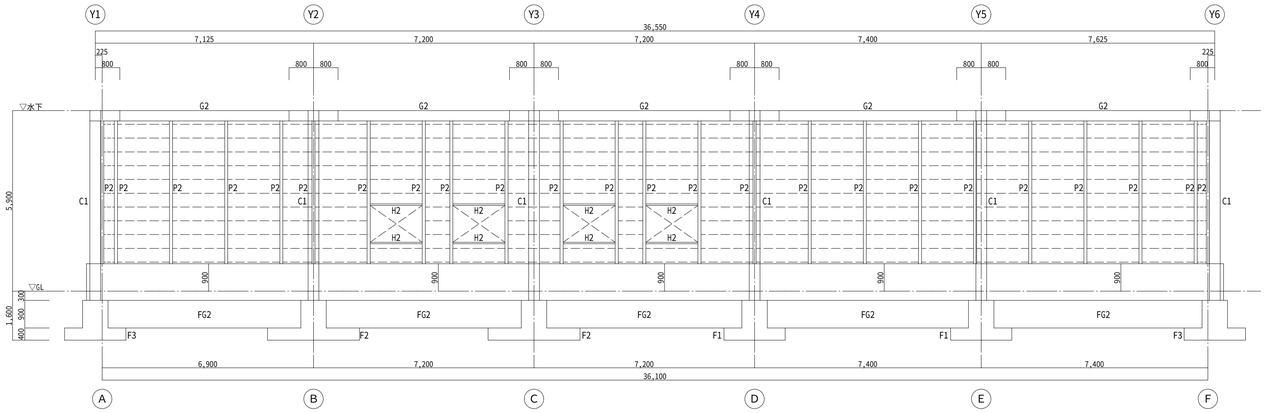
特記事項
構造設計
goto建築設計事務所
一級建築士 344621号
構造設計一級建築士 10033号
後藤 誉洋

承認	検図	担当	製図

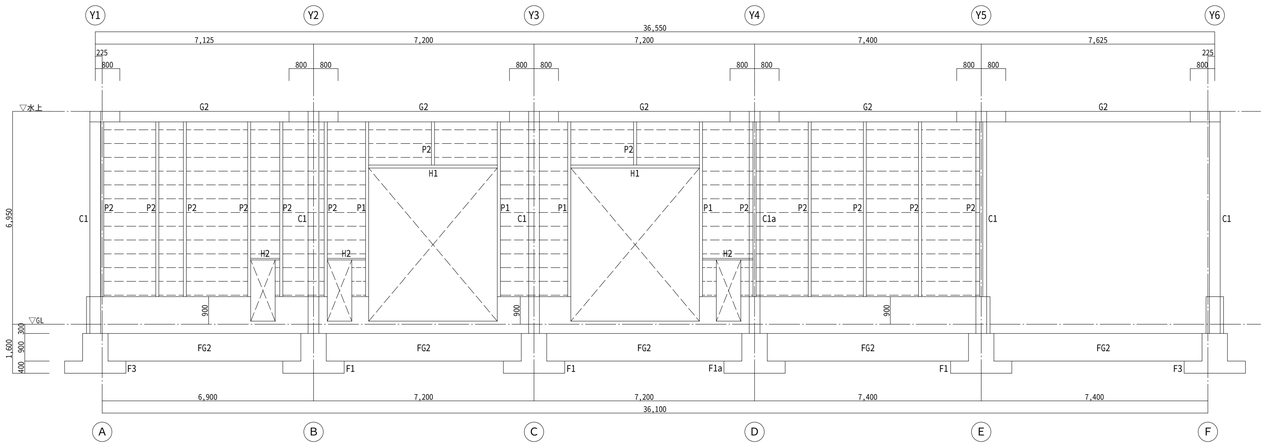
MEMO

TE-RU
TE-RU ARCHITECTS LTD
〒036-8085
青森県弘前市大字末広4-3-1
TEL0172-27-8647 FAX0172-27-8648
株式会社 てる設計
一級建築士事務所 青森県知事 第716号
一級建築士 建設大臣 第213209号
福士 晃昭

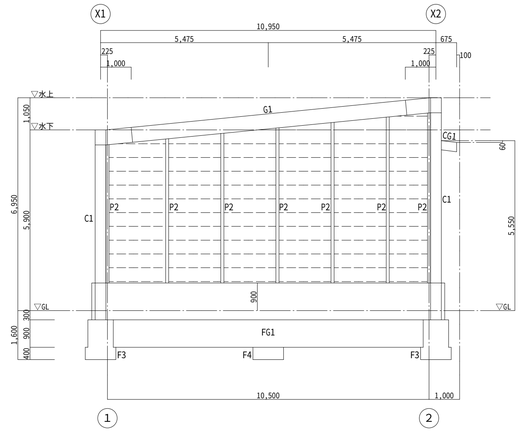
工事名称	五所川原農林高等学校実習棟（リンゴ冷蔵庫）改築工事			図面番号
図面名称	小屋伏図、庇部伏図、鉄骨部材リスト			S-03
縮尺	A1：1/100 A3：1/200	年月日	2026.3	



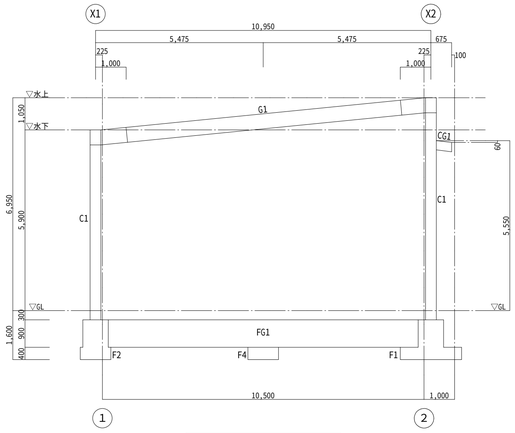
X1通り軸組図　1/100



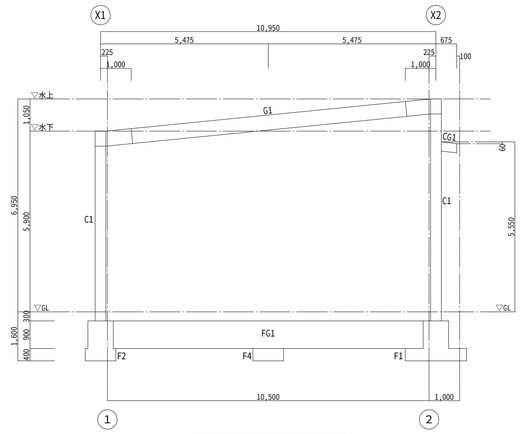
X2通り軸組図　1/100



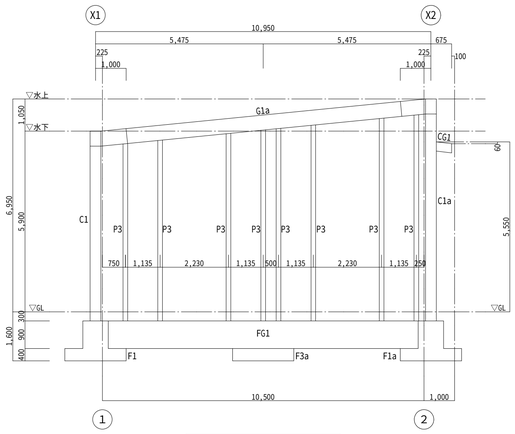
Y1通り軸組図　1/100



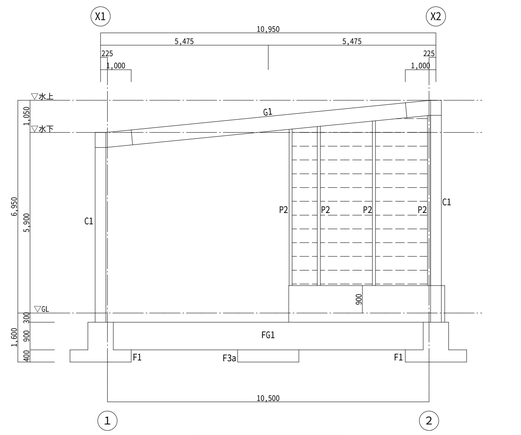
Y2通り軸組図　1/100



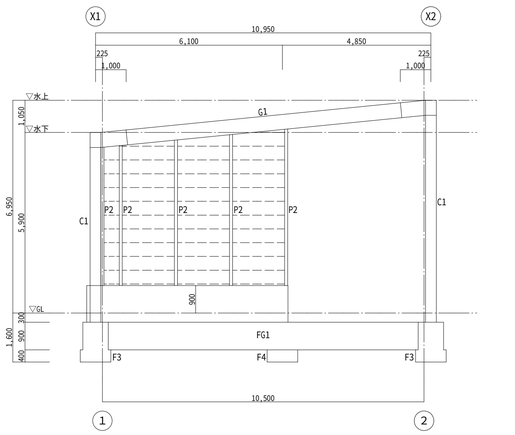
Y3通り軸組図　1/100



Y4通り軸組図　1/100



Y5通り軸組図　1/100

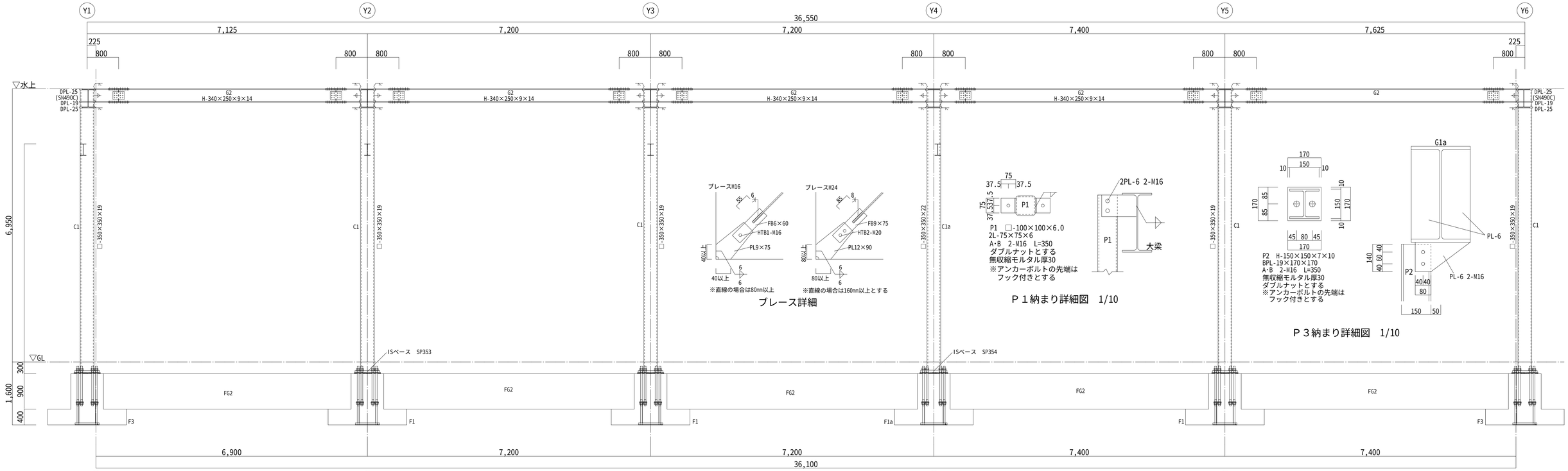


Y6通り軸組図　1/100

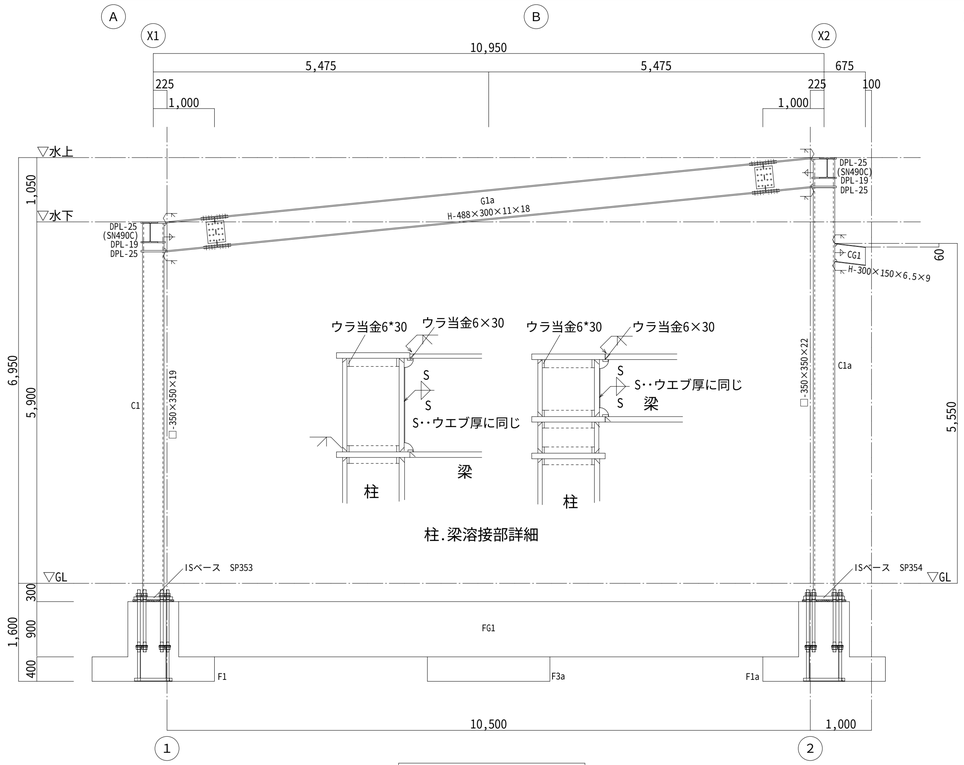
特記事項			承　認	検　図	担　当	製　図
構造設計 goto建築設計事務所 一級建築士　344621号 構造設計一級建築士　10033号 後藤　誉洋	MEMO					

TE-RU
TE-RU ARCHITECTS LTD
〒036-8085
青森県弘前市大字末広4-3-1
TEL0172-27-8647 FAX0172-27-8648
株式会社 てる設計
一級建築士事務所　青森県知事　第716号
一級建築士　建設大臣　第213209号
福士　晃昭

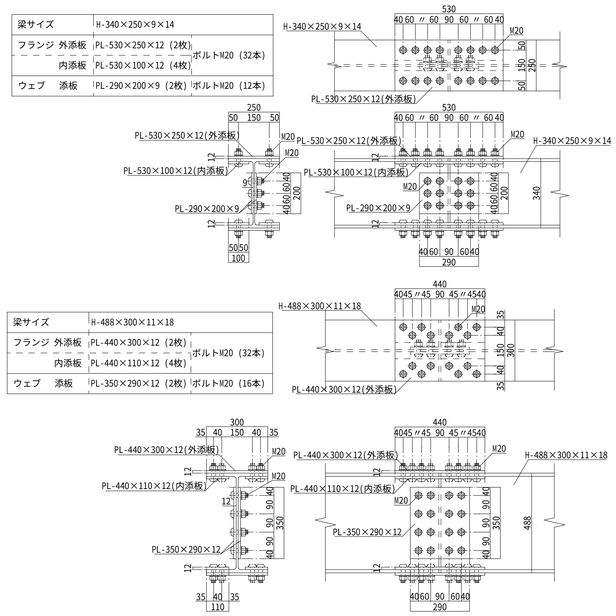
工事名称	五所川原農林高等学校実習棟（リンゴ冷蔵庫）改築工事		図面番号
図面名称	軸組図		S-04
縮　尺	A1：1/100 A3：1/200	年　月　日　2026.3	

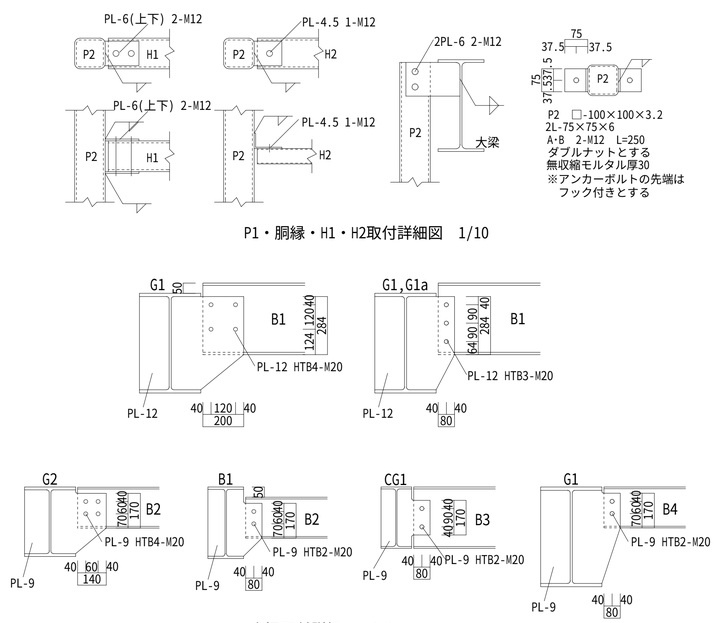


X2通り鉄骨詳細図 1/50



Y4通り鉄骨詳細図 1/50





特記事項
構造設計
goto建築設計事務所
一級建築士 344621号
構造設計一級建築士 10033号
後藤 誉洋

承 認	検 図	担 当	製 図

MEMO

TE-RU
TE-RU ARCHITECTS LTD
〒036-8265
青森県弘前市大字末広4-3-1
TEL0172-27-8647 FAX0172-27-8648
株式会社 てる設計
一級建築士事務所 青森県知事 第716号
一級建築士 髙橋大臣 第212208号
福士 晃昭

工事名称	五所川原農林高等学校実習棟（リンゴ冷蔵庫）改築工事		図面番号
図面名称	鉄骨詳細図、鉄骨部分詳細図		S-05
縮 尺	A1：1/10,15,50 A3：1/20,30,100	年 月 日 2026.3	

五所川原農林高等学校実習棟（りんご冷蔵庫）改築工事 電気設備工事　特記仕様書

Ⅰ．工事概要

1．工事場所　　五所川原市大字一野坪字朝日田 地内

2．建物概要

建物名称	構 造	階数 地上	階数 地下	階数 塔屋	建築基準法による延べ面積(㎡)	消防法施行令別表第一の区分	施設の分類	備 考
実習棟	鉄骨造	1階			379.05	(7) 項	一般の施設	

3．工事種目（ ●の付いたものを適用する。）

建物別及び屋外 / 工事種目	工事種別 庁 舎			屋 外	備 考
● 電灯設備	新設一式				
● 動力設備	新設一式				
○ 電気自動車用充電設備					
○ 電熱設備					
○ 雷保護設備					
○ 受変電設備					
○ 電力貯蔵設備					
○ 発電設備					
○ 構内情報通信網設備					
○ 構内交換設備					
○ 情報表示設備					
○ 映像・音響設備					
○ 拡声設備					
○ 誘導支援設備					
○ テレビ共同受信設備					
○ 監視カメラ設備					
○ 駐車場管制設備					
○ 防犯・入退室管理設備					
○ 火災報知設備					
○ 中央監視制御設備					
○					
● 構内配電線路				新設一式	
○ 構内通信線路					
○					
○					

4．指定部分　　○ なし
　　　　　　　○ あり　　範囲：　　　　　　工期：令和　　年　　月　　日

Ⅱ．工事仕様

1．共通仕様

図面及び本特記仕様に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部制定の下記仕様書等のうち、●印が付いたものを適用する。

○ 公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編）（令和７年版）　　（以下「標準仕様書」という。）
○ 公共建築改修工事標準仕様書（電気設備工事編）（令和７年版）　　（以下「改修標準仕様書」という。）
○ 公共建築設備工事標準図（電気設備工事編）（令和７年版）　　（以下「標準図」という。）

2．特記仕様

特記事項は、●印の付いたものを適用する。
●印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
●印と※印の付いた場合は、共に適用する。

章	項　目	特　記　事　項
一般共通事項	● 1.適用区分	建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の算定には次の条件を用いる。 ● 風圧力 風速（Ｖｏ＝ 34m/s　　　　） 地表面粗度区分（ III　　　　） ● 積雪荷重 建設省告示第１４５５号における区域 別表（ 十一　　　　）
	● 2.電気工事士	最大電力５００ｋW以上の場合においても、第１種電気工事士により施工を行う。
	● 3.機材の品質等	（1）本工事に使用する機材等は、設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。 （2）下表に機材名が記載された製造業者等は、次の①から⑥すべての事項を満たす証明となる資料を提出して監督職員の承諾を受ける。 ただし、次の①から⑥すべての事項を評価された事を示す外部機関が発行する書面を提出し、監督職員の承諾を受けた場合は、証明となる資料等の提出を省略することができる。 ① 品質及び性能に関する試験データを整備していること。 ② 生産施設及び品質の管理を適切に行っていること。 ③ 安定的な供給が可能であること。 ④ 法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得していること。 ⑤ 製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。 ⑥ 販売、保守等の営業体制を整えていること。

機　材　名
LED照明器具（一般屋内用に限る。）
照明制御装置
可変速運転用インバータ装置
分電盤
制御盤
キュービクル式配電盤
高圧スイッチギア（CW）
高圧スイッチギア（PW）
高圧交流遮断器
高圧変圧器（特定機器）
高圧進相コンデンサ
高圧限流ヒューズ
高圧負荷開閉器
交流無停電電源装置　　（常時インバータ給電方式（簡易型）を除く。）
太陽光発電装置　　（パワーコンディショナ及び系統連系保護装置）
監視カメラ装置
中央監視制御（監視制御装置）

注* JIS C 62271-200による高圧スイッチギヤ（図　～　）を含む。
JIS C 62271-200による高圧スイッチギヤの製造業者等は、上記（2）①～⑥すべての事項を満たす証明となる資料を提出して監督職員の承諾を受ける。
ただし、JEM1425による高圧スイッチギヤ（CW）/（PW）【＊を付した機材名を記載】について上記（2）①～⑥すべての事項を評価されたことを示す外部機関が発行する書面を提出し、監督職員の承諾を受けた場合は、「①品質及び性能に関する試験データを整備していること。」を除き、証明となる資料等の提出を省略することができる。

一般共通事項

● 3.環境への配慮

（1）本工事において、国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（平成１２年法律第１００号）に基づく、「環境物品等の調達の推進に関する基本方針（令和８年２月閣議決定）」に定める特定調達品目「公共工事」の品目を調達する場合は、判断の基準等を満たすものとする。

（2）建築物内部に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の①から④を満たすものとする。
① 合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、ＭＤＦ、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗料、仕上塗材は、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しない又は発散が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する。
② 接着剤及び塗料は、トルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。
③ 接着剤は、可塑剤（フタル酸ジ－ｎ－ブチル及びフタル酸ジ－２－エチルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑剤を除く）が添加されていない材料を使用する。
④ ①の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器類等は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。

○ 5.他工事との取合い

施工範囲　図面に特記なき場合は、「工事区分表」による。

● 6.耐震施工

（1）設備機器の固定は、「建築設備耐震設計・施工指針・２０１４年版」（独立行政法人建築研究所監修）により、次に示す設計用地震力に耐える方法とする。
ただし、重量１ｋＮ以下の一般機器について、製造者の指定する固定方法を採用する場合はこの限りではない。

①設計用水平地震力
機器の重量［ｋＮ］に、地域係数(1.0)及び設計用標準水平震度を乗じたものとする。なお、特記なき場合は設計用標準水平震度は次による。

設計用標準水平震度

	機器種別	特定の施設 重要機器	特定の施設 一般機器	一般の施設 重要機器	一般の施設 一般機器
上層階 屋上 及び塔屋	機器	２．０	１．５	１．５	１．０
	防振支持の機器	２．０	２．０	２．０	１．５
	水槽類	２．０	１．５	１．５	１．０
中間階	機器	１．５	１．０	１．０	０．６
	防振支持の機器	１．５	１．５	１．５	１．０
	水槽類	１．５	１．０	１．０	０．６
地階・１階	機器	１．０	０．６	０．６	０．４
	防振支持の機器	１．０	１．０	１．０	０．６
	水槽類	１．５	１．０	１．０	０．６

・上層階とは２～６階建の場合は最上階、７～９階建の場合は上層２階、１０～１２階建の場合は上層３階、１３階建以上の場合は上層４階とする。
・中間階とは地階、１階を除く各階で上層階に該当しない階とする。
・水槽類には燃料小出タンクを含む。
・重要機器は次のものを示す。
○ 配電盤　　○ 発電装置（防災用）　　○ 直流電源装置
○ 交流無停電電源装置　　○ 交換装置　　○ 自動火災報知受信機
○ 中央監視制御装置　　○　　○

②設計用鉛直地震力
設計用水平地震力の１／２とし、水平地震力と同時に働くものとする。

（2）横引き配管等の耐震支持は、施設の耐震安全性の分類に応じたものとする。

（3）1kNを超える機器のアンカー類については耐震支持に対する計画書を提出する。

● 7.足場その他

※ 別契約の関係受注者が定置したものは無償で使用できる。
○ 本工事で設置する。（　　図参照　）
「手すり先行工法等に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙１「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の(1)手すり据置方式又は(2)手すり先行専用足場方式により行う。

● 8.電源周波数

５０ＨＺ

● 9.支持金物・固定金具

イ）屋外機器及び屋外の配管に使用する支持金物（ボルト類）はステンレス製（ＳＵＳ３０４）とし、屋外機器のアンカーボルトのナットにはナットキャップ（樹脂製）を取り付ける。
ロ）振動を伴う機器の支持金物のナットはダブルナットとする。

● 10.電線・ケーブル

新設する電線類は、図面に「ＥＭ－○○」の記載がなくとも、ＥＭ電線、ＥＭケーブルを使用する。

○ 11.ケーブルの種類

ＥＭ－高圧架橋ポリエチレンケーブルは、ＪＣＳ　４３９５「６６００Ｖ架橋ポリエチレンケーブル（３層押出型）」によるものとする。

○ 12.ケーブルの接続

屋外でＥＭ－高圧架橋ポリエチレンケーブル相互の接続又は端末処理を行う場合は、端部にシュリンクバック対策を施す。

○ 13.厚鋼電線管

屋外、及び地下ピットで使用する厚鋼電線管のうち特記のないものは「内外面溶融亜鉛めっき（めっき付着量３００ｇ／㎡以上）」仕上げとする。

一般共通事項　● 14.合成樹脂製可とう管

合成樹脂製可とう管はＰＦ管（一重管）とし、温度による分類はタイプ－２５とする。

● 15.電線本数、管路など

分電盤、制御盤、端子盤などの２次側以降の配線経路、電線太さ、電線本数、管径などは、監督職員の承諾を受けて、変更してもさしつかえない。

○ 16.インサート

床版で断熱材打込み部分は、断熱材用インサートとする。

● 17.フラッシプレート

● 金属製（ステンレス、新金属も含む）　　○ 樹脂製

○ 18.フロアプレート

○ アルミ製　　○ 銅合金製
水平調整付プレート（空転防止リング付）とする。

○ 19.監視制御ｼｽﾃﾑのｻｲﾊﾞｰｾｷｭﾘﾃｨ

外部ネットワークと接続する制御システム
○ あり（対象設備　○ 受変電設備　○ 構内情報通信網設備
○ 中央監視制御設備　○　　）
○ なし

外部ネットワークと接続する箇所の不正アクセス防止対策
○ ファイアウォール　　○ 統合脅威管理(UTM)

盤・キャビネットの錠の鍵
○ 製造者の標準鍵
○ 鍵の指定あり
対策機器（ ○ 分電盤　○ 制御盤　○ キュービクル　○ 端子盤
○ 通信キャビネット　○　　）

● 20.接地極の種別及び位置表示

図面に特記なき場合は、表１「接地極一覧表」による。

● 21.塗装

● キュービクル、分電盤、制御盤等のキャビネットの仕上げ
※ 製造者の標準色仕上げとする。
○ 下記部位に取付けるものは、指定色仕上げとし、それ以外は製造者の標準色仕上げとする。
○ 屋外　　○ 屋内（ ○　　○　　）
○ 下記部位に使用する、外面めっき電線管の露出配管には塗装を施す。
（ ○ 居　室　　○　　○　　○　　）

● 22.機器取付高さ

図面に特記なき場合は、表２「機器取付高さ」による。

○ 23.保温、結露防止

外部に面する壁、天井で建築工事でFP版（スタイロフォーム等）打込み箇所に取付ける位置ボックスなどは保温、結露防止処理を行う。

● 24.呼び線

長さ1m以上の入線しない管路には、1.2mm以上のEM-IE電線を挿入する。

● 25.本受電後の基本料金

○ 計上する（想定契約電力　　kw、想定期間　　ヶ月間）
● 計上しない

各設備　● 1.タンブラスイッチ

ネーム付きとする。

● 2.ＯＡフロア用配線器具の蓋

○ アルミ製　　○ 樹脂製

○ 3.ﾊｰﾈｽｼﾞｮｲﾝﾄ用OAﾀｯﾌﾟ

特記の無いﾊｰﾈｽｼﾞｮｲﾝﾄ用ＯＡﾀｯﾌﾟは次の仕様とする。
２Ｐ15Ａ(接地極付抜止形)ﾗ4 ｺｰﾄﾞ3ｍ(ﾏｸﾞﾈｯﾄ付)通電表示灯付

○ 4.人感センサ用プレート

照明の人感センサ制御を行う部屋には、下記の注意プレートを設置する。
材質：アクリル　　文字：印刷文字　　　寸法：W=180mm程度,H=50mm程度
参考文例：「人の動きを検知して点灯します。一定時間動きがなければ消灯しますので、その際は再度身体を動かしてください。」
注意プレート設置室：　　○ 便　所（計　　枚）　○　　（計　　枚）

○ 5.ﾀｰﾐﾅﾙﾕﾆｯﾄ付ﾘﾓｺﾝﾘﾚｰ

天井内に取付けるターミナルユニット付リモコンリレーの設置場所は、原則として点滅系統内の第１照明器具近傍とする。
ただし、これによりがたい場合は監督職員と協議する。

● 6.ＬＥＤ照明器具

ＬＥＤ照明器具の制御装置記号が特記されていないものは「一般形(ＬＮ)」とする。

● 7.一般照明の照度測定

照度測定箇所は監督職員との協議による。

● 8.分電盤

● 分電盤の分岐回路に使用する配線用遮断器及び漏電遮断器は、JIS協約形の１Ｐサイズ(100V2P1E,200V2P2E)とする。
○ 埋込形分電盤からの立上り予備配管は、予備の配線用遮断器４個以下の場合（ＰＦ２２）を１本、５個以上の場合（ＰＦ２２）を２本、天井まで立上げる。

○ 9.制御盤

配管ボンドとなる負荷には接地端子を設けなくともよい。

表１「接地極一覧表」

接地極の種別は下記を標準としEBの長さは1,500mmとする。ただし、D=10は1,000mm、W=30は1,200mmとする。又、装柱機器及び屋外灯用接地極の埋設標は不要とする。

	接地の種別	記　号	接地抵抗値	接地極の規格、数量
○	雷保護用接地	ＥＬＡ	Ω以下	ＥＰﾗ2
○	雷保護用接地	ＥＬＡ	Ω以下	ＥＢ（Ｄ＝１４又はW＝４０）×　連－　組
○	共　同　接　地	ＥＡＥＤＥＬＨ	１０Ω以下	ＥＢ（Ｄ＝１４又はW＝４０）×３連－２組
○	共　同　接　地	ＥＡＥＣＥＤ	１０Ω以下	ＥＢ（Ｄ＝１４又はW＝４０）×３連－２組
○	Ａ　種　接　地	ＥＡ	１０Ω以下	ＥＢ（Ｄ＝１４又はW＝４０）×３連－２組
○	Ｂ　種　接　地	ＥＢ	Ω以下	ＥＢ（Ｄ＝１４又はW＝４０）×２
○	Ｃ　種　接　地	ＥＣ	１０Ω以下	ＥＢ（Ｄ＝１４又はW＝４０）×３連－２組
●	Ｄ　種　接　地	ＥＤ	１００Ω以下	ＥＢ（Ｄ＝１４又はW＝４０）×１
●	漏電遮断器回路	ＥEL	５００Ω以下	ＥＢ（Ｄ＝１４又はW＝４０）×１
○	構内交換機（陽極用）	Ｅｔ	１０Ω以下	ＥＢ（Ｄ＝１４又はW＝４０）×３連－２組
○	本配線盤の保安装置	ＥＡｔ	１０Ω以下	ＥＢ（Ｄ＝１４又はW＝４０）×３連－２組
○	電話引込口の保安器	ＥＬｔ	１００Ω以下	ＥＢ（Ｄ＝１４又はW＝４０）×１
○	アンテナ保安器	ＥＬｔ	１００Ω以下	ＥＢ（Ｄ＝１４又はW＝４０）×１
○	拡声増幅器	ＥＤｔ	１００Ω以下	ＥＢ（Ｄ＝１４又はW＝４０）×１
○	防犯装置用	ＥＳ	Ω以下	ＥＢ（Ｄ＝１４又はW＝４０）×３連－　組
○				
○	測定用補助接地極	ＥＯ	――――	ＥＢ（Ｄ＝１０又はW＝３０）×１
○	避雷器用（低圧用）	ＥＬＬ	１０Ω以下	ＥＢ（Ｄ＝１４又はW＝４０）×３連－２組
○	避雷器用（高圧用）	ＥＬＨ	１０Ω以下	ＥＢ（Ｄ＝１４又はW＝４０）×３連－２組
○	避雷器用（モデム用）	ＥＭＤ	１００Ω以下	ＥＢ（Ｄ＝１４又はW＝４０）×１

表２「機器取付高さ」

	機　器	測　点	取付高(mm)
共通	積算用計器	地上～窓中心	1,800～2,000
	引込開閉器	床上～中心	1,800～2,200
電灯	分　電　盤	床上～中心	1,500 (上限1,900以下)
	ｽｲｯﾁ(一般)	床上～中心	1,300
	ｽｲｯﾁ (ﾊﾞﾘｱﾌﾘｰﾄｲﾚ)	床上～中心	1,100
	ｽｲｯﾁ(和室)	床上～中心	1,200
	ｺﾝｾﾝﾄ(一般)	床上～中心	300
	ｺﾝｾﾝﾄ(和室)	床上～中心	150
	ｺﾝｾﾝﾄ(台上)	台上～中心	150～200
	ｺﾝｾﾝﾄ(厨房)	床上～中心	800～1,000
	ｺﾝｾﾝﾄ(車庫)	床上～中心	1,300
	ｺﾝｾﾝﾄ(機械室)	床上～中心	500～1,000
	ｺﾝｾﾝﾄ(屋外)	地上～中心	1,000～1,300
	ﾌﾞﾗｹｯﾄ(一般)	床上～中心	2,100～2,300
	ﾌﾞﾗｹｯﾄ(踊場)	床上～中心	2,000～2,500
	ﾌﾞﾗｹｯﾄ(鏡上)	鏡上端～中心	150
動力	壁掛形制御盤	床上～中心	1,500 (上限1,900以下)
	開閉器箱	床上～中心	1,500
	制御用ｽｲｯﾁ	床上～中心	1,300
雷保護	試験用接地端子箱	床上～下端	800
受変電	接地端子箱	床上～中心	500
誘導支援等	呼出しﾎﾞﾀﾝ (ﾊﾞﾘｱﾌﾘｰﾄｲﾚ用)	床上～中心	900、400 (各1個)
	壁付ｲﾝﾀｰﾎﾝ(親機)	床上～中心	1,300
	壁付ｲﾝﾀｰﾎﾝ (玄関子機)	床上～中心	1,100
	廊下表示灯 (復旧ﾎﾞﾀﾝ付)	床上～中心	1,300
	ｽｲｯﾁ(車椅子用)	床上～中心	1,100
	ｺﾝｾﾝﾄ(車椅子用)	床上～中心	900

	機　器	測　点	取付高(mm)
電話	集合保安器箱	天井～上端	200
	端子盤	床上～中心	1,500 (上限1,900以下)
	壁付電話機	床上～中心	1,300
	壁付ｱｳﾄﾚｯﾄ(一般)	床上～中心	300
	壁付ｱｳﾄﾚｯﾄ(和室)	床上～中心	150
時計拡声	壁掛形親時計	床上～中心	1,500 (上端1,900以下)
	壁付子時計	床上～中心	天井高×0.9
	壁付形ｽﾋﾟｰｶ	床上～中心	天井高×0.9
	壁付ｱｯﾃﾈｰﾀ	床上～中心	1,300
表示等	情報表示盤	床上～中心	天井高×0.9
	壁付発信機	床上～中心	1,300
	ﾍﾞﾙ,ﾌﾞｻﾞｰ,ﾁｬｲﾑ	床上～中心	2,300
	壁付押ﾎﾞﾀﾝ(一般)	床上～中心	1,300
インターホン	ﾃﾚﾋﾞｲﾝﾀｰﾎﾝ(親器)	床上～中心	1,400
	ﾃﾚﾋﾞｲﾝﾀｰﾎﾝ(子機)	床上～中心	約1,350
	壁付ｲﾝﾀｰﾎﾝ(一般)	床上～中心	1,300
	壁付ｱｳﾄﾚｯﾄ(一般)	床上～中心	1,300
テレビ	機器収容箱	天井～上端	200
	機器収容箱(EPS)	床上～中心	1,500 (上限1,900以下)
	ﾃﾚﾋﾞ端子(一般)	床上～中心	300
	ﾃﾚﾋﾞ端子(和室)	床上～中心	150
火災報知	受　信　機	床上～操作部	800～1,500
	副受信機	床上～操作部	800～1,500
	機器収容箱	床上～操作部	800～1,500
	発　信　機	床上～操作部	800～1,500
	表　示　灯	床上～中心	2,100
	[illegible]	床上～中心	2,300
ガス漏れ	液化石油ｶﾞｽ用	床上～上端	300
	都市ｶﾞｽ用(軽質)	天井～上端	150
	都市ｶﾞｽ用(重質)	床上～上端	300

備考）天井高3,000mm以上の場合及び上記取付高さにおいて機器の使用に支障が生じる場合は、監督職員と協議する。

特記事項		承　認	検　図	担　当	製　図
	MEMO				

TE-RU
TE-RU ARCHITECTS LTD
株式会社 てる設計
〒036-8085
青森県弘前市大字末広4-3-1
TEL0172-27-8647 FAX0172-27-8648
一級建築士事務所　青森県知事　第716号
一級建築士　建設大臣　第213208号
福士　晃昭

工事名称	五所川原農林高等学校実習棟（りんご冷蔵庫）改築工事			図面番号
図面名称	電気設備工事　特記仕様書-1			E - 01
縮　尺	N･S	年 月 日	2026.3	

工事区分表

（他工事との取合い等）

項目		A	E	M	EV		備考
躯体関係							
1.RC造 (梁･壁･床)の 貫通孔 開口部	貫通孔のスリーブ材及び取付け	○	○	○	○		
	補強を要する型枠材及び取付け	○					
	補強を要しない型枠材及び取付け	○	○	○	○		
	貫通孔・開口部の墨出し	○	○	○	○		
	貫通孔・開口部の補強	○					
	スリーブ・型枠の穴埋め	○	○	○	○		防火区画、防煙区画
2.S・SRC造の 梁貫通孔	S･SRC造貫通鋼管スリーブ・補強	○					
	使用されたスリーブの穴埋め	○	○	○	○		防火区画、防煙区画
	予備スリーブの穴埋め	○	○	○	○		防火区画、防煙区画
3.設備機器 の基礎	屋内の基礎（建築設計図に記入のあるもの）	○					
	屋内の基礎（設備設計図に記入のあるもの）		○	○			
	屋外・屋上の基礎	○					
	屋上基礎で押さえコンにアンカーしない軽微なもの		○	○			
	機器取付け用アンカー・架台		○	○			
	屋内受水タンク用の基礎	○					
	太陽電池アレイ用架台（支持金物）	○	○				AとEの区分は図示
4.昇降機関連	機械室・昇降路の躯体	○					
	機械室の床開口	○					
	機械室の床配管ピット・ふた	○					
	機械室の上げ床コンクリート打設・仕上	○					
	機械室・昇降路内換気設備			○			
	巻上機周囲のチェッカープレート敷				○		
	昇降路内ピット防水・集水桝	○					
	点検用タラップ				○		
	各階出入口穴あけ・同補強	○					
	三方枠取付・枠廻り埋戻し・同補修				○		
	昇降路がS造の時の出入口扉・三方枠及び幕板の固定用鋼材	○					
	出入口扉・三方枠及び幕板				○		
	出入口扉・三方枠及び幕板の各補強鉄骨	○					
	昇降路の中間ビーム、ブラケット、レールブラケット支持柱、 他昇降路内の鋼製部材一式				○		
	昇降路がS造の時の中間ビーム及びブラケットの受けピース	○					
	機械室大梁又は昇降路内にフックの取付（フックを含む）	○					
	ホール押釦・インジケータ・鋼索などの壁開口	○					
	点検用コンセント・煙感知器		○				
	EV制御盤までの動力･照明用電源、アース、火災時管制運転用信号、 非常用発電時管制運転信号、拡声設備(館内放送用)配管・配線工事		○				
	EV制御盤からエレベーター内監視カメラ及びインターホン までの配管・配線工事				○		監視カメラ及び インターホン含む
	監視カメラ用の監視装置からEV警報盤又はEV監視装置までの 配管・配線工事		○				電気設備のモニタ装置 に映像を表示する場合
	EV警報盤又はEV監視盤までの保守遠隔監視用（電話回線）の 配管工事		○				
	EV警報盤又はEV監視盤までの緊急地震速報受信用の配管・配線工事		○				
	EV制御盤からEV監視盤又は警報盤までの制御、監視カメラ及び インターホンの配管・配線工事				○		
	動力計測用電力計から自動制御盤までの配管・配線工事			○			
5.その他	トラフ・ピット類（湧水・汚水）・RC造各種水槽	○					
	同上用防水・ふた・マンホール・タラップ等	○					
	雷保護設備・同接地工事		○				
	ALC板の壁開口・補強	○					
	厨房排水溝	○					
	厨房グリース阻集器			○			
	オイルサービスタンクの防油堤	○					
	フリーアクセスフロア内の防水堤	○					
	既設埋設配管配線調査（X線探査含む）	○	○	○			

項目		A	E	M	EV		備考
仕上げ関係							
1.軽量鉄骨 天井下地 ・壁下地	補強を要するボードの切り込み及び下地の補強	○					
	補強を要しないボードの切り込み		○	○			
	開口部の墨出し		○	○			
2.可動間仕切り	切込み及び補強	○					
	位置ボックス	○					
3.つりボルト 及び インサート	設備機器・器具・配管・配線・ダクト用		○	○			
4.外壁まわり	外壁ガラリ及びダクト接続用フランジ	○					
	ウエザーカバー、ベントキャップ（シール共）			○			
	換気扇（取付枠共）			○			
	サッシパネル開口	○					
5.湯沸室まわり	流し台・つり戸棚・水切り棚・コンロ台	○					
	フード（標準詳細図のもの、シール共）	○					その他はM
	ミニキッチン（照明、水栓含む）	○					
6.浴室まわり	浴室ユニット、複合浴室ユニット、シャワーユニット			○			
	既製浴槽（ふたを含む）			○			
	浴室及び便所の床排水金物			○			
7.便所まわり	洗面カウンター	○					洗面器はM
	鏡（規格寸法のみ）			○			規格外はA
	衛生器具ユニット			○			
	手すり、背もたれ	○					衛生器具ユニットの 場合はM
8.事務室まわり	ファンコイルカバー	○					
	家具組み込みの洗面器			○			切り込みはA
9.ﾌﾘｰｱｸｾｽﾌﾛｱ	コンセント		○				
	床パネルの切り込み加工	○					
10.自動扉 電動ｼｬｯﾀｰ まわり	防火戸の自動開閉装置		○				
	上部電動シャッター本体・制御盤・手動開閉装置・ヒューズ装置	○					
	排煙窓本体・自動開閉装置	○					
	防煙たれ壁本体・駆動装置	○					
	上部電動シャッター、排煙窓及び防煙たれ壁連動制御装置の感知器		○				
	自動扉の本体･駆動装置･検出装置(センサー)	○					
	自動扉の手元電源スイッチ		○				
	電気錠の本体，扉内配線	○					
	電気錠の扉までの配管及び配線		○				
	自動閉鎖装置を取りつける防火戸の切り込み補強 及びドアクローザー、フロアヒンジ	○					
	自動扉・電動シャッターからセンサー（附属スイッチ）への 配管・配線工事	○					
	自動扉･電動シャッター本体までの配管･配線		○				
11.その他	２重ピット及びトレンチのマンホールふた	○					
	機器搬入用フック、ビーム	○					EV用フック含む
	チェーンブロック		○	○			
	化粧マンホール上ふたの表面仕上げ	○					
	点検口（天井・床下）	○					

項目		A	E	M	EV		備考
11.その他 （続き）	排煙口等の天井仕上材の取付け	○					排煙口はM
	消火器ボックス設置工事	○					
	誘導標識（誘導灯を除く）	○					
	煙突底部排水目皿・排水管	○					
	くつふきマット・玄関マット・自動扉マット部 床排水金物（目皿共）・排水管	○					
	くつ洗い流し部排水金物・排水管	○					
	ルーフドレン	○					
	雨水流入配管	○					
	雨水利用設備集水管			○			電動遮断弁以降はM
	屋上緑化	○					屋上緑化用灌水装置 までの配管はM
	ポンプ及びポンプアップ配管			○			
屋外排水設備・外構							
1.雨水	屋外雨水排水設備	○					
	桝及び桝ふた	○					
	マンホールの化粧上ふたの表面仕上げ	○					
	雨水公設桝	○					公共下水道が分流式 の場合
2.雑排水・汚水 電力・通信	屋外雑排水及び屋外汚水排水設備			○			
	桝及び桝ふた			○			
	ハンドホールの化粧用鉄ふたの表面仕上げ	○					
	マンホールの化粧用鉄ふたの表面仕上げ	○					
	排水公設桝			○			公共下水道が合流式 の場合
3.植栽	植栽及び客土	○					
4.ユニット形 浄化槽	タンク室の躯体	○					
	タンク室の砂充てん			○			
	上記以外のユニット形浄化槽本体・配管及び据付等			○			
5.屋外オイル タンク	タンク室の躯体	○					
	タンク室の砂充てん		○	○			
	上記以外のオイルタンク本体･配管及び据付等		○	○			
	配管トレンチ及び蓋	○					
6.その他	駐車場ガソリントラップ（RC造）	○					
	屋外キュービクルフェンス（扉・錠共）	○					
電気配線配管							
	機器附属の制御盤以降の２次側配管配線（接地線共）			○	○		
	機器附属の制御盤への１次側電源供給配管配線（接地線共）		○				
	自動制御盤と動力盤との電源供給の渡り配管配線（接地線共）		○				
	機器と附属操作スイッチの渡り配管配線			○	○		
	煙感知器から連動制御盤を経て防煙ダンパに至る配管配線		○				
	全熱交換ユニットから連動する電動ダンパーへの電源供給配管配線		○				
	注油口内アース端子よりのアース用配管配線		○	○			
	ACP屋外機と屋内機の渡り電源・信号・アース用配管配線			○			
	ACPマルチ形屋内機の電源・アース用配管配線		○				
	機器・電極棒用の電源配管配線		○				電極棒はM
	屋内消火栓ポンプ制御盤から消火栓ポンプ始動装置の電源、 信号線の配管・配線		○				

凡例

A ：建築工事
E ：電気設備工事
M ：機械設備工事
EV：エレベーター設備工事
※区分は○印のついたものを適用する。
※複数に○印がある場合は、それぞれ必要とする工事で実施するものとする。

この工事区分表は、建築工事（A）、電気設備工事（E）、機械設備工事（M）、エレベーター設備工事（EV）といった施工上密接に関連する各工事において、材料や作業がどの工事に含まれているかを明確にするために共通事項として添付しているものである。よって、本工事の設計図書に記載されていない、工事範囲外の項目も含んでおり、本工事の具体の工事内容を示すものではないことに留意すること。

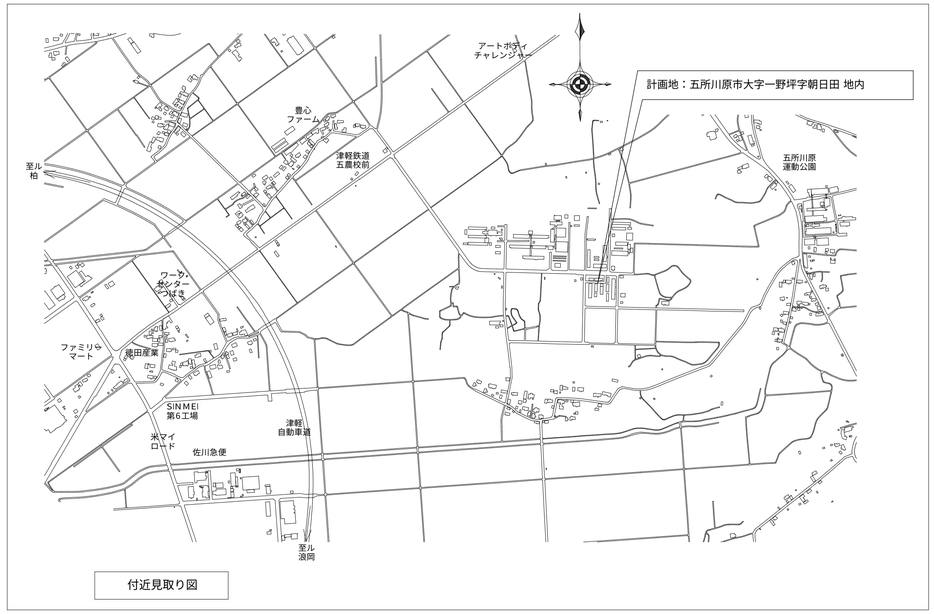
特記事項

承認	検図	担当	製図

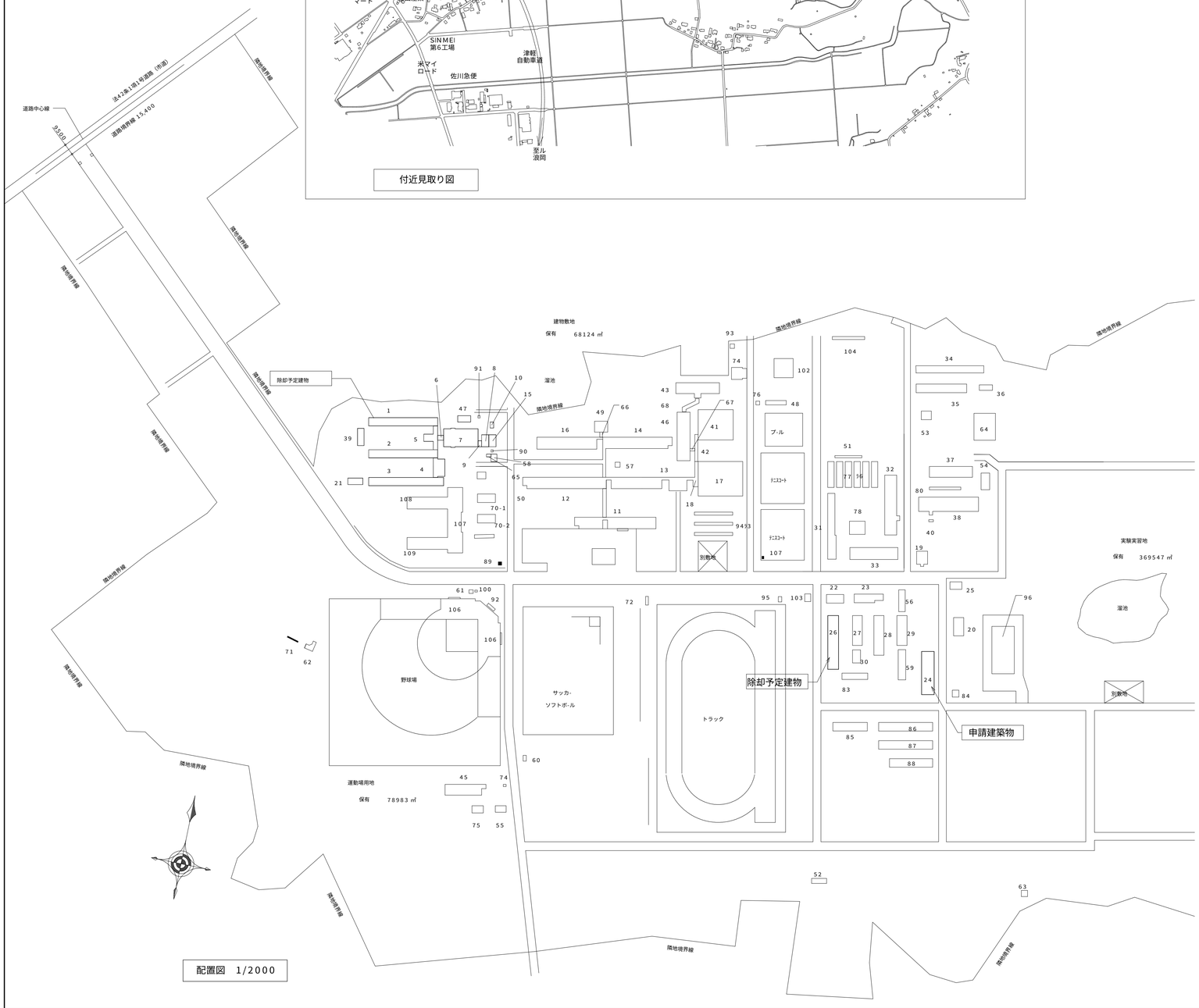
MEMO

TE-RU
TE-RU ARCHITECTS LTD
〒036-8085
青森県弘前市大字末広4-3-1
TEL0172-27-8647 FAX0172-27-8648
株式会社 てる設計
一級建築士事務所 青森県知事 第716号
一級建築士 建設大臣 第213208号
福士 晃昭

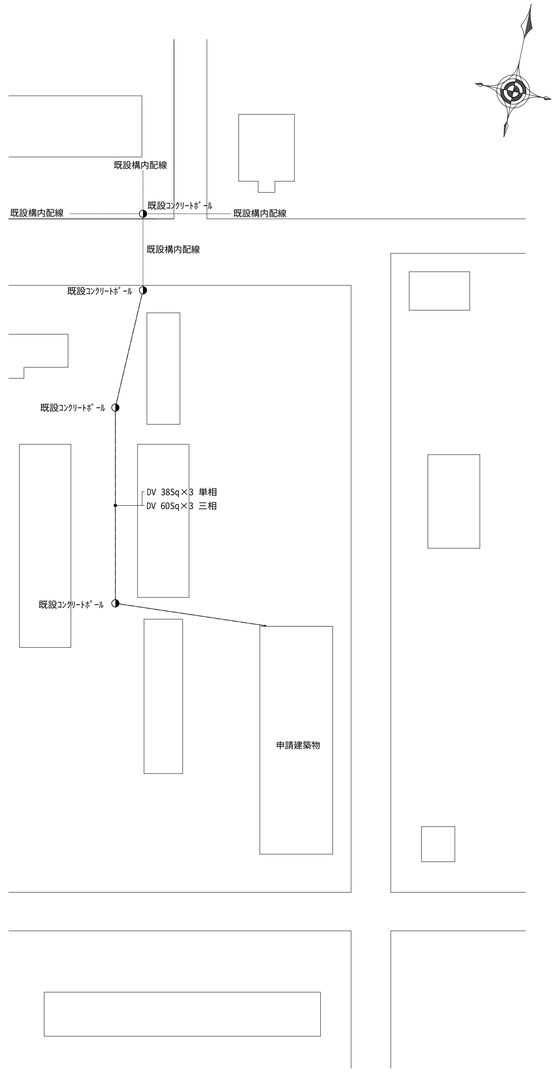
工事名称	五所川原農林高等学校実習棟（りんご冷蔵庫）改築工事		図面番号
図面名称	電気設備工事 特記仕様書-2		E - 02
縮尺	N･S	年月日 2026.3	



付近見取り図



配置図 1/2000



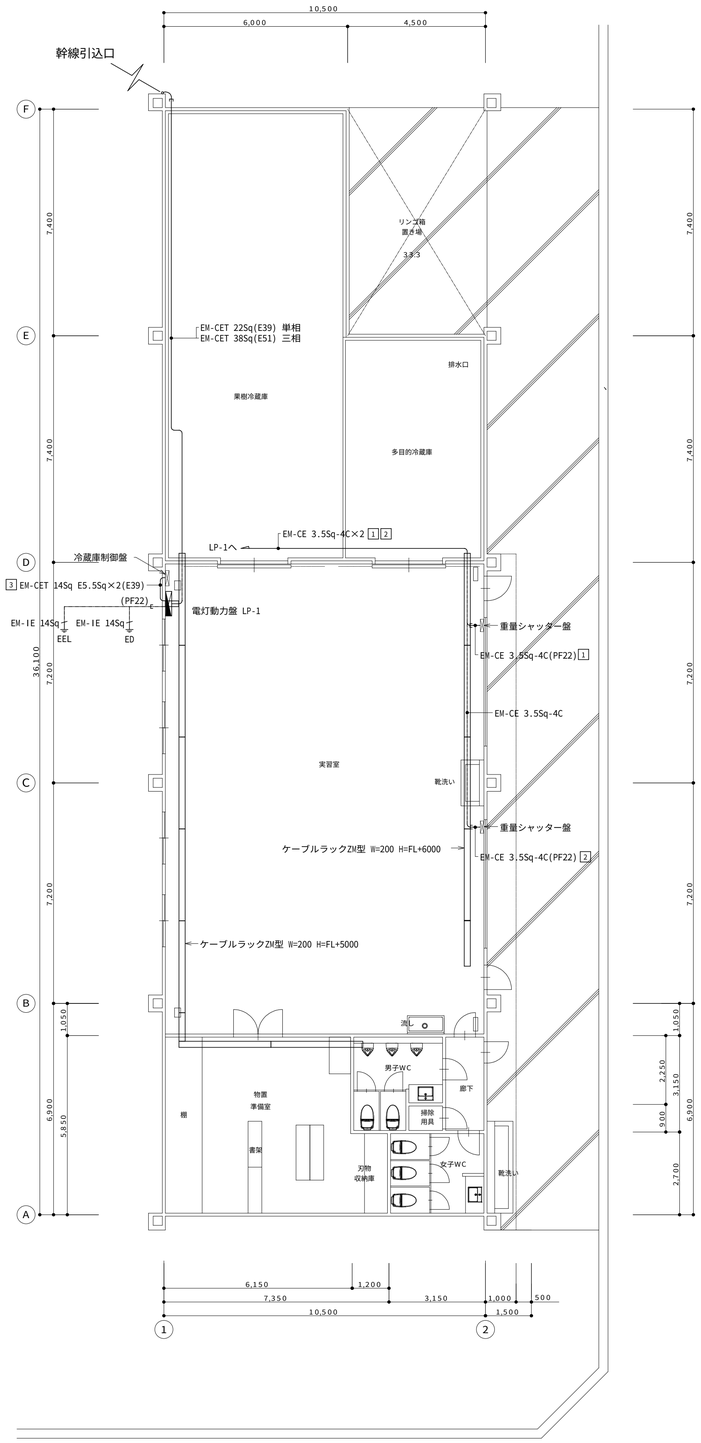
構内配電線路図 1/500

特記事項		承認	検図	担当	製図
	MEMO				

TE-RU
TE-RU ARCHITECTS LTD
〒036-8085
青森県弘前市大字末広4-3-1
TEL0172-27-8647 FAX0172-27-8648
株式会社 てる設計
一級建築士事務所 青森県知事 第716号
一級建築士 建設大臣 第213208号
補士 晃昭

工事名称	五所川原農林高等学校実習棟（りんご冷蔵庫）改築工事		
図面名称	付近見取図・配置図 構内配電線路図		
縮尺	A1：1/2000 1/500 A3：1/4000 1/1000	年月日	2026.3

図面番号 E - 03



平面図　1/100

AC 1Φ 3W 200/100V

MCCB 3P
100/50A

1,125	実習室廻り照明	1	2	物置・WC廻り照明	331
459	冷蔵庫照明	3	4	予備	
800	実習室東側・屋外コンセント	1	2	実習室コンセント	500
400	物置・屋外コンセント	3	4	男子洗浄便座コンセント	900
1,350	女子洗浄便座コンセント	5	6	温水器コンセント	1,200
457	浄化槽関連コンセント	7	8	パネルヒーターコンセント	1,500
120	冷蔵庫盤	9	10	予備	
	予備	11	12	予備	
	スペース			スペース	
4,711	3 ? 4	ELCB 2P2E 50/20A × 4 100V			4,431
	1 ? 12	ELCB 2P1E 50/20A × 12 100V			TOTAL 9,142 VA

スリムブレーカ仕様とする

AC 3Φ 3W 200V

W

MCCB 3P
100/100A

0.5 kW	電動シャッター	1	ELCB 3P 50/10A 30mA / ELCB 3P 50/10A 30mA	2	電動シャッター 0.5 kW
21.55 kW	冷蔵庫盤	3	MCCB 3P 100/75A / ELCB 3P 50/30A 30mA		予備
	スペース				スペース

TOTAL　22,55 kW

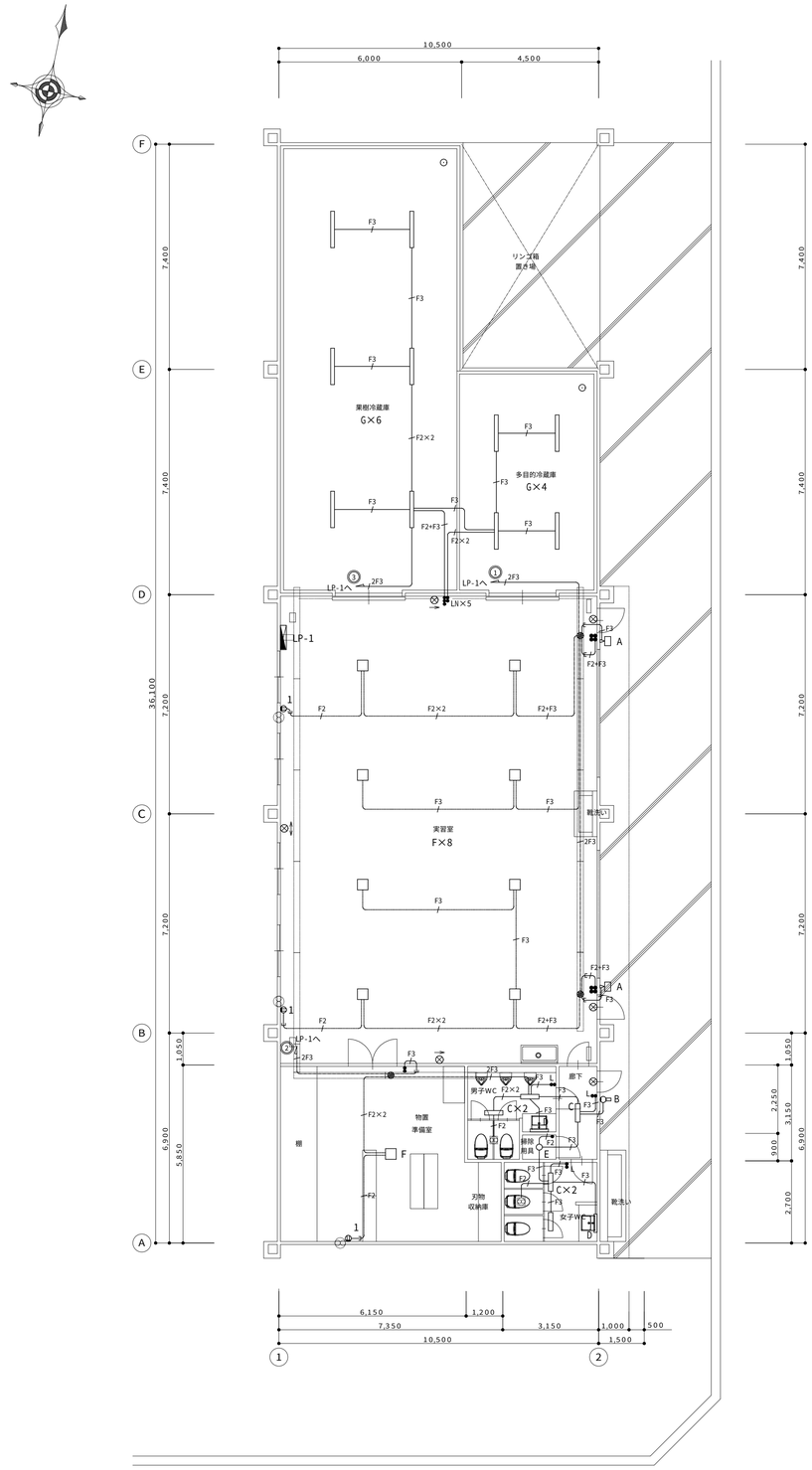
電灯動力盤 LP-1

屋内 露出 壁掛型 鋼板製

特記事項			承　認	検　図	担　当	製　図
MEMO						

TE-RU
TE-RU ARCHITECTS LTD
〒036-8085
青森県弘前市大字末広4-3-1
TEL0172-27-8647 FAX0172-27-8648
株式会社 てる設計
一級建築士事務所 青森県知事 第716号
一級建築士 建設大臣 第213208号
福士 晃昭

工事名称	五所川原農林高等学校実習棟（りんご冷蔵庫）改築工事		図面番号
図面名称	幹線・動力設備 平面図		E - 04
縮　尺	A1：1/100 A3：1/200	年 月 日　2026.3	



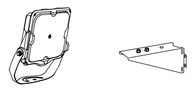
平面図　1/100

照明器具参考図

照明器具の定格消費電力は JIS C 8105-3 に規定する方法により測定算出した値です

A　LED投光器 HF400形相当 消費電力97.6W 17300lm

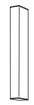
防雨型



LED内蔵、電源ユニット内蔵・重耐塩害仕様、広角タイプ
天井直付型・壁直付型・振動取付型、保護等級：IP65
光束維持時間60,000時間(光束維持率85%)
昼白色、5000K、Ra70、電圧100～242V、投光器台共
本体：アルミ、前面パネル：ポリカーボネート(透明)
アーム：鋼材(溶融亜鉛メッキ)
耐風速：60m/s、落下防止ワイヤー付、耐雷サージ：15kV、質量：4.5kg

B　LEDブラケット 20形 消費電力 14.9W 1,480lm

LBF3MP/RP-2-13
防湿型・防雨型



ＬＥＤ内蔵、電源ユニット内蔵、電圧100～242V
5000K、Ra83、光束維持時間40,000時間(光束維持率85%)
本体：ステンレス、カバー：ポリカーボネート(乳白)
天井直付型・壁直付型、保護等級：IP23

C　LEDベースライト 20形 消費電力 20.1W 3,200lm

LSS9-2-30

一般タイプ、定格出力型
電圧１００～２４２Ｖ、昼白（５０００Ｋ）、Ｒａ８３
本体：鋼板（白色粉体塗装）
ライトバー（カバー）：ポリカーボネート（乳白）
光束維持時間４００００時間（光束維持率８５％）
電源装置はライトバー側に内蔵

D　LEDブラケット 15型 消費電力9.5W 840lm

昼白色(5000K)、Ra83、電圧100V
天井直付型・壁直付型
スイッチ付、拡散タイプ、両面化粧タイプ
カバー：プラスチック（乳白）
W＝450　H＝65　出しろ64

E　LEDシーリングライト 60形 消費電力6.0W 580lm

昼白色(5000K)、Ra83、電圧100V
天井直・壁直取付専用
カバー：プラスチック(ホワイト)
送り用端子台付

F　高天井用照明器具 MF400形 消費電力112W 21,300lm

LSR2W-200

電圧100～242V、昼白色、5000K、Ra70
広角タイプ、直付型、電源内蔵型
光束維持時間60,000時間(光束維持率85%)
本体：アルミ、パネル：ポリカーボネート(透明)、アーム：亜鉛鋼板
約5～100%連続調光可、落下防止ワイヤー付
器具本体(2.5kg)

G　低温倉庫用照明器具 40形 消費電力 45.9W 6,560lm

昼白色(5000K)、定格出力型、電圧100～242V
本体：亜鉛鋼板(クロムフリー・高反射白色粉体塗装)
低温倉庫用ライトバー(-25℃～35℃)：ポリカーボネート(乳白)
IP23防湿(ライトバー：IP54防湿)
光源寿命40,000時間、Ra83
電源装置はライトバー側に内蔵
冷蔵庫パネルの電源及び吊ボルト貫通部は
現場発泡ウレタン吹付等の機密保持・断熱処理を施すこと

⊗　避難口誘導標識　高輝度蓄光式 C級

硬質プレートタイプ

⊗　通路誘導標識　高輝度蓄光式 C級　片矢印
⊗　通路誘導標識　高輝度蓄光式 C級　両矢印

硬質プレートタイプ

凡　例

●	埋込スイッチ	1P15A 片切
● LN	埋込パイロットスイッチ	1P15A 片切
● L	換気扇スイッチ	1P 4A PL付
1	換気扇コンセント	2P15A×1
	ジョイントボックス	VE0B 中深形
	ケーブルラック	幹線設備図参照
	換気扇	機械設備工事
	天井扇	機械設備工事

・特記なき配管配線は下記に依る

立上り引下げ部分は電線管にて保護の事				保護電線管
F2	EM-EEF	1.6 ? 2C	天井内	(PF16)
F3	〃	1.6 ? 3C	〃	(PF16)
2F2	〃	2.0 ? 2C	〃	(PF16)
2F3	〃	2.0 ? 3C	〃	(PF22)
F2	EM-EEF	1.6 ? 2C	ラック	(PF16)
F3	〃	1.6 ? 3C	〃	(PF16)
2F2	〃	2.0 ? 2C	〃	(PF16)
2F3	〃	2.0 ? 3C	〃	(PF22)
F2	EM-EEF	1.6 ? 2C	鉄骨部露出	(PF16)
F3	〃	1.6 ? 3C	〃	(PF16)
2F2	〃	2.0 ? 2C	〃	(PF16)
2F3	〃	2.0 ? 3C	〃	(PF22)

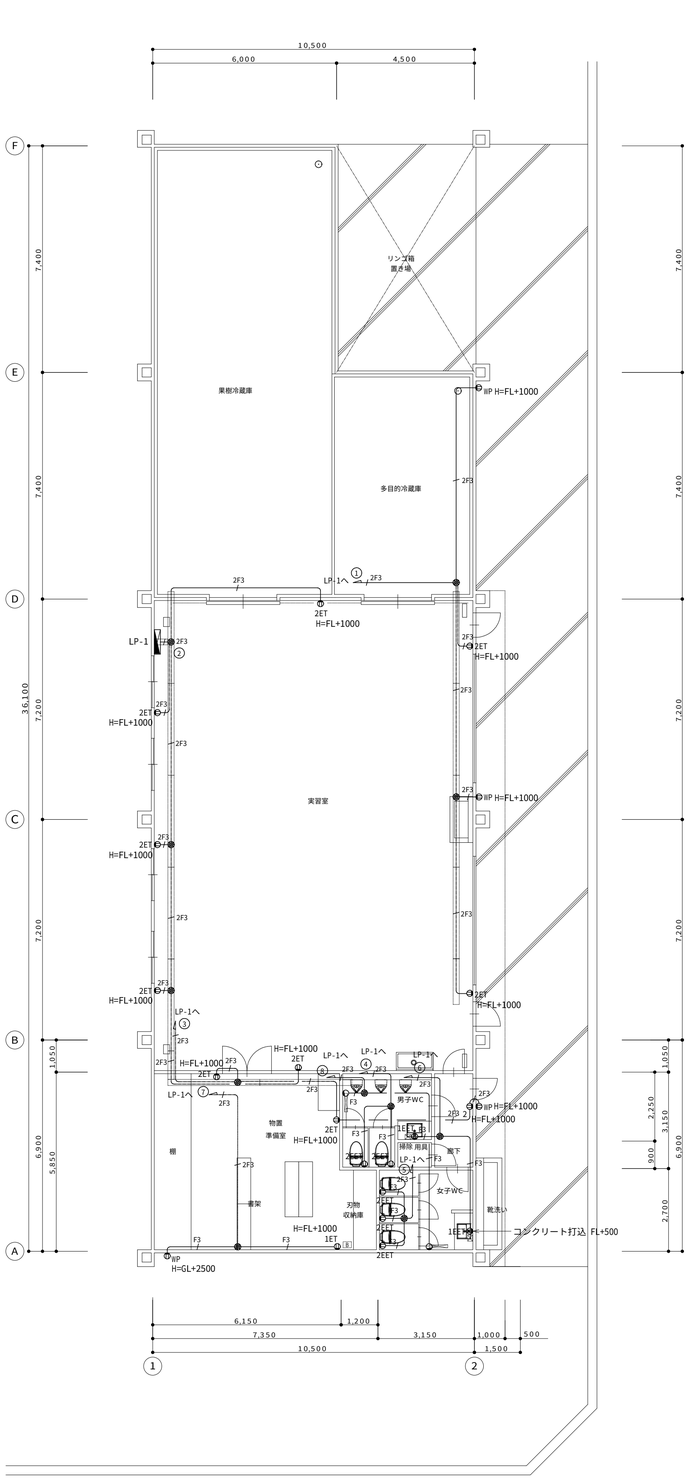
特記事項

承　認	検　図	担　当	製　図

MEMO

TE-RU
TE-RU ARCHITECTS LTD
〒036-8085
青森県弘前市大字末広4-3-1
TEL0172-27-8647 FAX0172-27-8648
株式会社 てる設計
一級建築士事務所　青森県知事　第716号
一級建築士　建設大臣　第213208号
福士　晃昭

工事名称	五所川原農林高等学校実習棟（りんご冷蔵庫）改築工事			図面番号
図面名称	電灯設備 平面図			E - 05
縮　尺	A1：1/100 A3：1/200	年 月 日	2026.3	



平面図　1/100

凡　例

2	埋込コンセント	2P15A×2
1ET	埋込コンセント	2P15A×2・接地端子付
2ET	埋込コンセント	2P15A×2・接地端子付
1EET	埋込コンセント	2P15AE×1・接地端子付
2EET	埋込コンセント	2P15AE×2・接地端子付
WP	防滴抜止めコンセント	2P15AE×2
	凍結防止ﾋｰﾀｰ用ｱｳﾄﾚｯﾄ	金属製ノズルプレート
	ジョイントボックス	VEOB 中深形
	ケーブルラック	幹線設備図参照
	電気温水器	機械設備工事
B	ブロアポンプ	機械設備工事
	凍結防止ヒーター	機械設備工事

※ 特記なきコンセント高さはFL+500とする

・特記なき配管配線は下記に依る

立上り引下げ部分は電線管にて保護の事				保護電線管
F2	EM-EEF	1.6 ? 2C	天井内	(PF16)
F3	〃	1.6 ? 3C	〃	(PF16)
2F2	〃	2.0 ? 2C	〃	(PF16)
2F3	〃	2.0 ? 3C	〃	(PF22)
F2	EM-EEF	1.6 ? 2C	ラック	(PF16)
F3	〃	1.6 ? 3C	〃	(PF16)
2F2	〃	2.0 ? 2C	〃	(PF16)
2F3	〃	2.0 ? 3C	〃	(PF22)
F2	EM-EEF	1.6 ? 2C	鉄骨部露出	(PF16)
F3	〃	1.6 ? 3C	〃	(PF16)
2F2	〃	2.0 ? 2C	〃	(PF16)
2F3	〃	2.0 ? 3C	〃	(PF22)

特記事項		承　認	検　図	担　当	製　図
	MEMO				

TE-RU
TE-RU ARCHITECTS LTD
〒036-8085
青森県弘前市大字末広4-3-1
TEL0172-27-8647 FAX0172-27-8648
株式会社 てる設計
一級建築士事務所 青森県知事 第716号
一級建築士 建設大臣 第211208号
福士 晃昭

工事名称	五所川原農林高等学校実習棟（りんご冷蔵庫）改築工事		図面番号
図面名称	コンセント設備 平面図		E - 06
縮　尺	A1：1/100 A3：1/200	年月日　2026.3	

五所川原農林高等学校実習棟(リンゴ冷蔵庫)改築工事　機械設備　特記仕様書

Ⅰ 工事概要

1．工事場所　五所川原市大字一野坪字朝日田地内

2．建物概要

建物名称	構造	階数 地上	階数 地下	階数 塔屋	建築基準法による延べ面積(㎡)	消防法施行令別表第1の区分	施設の分類	備考
実習棟	鉄骨造	1			379.05	(七)項	一般の施設	新築1棟

3．工事種目（●印のついたものが対象工事）

工事種目 ＼ 建物別及び屋外	工事種別 庁舎				屋外
○ 空気調和設備					
● 換気設備					
○ 排煙設備					
○ 自動制御設備					
● 衛生器具設備					
● 給水設備					○
● 排水設備					○
○ 給湯設備					
○ 消火設備					
○ ガス設備					
○ 厨房機器設備					
○ 雨水利用設備					
● 浄化槽設備					○
○					

4．指定部分　○ 無　○ 有　指定部分工期：令和　年　月　日
対象部分（　　　　　　　）

5．設備概要（●印の付いたものを適用する。）

方式及び種別	設備概要
空気調和方式	○ダクト方式（○中央　○各階ユニット） ○ファンコイル・ダクト併用方式　○パッケージ方式
主要熱源機器	○鋼製ボイラー　○鋼製簡易ボイラー　○小型貫流ボイラー ○簡易貫流ボイラー　○鋳鉄製ボイラー　○鋳鉄製簡易ボイラー ○温風暖房機　○温水発生機（○真空式　○無圧式） ○チリングユニット　○空気熱源ヒートポンプユニット　○吸収冷凍機 ○吸収冷温水機　○吸収冷温水機ユニット　○パッケージ形空気調和機 ○マルチパッケージ形空気調和機
換気設備	○1種換気　○2種換気　●3種換気
排煙設備	○建築基準法　○消防法
自動制御設備	○電気式　○電子式　○デジタル式
給水方式	○水道直結方式　○水道直結増圧方式 ○高置タンク方式　●受水タンク＋ポンプ直送方式
排水方式	建物内の汚水と雑排水（●分流式　○合流式） ポンプ排水　●有（●汚水　雑排水　○湧水）　○無 放流先　汚　水（○直放流下水管　●浄化槽） 雑排水（○直放流下水管　●浄化槽）
給湯設備	○局所式　○中央式
消火設備	○屋内消火栓設備　○スプリンクラー設備　○泡消火設備 ○粉末消火設備　○不活性ガス消火設備（○　　） ○連結送水管設備　○連結散水設備　○フード等用簡易自動消火装置
ガス設備	○都市ガス（種別　、高位発熱量　MJ/?(N)、低位発熱量　MJ/?(N)、供給圧力　Pa、一般ガス導管事業者名：　）　○液化石油ガス

Ⅱ 工事仕様

1．共通仕様
図面及び特記仕様に記載されていない事項は，すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部制定の「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）（令和７年版）」（以下，「標準仕様書」という。)及び国土交通省大臣官房官庁営繕部設備・環境課制定「公共建築設備工事標準図（機械設備工事編）（令和７年版）」（以下，「標準図」という。)による。

2．特記仕様
●印の付いたものを適用する。●印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
●印と⊗印の付いた場合は、共に適用する。

章	項目	特記事項

一般共通事項

○1．適用区分
建築基準法に基づき定まる風圧及び積雪荷重の算定は次の条件による。
○ 風圧力
風速（Vo=　m/s)、地表面粗度区分（　）
○ 積雪荷重
平成12年建設省告示第1455号における区域　別表（　）

●2．機材の品質等
（1）本工事に使用する材料・機材等は設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。
（2）別表に機材等名が記載された製造業者等は次の①から⑥すべて事項を満たす証明となる資料を提出し監督職員の承諾を受ける。ただし、次の①から⑥すべての事項を評価された事を示す外部機関が発行する書面を提出し監督職員の承諾を受けた場合は、証明となる資料の提出を省略することができる。
①品質及び性能に関する試験データを整備していること。
②生産施設及び品質の管理を適切に行っていること。
③安定的な供給が可能であること。
④法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得していること。
⑤製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。
⑥販売、保守等の営業体制が整えられていること。

別　表　（品質及び性能に該当する材料・機材等）

鋼製簡易ボイラー	鋳鉄製ボイラー	鋼製小型ボイラー
鋼製ボイラー	真空式温水発生機（鋼製・鋳鉄製）	無圧式温水発生機（鋼製・鋳鉄製）
チリングユニット及び空気熱源ヒートポンプユニット		吸収冷温水機
吸収冷温水機ユニット	遠心冷凍機	冷却塔
ユニット形空気調和機	ファンコイルユニット及びカセット形ファンコイルユニット	
コンパクト形空気調和機	パッケージ形空気調和機	マルチパッケージ形空気調和機
ガスエンジンヒートポンプ式空気調和機	エアフィルター（パネル形,折込み形）	自動巻取形エアフィルター
電気集じん器	全熱交換器（回転形,静止形）	遠心送風機（多翼形送風機）
斜流送風機	軸流送風機	消音ボックス付送風機
横形遠心ポンプ	水中モーターポンプ（汚水用,雑排水用,汚物用）	
立形遠心ポンプ	風量ユニット（定風量・変風量）	自動制御システム
衛生器具ユニット	密閉形隔膜式膨張タンク（空調用,給湯用）	
ＦＲＰ製パネルタンク	ステンレス鋼板製パネルタンク（溶接組立形）	
ステンレス鋼板製パネルタンク（ボルト組立形）		スプリンクラー消火システム
不活性ガス消火システム	泡消火システム	ハロゲン化物消火システム
厨房システム	マンホールふた・弁桝ふた	

●3．機材の承諾図
機械設備工事機材承諾図様式集（令和４年版）によるほか、監督職員の指示による。

●4．環境への配慮
（1）本工事において、国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（平成12年法律第100号）に基づく、「環境物品等の調達の推進に関する基本方針（令和8年2月閣議決定）」による特定調達品目の判断の基準を満たす環境物品等を選択するよう努める。
ただし、公共工事分野の特定調達品目の機材を使用する場合は、判断の基準を満たすものとする。
（2）建築物内部に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の①から④までを満たすものとする。
①合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、ＭＤＦ、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗料、仕上塗材は、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しない又は発散が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する。
②接着剤及び塗料はトルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。
③接着剤は、可塑剤（フタル酸ジ－n－ブチル及びフタル酸ジ－２－エチルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑剤を除く）が添加されていない材料を使用する。
④①の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器類は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。

●5．足場その他
※別契約の関係受注者が定置したものは無償で使用できる。
○本工事で設置する。（　　図参照）
足場を設ける場合は、「「手すり先行工法等に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙1「手すり先行工法による足場の組立て等の作業に関する基準」における2の（1）手すり据置き方式又は（2）手すり先行専用足場方式により行う。

●6．埋戻し土
イ）管周囲の保護　※山砂の類（ただし、コンクリート管の周囲は根切り土の良質土）
ロ）埋戻し土　※根切り土の中の良質土　○山砂の類

●7．容量等の表示
（1）機器類の能力、容量等は表示された数値以上とする。
（2）電動機出力、燃料消費量、圧力損失等は原則として表示された数値以下とする。

●8．電源周波数
50 Hzとする。

●9．電動機
換気扇、圧力扇及び標準仕様書に記載なく特記のないものの電動機の保護規格は製造者規格による標準品としてもよい。

○10．耐震施工
（1）設備機器の固定は、「建築設備耐震設計・施工指針・２０１４年版」（独立行政法人建築研究所監修）により、次に示す設計用地震力に耐える方法とする。
ただし、重量１kN以下の一般機器について、製造者の指定する固定方法を採用する場合はこの限りではない。
①設計用水平地震力
機器の重量［kN］（水槽類は満水時の液体重量を含む設備機器総重量）に、地域係数1.0及び次に示す設計用標準水平震度を乗じたものとする。

設計用標準水平震度

	機器種別	特定の施設 重要機器	特定の施設 一般機器	一般の施設 重要機器	一般の施設 一般機器
上層階 屋上及び塔屋	機器	2.0	1.5	1.5	1.0
	防振支持の機器	2.0	2.0	2.0	1.5
	水槽類	2.0	1.5	1.5	1.0
中間階	機器	1.5	1.0	1.0	0.6
	防振支持の機器	1.5	1.5	1.5	1.0
	水槽類	1.5	1.0	1.0	0.6
地階・1階	機器	1.0	0.6	0.6	0.4
	防振支持の機器	1.0	1.0	1.0	0.6
	水槽類	1.5	1.0	1.0	0.6

・上層階とは地階を除く2～6階建の場合は最上階、7～9階建の場合は上層2階、10～12階建の場合は上層3階、13階以上の場合は上層4階とする。
・中間階とは地階、1階を除く各階で上層階に該当しないもの。
・水槽類にはオイルタンクを含む。
・重要機器は次による。
［名称：　、記号：　］［名称：　、記号：　］
［名称：　、記号：　］［名称：　、記号：　］
［名称：　、記号：　］［名称：　、記号：　］
［名称：　、記号：　］［名称：　、記号：　］
［名称：　、記号：　］［名称：　、記号：　］
②設計用鉛直地震力
設計用水平地震力の１／２とする。
③機器類および支持架台類固定用のワッシャーの選定は座屈防止を十分検討する。
（2）1kNを超える機器のアンカー類については耐震支持に対する計算書を提出する。

●11．総合試運転調整
各機器の個別運転調整後に次の総合調整を行い、測定報告書を提出する。
○風量調整　●水量調整　○室内外空気の温湿度の測定
○室内気流及びじんあいの測定　○騒音測定
○水質の測定（○飲料水 ○雑用水　（※本工事に費用は含まない））

●12．弁等のサイズ
特記されていない弁等のサイズは機器付属品を除き接続配管のサイズと同じとする。

○13．建物導入部配管の変位吸収
図示の箇所に施工する。
施工方法は「標準図」建築物導入部の変位吸収配管要領（一）、（二）による。（○（a）　○（b）　○（c））

○14．絶縁継手取付箇所
取り付け箇所及び仕様は図示による。

○15．支持及び固定
標準仕様書記載以外の天井吊形、カセット形、天井隠ぺい形の機器の支持は吊り用ボルトで行い、振れ止めを施したものとする。

○16．支持金物･固定金具
イ）ポンプ、屋外機器及び屋外の配管・ダクトに使用する支持金物はステンレス製（SUS304）とする。
ロ）振動を伴う機器の支持金物のナットはダブルナットとする。
ハ）冷水及び冷温水管の吊バンド等の支持部は、合成樹脂製の支持受けを使用する。
ニ）冷媒管の吊り用支持受け材として保護プレートを、断熱材被覆銅管と吊り金物との間に設け、自重による断熱材の食込みを防止する。

●17．地中埋設標等
1）地中埋設標（図示の位置）　※要　○不要
2）埋設表示テープ（排水管を除く）　※要　○不要

●18．配管
（1）ステンレス鋼管の接合は、下記による。
※呼び径60Su以下（○SAS322を満足した継手（　）式 ○　）
（2）溶接部の非破壊検査　※不要　○要（　）
（3）呼び径50以下の鋼管のねじ加工は原則として転造ねじ加工とする。
ただし、樹脂ライニング鋼管(ポリ紛体鋼管を除く)のねじ加工は切削ねじ加工とする。
（4）排水管の90°曲管は原則として大曲管とする。

●19．技能士の適用
●配管施工（配管工事）　○建築板金施工（ダクト製作及び取付け）
○熱絶縁施工（保温工事）
○冷凍空気調和機器施工（チリングユニット，パッケージ形空気調和機の据付け及び整備）

●20．他工事との工事区分
工事区分表による。

●21．塗装
（1）●保温を行わない居室・便所・湯沸室及び屋外の露出配管（鋼管）、ダクトには塗装を行う。
○図示による。
（2）露出金属電線管は次の部分の塗装を行う。
○屋外架空部　○機械室　○屋内一般

●22．電線類
電線及びＥＭケーブルは標準仕様書第４編１.５.１表４.１.11による。

○23．案内板等
機器等の取扱い方法及び系統を書いた図面呼称Ａ１の図面（　枚）をプラスチックケースに入れ、監督職員の指示する場所に設置する。
屋外に設置する危険物表示版等の材質はアルミニウム製とする。

○24．監視・制御システムのサイバーセキュリティ
外部ネットワークと接続する制御システム
○ あり（対象設備　）　○ なし
外部ネットワークとの接続する箇所の不正アクセス防止対策
○ ファイアウォール　○ 統合脅威管理（UTM)
盤・キャビネットの錠の鍵
○ 製造者の標準鍵
○ 鍵の指定あり
対策機器（○監視盤　○自動制御盤　○　）

○25．保温外装
(1)屋内露出の保温外装は、合成樹脂カバー２とする。
(2)床下暗渠内(ピット内を含む)の保温に使用する着色アルミガラスクロスの外装色の分類は、以下を標準とする。

	外装色
消火管	白系
給水管	青系
給湯管	黒系
冷水・冷温水管	緑系
温水・蒸気管	赤系

○25．計器類
（1）熱源機器には、個々に地震感知器を付属する。
（2）圧力計、連成計、水高計及び電流計等の計器類には、正常値を示す赤指針を設ける。

●26．土工事
（1）配管は下記による。

	埋設深さ(m) 構内一般	埋設深さ(m) 構内車路	土工事区分 機械土工	土工事区分 人力土工	埋戻し用土 掘削土	埋戻し用土 客土	
給水管	0.6		※	○	●	●	
排水管			※	○	●	●	
ガス管			※	○			
消火管			※	○			
油管			※	○			

（2）公道部は、水道事業者、下水道事業者、ガス供給事業者及び道路管理者規定による。
（3）設計図書に示された配管工事で掘削深さが1,500㎜を超える場合は、図示による方法で土留めを行う。
（4）土中埋設配管は、配管下100㎜・配管上100㎜を山砂等で埋め戻す。
（5）残土(発生土を含む)処理
※ 構内指示の場所に敷き均し
○ 構内指示の場所に堆積
○ 構外搬出適正処理：※本工事(約　km(搬出調書等を提出する))
○別契約工事

○27．貫通部の処理
標準仕様書によるほか、冷温水管及び蒸気配管の貫通部には、鞘管を入れ隙間を断熱材等で埋める。

空気調和設備

○1．設計温湿度

		外気条件 温度(DB)	外気条件 湿度(RH)	屋内(調整目標) 一般系統 温度(DB)	屋内(調整目標) 一般系統 湿度(RH)	温度(DB)	湿度(RH)
夏季	9時	29.5℃	66.9%	28 ℃	45 %	℃	%
	12時	31.8℃	59.4%				
	14時	31.8℃	60.8%				
	16時	31.0℃	62.9%				
冬季		-5.4℃	74.7%	22 ℃	40 %	℃	%

熱源機器の水温条件

	暖房用温水ボイラー			
送水温度	70.0 ℃	℃	℃	℃
出入口温度差	15.0 ℃	℃	℃	℃

○2．ばい煙濃度計
取付箇所は図示による。

○3．鋼板製煙道
板厚は煙道径300㎜以下は3.2㎜、300㎜を超えるものは 4.5㎜とする。
煙道を設置する場合、ばいじん測定口（口径100φ、タッピング）を設ける。
（煙道径400㎜を超えるものには、掃除口に蝶番を取り付ける。）

○4．ダクト
※低圧ダクト（長方形ダクトは　※コーナーボルト工法
（長辺の長さが1,500㎜以下の部分）　○アングルフランジ工法）
○高圧１ダクト（ 適用範囲は図面による ）

○5．風量測定口
取付箇所は図示による。取付面は監督職員の指示による。

○6．ダンパー
1）防煙ダンパー　復帰方式　遠隔式(定格入力はＤＣ24Ｖ、0.7Ａ以下とする。)
2）ピストンダンパー　復帰方式　遠隔式

○7．弁類
※５Ｋ
呼び径65Ａ以上の弁は、バタフライ弁とする。
ステンレス鋼管に取り付ける弁類は、ステンレス製とする。
冷温水コイル及び蒸気加熱コイル廻り(標準図施工38･42)の弁は仕切弁とする。

○8．鋼管用伸縮管継手
○ベローズ形　○スリーブ形

○9．温度計
円形指示計とする。

○10．瞬間流量計
止水コック付とする。（※　固定形　○　着脱形）
着脱形の流量指示部（○40Ａ用　個、○100Ａ用　個、○250Ａ　個）を付属。

○11．チャンバー
イ）内貼を施すチャンバー類の表示寸法は、外形寸法を示す。
ロ）空気調和機に取り付けるサプライチャンバー、レタンチャンバー及びダクト系統で消音内貼りしたチャンバーには、点検口を設ける。なお、大きさは図示による。
ハ）外壁に面するガラリに直接取り付けるチャンバーは雨水の滞留のないように施工する。

○12．保温
イ）蒸気還り管は保温不要とする。（屋内露出は除く）
ロ）屋外露出管（弁、フランジを含む）の保温は、標準仕様書第２編３.１.４表２.３.３　Ｅ２・(ハ)とし厚さは呼び径25mm以下は50mm、呼び径32mm以上は40mmとする。
ハ）還気ダクトの保温 ※不要　○要（保温の厚さ25mm、範囲は図示による）
ニ）外気取り入れダクト及びチャンバーボックスの保温　※要　○不要
ホ）排気ダクトは外壁開放部より１m程度を保温する。(チャンバーボックスを含む)
ヘ）冷媒管の保温外装
居室露出部　※保温化粧ケース（樹脂製）
屋外　※保温化粧ケース（樹脂製）
○保温化粧ケース（※亜鉛めっき鋼板製　○SUS製）
ト）建物内のエア抜き管の保温はエア抜き弁(エア抜き弁を含む)までとし、仕様は標準仕様書の冷温水管の項による。
チ）高圧蒸気管及びヘッダーの保温厚さ：　㎜
リ）温水暖房のパネルヒーターへの屋内露出管
○施工する　※施工しない
ヌ）蒸気管の保温
暖房する室の暖房用蒸気立て管(主管を除く)及び分枝管：
○施工する　※施工しない

○13．塗装
次の部位に使用するダクトには塗装を行う。
○制気口ボックス内面（居室・便所の見えかかり部）
○図示による。

○14．消音内貼り
吹出口に接続するチャンバーの消音内貼りは図示による。

○15．緊急遮断弁
オイルサービスタンクに設置する緊急遮断弁は、停電時に閉じるものとする。

○16．注油口及び指示ボックス
○単独形　○共用形(○ 油量指示計　○ ローリーアース)

○17．カセット形ファンコイルユニット(風量分配ダクト)
※亜鉛鉄板
○自己消火性のポリスチレンフォーム製
○

○18．温水パネルヒーター
※鋼板製　○アルミ製　○

○19．電気パネルヒーター
（1）ケーシングはステンレス製とする。
（2）便所に設置する場合は、いたずら防止カバー付とする。

換気設備

●1．準拠事項
［ 空気調和設備の当該事項に準ずる。］
○ダクト　○風量測定口　○ダンパー
○チャンバー　○塗装

○2．開放形湯沸器用排気フード
○別契約工事　○本工事

○3．厨房用排気ダクト
アングルフランジ工法とする。
○亜鉛鉄板　○ステンレス鋼板（SUS304）
（板厚は衛生器具表空調１の厨房排気ダクトの板厚表による）

○4．厨房用排気フード
イ）材質（天幕とも）　○ステンレス鋼板（SUS304）　○
ロ）フード周囲の天幕(フード面から天井面まで)　○取り付ける ○取り付けない
ハ）フードコック　○取り付ける ○取り付けない

○5．多湿箇所の排気ダクト
イ）厨房系統、浴室系統（シャワー室及び脱衣室を含む）のダクトのシールは「標準図」シールの施工例（一）、（二）のＮシール＋Ａシール＋Ｂシールとする。
ロ）水抜き管　○ 要　○ 不要

○6．保温
全熱交換器(空調換気扇)の外気取入れダクト(OA)、給気ダクト(SA)及び排気ダクト(EA)はすべて保温する。

●7．換気扇類
換気扇類は低騒音形以上とし、有圧換気扇は保護ガード付とする。

●8．給排気口
外壁に設置するベントキャップ、ウェザーカバー等には、給気用に防虫網、排気用に防鳥網を取り付ける。

排煙設備

○1．ダクト
○亜鉛鉄板　○普通鋼板（厚1.6㎜）

○2．排煙口の形式
○パネル形　（○天井取付　○壁取付）
○スリット形（○天井取付　○壁取付）
○ダンパー形（○天井内取付　○　）

○3．排煙口開放及び復帰方法
○電気式（遠隔操作　○要　○不要）
排煙口から手動開放装置への配線は、標準仕様書第４編１.５.１ 表４.１.11による耐熱・耐火ケーブルとする。

○4．排煙風量測定方法
建築設備定期検査業務基準書2023年版（(一財)日本建築設備・昇降機センター）の排煙風量の検査方法に準じる。

自動制御設備

○1．システム構成その他
別図による。

○2．計装用配線
電線及びＥＭケーブルは標準仕様書第４編１.５.１表４.１.11による。
屋外・屋内露出の電線は、図面に特記がなければ金属管配線とする。
天井内隠ぺいのケーブルは、図面に特記がなければころがし配線とする。

○3．電動弁
開閉状態の遠方表示用接点を　○設ける　○設けない。

○4．弁耐圧
ＭＰａ

○5．その他
(1) 室内温湿度検出器等を2個以上併設する場合は、サーモケースを使用する。
(2) 電動機用電流計は延長目盛電流計とし、赤指針付きとする。

衛生器具設備

●1．衛生器具ユニット
別図による。

○2．身障者用洗浄弁
※ センサー式 ○ タッチスイッチ式　○ くつべら式押しボタン

●3．大便器用便座
※ 温水洗浄便座：
加熱方式：○ 貯湯式　● 瞬間式
付加機能：※ 節電機能 ※ 脱臭機能
○ 温風乾燥機能　○ 擬音装置 ● リモコン
温水洗浄便座への給水は市水を接続する。
● 暖房便座(● 脱臭機能付　○ 擬音装置付)　○ 普通便座

●4．注記版
※ 設けない　○ 設ける(※ 陶器製　○ 樹脂製)
対象器具は図示による。

TE-RU
TE-RU ARCHITECTS LTD
株式会社 てる設計
〒036-8085
青森県弘前市大字末広4-3-1
TEL0172-27-8647 FAX0172-27-8648
一級建築士事務所　青森県知事　第716号
一級建築士　建設大臣　第213208号
福士　晃昭

工事名称	五所川原農林高等学校実習棟（リンゴ冷蔵庫）改築工事			図面番号
図面名称	機械設備工事 特記仕様書（その1）			M - 01
縮尺	1 / NON	年月日	2026.3	

給水設備

○1．量水器	○親メーター　(※貸与品　○買取り) (○現地表示式(直読式)　○遠隔表示式(○電文式　○パルス式)) ○子メーター　(○貸与品　※買取り) (○現地表示式(直読式)　○遠隔表示式(○電文式　○パルス式))
○2．量水器桝	イ）親メーター用　○水道事業者指定品　○「標準図」量水器桝 ロ）子メーター用　○水道事業者指定品　○「標準図」量水器桝
◉3．弁類	イ）水道直結部分　※10Ｋ ロ）その他の部分　※５Ｋ ハ）呼び径65Ａ以上の弁は、バタフライ弁とする。 ステンレス鋼管に取付ける弁類は、ステンレス製とする。
○4．不凍水栓柱	※化粧ケーシング（※アルミニウム合金製　○合成樹脂製）　○伸縮式
◉5．給水栓	イ）屋内（○一般水栓　◉耐寒水栓）　屋外（◉耐寒水栓　○一般水栓） ロ）湯沸室、台所、厨房用水栓は泡沫式とする。耐寒水栓はＪＷＷＡの認証品とする。
◉6．保温	イ）屋外露出管（弁、フランジを含む）の保温は、標準仕様書第２編3.1.5表2.3.5 e2・ウとし厚さは呼び径２５mm以下は５０mm、呼び径３２mm以上は４０mmとする。 ロ）量水器桝内の保温　※行う　○行わない
○7．小形給水ポンプユニット	(1) 自動交互並列運転とする。 (2) 24時間強制ローテーション機能：　※ 付加する ○ 付加しない
○8．水槽	(1) FRP製タンクのタンク天板(点検用蓋を含む) ※ 複合板　○ 複合板としない (2) タンク接続用配管のフレキシブル継手は合成ゴム製とし、水槽用鋼製架台は溶融亜鉛めっき仕上げとする。 (3) 吐水配管(受水槽)の給水用緊急遮断弁 ※ 設けない　○ 設ける
○9．壁埋込形散水栓ボックス	SUS製とし、鍵付とする。
○10．引込納付金等	○要　(○本工事　※別途)　○不要
◉11．その他	給水管の最小口径は20mmとする。ただし、器具接続部分を除く。

排水設備

○1．満水試験継手	図示の位置に取り付ける。
◉2．台所流し等の排水管	台所流し等の床上露出部分の配管は、ビニル管（RF-VP）でもよい。
◉3．インバート桝	※ 樹脂製桝(小口径桝) ○ コンクリート製桝：　○ 国土交通省仕様桝 ○ 頂部補強を施した市販重ね桝 ◉ 日本下水道協会規格桝
◉4．ため桝	◉ 樹脂製桝 ※ コンクリート製桝：　○ 国土交通省仕様桝 ○ 頂部補強を施した市販重ね桝 ◉ 日本下水道協会規格桝
◉5．樹脂製桝	樹脂製桝(小口径桝)は、プラスチック・マスマンホール協会及び日本下水道協会規格に準ずる。
○6．雨水桝	雨排水用ため桝は、配管エルボによるトラップ桝とする。
○7．グリース阻集器	(1) 工場製作品で実用量が1.0m3以下のもの ※ ステンレス鋼板製　○ FRP製 (2) 設置箇所は図示による。
○8．間接排水	次のものは間接排水とする。○　　○
◉9．試験	(1) 排水管は満水試験を行い、衛生器具等の取付け完了後に通水試験を行う。 (2) 煙試験：　※ 行わない　○ 行う
○10．放流納付金等	○要　(○本工事　※別途)　○不要
◉11．その他	工場製作の流しのトラップは別途工事とするが、接続は配管(硬質塩化ビニル管でもよい)とし、本工事とする。

給湯設備

○1．弁類	給水設備の当該事項による。
○2．保温	湯沸器の給排気筒（二重管）のいんぺい部保温を行う。 (保温の種別は標準仕様書第２編3.1.5表2.3.5のｈ･ア･Ⅸとする)
○3．貯湯槽	ステンレス鋼板製　○ SUS304　○ SUS304L　○ SUS316　○ SUS316L　○ SUS444
○4．貯湯式電気温水器	(1) 週間タイマー：　※ 取付ける　○ 取付けない (2) 制御盤の節電機能：　○ 組み込む　○ 組み込まない
○5．湯水混合栓	逆止弁機能：　※ 有り　○ 無し ※ シングルレバー式　○ サーモスタット式　○ 2バルブ式

消火設備

○1．屋内消火栓種別	○易操作性１号消火栓　○２号消火栓　○広範囲型２号消火栓　○１号消火栓
○2．屋内消火栓開閉弁	※１０Ｋ
○3．保温	イ）充水タンクの保温は、標準仕様書第２編3.1.5表2.3.5　鋼板製タンクの項による。 ロ）消火配管の保温は、標準仕様書第２編3.1.5表2.3.5　給水管の項による。 ハ）屋外露出管については給水管に準ずる。
○4．不活性ガス消火設備	別図による。
○5．泡消火設備	別図による。
○6．屋外消火栓ボックス	○ ステンレス製　○ 鋼板製
○7．その他	(1) 連結送水管に取付ける弁は16Kとする。 (2) その他の弁：　※ JIS10K　○ JIS20K

ガス設備

○1．親メーター	○実測式 ○パルス式 ○貸与品
○2．子メーター	○実測式 ○パルス式 ○買取り
○3．ガスボンベ	貸与品　(○　50kg　○○本) イ）集合装置　○「標準図」液化石油ガス容器廻り配管要領による ○本立て ロ）転倒防止等 ○「標準図」液化石油ガス容器転倒防止施工要領 (○ (a)　○ (b)　) ○容器固定具をＧＬ＋300に追加設置する。
○4．ガス漏れ警報器	○本工事（図示の箇所に取り付ける）（○分離形　○一体形）○別契約工事 外部出力端子　(○有　○無)
○5．埋設深さ	イ）一般敷地内（　　m以上）　ロ）敷地内車両通行部分（　　m以上）
○6．緊急遮断弁	※ 取付けない ○ 取付ける(ガス漏れ警報機と連動して作動するものとし、系統は図示による)

厨房機器設備

○1．熱調理器の熱源	既設　○ガス　○電気 改設　○ガス　○電気
○2．厨房機器類	イ）仕様・性能等は図示による。機器の寸法は概略寸法とする。 ロ）厨房機器据付け要領は「標準図」厨房機器据付け要領による。
○3．厨房システム	※ ドライシステム　○ ウェットシステム　○ セミドライシステム
○4．付属制御盤	機器付属の制御盤は、製造者規格品とする。
○5．付属品(弁類)	JISB2011:2003又はJV同等性能品　○ 5K　※ 10K

雨水利用設備

○1．システム構成その他	別図による。
○2．量水器	○パルス式　○直読式
○3．弁　類	図面に特記なき場合は、ＪＩＳ又はＪＶ５Ｋとする。

浄化槽設備

◉1．特記事項	※県が別に定める仕様書による。 ○下記による。 (1)処理能力 対象人員　14　人　BOD濃度 20 mg／L　BOD除去率 90 %以上 (2)流入負荷 汚水量 2.8ｍ3／日　BOD濃度 200ｍg／L (3)処理方式 ◉小規模合併処理 (告示区分第１の処理方式及びその他同等の能力を有するもの又は建築基準法施行令第35条１項の大臣認定) ○合併処理(告示区分第２、第３、第６の処理方式) (4)主要構造 ◉ユニット形(ＦＲＰ製)　○現場施工形 設置スペース　約　3.45　Ｌ×　2.60　Ｗ (5)総電気容量 １ 相×　100　Ｖ×　0.457　kW (6)ばっ気槽用送風機 イ）屋外に設置する送風機はカバー付とし、コンクリート基礎上に設置する。 ロ）送風機にはケーブル(ビニルキャブタイヤケーブル)を約　　m付属する。 ハ）送風機を２基設置する場合タイマーによる自動交互運転とする。 (7)流入側 イ）流入管底　設計ＧＬ－0.7ｍ ロ）浄化槽本体への自然流下方式(必要な場合はポンプアップ方式とする) (8)放流側 イ）浄化槽本体よりの自然放流可能管底　設計ＧＬ－　　m ロ）浄化槽本体よりの自然放流方式(必要な場合はポンプアップ方式とする) (9)排気管及び排気かさ 構造上不要な場合は設けない。 (10)ポンプ 流入用並びに放流用ポンプは各々２台設置し、自動交互異常時同時運転とする。 (11)制御盤 ○製造者標準品　○標準仕様書による (○漏電、過負荷、満水警報等の一括故障表示用無電圧接点及び端子を設ける) (12)マンホール ◉製造者標準品安全荷重(◉5　○15　○50ｋN 以上とする) ○「標準図」マンホールふた(○MHB　○MHA　○MHD) (13)装置耐荷重 耐荷重はマンホール安全荷重による。 (14)土工事 イ）基礎杭　○要(○本工事　◉別途)　○不要 ロ）基礎コンクリート　○要(○本工事　◉別途)　○不要 ハ）根切り　○本工事　◉別途 ニ）埋戻し　○本工事　◉別途 ホ）躯体(現場施工形の場合)　○本工事　◉別途 ヘ）山留め　○要(○本工事　◉別途)　○不要 ト）水替え(自然水位ＧＬ－　　m)　○要(○本工事　◉別途)　○不要 チ）残土処分　◉構外搬出　○敷き均し (15)消毒剤 30日分を納入する。 (16)水質表示等の提出 一定期間定常状態で使用後、放流水質等を記入した測定表を提出する。 (17)フローシート 合成樹脂製パネル(厚さ５mm以上、文字は彫り込み)を取り付ける。 (18)消泡装置 ノズル式又は消泡剤式とする。

適用	配管種別	新設配管材料
○	冷温水管	※　配管用炭素鋼鋼管(白) ○
○	冷却水管	※　配管用炭素鋼鋼管(白) ○
○	蒸気給気管	※　配管用炭素鋼鋼管(黒) ○
○	蒸気還管	※　圧力配管用炭素鋼鋼管(黒)　(Sch40) ○
○	油管	※　配管用炭素鋼鋼管(黒) ※　(地中配管)ポリエチレン被覆鋼管 ○
○	油通気管	※　配管用炭素鋼鋼管(黒) ※　(地中配管)ポリエチレン被覆鋼管 ○
○	膨張管	※　配管用炭素鋼鋼管(白) ○
○	空気抜き管	※　配管用炭素鋼鋼管(白) ○
○	膨張タンクよりボイラー等への補給水管	※　配管用炭素鋼鋼管(白) ○
○	空調用補給水管	※　給水管の項による ○
○	空調用排水管	※　配管用炭素鋼鋼管(白) ○　硬質ポリ塩化ビニル管(VP) ○
○	冷媒管	※　断熱材被覆銅管（難燃性） ○
◉	給水管	※　水道用ポリエチレン紛体ライニング鋼管 (○PB　○PD) ◉　水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管 (◉VB　○VD) ○　ステンレス鋼管 ※　(屋外地中配管)水道用ポリエチレン二層管 ○　(屋外地中配管)水道配水用ポリエチレン管 ○
◉	汚水排水管	※　耐火二層管 (○天井内、ﾊﾟｲﾌﾟｼｬﾌﾄ内及び空隙壁中　○　　) ◉　硬質ポリ塩化ビニル管(VP) (※最下階の床下・ピット内　○　　) ○　排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管 (※露出配管　○　　) ※　リサイクルポリ塩化ビニル発泡三層管(RF-VP) (※最下階の床下・ピット内　○　　) ○
◉	雑排水管	※　耐火二層管 (○天井内、ﾊﾟｲﾌﾟｼｬﾌﾄ内及び空隙壁中　○　　) ◉　硬質ポリ塩化ビニル管(VP) (※最下階の床下・ピット内　○　　) ○　排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管 (※露出配管　○　　) ○　配管用炭素鋼鋼管(白) ※　リサイクルポリ塩化ビニル発泡三層管(RF-VP) (※最下階の床下・ピット内　○　　) ○
◉	屋外排水管	※　リサイクル硬質ポリ塩化ビニル三層管(RS-VU) ◉　硬質ポリ塩化ビニル管(※　VU　○　VP) ○　排水用リサイクル硬質ポリ塩化ビニル管(REP-VU) ○
◉	排水通気管	※　配管用炭素鋼鋼管(白) ◉　硬質ポリ塩化ビニル管(VP) ○　リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管(RF-VP) ○
○	給湯管	※　ステンレス鋼管 ○
○	消火栓管	※　配管用炭素鋼鋼管(白) ※　(地中配管)外面被覆鋼管(VS) ○
○	連結送水管	※　圧力配管用炭素鋼鋼管(STPG370(白Sch40)) ※　(地中配管)外面被覆鋼管(VS) ○
○	ガス管	※　配管用炭素鋼鋼管(白) ○　(地中配管)ポリエチレン被覆鋼管(PLS) ○　(地中配管)ガス用ポリエチレン管 ○
○	液化石油ガス管	※　配管用炭素鋼鋼管(白) ○　(地中配管)ポリエチレン被覆鋼管(PLS) ○　(地中配管)ガス用ポリエチレン管 ○
○	ブライン管	※　配管用炭素鋼鋼管(黒) ○
○		○

特記事項

承　認	検　図	担　当	製　図

MEMO

TE-RU
TE-RU ARCHITECTS LTD
〒036-8085
青森県弘前市大字末広4-3-1
TEL0172-27-8647 FAX0172-27-8648
株式会社 てる設計
一級建築士事務所　青森県知事　第716号
一級建築士　建設大臣　第213200号
福士　晃昭

工事名称	五所川原農林高等学校実習棟（リンゴ冷蔵庫）改築工事		図面番号
図面名称	機械設備工事 特記仕様書　（その2）		M - 02
縮　尺	1 / NON	年 月 日　2026.3	

工事区分表（他工事との取合い等）

項目		A	E	M	EV		備考
躯体関係							
1．RC造（梁･壁･床)の貫通孔開口部	貫通孔のスリーブ材及び取付け	○	○	○	○		
	補強を要する型枠材及び取付け	○					
	補強を要しない型枠材及び取付け	○	○	○	○		
	貫通孔・開口部の墨出し	○	○	○	○		
	貫通孔・開口部の補強	○					
	スリーブ・型枠の穴埋め	○	○	○	○		防火区画、防煙区画
2．S・SRC造の梁貫通孔	S･SRC造貫通鋼管スリーブ・補強	○					
	使用されたスリーブの穴埋め	○	○	○	○		防火区画、防煙区画
	予備スリーブの穴埋め	○	○	○	○		防火区画、防煙区画
3．設備機器の基礎	屋内の基礎（建築設計図に記入のあるもの）	○					
	屋内の基礎（設備設計図に記入のあるもの）		○	○			
	屋外・屋上の基礎	○					
	屋上基礎で押さえコンにアンカーしない軽微なもの		○	○			
	機器取付け用アンカー・架台		○	○			
	屋内受水タンク用の基礎	○					
	太陽電池アレイ用架台（支持金物）	○	○				AとEの区分は図示
4．昇降機関連	機械室・昇降路の躯体	○					
	機械室の床開口	○					
	機械室の床配管ピット・ふた	○					
	機械室の上げ床コンクリート打設・仕上	○					
	機械室・昇降路内換気設備			○			
	巻上機周囲のチェッカープレート敷				○		
	昇降路内ピット防水・集水桝	○					
	点検用タラップ				○		
	各階出入口穴あけ・同補強	○					
	三方枠取付・枠廻り埋戻し・同補修				○		
	昇降路がS造の時の出入口扉・三方枠及び幕板の固定用鋼材	○					
	出入口扉・三方枠及び幕板				○		
	出入口扉・三方枠及び幕板の各補強鉄骨	○					
	昇降路の中間ビーム、ブラケット、レールブラケット支持柱、他昇降路内の鋼製部材一式				○		
	昇降路がS造の時の中間ビーム及びブラケットの受けピース	○					
	機械室大梁又は昇降路内にフックの取付（フックを含む）	○					
	ホール押釦・インジケータ・鋼索などの壁開口	○					
	点検用コンセント・煙感知器		○				
	EV制御盤までの動力･照明用電源、アース､火災時管制運転用信号、非常用発電時管制運転信号、拡声設備(館内放送用)配管・配線工事		○				
	EV制御盤からエレベーター内監視カメラ及びインターホンまでの配管・配線工事				○		監視カメラ及びインターホン含む
	監視カメラ用の監視装置からEV警報盤又はEV監視装置までの配管・配線工事		○				電気設備のモニタ装置に映像を表示する場合
	EV警報盤又はEV監視盤までの保守遠隔監視用（電話回線）の配管工事		○				
	EV警報盤又はEV監視盤までの緊急地震速報受信用の配管・配線工事		○				
	EV制御盤からEV監視盤又は警報盤までの制御、監視カメラ及びインターホンの配管・配線工事				○		
	動力計測用電力計から自動制御盤までの配管・配線工事			○			
5．その他	トラフ・ピット類（湧水・汚水）・RC造各種水槽	○					
	同上用防水・ふた・マンホール・タラップ等	○					
	雷保護設備・同接地工事		○				
	ALC板の壁開口・補強	○					
	厨房排水溝	○					
	厨房グリース阻集器			○			
	オイルサービスタンクの防油堤	○					
	フリーアクセスフロア内の防水堤	○					
	既設埋設配管配線調査（Ｘ線探査含む）	○	○	○			

項目		A	E	M	EV		備考
仕上げ関係							
1．軽量鉄骨天井下地・壁下地	補強を要するボードの切り込み及び下地の補強	○					
	補強を要しないボードの切り込み		○	○			
	開口部の墨出し		○	○			
2．可動間仕切り	切込み及び補強	○					
	位置ボックス	○					
3．つりボルト及びインサート	設備機器・器具・配管・配線・ダクト用		○	○			
4．外壁まわり	外壁ガラリ及びダクト接続用フランジ	○					
	ウエザーカバー、ベントキャップ（シール共）			○			
	換気扇（取付枠共）			○			
	サッシパネル開口	○					
5．湯沸室まわり	流し台・つり戸棚・水切り棚・コンロ台	○					
	フード（標準詳細図のもの、シール共）	○					その他はM
	ミニキッチン（照明、水栓含む）	○					
6．浴室まわり	浴室ユニット、複合浴室ユニット、シャワーユニット			○			
	既製浴槽（ふたを含む）			○			
	浴室及び便所の床排水金物			○			
7．便所まわり	洗面カウンター	○					洗面器はM
	鏡（規格寸法のみ）			○			規格外はＡ
	衛生器具ユニット			○			
	手すり、背もたれ	○					衛生器具ユニットの場合はM
8．事務室まわり	ファンコイルカバー	○					
	家具組み込みの洗面器			○			切り込みはA
9．ﾌﾘｰｱｸｾｽﾌﾛｱ	コンセント		○				
	床パネルの切り込み加工	○					
10．自動扉 電動ｼｬｯﾀｰまわり	防火戸の自動開閉装置		○				
	上部電動シャッター本体・制御盤・手動開閉装置・ヒューズ装置	○					
	排煙窓本体・自動開閉装置	○					
	防煙たれ壁本体・駆動装置	○					
	上部電動シャッター、排煙窓及び防煙たれ壁連動制御装置の感知器		○				
	自動扉の本体･駆動装置･検出装置(センサー)	○					
	自動扉の手元電源スイッチ		○				
	電気錠の本体，扉内配線	○					
	電気錠の扉までの配管及び配線		○				
	自動閉鎖装置を取りつける防火戸の切り込み補強及びドアクローザー、フロアヒンジ	○					
	自動扉・電動シャッターからセンサー（附属スイッチ）への配管・配線工事	○					
	自動扉･電動シャッター本体までの配管･配線		○				
11．その他	２重ピット及びトレンチのマンホールふた	○					
	機器搬入用フック、ビーム	○					EV用フック含む
	チェーンブロック		○	○			
	化粧マンホール上ふたの表面仕上げ	○					
	点検口（天井・床下）	○					

項目		A	E	M	EV		備考
11．その他（続き）	排煙口等の天井仕上材の取付け	○					排煙口はM
	消火器ボックス設置工事	○					
	誘導標識（誘導灯を除く）	○					
	煙突底部排水目皿・排水管	○					
	くつふきマット・玄関マット・自動扉マット部床排水金物（目皿共）・排水管	○					
	くつ洗い流し部排水金物・排水管	○					
	ルーフドレン	○					
	雨水流入配管	○					
	雨水利用設備集水管			○			電動遮断弁以降はM
	屋上緑化	○					屋上緑化用灌水装置までの配管はM
	ポンプ及びポンプアップ配管			○			
屋外排水設備・外構							
1．雨水	屋外雨水排水設備	○					
	桝及び桝ふた	○					
	マンホールの化粧上ふたの表面仕上げ	○					
	雨水公設桝	○					公共下水道が分流式の場合
2．雑排水・汚水電力・通信	屋外雑排水及び屋外汚水排水設備			○			
	桝及び桝ふた			○			
	ハンドホールの化粧用鉄ふたの表面仕上げ	○					
	マンホールの化粧用鉄ふたの表面仕上げ	○					
	排水公設桝			○			公共下水道が合流式の場合
3．植栽	植栽及び客土	○					
4．ユニット形浄化槽	タンク室の躯体	○					
	タンク室の砂充てん			○			
	上記以外のユニット形浄化槽本体・配管及び据付等			○			
5．屋外オイルタンク	タンク室の躯体	○					
	タンク室の砂充てん		○	○			
	上記以外のオイルタンク本体･配管及び据付等		○	○			
	配管トレンチ及び蓋	○					
6．その他	駐車場ガソリントラップ（RC造）	○					
	屋外キュービクルフェンス（扉・錠共）	○					
電気配線配管							
	機器附属の制御盤以降の２次側配管配線（接地線共）			○	○		
	機器附属の制御盤への１次側電源供給配管配線（接地線共）		○				
	自動制御盤と動力盤との電源供給の渡り配管配線（接地線共）		○				
	機器と附属操作スイッチの渡り配管配線			○	○		
	煙感知器から連動制御盤を経て防煙ダンパに至る配管配線		○				
	全熱交換ユニットから連動する電動ダンパーへの電源供給配管配線		○				
	注油口内アース端子よりのアース用配管配線		○	○			
	ACP屋外機と屋内機の渡り電源・信号・アース用配管配線			○			
	ACPマルチ形屋内機の電源・アース用配管配線		○				
	機器・電極棒用の電源配管配線		○				電極棒はM
	屋内消火栓ポンプ制御盤から消火栓ポンプ始動装置の電源、信号線の配管・配線		○				

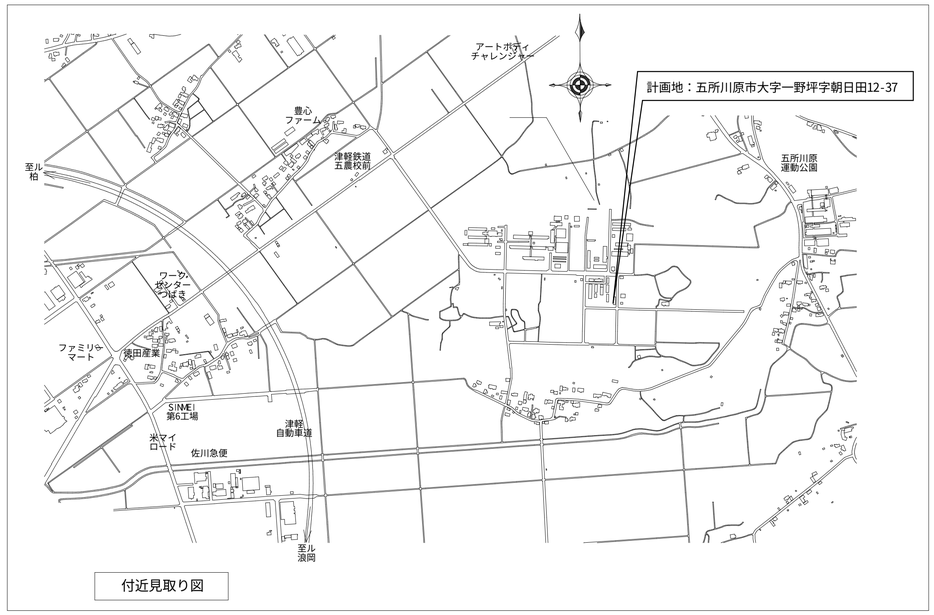
特記事項

承認	検図	担当	製図

MEMO

TE-RU
TE-RU ARCHITECTS LTD
〒036-8005
青森県弘前市大字末広4-3-1
TEL0172-27-8641 FAX0172-27-8648
株式会社 てる設計
一級建築士事務所 青森県知事 第716号
一級建築士 難波大臣 第215220号
福士 晃昭

工事名称	五所川原農林高等学校実習棟（リンゴ冷蔵庫）改築工事		図面番号
図面名称	機械設備工事 特記仕様書 （その3） 工事区分表		M - 03
縮尺	1 / NON	年月日 2026.3	

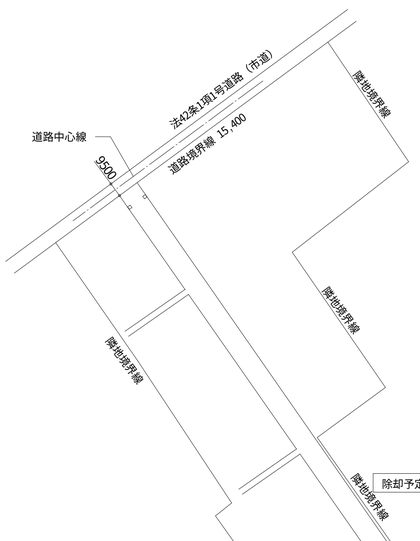


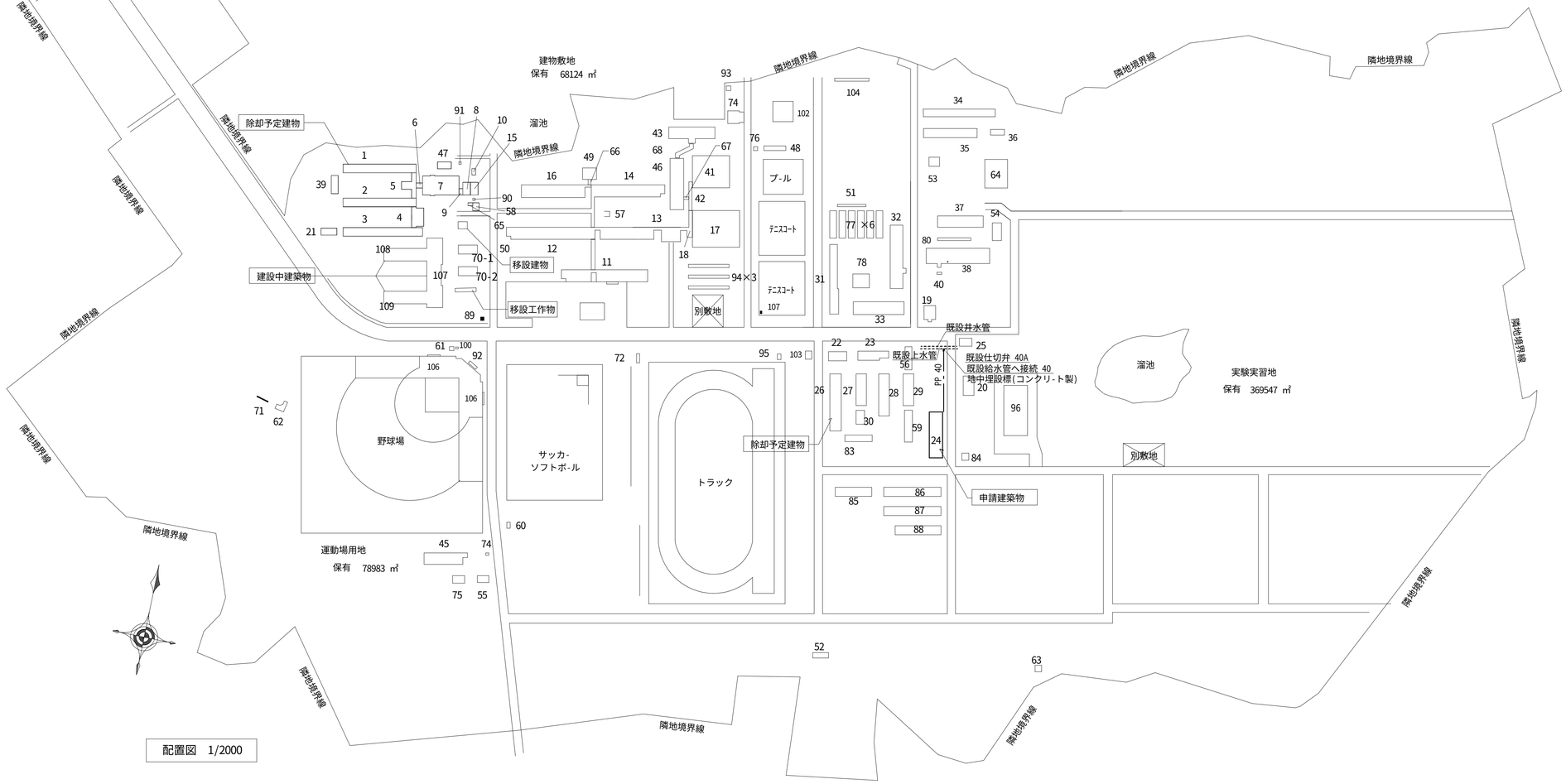
付近見取り図

凡　例

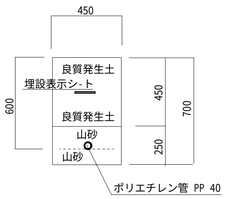
記 号	名 称	仕様
—— - ——	給水管	屋外 ポリエチレン管 PP.屋内埋設 VD.屋内隠ぺい-SGP-VB
————	汚水.排水管	塩化ビニ-ル管 - 屋外-VU.屋内-VP
----------	通気管	塩化ビニ-ル管 屋内.屋外-VP
═══	排気管	スパイラルダクト.機器接続箇所は保温付ダクト使用

特記事項
各官庁の仕様及び指示及び指導に準ずる





配置図　1/2000



給水管布設断面図 1 : 20

特記事項
(共通) 上水道管理者及び下水道管理者と協議済み
(給水設備)
有効な吐水口空間を確保する事
(排水設備)
排水トラップの構造は,昭和50年第1597号第2第5号の規定に適合する事
排水配管の構造は,令129条の2の4第3項に適合する事

腐食防止の措置

埋設配管は以下の腐食防止材料を使用するものとする

給水管　ポリエチレン管 PP　管 .継手は砲金製
ポリ 粉体 ライニング 鋼管 (SGP-PD) 管 .継手も同質部材
排水管 :　塩化ビニ-ル 管 (VP.VU 管 .継手も同質部材

＊管と継手の隙間は防食用　ﾃｰﾌﾟ　で保護の事

給水管の凍結による破壊に構じた措置

埋設管は凍結深度　(GL-600)　以下に埋設し

水抜栓の取付部 ;他　凍結及び破壊等のおそれのある部分は
保温材にて保護するものとする

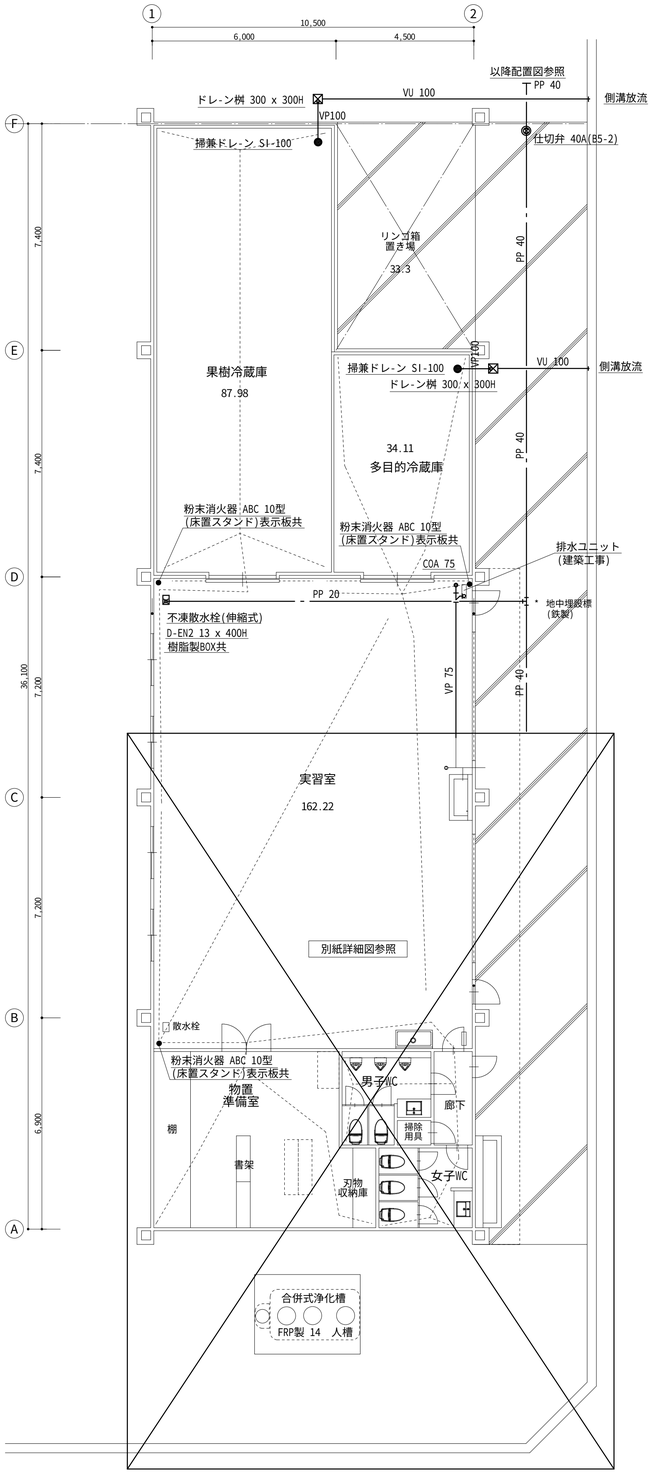
ｳｫｰﾀｰﾊﾝﾏｰ　の防止措置

水道直圧方式により水圧及び流速も安定している
又　次の１～３の箇所等に該当しない為
ｳｫｰﾀｰﾊﾝﾏｰ　の防止措置は講じないものとする
ｳｫｰﾀｰﾊﾝﾏｰ　の発生しやすい場所 ,箇所
1. 管内の常用圧力が著しく高い所　および速い所
2. 水温が高い所及び水柱分離が起こりやすい所
3. 給水 ﾎﾟﾝﾌﾟ　の揚水管及び曲折が多い配管等

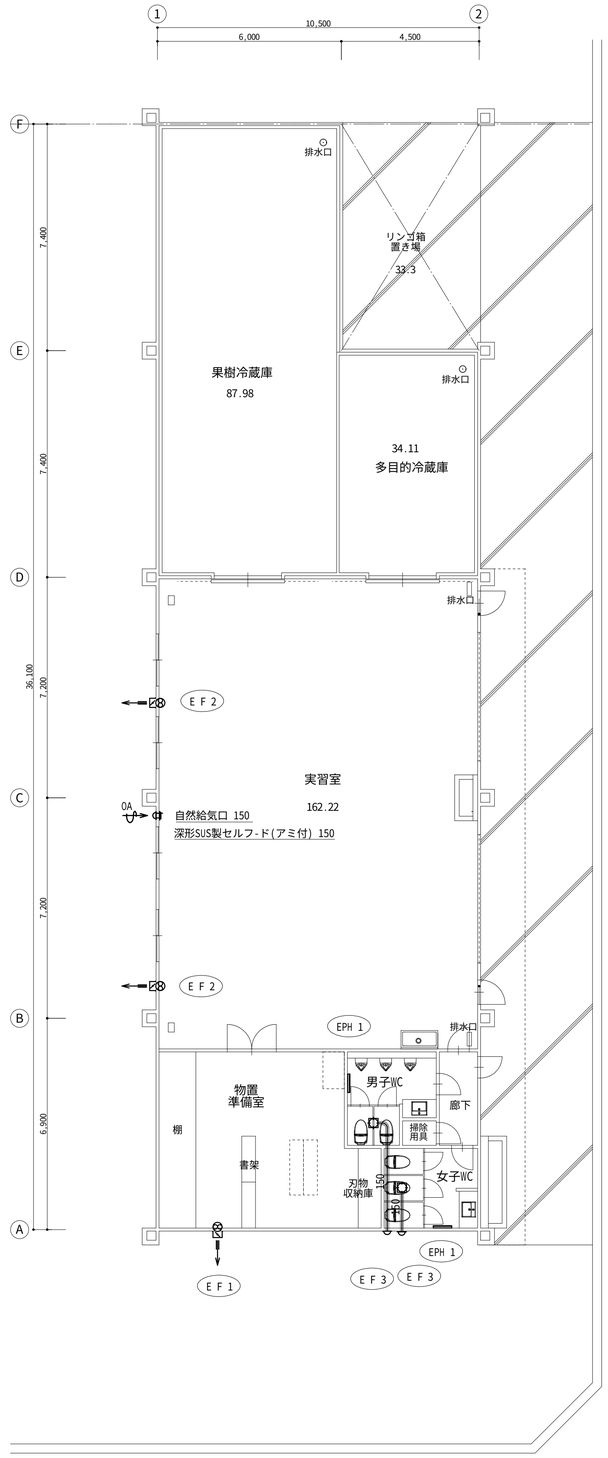
特記事項			承　認	検　図	担　当	製　図
	MEMO					

TE-RU
TE-RU ARCHITECTS LTD
〒036-8085
青森県弘前市大字末広4-3-1
TEL.0172-27-8547 FAX.0172-27-8646
株式会社 てる設計
一級建築士事務所　青森県知事　第716号
一級建築士　建設大臣　第213209号
福士　晃昭

工事名称	五所川原農林高等学校実習棟（リンゴ冷蔵庫）改築工事		図面番号
図面名称	配置図.付近見取図.凡例		M - 04
縮　尺	A1：1/2000 A3：1/4000	年　月　日　2026.3	

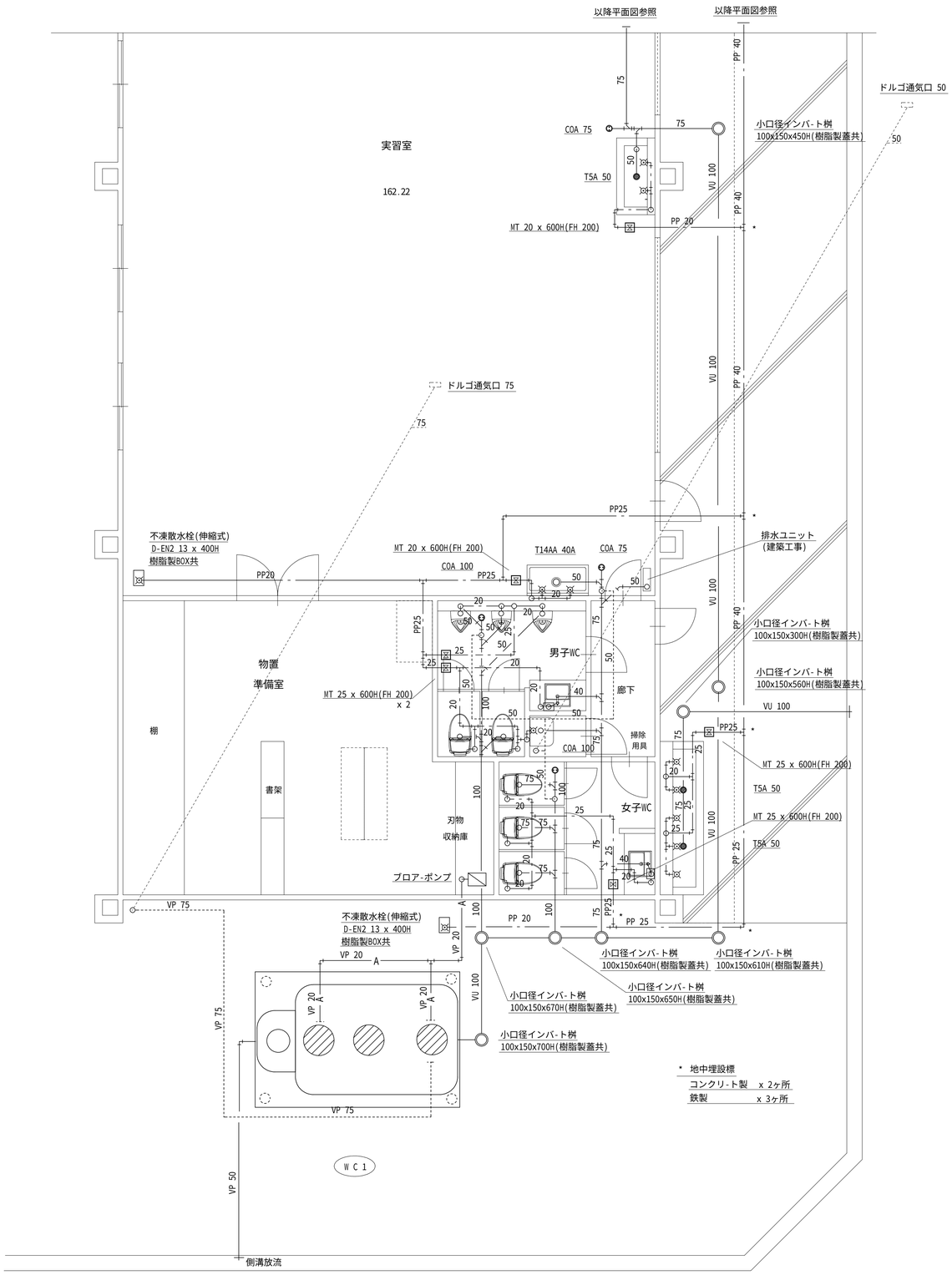


衛生設備 平面図 1/100



換気設備 平面図 1/100

特記事項		承 認	検 図	担 当	製 図	TE-RU TE-RU ARCHITECTS LTD	〒036-8085 青森県弘前市大字末広4-3-1 TEL0172-27-8547 FAX0172-27-8548	工事名称	五所川原農林高等学校実習棟（リンゴ冷蔵庫）改築工事		図面番号
								図面名称	衛生.換気設備 平面図		M - 05
MEMO						株式会社 てる設計	一級建築士事務所 青森県知事 第7116号 一級建築士 細田大臣 第213200号 福士 晃昭	縮 尺	A1：1/100 A3：1/200	年 月 日 2026.3	



衛生器具表

名 称	仕様(TOTO品番)		仕様(LIXIL品番)		実習室	男子WC	女子WC	屋外		数	備考
洋風大便器	CS400B.SH400BA.TCF6543AK.YH600FWR	他付属金具一式共	BC-Z30S.DT-Z350N.CW-KA31AQC.CF-AA64KUT	他付属金具一式共		2	3			5	温水洗浄式
	床置型.密結ロ-タンク.温水洗浄式.棚付2連紙巻器付		床置型.密結ロ-タンク.温水洗浄式.棚付2連紙巻器付								1相100V 450W程度
小便器	UFS900WR	他付属金具一式共	U-51MP	他付属金具一式共		3				3	自己発電式
	壁掛壁排水.低リップ.節水タイプ.自己発電式		壁掛壁排水.低リップ.節水タイプ.自己発電式								
洗面器	LS721CM.TLE31SS1J.電気温水器付(3Lタイプ)	他付属金具一式共	L-531ANC.AM-300CV1.電気温水器(3Lタイプ)	他付属金具一式共		1	1			2	電気温水器付
	ベッセル式.角型.自動水栓.床給水.Sトラップ		ベッセル式.角型.自動水栓.床給水.Sトラップ								1相100V 600W程度
化粧鏡	YM6075F 本体寸法 600 x 750 x 5mm	他付属金具一式共	KF-6075A 本体寸法 600 x 750 x 5mm	他付属金具一式共		1	1			2	耐食性 防錆性
掃除流し	SK22A.T23AE20C	他付属金具一式共	S-202A.LF-7E-19U	他付属金具一式共		1				1	
自在水栓	T130AEQF13C		LF-12ZF-13U		2			2		4	泡沫レバ-式
万能ホーム水栓	T200BSQF13C		LF-7KRZ-13U		2			3		5	レバ-式

衛生.空調機器表

記 号	名 称	仕様		電気消費量	数	備考
EPH 1	電気パネルヒ-タ	暖房出力 H : 0.75 KW(645 KcaL/h).ステンレス製壁掛け形. 室内ル-ムサ-モ内蔵形(悪戯防止カバ-付).他付属品共	参考品番 NYS-750	1相100Vx 0.75 KW	2	男女WC
E F 1	換気扇	30 cm x 600 m3/h x 10 Pa.電気式シャツター(引きひも付). 給排気形. SUS製フ-ド(アミ付).他付属品共	参考品番 EX-30RK9-C	1相100Vx 26 W	1	物置準備室
E F 2	換気扇	25 cm x 450 m3/h x 10 Pa.電気式シャツター(引きひも付). 給排気形. SUS製フ-ド(アミ付).他付属品共	参考品番 EX-25RK9-C	1相100Vx 16.5 W	2	実習室
E F 3	天井扇	150mm x 250 m3/h x 40 Pa.プラスチックボディ形.深形 SUS製セルフ-ド(アミ付).他付属品共	参考品番 VD-18ZC14	1相100Vx 26 W	2	男女WC
W C 1	合併式浄化槽	FRP製 14 人槽.流入GL-700H.笠上げ300H.ブロア-ポンプ.他付属部品共	詳細は別紙詳細図参照	1相100Vx 457 W	1	屋外

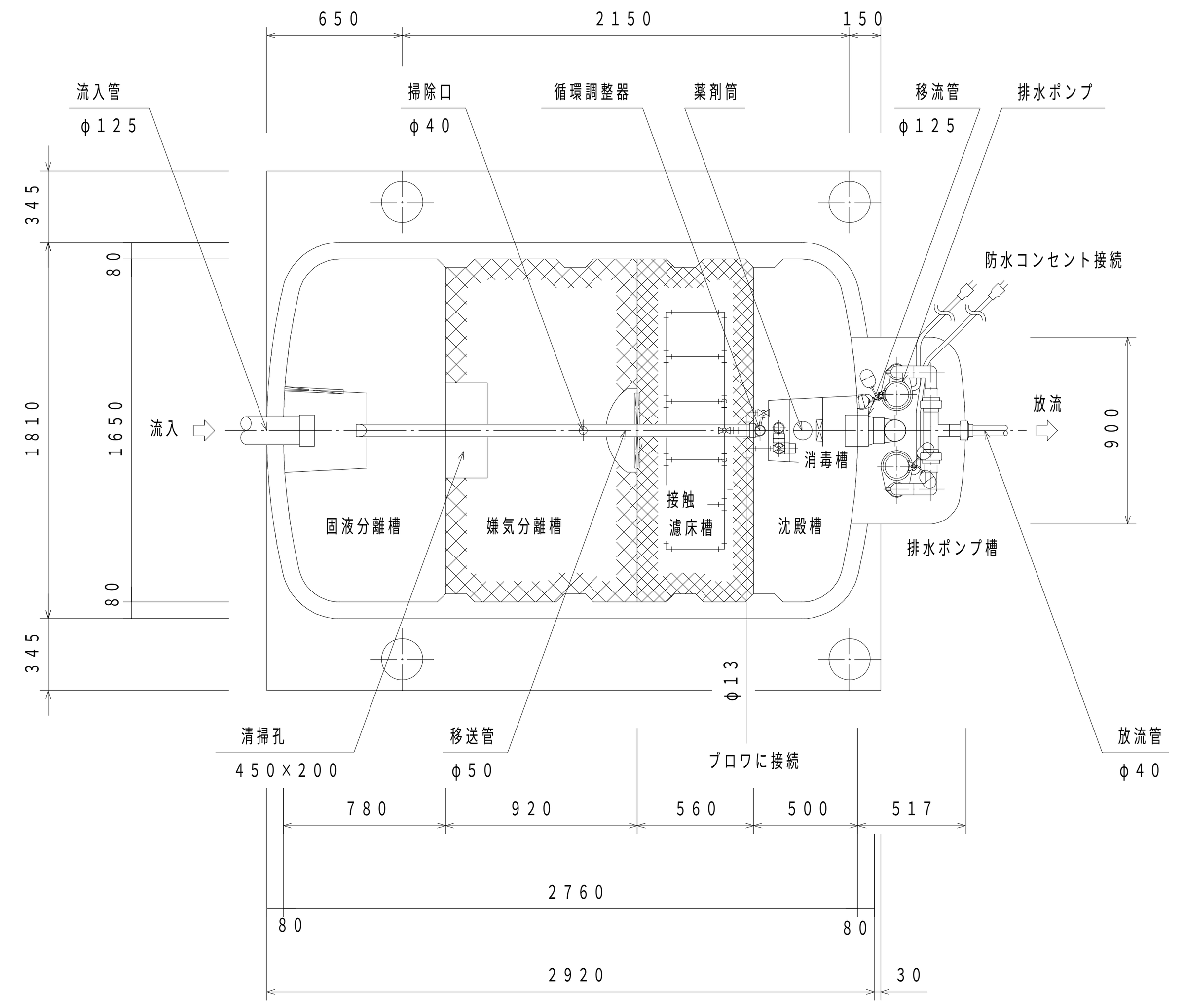
特記事項

承 認	検 図	担 当	製 図

MEMO

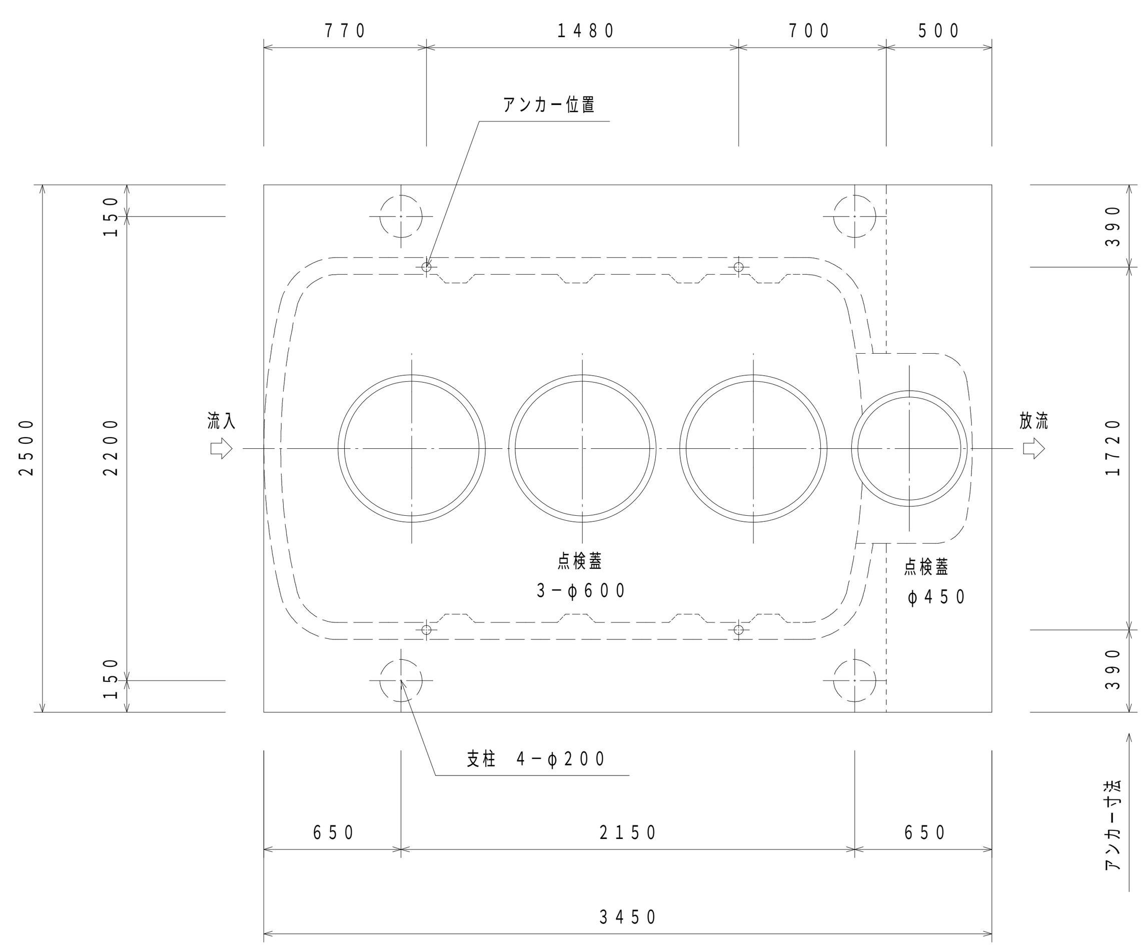
TE-RU
TE-RU ARCHITECTS LTD
〒036-8085
青森県弘前市大字末広4-3-1
TEL0172-27-8647 FAX0172-27-8648
株式会社 てる設計
一級建築士事務所 青森県知事 第716号
一級建築士 建設大臣 第213220号
福士 晃昭

工事名称	五所川原農林高等学校実習棟（リンゴ冷蔵庫）改築工事		図面番号
図面名称	男女WC廻り平面詳細図及び衛生器具表		M - 06
縮 尺	A1：1/50 A3：1/100	年 月 日 2026.3	



平　面　図

S=1／40

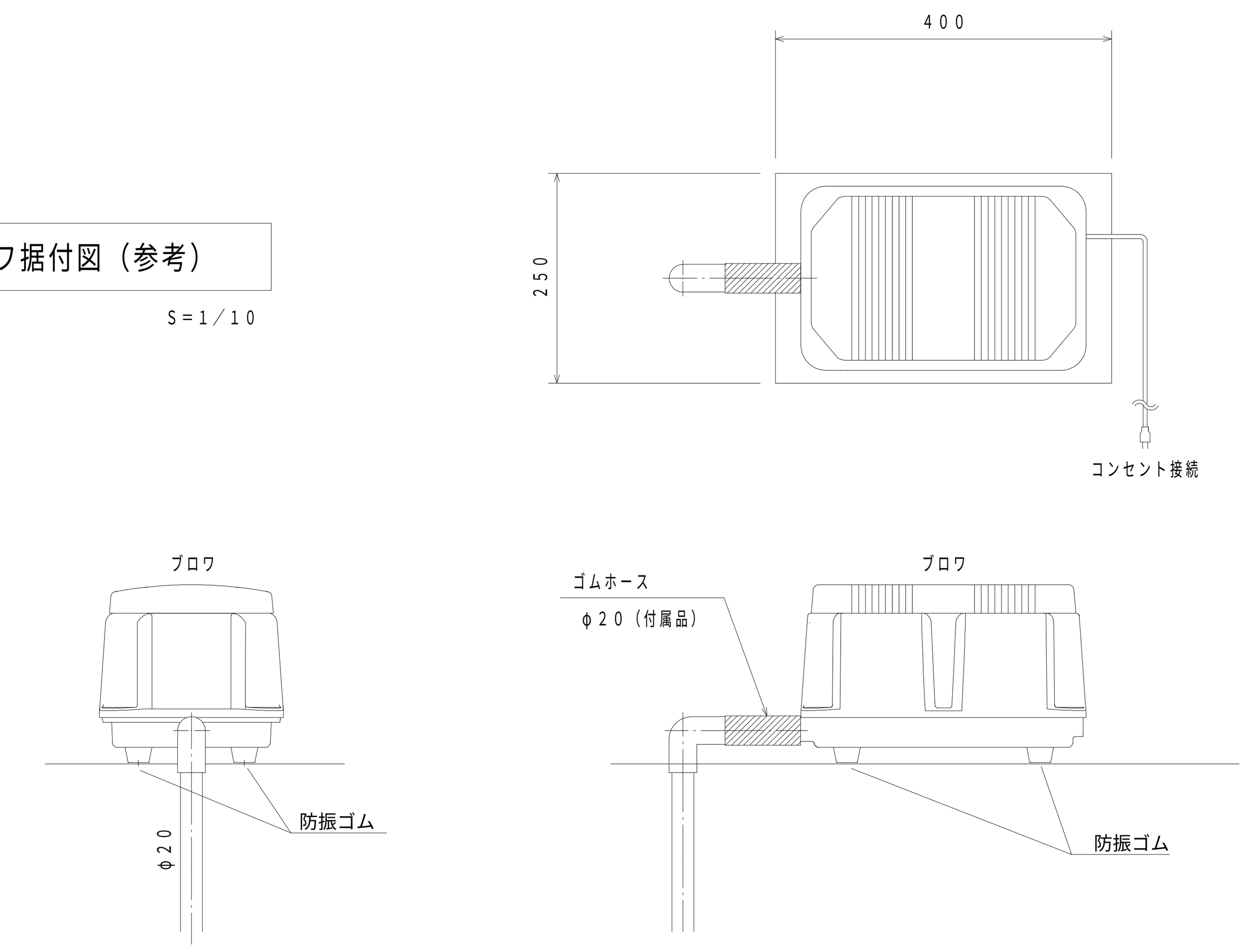


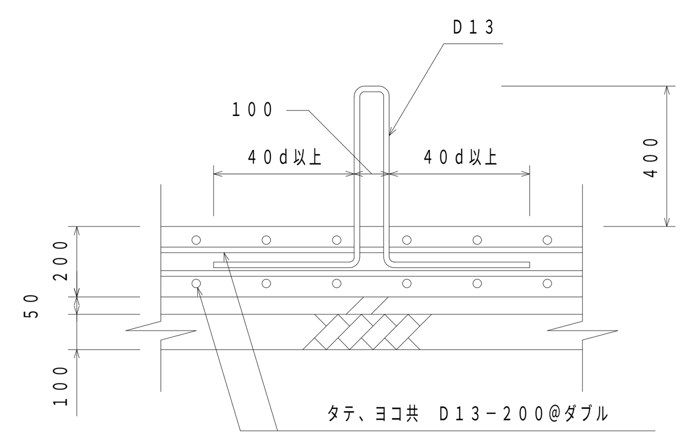
スラブ平面図

S=1／40

ブロワ据付図（参考）

S=1／10

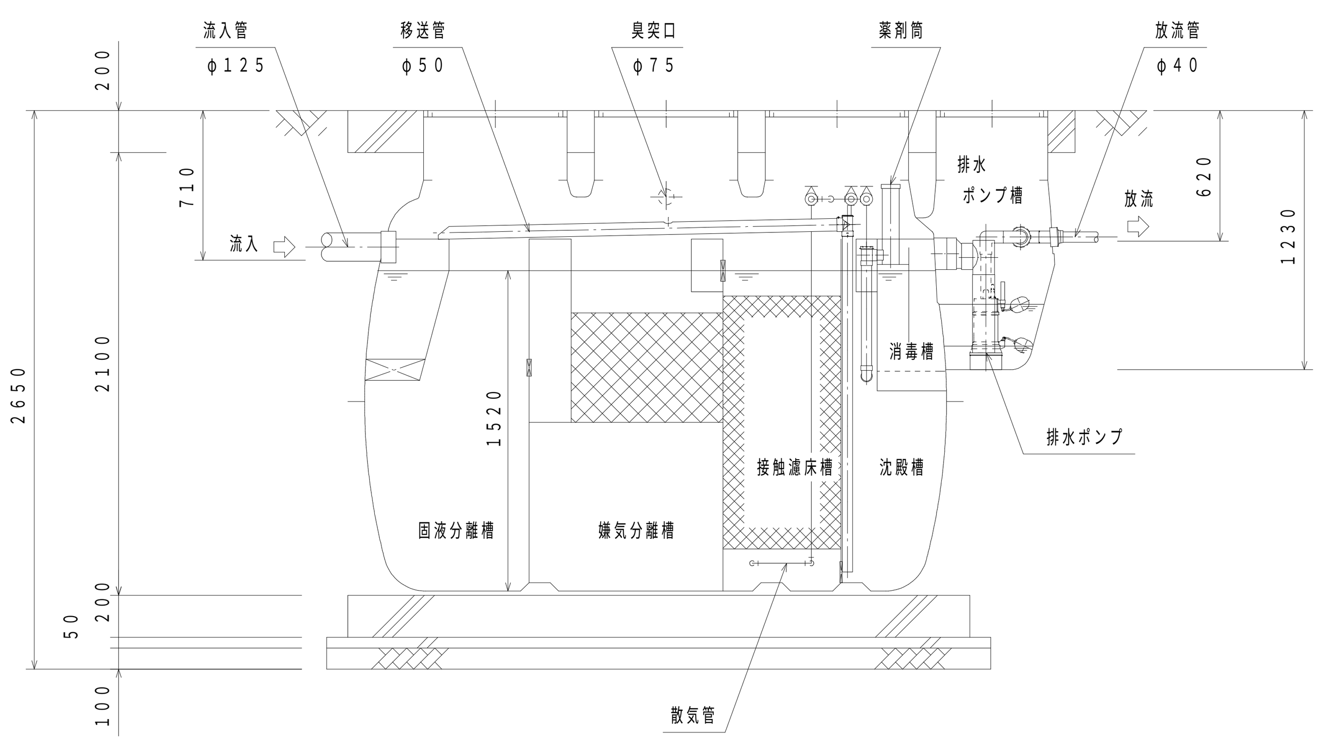




※アンカー取付は土木工事とする

アンカー取付図

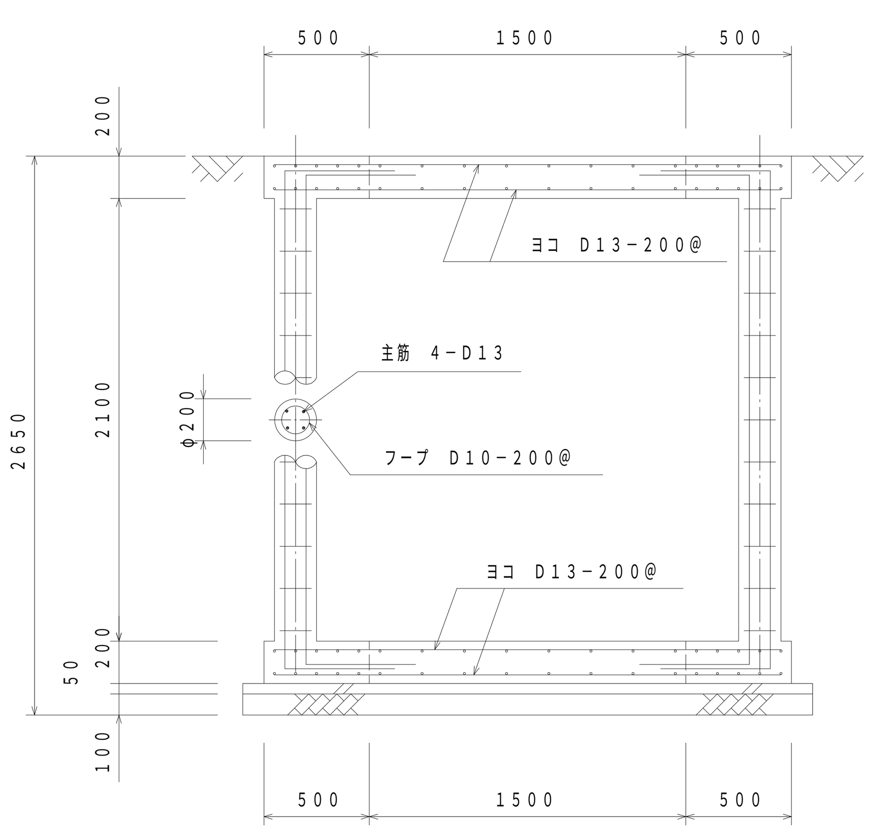
S=1／NTS



断　面　図

S=1／40

タテ 上端筋	5－D13	D13－200@	5－D13
タテ 下端筋	5－D13	D13－200@	5－D13



タテ 上端筋	5－D13	D13－200@	5－D13
タテ 下端筋	5－D13	D13－200@	5－D13

配筋断面図

S=1／40

浮上防止具

名　称	サイズ	数量（個）
ターンバックル	5／8	4

開口仕様

	点検蓋（丸型）
種　類	1500K（安全荷重15kN）
蓋	FRP製
枠	PP製
備　考	コインロック付

共通事項

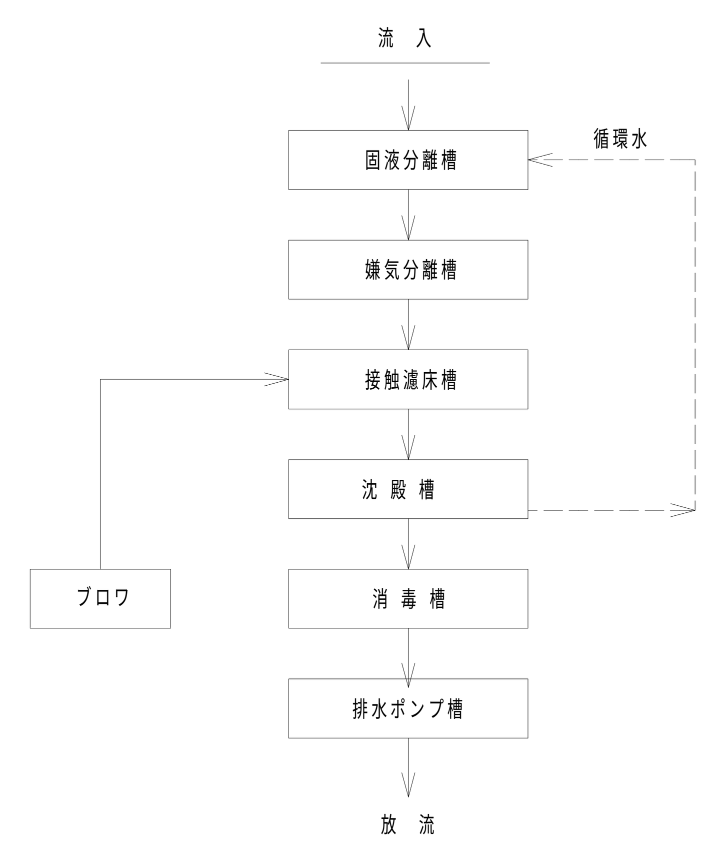
名　称	仕　様
有筋コンクリート	FC 21 N／mm2
捨コンクリート	FC 18 N／mm2
鉄　筋	SD 295A
地　業	砕 石 地 業

設計仕様

型　式	
適合認定番号	
処理対象人員	14人
日平均汚水量	2．8m3／日
流入水水質	BOD 200mg／L
	T－N 50mg／L
流出水水質	BOD 20mg／L
	T－N 20mg／L
	SS 15mg／L

槽　名	有効容量（m3）
固液分離槽	1．58
嫌気分離槽	2．07
接触濾床槽	1．26
沈殿槽	0．87
消毒槽	0．05
排水ポンプ槽	0．07
総容量	5．90
槽重量	467kg

フローシート



品　名	台数	仕　様
ブロワ	1	20A×200L／分×0．02MPa×157W　（LW－200N）
排水ポンプ	2	40A×110L／分×4．0m×150W　（40PNW2．15S）

［注記］　開口の表示は内径寸法とする。
臭突管工事は別途とする。
浄化槽用にコンセントを3個必要とする。
流入管底は最深施工時の寸法とし、全高は外寸とする。

＊ 参考図とする

＊ 土木工事(掘削～仕上げまで）建築工事

特記事項		承　認	検　図	担　当	製　図
	MEMO				

TE-RU
TE-RU ARCHITECTS LTD
株式会社 てる設計
〒036-8085
青森県弘前市大字末広4-3-1
TEL0172-27-8647 FAX0172-27-8648
一級建築士事務所　青森県知事　第716号
一級建築士　建設大臣　第213208号　福士　晃昭

工事名称	五所川原農林高等学校実習棟（リンゴ冷蔵庫）改築工事			図面番号
図面名称	合併式浄化槽設備　平面図.断面図.仕様書等			M - 07
縮　尺	A1：1/40 A3：1/80	年 月 日	2026.3	